

14. 9-11



1200501227905

4.9

11

0
複
写



始



9-149



復古記

太政官編纂
東京帝國大學藏版

網文索引

第十五冊

內外書籍株式會社發行



14.9-11
593-16

凡 例

- 一 本篇ハ復古記綱文ト、復古記總索引トヨリ成リ、綱文ハ、復古記、復古外記中、大形活字ニ印刷シアル全綱文ヲ輯收シタルモノナリ。
- 一 總索引ハ、本書綱文中ノ重要事項ヲ檢出センガ爲ニ編纂セリ。從ツテ各條下ノ引用書ニマデ及バザレバ、本書ノ内容全般ニ涉リテノ索引ニアラズ。同一事項ニシテ、往々首尾連絡ヲ關クモノアルハ、蓋シ綱文ノ記載ニ洩レタルガ爲ナリ。
- 一 本書綱文ニハ各藩ノ事ヲ記スニ、或ハ藩名ヲ用キ、或ハ藩主ノ名ヲ用キタル所アリ。各總督府、各國公使ノ如キモ、或ハ督府、公使ノ稱ニ據リ、或ハ總督、公使タルノ人名ニ據ルナド、必ズシモ一定セズ。索引亦コレニ從ヒタレバ、檢索ノ場合ニハ、其ノ兩者ニ就キテ見ラルベシ。
- 一 各項目ノ排列ハ、五十音順ニ據リ、發音ニ從フ。
- 一 各項目ノ下ニ記載セル細目ハ、専ラ卷數及ビ頁數ノ順序ニ據リタレドモ、同一名辭ハコレヲ類聚シ、同一事項ハ時ノ前後ニ從ヘリ。
- 一 索引ノ編纂ハ、文學士金原利作氏ヲ煩シタリ。

昭和六年拾月

凡 例



目次

復古記綱文

<p>卷一 同 十月<small>慶應三年</small> (十四日—二十日)…………… 一</p> <p>卷二 同 (廿一日—廿五日)…………… 二</p> <p>卷三 同 (廿六日—十一月六日)…………… 三</p> <p>卷四 同 十一月 (八日—十五日)…………… 五</p> <p>卷五 同 (十六日—廿二日)…………… 七</p> <p>券六 同 (廿三日—十二月四日)…………… 九</p> <p>卷七 十二月 (五日—八日)…………… 三</p> <p>卷八 同 (九日)…………… 三</p> <p>卷九 同 (十日—十三日)…………… 五</p> <p>卷十 同 (十四日—十七日)…………… 七</p> <p>卷十一 同 (十八日—二十日)…………… 八</p> <p>卷十二 同 (廿一日—廿三日)…………… 三〇</p> <p>卷十三 同 (廿四日—廿六日)…………… 三二</p>	<p>卷十四 同 十二月<small>慶應三年</small> (廿七日—晦日)…………… 三</p> <p>卷十五 同 正月<small>明治元年</small> (元日—三日)…………… 三</p> <p>卷十六 同 (四日—六日)…………… 六</p> <p>卷十七 同 (七日—九日)…………… 九</p> <p>卷十八 同 (十日—十一日)…………… 三</p> <p>卷十九 同 (十二日—十四日)…………… 三</p> <p>卷二十 同 (十五日)…………… 三</p> <p>卷廿一 同 (十六日—十七日)…………… 七</p> <p>卷廿二 同 (十八日)…………… 六</p> <p>卷廿三 同 (十九日—二十日)…………… 六</p> <p>卷廿四 同 (廿一日—廿四日)…………… 四</p> <p>卷廿五 同 (廿五日—廿六日)…………… 四</p> <p>卷廿六 同 (廿七日—廿九日)…………… 四</p>
--	--

復古記綱文目次

卷廿七	明治元年 二月(朔日—三日)	四	卷四十四	明治元年 三月(六日—八日)	六
卷廿八	同 (三日)	四	卷四十五	同 (十日—十一日)	六
卷廿九	同 (四日—五日)	四	卷四十六	同 (十二日—十三日)	六
卷三十	同 (六日)	五	卷四十七	同 (十四日)	七
卷三十一	同 (七日)	五	卷四十八	同 (十五日—十八日)	七
卷三十二	同 (八日—九日)	五	券四十九	同 (十九日—二十日)	七
卷三十三	同 (十日)	五	卷五十	同 (廿一日—廿二日)	七
卷三十四	同 (十一日—十三日)	五	卷五十一	同 (廿四日)	七
卷三十五	同 (十四日—十五日)	五	卷五十二	同 (廿五日)	七
卷三十六	同 (十六日—十九日)	六	卷五十三	同 (廿六日—廿七日)	七
卷三十七	同 (二十日—廿一日)	六	卷五十四	同 (廿八日)	七
卷三十八	同 (廿二日—廿四日)	六	卷五十五	同 (廿九日—晦日)	七
卷三十九	同 (廿五日—廿七日)	六	卷五十六	四月(一日—二日)	七
卷四十	同 (廿八日—廿九日)	六	卷五十七	同 (三日—六日)	七
卷四十一	同 (晦日)	六	卷五十八	同 (七日)	七
卷四十二	三月(一日—三日)	六	卷五十九	同 (八日—十一日)	八
卷四十三	同 (四日—五日)	六	卷六十	同 (十二日—十三日)	八

卷六十一	明治元年 四月(十四日—十六日)	八	卷七十八	明治元年 閏四月(廿二日—廿四日)	九
卷六十二	同 (十七日—十八日)	八	卷七十九	同 (廿五日)	九
卷六十三	同 (十九日—廿一日)	八	卷八十	同 (廿六日—廿九日)	九
卷六十四	同 (廿二日)	八	卷八十一	五月(朔日—三日)	九
卷六十五	同 (廿三日)	八	卷八十二	同 (四日—八日)	九
卷六十六	同 (廿四日—廿五日)	八	卷八十三	同 (九日—十日)	九
卷六十七	同 (廿六日—廿八日)	八	卷八十四	同 (十一日—十四日)	九
卷六十八	同 (廿九日)	八	卷八十五	同 (十五日)	九
卷六十九	閏四月(朔日—三日)	八	卷八十六	同 (十六日—十七日)	九
卷七十	同 (四日—五日)	八	卷八十七	同 (十八日)	九
卷七十一	同 (六日—七日)	九	卷八十八	同 (十九日)	九
卷七十二	同 (八日—十一日)	九	卷八十九	同 (廿日—廿一日)	九
卷七十三	同 (十二日—十四日)	九	卷九十	同 (廿二日)	九
卷七十四	同 (十五日—十七日)	九	卷九十一	同 (廿三日—廿五日)	九
卷七十五	同 (十八日—十九日)	九	卷九十二	同 (廿七日)	九
卷七十六	同 (廿日)	九	卷九十三	同 (廿八日)	九
卷七十七	閏四月(廿一日)	九	卷九十四	五月(廿九日—晦日)	九

復古記綱文目次

復古記綱文目次

卷九十五	明治元年 六月(朔日—二日)	二三	卷百十二	明治元年 七月(十九日—廿五日)	二五
卷九十六	同 (三日—六日)	二三	卷百十三	同 (廿六日—廿九日)	二五
卷九十七	同 (七日—十日)	二三	卷百十四	八月(朔日—四日)	二六
卷九十八	同 (十一日—十四日)	二三	卷百十五	同 (五日—六日)	二七
卷九十九	同 (十五日—十八日)	二四	卷百十六	同 (七日—十日)	二八
卷百	同 (十九日—廿一日)	二五	卷百十七	同 (十一日—十五日)	二九
卷百一	同 (廿二日—廿四日)	二六	卷百十八	同 (十六日—十九日)	三〇
卷百二	同 (廿五日—廿九日)	二六	卷百十九	同 (廿一日—廿四日)	三三
卷百三	同 (三十日—二日)	二六	卷百二十	同 (廿五日—廿六日)	三三
卷百四	七月(朔日—二日)	二八	卷百廿一	同 (廿七日—廿八日)	三四
卷百五	同 (三日—四日)	二九	卷百廿二	同 (廿九日—晦日)	三四
卷百六	同 (五日—十日)	三〇	卷百廿三	九月(朔日—二日)	三五
卷百七	同 (十一日—十三日)	三三	卷百廿四	同 (三日—四日)	三五
卷百八	同 (十四日—十六日)	三三	卷百廿五	同 (五日—七日)	三七
卷百九	同 (十七日—十八日)	三三	卷百廿六	同 (八日—九日)	三七
卷百十	同 (十九日—二十日)	三三	卷百廿七	同 (十一日—十二日)	三六
卷百十一	同 (廿一日—廿二日)	三五	卷百廿八	同 (十四日—十五日)	三六

卷百廿九	明治元年 九月(十日—十一日)	二九
卷百三十	同 (十二日—十三日)	二九
卷百三十一	同 (十四日—十五日)	二九
卷百三十二	同 (十六日—十七日)	二九
卷百三十三	同 (十八日—十九日)	二九
卷百三十四	同 (廿一日—廿二日)	二九
卷百三十五	同 (廿三日—廿四日)	二九
卷百三十六	同 (廿五日—廿六日)	二九
卷百三十七	同 (廿七日—廿九日)	二九
卷百三十八	同 (三十日—二日)	二九
卷百三十九	同 (三日—四日)	二九
卷百四十	同 (五日—七日)	二九
卷百四十一	同 (八日—九日)	二九
卷百四十二	同 (十日—十一日)	二九
卷百四十三	同 (十二日—十三日)	二九
卷百四十四	同 (十四日—十五日)	二九
卷百四十五	同 (十六日—十七日)	二九

復古記綱文目次

卷百四十六	明治元年 十月(十五日—十九日)	二九
卷百四十七	同 (廿一日—廿二日)	二九
卷百四十八	同 (廿三日—廿四日)	二九
卷百四十九	同 (廿六日—廿七日)	二九
卷百五十	同 (廿九日—三十日)	二九
附 錄		二九

復古外記綱文

伏水口戰記

第一	明治元年 正月(三日).....	一六
第二	同 (五日-九日).....	一七
第三	同 (十日-廿日).....	一八
第四	同 (廿一日-二月十五日).....	一九

東海道戰記

第一	明治元年 正月(五日-廿六日).....	二〇
第二	同 (廿七日-二月八日).....	二一
第三	同 二月(九日-十六日).....	二二
第四	同 (十七日-廿六日).....	二三
第五	同 (十六日-晦日).....	二四
第六	同 三月(朔日-九日).....	二五
第七	同 (十日-十七日).....	二六
第八	同 (十八日-廿四日).....	二七

第九	明治元年 三月(廿五日-晦日).....	二八
第十	同 四月(朔日-三日).....	二九
第十一	同 (四日-六日).....	三〇
第十二	同 (七日-十日).....	三一
第十三	同 (十一日).....	三二
第十四	同 (十二日-十四日).....	三三
第十五	同 (十五日-十九日).....	三四
第十六	同 (十九日-廿二日).....	三五
第十七	同 (廿三日-廿六日).....	三六
第十八	同 (廿七日-閏四月二日).....	三七
第十九	同 閏四月(三日-四日).....	三八
第二十	同 (五日-九日).....	三九
第二十一	同 (十日-十一日).....	四〇
第二十二	同 (十二日-十八日).....	四一

第廿三	明治元年 閏四月(十九日-廿三日).....	四二
第廿四	同 (廿四日-廿九日).....	四三
第廿五	同 五月(一日-五日).....	四四
第廿六	同 (六日-九日).....	四五
第廿七	同 (十日-十六日).....	四六
第廿八	同 (十七日-二十日).....	四七
第廿九	同 (廿一日-廿四日).....	四八
第三十	同 (廿五日-廿七日).....	四九
第三十一	同 (廿八日-六月三日).....	五〇
第三十二	同 六月(四日-十二日).....	五一
第三十三	同 (十三日-十八日).....	五二
第三十四	同 (十九日-廿七日).....	五三
第三十五	同 (廿八日-七月八日).....	五四
第三十六	同 七月(九日-十日).....	五五
第三十七	同 (十二日-十八日).....	五六
第三十八	同 (十九日-八月四日).....	五七
第三十九	同 八月(五日-十二日).....	五八

第四十	明治元年 八月(十三日-晦日).....	五九
第四十一	同 九月(朔日-五日).....	六〇
第四十二	同 (十日-廿七日).....	六一
第四十三	同 (廿八日-十月二日).....	六二
第四十四	同 十月(三日-十九日).....	六三
第四十五	同 (二十日-廿八日).....	六四

房總戰記

(自明治元年四月十三日至同閏四月廿五日)..... 六五

東叡山戰記

第一	明治元年 五月(十三日-十四日).....	六六
第二	同 (十五日).....	六七
第三	同 (十六日-十七日).....	六八
第四	同 (十八日-廿三日).....	六九
第五	同 (廿三日-六月八日).....	七〇

東山道戰記

第一	明治元年 正月(九日—二月三日).....	三三
第二	二月(四日—九日).....	三四
第三	同 (十日—二十日).....	三六
第四	同 (十一日—晦日).....	三六
第五	三月(朔日—四日).....	三〇
第六	同 (五日—九日).....	三七
第七	同 (十日—十四日).....	三七
第八	同 (十五日—廿五日).....	三五
第九	同 (廿六日—四月七日).....	三五
第十	四月(八日—十六日).....	三六
第十一	同 (十八日—廿二日).....	三六
第十二	同 (廿三日—廿五日).....	三六
第十三	同 (廿六日—閏四月十日).....	三六
第十四	閏四月(十一日—二十日).....	三六
第十五	同 (廿一日—五日朔日).....	三六

第十六	明治元年 五月(二日—十九日).....	三〇
-----	----------------------	----

北陸道戰記

第一	明治元年 正月(九日—二月八日).....	二九五
第二	二月(九日—三月七日).....	二九四
第三	三月(八日—晦日).....	二九六
第四	四月(朔日—十八日).....	二九九
第五	同 (十九日—閏四月十八日).....	三〇〇
第六	閏四月(十九日—五月二日).....	三〇一
第七	五月(三日—十三日).....	三〇三
第八	同 (十四日—二十日).....	三〇四
第九	同 (廿一日—廿七日).....	三〇五
第十	同 (廿八日—六月二日).....	三〇六
第十一	六月(三日—十七日).....	三〇八
第十二	同 (十八日—廿七日).....	三〇九

奥羽戰記

第一	明治元年 二月(九日—三月廿八日).....	三二
第二	三月(廿九日—四月十三日).....	三三
第三	四月(十四日—廿九日).....	三五
第四	閏四月(朔日—十一日).....	三六
第五	同 (十二日—十八日).....	三三
第六	同 (十九日—廿九日).....	三三
第七	五月(朔日—十八日).....	三三
第八	同 (十九日—六月廿九日).....	三五
第九	七月(朔日—十一日).....	三七
第十	同 (十二日—十八日).....	三六
第十一	同 (廿三日—八月二日).....	三五
第十二	八月(三日—十一日).....	三三
第十三	同 (十二日—廿一日).....	三三
第十四	同 (廿二日—九月四日).....	三四
第十五	九月(五日—十一日).....	三五

白河口戰記

第十六	明治元年 九月(十二日—二十日).....	三七
第十七	同 (廿二日—十月九日).....	三六
第十八	十月(十日—十一月十九日).....	三四
第一	明治元年 五月(十九日—六月十二日).....	三四三
第二	六月(十三日—七月四日).....	三四四
第三	七月(九日—廿七日).....	三四五
第四	同 (廿八日—八月八日).....	三四六
第五	八月(九日—二十日).....	三四七
第六	同 (廿一日—廿三日).....	三四八
第七	同 (廿四日—晦日).....	三四九
第八	九月(朔日—六日).....	三五一
第九	同 (七日—十五日).....	三五二
第十	同 (十六日—廿一日).....	三五三
第十一	同 (廿七日—十月七日).....	三五五
第十二	十月(八日—廿九日).....	三五七

平瀨口戰記

第一	明治元年 六月(十日—七月廿六日)……………	三九
第二	七月(廿六日—八月十一日)……………	三〇
第三	八月(十二日—九月十二日)……………	三一
第四	九月(十五日—十月五日)……………	三二
第五	十月(六日—十一月十四日)……………	三三

越後口戰記

第一	明治元年 六月(十四日—七月朔日)……………	三六
第二	七月(二日—廿三日)……………	三九
第三	同 (廿四日)……………	三二
第四	同 (廿五日—廿八日)……………	三七
第五	同 (廿九日)……………	三三
第六	八月(朔日—二日)……………	三四
第七	同 (三日—八日)……………	三四
第八	同 (九日—十一日)……………	三六

第九	明治元年 八月(十二日—十五日)……………	三七
第十	同 (十六日—廿五日)……………	三八
第十一	同 (廿六日—晦日)……………	三九
第十二	九月(朔日—七日)……………	三〇
第十三	同 (八日—十一日)……………	三一
第十四	同 (十二日—十五日)……………	三二
第十五	同 (十六日—十九日)……………	三三
第十六	同 (二十日—廿二日)……………	三四
第十七	同 (廿三日—廿六日)……………	三五
第十八	同 (廿七日—廿九日)……………	三六
第十九	十月(朔日—十四日)……………	三七
第二十	同 (十五日—十一月四日)……………	三八

蝦夷戰記

第一	明治元年 十月(十九日—晦日)……………	三〇
第二	十一月(朔日—廿五日)……………	三一
第三	同 (廿七日—二年二月廿三日)……………	三三

第四	明治二年 二月(廿五日—三月廿五日)……………	三九四
第五	三月(廿六日—四月十四日)……………	三九五
第六	四月(十五日—廿四日)……………	三九七
第七	同 (廿七日—五月七日)……………	三九八
第八	五月(八日—十一日)……………	三九九
第九	同 (十二日—十八日)……………	四〇〇
第十	同 (十九日—六月十二日)……………	四〇一

以上

復古記總索引

復古記綱文

復古記綱文

卷一

慶應三丁卯十月十四日
ニ起リ二十日ニ至ル

○十月

十四日、征夷大將軍正二位内大臣兼右近衛大將德川慶喜、上表シテ、政權ヲ奉還セシト請フ。

○幕府、大宮御所造營費ヲ全國ニ課シ、其上納ノ節目期限ヲ定ム。

十五日、德川慶喜ニ詔シテ、其政權奉還ノ請ヲ允シ、命シテ、國家ノ大事、及ヒ外國ノ事項ハ、衆議ヲ盡シ、諸侯ノ稟奏、及ヒ命令等ハ、議奏傳奏之ヲ掌リ、其他更革ハ、諸侯會同ヲ待テ之ヲ議定シ、支配地、及ヒ都下取締ハ、姑ク其舊ニ仍ラシム、乃チ十萬石以上ノ諸侯ヲ召集シ、又特ニ松平慶永、大藏大輔、春嶽ト號ス、越前藩主、茂昭ノ父、鍋島齊正、前肥前守、関叟ト號ス、肥前藩主、主茂實ノ父、時ニ松平氏ヲ稱ス、山内豊信、前土佐守、春堂ト號ス、土佐藩主、主豊範ノ父、時ニ松平氏ヲ稱ス、伊達宗城、伊豫守、字和島、主茂久ノ生父、主豊善ヲ召ス、十六日、是ヨリ先、加藤明實、能登守、水口藩主、食封二萬五千石、ニ命シテ、泉涌寺ヲ警衛セシム、是日、明實京ニ至ル。

十七日、幕府、十五日ノ朝命ニ就テ、其三事ヲ稟問ス。

十八日、德川慶喜、書ヲ上リ、在京諸侯及ヒ藩士ヲ召シテ、外國事務ヲ商議セント請フ。

○本願寺光澤、大坂ノ支院ヲ以テ、三條實美等三條西季知、東久世通禮、壬生基修、四條隆興、ノ旅寓ニ充ルヲ稟ス。

○是ヨリ先、德川慶喜、十萬石以上ノ諸侯ヲシテ京師ニ至ラシム、細川護久、池田綱知家記是日、又一萬石以上ノ者ヲ招集ス。

十九日、幕府、上疏シテ、諸藩兵都下更番及ヒ諸口警備、供御地管轄及ヒ度支、大宮御所造營課金、驛遞法、供御地及ヒ攝家宮門跡領地ノ訟獄、刑法所司代以下ノ職務、紙幣發行ノ八條、及ヒ三條實美以下五人ノ措置ヲ稟請ス。

○幕府、久松定昭、伊豫守、伊豫松山藩主、食封十五萬石、時ニ松平氏ヲ稱ス、ノ請ヲ許シ、其加判列上座ヲ罷ム。

二十日、幕府稟議ノ京都警備等八條、及ヒ外國事務三條實美以下ノ處分ヲ列藩ニ下示シ、明日ヲ期シテ、各意見ヲ上ラシム。

○正親町三條實愛、前大納言、阿野公誠、宰相、等、連署上疏シ、三條實

美、三條西季知ノ義絶ヲ釋カント請フ。

○松平慶憲、兵部大輔○明石藩 疾ヲ以テ、老臣ヲシテ代ラシメント

請フ、批シテ、其少間ヲ待テ、速ニ上京セシム。

○幕府、紙幣貳百兩、百兩、五拾兩、ヲ關以東ニ發行シ、己巳歲三月ヲ

以テ限ト爲スヲ令ス。○遠三果

○是ヨリ先、英吉利國軍艦水夫ヲ長崎ニ横殺スル者アリ、本年七

月ニ在リ、英國公使、幕府ト往復判論ス、是日幕府、書ヲ公使ニ致シ、平

山敬忠、國書頒行○外ヲ遣シテ、其事ヲ處分セシムルヲ告ク。

卷二 慶應三丁卯十月二十一日

二十一日、十萬石以下ノ諸侯ヲ召集ス。○石川成 徳家記

○徳川慶喜、三條實美等ノ措置ヲ稟ス、前田利徳、飛騨守○大聖寺藩

ニ松平氏及ヒ鳥津茂久、修理大夫○薩摩藩主、食封七十萬石、時

十九萬九千伊達慶邦、陸奥守○仙臺藩主、食封六十二萬、徳川茂承、中納言○紀伊藩

五十萬石、細川慶順、越前守○肥後藩主、食封五十四萬石、時ニ松平氏ヲ稱ス、

茂長、安藝守○安藝藩主、食封四十二萬、鍋島茂實、肥前守○肥前藩主、食封三十五萬七千石、

中納言○水戸藩主、食封三十五萬石、時ニ松平氏ヲ稱ス、藤堂高猷、和泉守○津

三十二萬三千、池田茂政、備前守○備前藩主、食封三十一萬、蜂須賀齊裕、阿波守○阿

九百五十石、山内豊範、土佐守○土佐藩主、食有馬慶頼、中務大輔○久留

封二十五萬七千九百石、

○幕府、書ヲ佛朗西國公使ニ與へ、浦上村耶蘇教徒處分ノ事ヲ告ク。

二十四日、徳川慶喜、上表シテ、征夷大將軍ヲ辭ス。

○甘露寺勝長、左中ノ義子萬長、高ヲ堂上ニ班シ、松崎氏ヲ稱セシム。

○北條氏恭相、相模守○秩山藩主、シテ市橋長義ト共ニ、四塚關門ニ有リ、

ヲ守ラシム。

二十五日、諸藩ニ申命シ、十一月ヲ期シテ京ニ至ラシム。

○初メ朝鮮國、佛朗西、米利堅ト釁隙ヲ開ク、去年八月、幕府、

佛、米公使ニ説キ、將ニ使節ヲ朝鮮ニ派遣シテ、講和ヲ謀ラン

トス、是日、朝旨ヲ奉シテ、其事ヲ行ヒ、且宗義達ニ命シテ、使

事ヲ幹セシメント請フ、義達モ亦朝鮮國往復書ヲ上リ、其事由

ヲ上陳ス。

○井伊直憲、掃部頭○齋根藩主、酒井忠篤、柳澤保申、甲斐守○郡山藩主、食

石、時ニ松平、榊原政敬、酒井忠悳、小笠原忠忱、松平頼聰、讚岐守○高松藩

氏ヲ稱ス、酒井忠氏、奥平昌服、松平忠誠、眞田幸民、戸田氏共ノ家臣、

連署シテ、二十二日批下ノ疑條ヲ稟シ、且外國ノ事、姑ク幕府

ニ委シテ、諸藩士ト協議セシメ、諸侯會同ヲ待テ、之ヲ決セン

ト請フ。

十一、南部利剛、美濃守○盛岡藩主、松平直克、大和守○前橋藩主、酒井忠篤、

左衛門尉○莊内藩主、酒井忠悳、雅樂頭○姫路藩主、榊原政敬、式部大輔○高田藩久

松定昭、小笠原忠忱、豐千代丸○小倉藩主、酒井忠氏、若狹守○小瀬藩主、食封前

田利同、關西○富山藩主、食封十、宗義達、對馬守○對馬藩主、食封十、

十萬、眞田幸民、信濃守○松代藩主、奧平昌服、大膳大夫○中津藩主、戸田氏共、采女正

十萬石、松平慶憲ノ家臣モ亦各答議ヲ上ル。

二十二日、幕府申稟スル所ノ三事ニ批シ、八條ハ姑ク其舊ニ依

リ、三條實美等ハ、大坂ニ止メ、外國ノ事ハ、其情ニ通スル數藩

ト謀リ、諭シテ之ヲ紓フセシム、又之ヲ列藩ニ布告ス。

○久我通久、中納言、六條有容、中納言、等、書ヲ上リ、東久世通禧ノ義絶

ヲ釋カント請フ。

○徳川慶勝、大納言○尾張藩主、幕府親藩ノ首ニ居リ、匡輔スルコト能

ハサルノ罪ヲ謝シ、其官爵ヲ貶黜セント請フ。

○市橋長義、下總守○西大路藩主、京ニ至ル。○市橋長義

二十三日、上京ノ諸侯ニ令シ、務テ從者ヲ減省セシム。

○幕府、再ヒ外國常事ノ措置、及ヒ課金、驛法布告ノ事ヲ稟問

ス。

○持明院基政、六角能通等、連署シテ、壬生基修ノ義絶ヲ釋カ

ント請フ。

○山科言知、前大納言、八條隆祐、納言、等、連署シテ、四條隆謨ノ義絶ヲ

釋カント請フ。

○加藤明實、藩ニ歸ル。○加藤明

○幕府、令シテ攝津、播磨間ノ官道ヲ改ム。○兵庫關港場ト爲

○黒田齊博、封内漂到ノ朝鮮人ヲ長崎ニ送致スルヲ幕府ニ報

ス。

○是ヨリ先、薩藝長三藩謀ヲ通シ、薩兵周防港ニ來會シ、本月六

日、將ニ藝兵ト俱ニ東上シテ計畫スル所アラントス、幕府大政

奉還ノ表入り、諸侯ノ召命新ニ出ルニ會ス、三藩乃チ其圖ヲ改

メ、薩兵ヲシテ先ツ京ニ入ラシメ、又鳥津茂久若クハ久光ヲ其

藩ヨリ迎フ。

卷三 慶應三年丁卯十月二十六日

二十六日、本多忠民、美濃守○岡崎藩主、家臣、伏見警守事項ノ稟請、及

ヒ三條實美等待接ノ事ヲ幕府ニ請問ス、幕府、令シテ、稟請ハ

姑ク其舊ニ依ラシム。

○幕府、邦内寄寓ノ支那人、及ヒ條約未濟國人取締法ヲ設ケ、

之ヲ各國公使領事ニ告ク。

二十七日、徳川慶喜ノ辭表ニ批シ、姑ク其舊ニ仍リ、諸侯朝會

公議決裁ヲ待シム。

○徳川慶勝、京ニ至ル、本人履、森忠典、美作守、赤穂藩、歴書、主、食封二萬石。疾ヲ以テ、老臣ヲシテ代リテ入京セシメント請フ。森忠儀、家記

○幕府老中ノ江戸ニ在ル者、十萬石以下ノ諸侯ニ令シテ、其上京ノ期ヲ緩フセシム。

○幕府、江戸開市場外國人居留規則、及ヒ運送船等規則ヲ定メ、之ヲ各國公使ニ謀リ、且外人居留地域外ニ夜行スルトキハ、必ス我護衛者ヲ附スルヲ告ク。

二十八日、朽木爲綱、近江守、福知山藩主、食封三萬二千石。京ニ至ル、鑑家記青山幸宜、峯之助、郡上藩主、食封四萬八千石。疾ヲ以テ、老臣ヲシテ代ラシメント請フ。青山幸宜、家記

二十九日、宣命使田野、後月輪東陵、孝明、ニ遣シ、造陵功竣リ、及ヒ大政古ニ復スルヲ告ク。

○市橋長義、暫ク歸邑セント請フ、之ヲ聽ス。十一月三日ヲ以テ途ニ上ル。

○幕府、令シテ、驛遞法、及ヒ大宮御所造營課金、姑ク其舊ニ仍ラシム。

○幕府、書ヲ各國公使ニ致シ、大政奉還ノ意ヲ陳述ス。

○幕府、書ヲ各國公使ニ致シ、新潟開港ノ期十二月ヲ改テ、明年三月九日ト爲サンコトヲ報シ、且其條約書案ヲ示ス。

晦日、淺野茂勳、紀伊守、茂、長ノ嗣子、毛利廣封、駿河、ト、周防新湊ニ會議シ、

ヲシテ其事ヲ幹セシム。

○柳澤保申、京ニ至ル。柳澤保申、中家記

○幕府、書ヲ各國公使ニ致シ、貨幣改鑄ノ事、器械備具セサルヲ以テ、期約ニ循フコト能ハサルヲ告ク。

五日、本多忠貫、伊豫守、神戶藩主、食封一萬五千石。山田奉行ノ職ニ在ルヲ以テ、老臣ヲシテ代リテ入京セシメント請フ、之ヲ聽ス。

○前田慶寧、加賀守、加賀藩主、食封百一萬二千石。阿部正方、主計頭、福山藩主、食封七千七百石、時ニ松平氏ヲ稱ス。疾ヲ以テ、上京ノ期ヲ緩セント請フ。二條攝政、家記

○幕府、再ヒ諸藩ニ令シテ、江戸外郭、及ヒ各處ヲ警守ス。

○徳川茂承ノ家臣、江戸ニ在ル者、榊原耿之介、竹内孫、助謀主ト爲ルト云、幕府ノ親戚譜第、及ヒ諸藩士ヲ其邸ニ會シ、徳川氏ト君臣ノ義ヲ全フシ、幕府ヲ扶持センコトヲ勸諭シ、且其意見ヲ問フ。

六日、兵庫開港ノ期近キニ在ルヲ以テ、幕府、本地居留外國人ノ游歩區域ヲ定ムルヲ布告ス。

卷四

慶應三年丁卯十一月八日ニ起リ十五日ニ至ル

八日、是ヨリ先、九條尙忠、入道前、關白、久我建通、入道前、内大臣、千種有文、入道前、少將、岩倉具視、入道前中將、富小路敬直、入道前中將、罪ヲ獲テ洛外ニ居ル、是日、命シテ、各其家ニ歸ラシム。

島津茂久ノ至ルヲ待テ、俱ニ入京セントス。指華入、京日載

十一月

朔日、分部光貞、若狹守、大瀨藩、主、食封一萬石。疾ヲ以テ、老臣ヲシテ代ラシメント請フ。分部光、家記

二日、大給乘謨、縫殿頭、田野口藩主、後龍岡ト改稱ス、食封一萬六千石、時ニ松平氏ヲ稱シ、幕府老中、外國總裁タリ、稻葉正己、大瀨守、館山藩主、正善ノ養父、時ニ幕府老中格、海軍總裁タリ、京ニ至ル。二條攝政、家記

○幕府、書ヲ各國公使ニ致シ、江戸開市期限十二月ヲ改テ、明年三月九日ト爲サンコトヲ告ケ、且國內布告文案ヲ示ス。

三日、松平慶倫、三河守、津山藩主、食封十萬石。疾ニ罹リ、且長防ノ虞アルヲ以テ、上京ノ期ヲ緩セント請フ、是日、批シテ本月ヲ限り會同セシム。

○徳川茂承、蜂須賀齊裕、小笠原忠忱、九鬼隆備、大瀨守、駿河藩主、食封一萬九千五百石。疾ヲ以テ、上京ノ期ヲ緩セント請ヒ、小笠原貞宇、幸松丸、安志藩主、食封一萬石。老臣ヲシテ代ラシメント請フ。二條攝政、又戸田氏共、疾ヲ以テ、老臣ヲシテ兵ヲ率テ京ニ至ラシメ、松平慶憲ノ警衛兵モ亦京ニ至ル。致家記

○幕府、諸藩ニ令シテ、江戸郭内諸門ヲ警守ス。

四日、幕府ニ命シテ、朝鮮、佛朗西ノ和議ヲ調停セシメ、宗義達

○幕府、英國公使將ニ横濱ヨリ兵庫ニ來ラントシ、其軍艦一隻先至ルヲ稟ス。

○松平慶永、井伊直憲、京ニ至ル。二條攝政、家記

九日、前田利堯ノ朔平門前警衛ヲ罷メ、松平慶憲ヲ以テ之ニ代フ。

○幕府、前月二十二日外國事宜批紙中、所謂二三藩ハ、朝旨別ニ指定スル所アリヤヲ稟咨ス、是日、批シテ、別ニ指定スル所ナキヲ以テ、衆議之ヲ決行セシム。

○幕府、譜第諸侯ノ職務ニ就キ、及ヒ警衛ニ服シ、若クハ疾病幼弱ノ者ハ、皆老臣ヲシテ代リテ朝召ニ應セシメント請フ、命シテ、警衛ヲ除クノ外、各其事由ヲ上陳シテ、命ヲ請ハシム。

○松平武聰、右近將監、藩田藩主、食封六萬千石、巖ニ封ヲ失ヒ、美作ノ別邑ニ寓ス、疾ヲ以テ、召命ヲ辭ス。二條攝政、家記

○幕府ノ親戚譜第諸藩、陰ニ政權ヲ復センコトヲ謀ルモノアリ、福岡孝弟、藤治、土、辻維嶽、將監、安、松平慶永ニ説キ、其誣誤スル所ト爲ルコト勿ラシム。

十日、是ヨリ先、幕府、毛利敬親、長門藩主、食封三萬石、支封主、及ヒ老臣ヲ大阪ニ召スノ令在リ、七月ヲ停メ、更ニ諸侯ノ公議ヲ經、朝命ヲ以テ、之ヲ召サンコトヲ請フ、之ヲ可ス、是日、幕府、淺野茂長ヲ

シテ敬親ニ傳諭シ、後命ヲ俟シム。

○脇坂安斐、淡路守○龍野藩主、食封四萬石、京二抵

ル、二條堀直虎、内藏頭○須坂藩主、疾ヲ以テ、召命ヲ辭ス。

十一日、前田利曜、歸藩ヲ請フ、之ヲ聽ス、十四日、大給乘談、稻

葉正己、江戸ニ返ル。

十二日、國事掛近衛忠房、左大臣一條實良、右大臣近衛忠熙、前關白鷹司

輔熙、右大臣大炊御門家信、内次九條道孝、納言連署シテ、大政復

古、綱紀確立ノ策問二道、太政官八省以下再興ノ議案ヲ上リ、

廷議豫メ一定スル所アラント請フ、批シテ、策問二道ヲ採納

ス。

○朽木爲綱、藩ニ歸ル。

十三日、有馬道純、遠江守○丸岡藩主、疾ヲ以テ、老臣ヲシテ代ラシメ

ント請ヒ、津輕承敏、主封少領○黒石藩主、疾アリ、召ニ應スルコト能

サルヲ以テ、朝旨ヲ候ス。

十四日、本多康稷、主封大領○京二至ル。

○是ヨリ先、民間、符籙天ヨリ降ルト稱シ、之ヲ獲ルモノ、以テ

祥瑞ト爲シ、奔走舞蹈、幾ト狂スルカ如シ、參尾ノ地方ニ始リ、

近畿殊ニ甚シク、覃テ山陽、南海ノ諸道ニ及フ、時勢見是日、京都

町奉行、令シテ、其狂躁雜選ヲ禁ス。

卷五

慶應三年丁卯十一月十六日ニ起リ二十三日ニ至ル

十六日、徳川慶勝引咎ノ請ヲ慰諭シ、奉仕故ノ如クナラシム。

○大久保忠禮、加賀守○小田原藩主、食封十二萬石、酒井

忠氏、眞田幸民、戸澤正實、中務大領○新莊藩主、食封六萬石、

松平乘秩、和泉守○西尾藩主、石川成之、宗十郎○龜山藩主、食封

五萬石、松平忠禮、伊賀守○上田藩主、内藤信民、主封五萬石、

野忠敬、出羽守○沼津藩主、食封三萬石、西尾忠篤、隱岐守○横須賀藩主、食封三

萬石、知、隼人正○沼田藩主、松平親良、中務大領○杵築藩主、諷訪忠誠、因幡守○高島

萬石、鳥居忠實、丹羽守○壬生藩主、松平直巳、主封三萬石、稻垣長行、平右衛門

守、食封三萬石、伊豆守○上山藩主、植村家保、駿河守○高取藩主、酒井忠良、紀

三萬石、松平信庸、主封三萬石、松平忠恕、主封二萬石、保科正益、主封一萬石、

内藤文成、金一郎○舉母藩主、本多忠紀、能登守○泉藩主、本多助成、豐後守○飯

石、水野勝知、日向守○結城藩主、堀田正頌、攝津守○佐野藩主、内藤政養、長

慶○湯長谷藩主、堀田正養、豐前守○宮川藩主、三宅康保、備後守○田原藩主、

澤光昭、伊勢守○黒川藩主、丹羽氏中、主封一萬石、柳澤德忠、主封一萬石、

松平直哉、主封一萬石、松平直靜、日向守○清崎藩主、食封一萬石、連署シ

テ、書ヲ幕府ニ呈シ、朝召ヲ辭センコトヲ請ヒ、若シ採納ヲ得

サレハ、直ニ奏狀ヲ議傳兩局ニ上ラントス。

復古記 慶應三年十一月

十五日、大政歸一綱紀確立ノ策問ヲ、徳川慶喜及ヒ徳川慶勝、

松平慶永ニ下シ、尋テ之ヲ在京諸侯ニ下問ス。

○酒井忠篤、酒井忠悳、松平忠誠、大河内信古、主後豐橋ト改ム、食封

七萬石、井上正直、河内守○濱松藩主、後鶴舞、本多忠民、蒲ノ間諸藩、連署

シテ、書ヲ幕府ニ呈シ、官位ヲ朝廷ニ還シ、以テ徳川氏臣屬ノ

義ヲ明ニセント請ヒ、安部信發、攝津守○岡部藩主、食封二百五十石、酒井

忠強、主封一萬石、板倉勝弘、攝津守○藤井藩主、渡邊章綱、主封一萬三

千五百石、加納久宜、嘉元次郎○一宮藩主、酒井忠美、主封一萬石、

田忠行、長門守○足利藩主、牧野忠泰、伊勢守○三根山藩主、食封一萬石、

田沼意尊、文番頭○相模藩主、食封一萬石、戸田氏良、淡路守○大垣新田

藩主、食封一萬石、柳生俊俊、但馬守○柳生藩主、食封一萬石、

有馬氏弘、兵衛頭○吹上藩主、内藤正、生實藩主、田田廣孝、相模守

石、主封一萬石、森川俊方、主封一萬石、内田正學、主封一萬石、

永井直哉、主封一萬石、井上正順、宮内○高岡藩主、井上正己、辰若丸、下妻

石、以上上列ニモ亦連疏シテ、朝廷ノ召命ヲ辭シ、君臣ノ義ヲ失セ

スシテ、僭越ノ罪ヲ犯スコト勿ラント請フ。

○賊アリ、阪本直柔、馬、中岡正道、主封一萬石、ナ刺ス。

十七日、一柳頼紹、因幡守○小松藩主、疾ヲ以テ、上京ノ期ヲ緩セント

請フ。

○幕府ノ親藩、及ヒ僚屬中、往々政權挽回ヲ議スル者アリ、尾、

越二藩、其事ヲ敗ランコトヲ恐レテ、陰ニ之ヲ匡正スルヲ謀

ル。

○土屋寅直、采女正○土浦藩主、土井利與、大炊頭○古河藩主、

高藩主、食封七萬石、本莊宗武、主封一萬石、青山忠敏、左衛門大將○藤山藩

主、食封一萬石、太田資美、總次郎○掛川藩主、食封一萬石、

秋元禮朝、但馬守○藤井藩主、永井直諒、日向守○高槻藩主、

出雲守○關宿藩主、間部詮道、下總守○鶴江藩主、永井直諒、日向守○高槻藩主、

頼直、食封三萬石、板倉勝殷、主封三萬石、黒田直養、主封三萬石、

板倉勝己、三萬石、後重原二移封ス、安藤信勇、理三郎○野城手藩主、

正、岩槻藩主、食封一萬石、土井利教、淡路守○刈屋藩主、増山正修、對馬守○長島藩

主、食封一萬石、水野忠順、肥前守○鶴牧藩主、牧野康濟、主封一

萬石、内藤正誠、志摩守○岩田藩主、遠藤胤城、但馬守○三上藩主、食封一

萬石、忠經、左京亮○敦賀藩主、食封一萬石、後山ト改ム、連署シテ、朝召ヲ辭センコ

トヲ幕府ニ請フ。

○是ヨリ先、幕府、航海術教導士官ヲ英國ヨリ雇フ、英國公使、

書ヲ致シテ、其接待資給ノ事ヲ申ス、是日、復書シテ、之ヲ謝

ス。

十八日、前田利裕、丹後守○七日市壽本莊道美、宮内少輔○高橋藩疾ヲ以テ、上京ノ期ヲ緩セント請フ。前田利裕

○島津茂久、三田尻港周ニ至リ、毛利廣封ヲ見テ、前途ノ策ヲ議シ、直ニ上國ニ赴ク、廣封、淺野茂長ニ報知シ、共ニ兵ヲ出シテ、東上セシメンコトヲ約ス。

○是ヨリ先、英國公使館附屬士官サトウ、掛川驛江ニ泊ス、人アリ其室ニ闖入シテ、將ニ之ヲ刺サントス、果サス、本年四月二十幕府、逮捕擬刑シ、是日、之ヲ英國公使ニ報ス。

十九日、徳川慶喜、朝綱ヲ一定スルハ、事體重大ナルヲ以テ、宜シク諸侯會同ヲ待テ、之ヲ公議スヘキヲ稟ス。

○徳川慶勝、上書シテ、楠正成ニ神號ヲ贈リ、祀典ニ列シ、近古國事ニ死スル者ヲ從祀センコトヲ建議ス、乃チ命シテ、死事者ノ姓名事蹟、及ヒ營祠ノ地ヲ録上セシム。

○織田信親、出雲守○柏原藩江戶ヨリ京ニ至リ、塚原山城乙訓郡丹波關門ヲ守ルヲ稟ス、又山内豐福、攝津守○高知新田疾ヲ以テ、上京ノ期ヲ緩セント請ヒ、二條藩南部信順、遠江守○八戸藩疾アリ、赴召期シ難キヲ稟ス。信家記

○幕府、紙幣ヲ畿内、及ヒ附近地方ニ發行シ、庚午歲十一月ヲ以テ限ト爲スヲ令シ、達ニ果又新潟ヲ開港場ト爲シ、其開港、及

卷六

慶應三年丁卯十一月二十三日
日ニ起リ十二月四日ニ至ル

二十三日、島津茂久、京ニ至ル、久光疾アルヲ以テ之ニ代ル○島津忠義家記黒田齊溥、久松定法、内膳正○今治藩主、食封三萬疾ヲ以テ、赴召遲緩ヲ謝ス。黒田長知、久松定法、食封五千石、時ニ松平氏ヲ稱ス

○黒田齊溥、其管地肥前國內ノ耶蘇宗徒、長崎奉行ノ捕縛スル所ト爲ルヲ幕府ニ稟ス。

二十四日、明年正月、天皇首服ノ日ヲ卜定ス。

○左大臣近衛忠房、右大臣一條實良、上表シテ職ヲ辭ス。

二十五日、松平定安、再ヒ上京遲緩ヲ謝シ、眞田幸民、前田利同、池田徳定、相模守○因幡藩支封主、後若櫻藩ト爲織田信成、筑前守○柳本藩疾ヲ以テ、上京ノ期ヲ延ヘ、二條藩岡部長寛、老臣ヲシテ代ラシメント請フ。岡部長寛

○土佐藩士、尾、越、肥後等ノ藩士ト議シ、速ニ在京諸侯ノ會議ヲ興シ、以テ幕府政權奉還ノ實ヲ擧ケンコトヲ謀ル。

○幕府、東北諸藩ニ令シ、其士民ノ唐太島ヲ開拓シ、及ヒ其地ニ移住スルヲ許ス。

二十六日、柳澤保申歸藩ノ請ヲ允ス。二十八日
○柳澤徳忠、幼ニシテ且疾アルヲ以テ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。柳澤徳忠家記

ヒ江戸開市ノ期十二月改メテ、明年三月九日ト爲スヲ布告ス。
二十日、北小路俊昌、中務大丞○人極ヲ堂上ニ班ス。

○戸田氏共、再ヒ疾ヲ以テ、入京スルコト能ハサルヲ謝シ、戸田氏共家松平定安、出羽守○松江藩主、食封十八萬六千石上京ノ期ヲ緩セント請フ。松平定安家記

○長崎奉行河津祐邦、薩摩藩ノ佛國人モンブラン等ヲ雇フテ、其軍事ニ參シ、又英國汽船ノ長崎港ニ在ル者ヲ購買シ、告ケスシテ其藩ニ歸ルヲ幕府ニ報ス、是日、幕府、書ヲ佛國公使ニ與ヘテ、其事由ヲ問フ。

二十一日、豊岡隨資、大藏上書シテ、舊習ヲ除キ、紀綱ヲ張り、人オヲ擧ケ、公議ヲ採ランコトヲ建議シ、其目二十九條ヲ陳ス。

○松平頼英、左京大夫○西條藩松平義勇、肥後守○高須藩疾ヲ以テ、老臣ヲシテ代ラシメント請フ。二條藩
二十二日、小出英尙、十萬六千七百一十一石餘市橋長義京ニ至ル、小出、市橋長池田慶徳、佐竹義堯、封二萬五千八百石井上正直、疾ヲ以テ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。二條藩

○幕府、横濱外國人居留地取締規則ヲ設ケ、且英國人ヲ雇ヒ、取締役トナスヲ各國公使ニ告ク。

○米國公使、書ヲ幕府ニ致シ、本國大統領、我使節ヲ朝鮮ニ遣リ、講和ヲ謀ラントスルヲ謝スルヲ陳ス。

卷六

慶應三年丁卯十一月二十三日
日ニ起リ十二月四日ニ至ル

○神原政敬、書ヲ幕府ニ呈シテ、朝廷ノ召命ヲ辭シ、若シ許允ヲ蒙ラスンハ、爵位ヲ奉還シ、以テ陪隸ノ列ニ就カント請フ、幕府、之ヲ却ク。

二十七日、島津茂久既ニ京ニ入ル、淺野茂勳二十四日ヲ以テ國ヲ發シ、毛利敬親ノ支封主老臣等、二十六日ヲ以テ藝兵ニ御手洗港ニ會ス、捕縛人是日、茂長、敬親ノ報狀ヲ上リ、且召命停格ノ令、途上齟齬スルノ狀ヲ稟ス。

○遠山友祿、美濃守○苗木藩主、食封一萬二千石疾ヲ以テ、上京ノ期ヲ緩フセント請フ。遠山友祿家記

二十八日、淺野茂勳、京ニ至ル、淺野長政、備前守○備前藩主、食封三十一萬五千二百石、時ニ松平氏ヲ稱ス南部利剛、鹽正大納言○米澤藩主、食封十八萬七千二百四十八石伊達宗城、水野忠弘、真次郎○山形藩主、食封一萬七千二百石九鬼隆義、長門守○三田五萬石、後朝日山ニ移ル土井利恒、能登守○大野藩主、食封一萬五千石木下俊愿、飯次郎○日出藩主、主膳正○小泉藩主、食封一萬石片桐貞篤、食封一萬石九鬼隆備、南部信民、食封一萬石伊東長壽、播磨守○岡田藩主、食封一萬石疾ヲ以テ、上京ノ期ヲ延ヘント請ヒ、松平武聰、南部信順、疾アリ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。二條藩

○徳川慶喜、既ニ大政ヲ還ス、而其實未タ擧ラス、松平慶永、薩藩ノ大ニ幕府ヲ疑フヲ憂ヒ、慶喜ニ説キ、西郷隆盛、吉之助○薩摩藩士等

ヲ招テ、其眞意ヲ諭サンコトヲ勸ム。

○幕府、令シテ凡ソ脇往還、明年正月以後、驛夫錢ハ六倍五分、渡船賃ハ二倍ヲ増加セシム、又江戸鉄砲洲ヲ以テ、外國人居留地ト爲シ、其居民ノ家屋ヲ外人ニ貸與スルヲ許ス。

○幕府、兵庫地方ノ民、外國貨幣ニ慣ハサルヲ以テ、姑ク我銀貨ト兌換通行セシム、因テ各國公使ニ移書シ、其改鑄耗減費二分ヲ收ム。

二十九日、北條氏恭、京ニ至リ、堀直虎、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム、榊原政敬、酒井忠氏、大河内信古、加藤泰秋、遠江守大封六、京極朗徹、佐渡守九龜壽主、食封二萬二千石、相良頼基、遠江守人吉壽主、食封一萬八千石、新見壽主、食封一萬石、織田長易、攝津守芝行壽主、食封一萬石、疾ヲ以テ、上京ノ期ヲ緩フセント請ヒ、九鬼隆備、再ヒ延期ヲ請ヒ、稻葉久通、右京亮白杵壽主、食封五萬六千石、松前德廣、志摩守松前壽主、食封一萬石、疾ヲ以テ、老臣ヲシテ代ラシメント請フ。二條攝政記

晦日、左大臣近衛忠房、右大臣一條實良ノ請ヲ允シテ、其官ヲ罷ム、國事掛並ニ故ノ如シ、權大納言九條道孝ヲ以テ、左大臣兼左近衛大將左馬寮御監ト爲シ、内大臣大炊御門家信ヲ右大臣ト爲シ、隨身兵仗ヲ賜ヒ、權大納言廣幡忠禮ヲ内大臣兼右近衛大將右馬寮御監ト爲ス。

請下ス。

○幕府、關東八國ニ令シ、酒醬等醸造、三年ノ均額ヲ録上セシム。

○神奈川奉行、米國商社ノ請ヲ許シ、煤氣燈ヲ横濱市街ニ設ケントスルヲ幕府ニ稟ス。達二果サレ。

○十二月

朔日、櫻井忠興歸邑ノ請ヲ允ス。三日途ニ上ル。

○峰須賀齊裕、松平直克、松平忠誠、松平忠和、主殿頭鳥原藩、松平忠禮、龜井茲監、隱岐守津和野藩主、遠山友祿、大岡忠敬、越前守西大平石、永井直哉、本莊道美、建部政世、三郎林田藩ハ、疾ヲ以テシ、上杉齊憲ハ、雪中道路通シ難キヲ以テ、上京ノ期ヲ緩セント請ヒ、徳川茂承、立花鑑寛、飛騨守柳河藩主、食封一萬九千六百石、戸田氏共、淺野長厚、近衛守安藤支封主、食封三萬石、植村家保、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシメ、酒井忠美、山口弘達、新莊直敬、下野守麻生藩主、老臣ヲシテ代ラシメント請ヒ、溝口直正、主、食封一萬石、老臣ノ代赴運緩ヲ謝シ、伊達宗孝若狭守伊豫吉田藩主、食封三萬石、病ヲ謝シ、有馬慶頼、松浦藩主、食封六萬七千七百石、大村純熙、丹後守大村藩主、食封一萬石、島津忠寛、淡路守佐詮、肥前守平戸藩主、食封六萬七千七百石、島津忠寛、土原藩主、食封二萬七千七百石、鍋島直彬、備前守鹿島藩主、食封二萬石、在京ノ家臣、各道路遠隔、其主會

○幕府、鍋島茂實、松平定安ニ、明春京師警衛ヲ命ス。

○毛利敬親ノ老臣内匠、等、兵八中隊ヲ引キ、船艦七隻ニ駕シ、艦頭薩藝等ノ徽章ヲ掲ケ、昨夜打出濱、攝津津寬ニ至リ、是日、遂ニ西ノ宮ニ次ス、豫メ大洲藩打出ノ兵士ト爲ス、淺野茂勳、乃チ上書シテ、其情由ヲ陳疏ス。

○伊達慶邦、陸奥守仙臺藩主、食封六十二萬池田政詮、信濃守備前新田、食封五千六百石、時ニ松平氏ヲ稱ス、細川興貫、少輔頭谷田部藩主、食封一萬五千石、豊岡藩主、土方雄永、稱、細川興貫、食封一萬六千三百石、京極高厚、飛騨守豐岡藩主、食封一萬五千石、伊豫守多度津藩主、疾ヲ以テ、上京ノ期ヲ緩フセント請ヒ、松平慶倫、再ヒ延期ヲ請ヒ、松平頼英、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシメ、丹羽長國、左京大夫、二本松藩堀直賀、左京亮、食封三萬六千石、兵庫頭本莊藩主、食封一萬二千石、織田信學、左近將監、天童藩、大田原勝清、食封一萬四千四百石、小笠原貞孚、老臣ヲシテ代ラシメント請ヒ、青木重義、源五郎、藤田藩主、播磨守岩藩藩主、食封一萬石、疾ヲ以テ、會同スルコト能ハス、公事ハ宗家佐竹義堯ニ傳諭センコトヲ請ヒ、奥平昌服ノ家臣、昌服海路ニ從フヲ以テ、會同ノ期ニ後ルルヲ稟ス。二條攝政記、小笠原真守、細川興貫家記

是月、幕府ニ命シ、嚴ニ紀伊藩士等ノ黨議ヲ禁遏セシム。

○井伊直憲、書ヲ傳奏ニ上リ、祖先徳川氏ニ依テ家ヲ立ルヲ以テ、朝命及申牒等、仍幕府ヲ經由セント請フ、既ニシテ其書ヲ

同ノ期ニ後ル、ヲ以テ、寛假ヲ請フ。二條攝政記、上杉茂憲家記

二日、毛利敬親老臣等ノ西宮ニ至ルヤ、會、桑二藩、攝政二一條齊敬、前左大臣、國事掛朝彦親王、攝正尹、ニ迫リ、西歸ノ命ヲ下サシメントス、國事掛正親町三條實愛、密ニ中山忠能、前權大納言、中御門經之、權大納言、岩倉具視、○具慶之子、及ヒ薩、藝二藩ト謀リ、之ヲ爭フ、夜ニ至リ、遂ニ淺野茂勳ノ奏狀九日ニ在ル、ニ批シ、大阪ニ詣テ、後命ヲ俟シム。

○毛利敬親ノ老臣等、西宮ニ在ルモノ、書ヲ薩、藝二藩ニ致シテ、其情ヲ陳ス、是日、淺野茂勳、之ヲ上ル。

○岩城隆邦、左京大夫、龜田藩主、疾ヲ以テ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム、邦家記、黒田齊博、鍋島茂實ハ、道路遠隔ヲ以テシ、毛利高謙、伊勢守佐伯藩主、食封一萬石、病ヲ以テ、並ニ上京ノ期ヲ緩フセント請フ、條記攝政

○北條氏恭、市橋長義ニ代リ、四塚關門ヲ守ルヲ稟ス。

○櫻井忠興、長門藩士等ニ、其封内留次、及ヒ城下經過ヲ許スノ可否ヲ幕府ニ稟ス、是日、幕府、其留次經過、妨ケナキヲ令ス。

三日、脇阪安斐、歸邑ヲ請フ、是日、之ヲ聽ス。六日途ニ上ル。

○松平慶憲、前月二十九日、汽船九隻、日章及ヒ薩、藝、長三藩

ノ旗章ヲ掲ケテ、封内ノ近海ヲ過クルヲ幕府ニ報シ、大洲藩士ノ打出村ヲ戍ル者、長門藩老臣等ノ、來リテ其傍近ニ次スルヲ報ス。

○藤堂高邦、佐渡守○久居藩主、食封五萬三千石、京ニ至ル。藤堂高邦家記

四日、毛利敬親老臣等東上ノ事、稍ク傳播ス、時ニ津藩兵山崎關門ヲ守ル、藩士、乃チ書ヲ上リ、老臣等兵勢ヲ張り、關ニ抵ラハ、直チニ之ヲ掃蕩センコトヲ稟ス、又其支封久居藩兵ノ都下守衛ヲ撤シ、共ニ山崎ヲ守ランコトヲ幕府ニ請フ、幕府、特ニ宇治ノ兵ヲ分ツテ許ス。

○池田政禮、丹波守○備前守、食封一萬五千石、後生阪藩主、稱ス、京ニ至リ、池田政禮家記、丹羽長國、疾ヲ以テ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。丹羽長國家記

卷七

慶應三年丁卯十二月五日
日ニ起リ八日ニ至ル

五日、中山忠能、正親町三條實愛、中御門經之等、島津茂久、淺野茂勳ト謀リ、先ツ毛利敬親等赦宥ノ命ヲ發シ、繼テ更革ノ事ニ及ハントス、時ニ國事掛近衛忠房、九條道孝、廣幡忠禮等、松平慶永ト、敬親等寬典ノ事ヲ謀ル、會、桑及ヒ津藩士、二條齊敬、朝彦親王ニ説テ、之ヲ拒ム、是日、慶永、徳川慶喜ニ勸メ、會、桑諸藩ニ諭シ、敬親等ノ處置、一ニ朝裁ヲ仰カシム。

○幕府、堀直虎ヲ以テ、若年寄兼外國總奉行ト爲ス、堀直明又譜家記諸藩○備前、備後、備中、備前、備後、備前、備後、備前、備後ニ諭スニ、會同ノ命、朝廷ニ出テ、而シテ幕府之ヲ傳フ、則借越ノ嫌アルニ非ス、宜ク速ニ西上スヘキヲ以テス。

○幕府、大阪外國人居留規則、及ヒ大阪、兵庫間運送船等規則ヲ設ケ、之ヲ各國公使ニ謀ル。

六日、近衛忠房等、攝政二條齊敬ニ逼テ、毛利敬親等赦宥ノ議ヲ決シ、直ニ之ヲ徳川慶喜ニ諭サシメントス、果サス、是日、議始テ決ス、乃チ戸田忠至大和守、食封一萬石、後高橋藩主、稱スヲシテ内旨ヲ慶喜ニ諭サシム。

○英國公使ハルリ、エス、バークス、諸藩兵ノ大阪ニ輻湊スルヲ止メンコトヲ幕府ニ請フ、幕府、其書ヲ上ル。

○伊藤祐相、左京大夫○既肥藩主、食封五萬八千石、疾アリ、重臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシメ、小笠原忠忱、小笠原貞正近江守、食封一萬石、後千代藩主、稱ス、疾ヲ以テ、老臣ヲシテ代ラシメント請ヒ、織田長易、疾ヲ以テ、會同愆期ヲ謝ス。伊藤祐相、小笠原忠忱、小笠原貞正、織田長易、家記

○幕府、石川成之ノ江戸郭門警衛ヲ罷メテ、西上セシム。

七日、徳川慶喜、内旨ニ答ヘ、毛利敬親等赦宥ノ事、宜ク諸侯ノ公議ニ付スヘク、若シ聖斷ニ出テシメハ、固ヨリ異議ナキヲ稟

ス、乃チ在京諸侯ニ令シテ、明日悉ク朝參セシム。

○津藩士ノ稟狀ニ批シ、毛利敬親ノ老臣等、或ハ關ニ抵ラハ、懇諭シテ之ヲ留メ、以テ朝命ヲ請ハシム。

○植村家保、本多忠鄰ノ子○初ハ、養フテ、其嗣ト爲サンコトヲ幕府ニ請フ、是日、幕府、之ヲ許ス。

○兵庫港ヲ開テ貿易場ト爲ス、又大坂互市場ヲ開ク、兵庫碇泊ノ各國船艦、皆祝砲ヲ發ス。指事入京日誌

八日、毛利敬親父子支封主赦宥ノ事、及ヒ英國公使ノ書六日呈ヲ參朝ノ諸侯藩士ニ下示シ、赦命ハ直ニ答議ヲ上ラシム、是夜遂ニ宸斷ヲ以テ、毛利敬親其子廣封及ヒ支封主毛利元周長門府中藩主、食封五萬石、毛利元蕃、封四萬石ニ官位ヲ復シテ、入京ヲ

許シ、淺野茂勳ヲシテ敬親老臣等ノ西ノ宮ニ在ル者ヲ京ニ召サシメ、三條實美、三條西季知、東久世通禧、四條隆謨、壬生基修ノ官位ヲ復シテ、之ヲ召還シ、錦小路頼徳甲子ノ年、長ノ官位ヲ復シ、澤宣嘉ノ義絶ヲ釋ス。詳ナラス、詳ナラス、詳ナラス、又九條尚忠、久我建通、千種有文、岩倉具視、富小路敬直ヲシテ、復飾セシメ、建通以下四人ノ蟄居ヲ釋シ、滋野井實在中將、少將、滋野井公壽、從、尾隆聚從、ノ差扣ヲ釋ス。

○毛利敬親等ノ赦命既ニ發ス、中山忠能、正親町三條實愛、中

御門經之、岩倉具視等、内旨ヲ奉シテ、將ニ大ニ更革ヲ行ハントス、具視、旨ヲ島津茂久、淺野茂勳、山内豊信、徳川慶勝、松平慶永ニ傳ヘテ、明早朝參シ、且兵ヲ出シテ、禁門ヲ嚴守セシム、是日、茂久、豫メ赦命ノ事ヲ毛利敬親ノ老臣ニ西宮ニ報シテ、急ニ北上セシム。

○是夜、中山忠能、密旨ヲ尾隆聚ニ傳ヘ、潛ニ高野山ニ赴キ、十津川郷士ヲシテ之ニ從ハシム、諸藩士モ亦行ニ從フ者アリ。

○藤堂高潔大學頭、高京ニ至ル、藤堂高潔、遠山友祿、母ノ喪ヲ以テ、再ヒ上京延期ヲ請フ。遠山友祿家記

卷八

慶應三年丁卯十二月九日

九日、昨日來百官事ヲ執リ、明ニ至テ皆退朝ス、獨國事掛議奏正親町三條實愛、長谷信篤、及ヒ徳川慶勝、淺野茂勳、松平慶永留テ内ニ在リ、乃チ薩、尾、藝、越、土五藩ノ兵ニ令シテ、内外諸門ヲ分守シ、會、桑ノ衛兵ヲ撤ス、是時、熾仁親王○常陸守、右大將、常陸守、入道純仁親王、宮、御、中山忠能、中御門經之、岩倉具視、大原重徳、相○山階宮、宰相、橋本實梁、少將、大納言、先入テ朝議ヲ贊ス、豫メ内旨、既ニシテ、入道尊秀親王、院、正親町實徳、大納言、正親町公董、橋本實麗、大納言、四辻公賀、中將、清閑寺豊房、宰相、澤爲

量、澤宣種、註、永西園寺公望、註、中堀川康隆、註、穂波經度、註、高倉永祐、註、滋野井實在、註、滋野井公壽、註、園池公靜、註、五條爲榮、註、山本實政、註、少富小路敬直、註、長谷信成、註、美濃、註、岩倉具綱、註、待從、註、具岩倉具定、註、大夫、註、二子、註、其嗣、註、四條隆平、註、大夫、註、石山基正、註、右兵衛權佐、註、西洞院信愛、註、大夫、註、信嗣、註、西四辻公業、註、大夫、註、萬里小路通房、註、右少辨、註、大原重朝、註、左馬頭、註、重裏松良光、註、中務權少輔、註、中山忠愛、註、能等、註、傳旨、註、召召、註、係係、註、及ヒ、註、島津茂久、註、山内豊信、註、モ亦朝ス、註、日人取、註、是ニ於テ、註、攝政、註、關白、註、征夷大將軍、註、議奏、註、傳奏、註、國事掛、註、守護職、註、所司代等ノ官職、註、及ヒ、註、内覽、註、勅問、註、攝籙、註、門流ヲ廢シ、註、新ニ總裁、註、議定、註、參與ノ三職ヲ置ク、註、大將軍德川慶喜ノ請ヲ許シ、註、其職ヲ罷メ、註、攝政ニ條齊敬、註、國事掛九條道孝、註、大炊御門家信、註、朝彦親王、註、近衛忠熙、註、近衛忠房、註、鷹司輔熙、註、德大寺公純、註、前右、註、一條實良、註、廣幡忠禮、註、議奏、註、國事掛柳原光愛、註、大納言、註、葉室長順、註、大納言、註、傳奏、註、國事掛日野資宗、註、大納言、註、飛鳥井雅典、註、大納言ヲ免シ、註、皆其朝參ヲ停メ、註、議奏、註、加勢中院通富、註、中納言、註、倉橋泰聰、註、治部池尻胤房、註、宮内、註、錦織久隆、註、刑部、註、交野時萬左京、註、大夫、註、ヲ罷メ、註、廣橋胤保、註、大納言、註、六條有容、註、野宮定功、註、中納言、註、久世通熙、註、中納言、註、朝參ヲ停メ、註、豐岡隨資、註、伏原宣諭、註、位、註、裏辻公愛、註、中納言、註、朝參ヲ停メ、註、謹慎セシメ、註、守護職松平容保、註、肥後守、註、會津藩主、註、所司代松平定敬、註、越後守、註、桑名藩主、註、ヲ罷メテ、註、歸藩セシム、註、哺ニ及ヒ、註、議ヲ小御所ニ開キ、註、大政施設ノ方及

ヒ德川氏處分ノ事ヲ議ス、遂ニ慶勝、慶永ヲシテ、辭官獻地ノ内旨ヲ慶喜ニ諭サシム、時ニ薩摩藩士大久保利通、註、一岩下方平、註、佐藤元燁、註、二神山君風、註、尾張藩士田宮篤輝、註、丹羽賢、註、田中輔、註、越前藩士中根師質、註、江酒井忠温、註、安藝藩士辻維嶽、註、久保田秀雄、註、モ亦其議ニ參ス。
○熾仁親王ヲ以テ總裁ト爲シ、註、二品ニ叙シ、註、隨身兵仗ヲ賜ヒ、註、純仁親王、註、晃親王、註、中山忠能、註、正親町三條實愛、註、中御門經之、註、德川慶勝、註、松平慶永、註、島津茂久、註、淺野茂勳、註、山内豊信ヲ議定ト爲シ、註、二親王ヲ二品ニ叙シ、註、隨身兵仗ヲ賜ヒ、註、純仁親王ヲシテ復飾セシメ、註、大原重德、註、長谷信篤、註、岩倉具視、註、橋木實梁ヲ參與ト爲ス、註、又茂久、註、慶勝、註、茂勳、註、慶永、註、豊信ニ命シ、註、其藩士參與ノ任ニ當ルモノヲ薦擧セシム、註、是日、註、太政復古ヲ宮堂上ニ諭告ス、註、又後宮ニ諭シテ、註、内行ヲ正フセシム。
○諸藩ノ衛兵ニ命シ、註、警備ノ事、註、今後朝命ヲ奉セシム、註、平戸藩兵ヲシテ清所門、註、所門、註、ヲ守リ、註、十津川郷兵ヲシテ蛤門ヲ守ラシム。
○毛利敬親ノ老臣、註、及ヒ其支封主ヲ京ニ召スヲ山崎成兵ニ諭シ、註、又敬親父子、註、及ヒ三條實美等五人皆入京ヲ許スヲ沿道關門ニ諭ス、註、是日、註、敬親ノ老臣等、註、島津茂久ノ報ヲ得テ、註、山崎ニ抵ル、

守兵、朝命ナキヲ以テ納レズ、頃アツテ、朝命至ル、乃チ入テ光明寺註、乙訓郡栗生ニ次ス。

○德川慶喜ニ命シ、毛利敬親等赦宥ノ故テ以テ、部下ノ黨議ヲ生スルモノヲ誠諭セシム、又二條城中紛擾ノ狀アルヲ以テ、尾越二藩ニ内諭シテ、之ヲ鎮撫セシム。

○伊達慶邦、細川慶順等、三十餘人ノ老臣、各英國公使書東ノ答議ヲ上ル。

○前田慶寧、京ニ至ル。註、前田慶寧、京ニ至ル。前田慶寧、京ニ至ル。

○戸田忠行、米倉昌言、註、丹後守、金澤藩主、食封一萬二千石、後六浦、改、薩摩藩士ト稱シ、下野出流山村ニ嘯聚スルモノアルヲ舊幕府ニ報ス、舊幕府、忠行及ヒ秋元禮朝、島居忠實ヲシテ之ヲ緝捕セシム、既ニシテ、宗義達モ亦其事ヲ報ス。註、出流山村義達ノ別邑ニ係ル。

卷九

慶應三年丁卯十二月十日、備前藩兵ヲシテ蛤門ヲ守リ、池田政禮ノ兵ヲシテ之ニ屬セシム。

○德川慶勝、松平慶永、命ヲ傳ヘテ二條城ニ到ル、城中兵馬填咽、麾下ノ士、皆甲ヲ擲シ、兵ヲ執リ、譜第諸侯ハ、兵ヲ率キテ城外ニ列ス、德川慶喜、其衆變ヲ激センコトヲ恐レ、日映ニ至

復古記 慶應三年十二月

テ決セス、會マ朝旨二人ヲ促ス、慶喜、乃罷職ノ命ヲ奉シ、辭官獻地ノ事ハ、衆情鎮定ノ後ヲ待タント請フ、夜ニ及テ、二人復命ス。

○長門藩ノ老臣毛利親信、註、内是夜、註、兵隊、註、ヲ率キテ相國寺ノ薩營ニ入ル。註、指華入直ニ召テ、之ヲ慰勞ス。

○土方雄永、疾ヲ以テ、上京延期ヲ請フ。註、土方雄永、疾ヲ以テ、上京延期ヲ請フ。

○江戸市街中、劫盜横行スルヲ以テ、舊幕府、譜第諸侯ニ諭シテ、鎮緝ノ方ヲ陳セシム。

十一日、禁内守衛兵ヲ除クノ外、戎服九門内ニ入ルヲ禁ス、又長門藩兵ヲシテ九門内外ヲ巡邏シ、且ツ正親町三條實愛、橋本實梁ノ衛兵ヲ出シ、因幡藩ヲシテ長谷信篤ノ衛兵ヲ出サシム。
○榊原政敬、書ヲ上リ、德川氏ノ世臣タルヲ以テ、命令奏請、仍ホ其手ヲ經由セント請フ、報セス。

○舊幕府ノ麾下、及ヒ譜第藩士等、更革ノ事ヲ聞キ、二條城ニ集ル者一萬人、是夜訛言アリ、薩兵來襲スト、是ニ於テ、或ハ砲門ヲ城壁ニ穿チ、或ハ迎戰ノ備ヲ爲ス、德川慶喜、頗ル制馭ニ苦ム、適マ松平慶永、城ニ在リ、其變アランコトヲ慮リ、慶喜ニ説キ、松平容保、松平定敬等ヲ率キテ、姑ク大坂ニ赴カシメン

十二日、參與ヲシテ假ニ舊武家傳奏ノ事ヲ掌ラシメ、一乘院里坊ヲ以テ、本衙ト爲ス。

○岩下方平、西郷隆盛、大久保利通、丹羽賢、田中輔、辻維嶽、櫻井元憲、與四郎久保田秀雄、中根師質、酒井忠温、毛受洪、鹿之助後藤元輝、神山君風、福岡孝弟ヲ以テ、參與ト爲ス。

○加藤明實、再ヒ京ニ至ル、命シテ、内侍所ヲ守衛セシメ、津和野藩兵ヲシテ建春門ヲ守衛セシム。龜井

○山内豊信、書ヲ上リ、更革ノ事、基本略定ル、宜ク速ニ戒備ヲ紓ヘテ、而シテ公議ヲ興スヘク、徳川慶喜辭官獻地ノ事ハ、之ヲ松平慶永ニ委センコトヲ建議ス。

○細川慶順、黒田齊溥、鍋島茂實、蜂須賀齊裕、有馬慶頼、南部利剛、丹羽長國、立花鑑寛、宗義達、溝口直正ノ老臣、連署シテ、速ニ戒嚴ヲ解キ、人心ヲ安シ、且舊攝政將軍以下、宜ク公議ヲ以テ、之ヲ處スヘキヲ建議ス。

○是夜、徳川慶喜、松平容保、板倉勝靜、伊賀守備中松山藩主、食封五萬石、後高梁幕府老中等、及ヒ部下ノ兵ヲ率キテ、大阪ニ赴キ、梅澤亮、孫太郎、大目付ヲシテ二條城ヲ守ラシメ、發後奏狀ヲ上ル、徳川慶勝、松平慶永モ亦、其之ヲ懇願スルヲ謝ス。

○前田慶寧、書ヲ上リ、大兵ヲ領シテ、都下ニ居ラハ、誤テ事ヲ

生センコトヲ恐ル、ヲ陳シ、京ヲ發シテ國ニ赴ク、是日、久松定昭モ亦大阪ニ赴ク。久松定

○舊幕府、間部詮道ノ敦賀港守衛ヲ罷ム。護家記

十三日、正親町公董、烏丸光徳、ヲ以テ參與ト爲ス。

○山城國取締松平信正、丹波龜山、食封五萬石青山忠敏、本多康模ヲ以テ京都市中取締ト爲シ、市尹ノ事ヲ掌ラシム、是日、九門ヲ除クノ外、悉ク禁内ノ守兵ヲ撤シ、更ニ薩、尾、藝、土ノ四藩士兵ヲシテ建春、建禮、清所、朔平四門ヲ守リ、岡山藩兵等ノ蛤門守衛ヲ罷メ、長門藩兵ヲシテ之ニ代ラシメ、其九門内外巡邏ヲ罷ム。

○植村家保老臣ノ請ヲ以テ、命シテ其藩兵ヲ召サシム。

○薩、尾、藝、越、土五藩ヲシテ仁和寺宮ノ衛兵ヲ出サシメ、又安藝藩ヲシテ中山忠能ノ衛兵ヲ出サシム。鳥津忠能、淺野長、島津忠義、淺野長、勳山内閣家記

○久留島通靖、伊豫守、食封二萬五千石京ニ至リ、其赴召遲緩ヲ謝ス、秋月種殷、長門守、高橋藩主、食封二萬七千石疾アリ、其子種樹、右京、食封一萬石ヲシテ代リテ京ニ至ラシメント請ヒ、秋、月種殷一柳末徳、再ヒ上京遲延ヲ謝ス。一柳末、徳家記

○鷺尾隆聚、昨夜高野山ニ到ル、高野山、出、張略是日、僧侶ニ告諭シ、又十津川郷ニ牒シテ、之ヲ徵集ス。

卷十

慶應三年丁卯十二月十四日ニ起リ十七日ニ至ル

十四日、大政復古ヲ列藩ニ布告シ、各人材ヲ選舉セシム、且朝廷ノ徳川氏ニ於ケル、舊ニ異ナルコト無キヲ諭ス。

○禁門解嚴、及ヒ市中取締巡邏ヲ置キ、取締ヲシテ暇ニ市尹ノ事ヲ掌ラシムルヲ都下ニ布告ス、又取締三藩ニ命シテ、防火ノ事ヲ兼シメ、大洲、平戸、津和野、水口、園部、高取ノ六藩兵ヲシテ市中ヲ巡邏セシメ、水口藩兵ノ内侍所守衛ヲ罷ム。

○戸田忠至、及ヒ溝口貞直、孤、津田信弘、山三郎、後高梁幕府老中津田信弘、肥後藩主、後高梁幕府老中ヲ以テ、參與ト爲ス、忠至之ヲ辭ス。

○十津川郷兵ヲシテ建春、宜秋、清所三門ヲ守衛セシム。

○是ヨリ先、戸田忠至、宮中度支ノ事ヲ管ス、是ニ至リ、舊ニ依テ之ヲ掌ラシム、時ニ府庫匱乏、度支急ヲ告ク、忠至、乃大坂ニ赴キ、徳川慶喜ニ説テ、之ヲ供給セシム。

○純仁親王、書ヲ上リ、朝堂ノ上、上下尊卑ノ禮分ヲ正フシ、新進ノ藩士、宜ク爵位ヲ賜フヘキヲ建議ス。

○戸田氏共家臣、重臣京ニアル者ナキヲ稟シ、本日ノ召命ヲ辭ス。

○鷺尾隆聚、書ヲ徳川茂承ニ遺リ、内旨ヲ奉シ、兵士ヲ糾合シ

テ、不虞ニ備フルヲ報ス。

○舊幕府、譜第諸藩ニ令シ、城中蓄米、所謂城詰用米石高二課シテ、各藩二備ム、ナ、江戸ニ運輸セシム。此事遂ニ、果サス、

十五日、三職朝參議事ノ時限、及ヒ參與上下ノ稱ヲ定ム。

○純仁親王ヲシテ仁和寺宮ト稱シ、初メ、二御、室宮ト稱ス嘉彰ト復名セシム。復名ハ空、日ニ在リ、

○參與大原重徳ノ請ヲ允シテ、其職ヲ罷ム。

○市中取締三藩、吏員ヲ藩ヨリ召シテ、其衙ヲ開カンコトヲ稟ス、命シテ、現員ヲ以テ、速ニ事ヲ執ラシム。

○參與後藤元輝、福岡孝弟等、上下議事所、及ヒ諸制度ノ條議ヲ上ル。

○井伊直憲、藤堂高潔、疾ヲ以テ暫ク藩ニ就カント請ヒ、松平忠恕、疾ヲ以テ、上京遲延ヲ謝ス。松平忠、恕家記

○徳川慶喜、大將軍ヲ罷ムルヲ以テ、令シテ、其稱呼ヲ改ム。

○舊幕府、大河内正質、豐前守、大多喜藩主、食封二萬石、時ニ松平氏ヲ稱ス、ヲ以テ、老中格ト爲シ、永井尚志、玄蕃頭、若年寄ト爲ス。森川俊、方家記

十六日、凡ソ議定常參ヲ須ヒス、事アレハ之宣召ス。

○田宮篤輝ヲ以テ參與ト爲シ、市尹ノ事ヲ總管セシム、又牧野成憲、備前藩主、ヲ徵ス。

○松平慶永等、岩倉具視ニ就キ、徳川慶喜ノ處分、朝旨ノ在ル所ヲ領シ、以テ之ヲ慶喜ニ諭サント請フ、是日、具視、奏狀ノ擬案ヲ内付ス。

○長門藩ヲシテ、仁和寺宮、及ヒ正親町公董ノ衛兵ヲ出シ、備前藩ヲシテ烏丸光徳ノ衛兵ヲ出サシメ、安藝藩ノ仁和寺宮、及ヒ中山忠能ノ衛兵ヲ罷メ、山階宮ノ衛兵ヲ出サシム。毛利元徳、池田章政、淺野

○徳川慶喜、佛朗西、英吉利、伊太利、亞米利加、宇瀨生、荷蘭公使ヲ大坂城ニ延見シ、政體更革ノ事ヲ説キ、各國交際ノ事、仍自ラ之ニ任スルヲ以テ、益情誼ヲ固フセント請フ。

○井伊直憲ノ家臣、下野別邑附近ノ浪徒ヲ俘獲スルヲ舊幕府ニ報ス、大久保教義、出雲守○萩野山中藩主、浪士其邑ヲ剽掠スルヲ以テ、一橋門守兵ヲ罷テ、其守ヲ固フセント請フ。

十七日、加藤明實ノ泉涌寺守衛ヲ罷メ、復々内侍所ヲ衛セシム。

○徳川茂承、鷲尾隆聚、高野山ニ據ルノ狀ヲ稟ス、批シテ、其朝旨ニ出ルヲ諭ス。

○長門藩士、見兵寡少ヲ以テ、仁和寺宮、及ヒ正親町公董ノ衛兵、後軍ノ至ルヲ埃タント請フ、乃チ中川久昭修理大夫○同藩主、食封七萬四千石

ヲシテ公董ノ衛兵ヲ出サシム。毛利元徳、中川久昭家記

○長門藩士、竊ニ時務條議ヲ總裁織仁親王ニ上ル、

○鷲尾隆聚、書ヲ植村家保、及ヒ五條和、代官中村某兵衛、二遣リ、内旨ヲ奉シテ、兵士ヲ糾合スルヲ報ス。高野山出張條議、植村家保家記

○舊幕府、譜第諸藩ニ令シ、江戸私邸ノ附近ヲ巡邏シ、以テ劫盜ニ備フ。

卷十一

慶應三年丁卯十二月十八日ニ起リ二十日ニ至ル

十八日、大政復古ヲ外國ニ報スルノ擬案、及ヒ人才ヲ擧ケ革政所ヲ設クル等ノ事ヲ議ス。

○諸侯ニ申令シテ、速ニ朝集セシム。

○市中取締三藩ニ諭シ、意見アレハ、之ヲ管掌ノ參與ニ陳シ、凶徒横行制シ難キ者ハ、巡邏諸藩ノ應援ヲ請ハシム、又都下ニ告諭シテ、民情ヲ緩撫シ、公卿諸侯ノ家臣ニ令シテ、下民ノ請托ヲ受クルコト勿ラシム。

○三岡公正八郎○越前守ヲ徵士參與ト爲ス。

○再ヒ島津久光ヲ召シ、又長岡護美、良之助、後右京亮、右衛門守、桂久武、○薩摩藩主、木戸孝允、津一郎○長門藩士、土肥實匡、薩摩藩士、小原忠寬、大垣藩士、

○加賀、薩摩、土佐、岡四藩ノ兵ヲシテ市中ヲ巡邏セシメ、津和野

藩故ノ薩摩藩ヲシテ仁和寺宮ノ衛兵ヲ増シ、備前藩ヲシテ中山忠能ノ衛兵ヲ出サシム。島津忠義、池田章政家記

○松平容保、松平定敬、猶大坂ニ留リ、又兵ヲ出シテ、北上スルノ報アリ、是日、徳川慶勝、松平慶永ニ命シ、容保、定敬ヲシテ速ニ藩ニ就シム。

○井伊直憲、假ヲ賜ヒ藩ニ歸リ、老臣ヲシテ代ラシメント請フ、許サス、諭シテ、病ヲ京師ニ養ハシム、藤堂高猷ノ老臣、其子高潔ノ爲ニ、再ヒ歸藩ヲ請フ。

○巡邏六藩、其分轄區域ヲ定メ、且其措置ノ目ヲ稟ス。

○松平慶永等、再ヒ岩倉具視ト謀リ、先ツ徳川慶喜ヲシテ入觀セシメ、以テ擬案ノ事ヲ舉行セシメントス、乃チ永井尚志薩摩藩年寄、ヲシテ之ヲ慶喜ニ諭サシム、是日、尙志、田中輔、中根師質ト大坂ニ赴ク。

○細川興貫、疾ヲ以テ、上京遅延ヲ謝ス。細川興貫家記

○酒井忠悳、江戸ヨリ將ニ京ニ入ラントス、大津ニ至リ、徳川慶喜大坂ニ在リト聞キ、直チニ之ニ赴ク。酒井忠悳家記

○舊幕府老中稻葉正邦、美濃守○淺藩主、食封十萬二千石、譜代諸侯ノ江戸ニ在ル者ヲ城中ニ會シ、更革ノ朝命ヲ示シテ、各意見ヲ陳セシム、又土井利教、岡部長寛等九人ヲシテ急ニ兵ヲ率テ西上セシム、其疾ヲ

ハ、其子若クハ、旗下士勝義邦、安房守○重臣、之ニ代ル、軍艦奉行書ヲ正邦ニ贈リ、其妄動主君ノ意ニ反スルヲ諭ス。

○戸田忠行、出流山屯聚ノ浪徒ヲ殺獲スルヲ、舊幕府ニ報ス。十九日、外國報告ノ議ヲ決シ、議定ニ命シテ、明日告文ニ署名セシム。

○十時維惠攝津○柳ヲ以テ、參與トナス、十時維惠、又池田茂政、池田政詮、鍋島齊正、及ヒ小松清廉、備前守○藩主ヲ召ス。

○藤堂高猷ノ老臣、復前請ヲ申ヌ、之ヲ許ス。

○徳川慶勝、自ラ大坂ニ赴キ、會、桑二藩ヲ措置セント請フ。

○市中取締三藩、舊東町奉行所、及ヒ附屬ノ簿書什器ヲ交付セシムト請フ。

○徳川慶喜、上疏シテ、近日更革ノ事、一ニノ藩幼帝ヲ挾ミ、私意ヲ逞スルニ出ルヲ論ジ、其臣戸川安愛伊豆守○時ニシテ齋ヲシテ京ニ至ラシメ、又大ニ家門譜代諸藩ノ兵ヲ徵ス、是日、安愛、戸田忠至ニ因リ、奏狀ヲ岩倉具視ニ呈ス、松平慶永等、之ヲ聞キ、其大事ヲ敗ランコトヲ恐レ、安愛ニ説キ、歸テ慶喜ヲ諭サシメ、而シテ具視ニ就テ、其書ヲ請下シ、之ヲ中根師質ニ報ス、時ニ師質、既ニ大坂ヲ去レリ、

○毛利元蕃淡路守ノ子元功、平六及ヒ吉川經幹豐後守○食邑六萬石、後出陣謀ト爲ル、老臣宮

莊某、水、京ニ至ル、毛利元、德家記二十日、參與長谷信篤ヲ以テ、議定ト爲シ、西園寺公望ヲ參與ト爲シ、五條爲榮、柳原前光、侍從、光西四辻公業ヲ參與助役ト爲ス。

○職仁親王中務卿、ナ一品ニ敘ス。

○准后慈性入道親王大樂王院ト號ス、薨ス、十一月二日、本日ヨリ三日朝ヲ輟ム、時ニ内閣多事、議參、事ヲ輟ル常ノ如シ。

○池田茂政ノ召命ヲ止メ、加藤泰秋ニ代テ、西ノ宮ヲ守衛セシメ、中川久昭ノ請ヲ允シテ、京都市中巡邏ヲ罷ム。

○長門藩兵ノ請ヲ允シテ、仁和寺宮守衛ノ命ヲ止メ、有栖川宮ノ衛兵ヲ増サシメ、指華人、尾張藩兵ノ仁和寺宮守衛ヲ罷ム。德川義宣家記

○淺野茂勳、松平慶永、上書シテ外國告文ノ異見ヲ陳シ、德川慶勝、署印ヲ辭シ、山内豊信モ亦別ニ所見アルヲ以テ、之ヲ辭ス、是ニ於テ、姑ク其事ヲ止ム。

○池田德澄、修理、因幡藩支封主、後應永親王、爲建部政世、京ニ至ル。建部探家記

卷十二 慶應三年丁卯十二月二十一日ニ起リ二十三日ニ至ル

二十一日、熾仁親王、伯父慈性親王ノ喪ニ居ル、特命シテ、除服朝參セシム。

勿ラシム。

○荒川良知其作、尾ヲ以テ、參與ト爲ス。德川義宣家記

○德川慶勝ノ請ヲ許シ、自ラ大坂ニ赴キ、期ヲ刻シテ、其功ヲ奏セシム、慶勝、其期ヲ緩センコトヲ請フ。

○山内豊信、上書シテ、外國ノ報告ハ、列侯會議ノ後ニ付シ、姑ク德川慶喜ヲシテ還政ノ事ヲ報セシメンコトヲ建議ス。

二十三日、林某左門、尾ヲ以テ、參與ト爲シ、參與三岡公正、及ヒ某ヲシテ、會計ノ事ヲ管督セシム。

○堀親義左衛門尉、飯田藩主、ヲシテ般舟院ヲ守衛シ、永井直諒ニ、火元見役ヲ兼シム。

○鍋島茂實、松平定安ノ家臣、明春京都警衛ノ事ヲ稟問ス、是日、批シテ、仍ホ前命ニ從ハシム。

○京都市中取締三藩、防火ノ事、舊町奉行ノ例ニ因リ、専ラ巡視ヲ主トセンコトヲ稟請ス。

○井伊直憲、疾ヲカメテ、京師ニ留リ、王事ニ服セント請フ。

○牧野忠訓、駿河守、長岡藩主、食封七萬四千石、京ニ至ル、二十日、是日、上書シテ、時事ヲ論シ、再ヒ政權ヲ德川氏ニ委セント請フ、省セス。

○德川慶喜、戸川安愛ノ歸報ヲ得、永井尙志ヲシテ先ツ京ニ至ラシム、尙志、松平慶永、山内豊信等ト、慶喜入觀ノ事ヲ謀ル、

○長谷信成ヲ以テ、參與助役ト爲ス。長谷信成、履歷書

○永井直諒、及ヒ高松藩兵ニ命シ、孝明天皇ノ小祥忌祭ニ、泉涌寺般舟院ヲ守衛セシム、又直諒ヲシテ京都防火ノ事ヲ掌ラシム。

○舊幕府兵、新選組及ヒ、歩兵千餘人、猶伏見ニ在リ、會、桑二藩兵モ亦稍々北上ス、乃チ田宮篤輝ニ命シテ、伏見取締ヲ兼ネ、薩、藝、長、土四藩兵ヲシテ巡邏警備セシム、既ニシテ、藝、土二藩之ヲ辭ス。

○植村家保ノ請ヲ允シテ、傳法川守衛ヲ罷メ、其兵ヲ京師ニ召ス。

○池田德澄ノ上京ヲ嘉獎シ、宗家ト協同從事セシム。

○是ヨリ先、大野藩兵嵯峨關門ヲ守ル、慶應元年、關門、原長防ノ爲ニ設ク、是ニ至リ、去就ヲ稟請ス、令シテ、其戍ヲ撤ス。

○德川慶勝、松平慶永、既ニ德川慶喜ノ奏狀ヲ請下ス、乃チ田中輔、中根師質ヲシテ、再ヒ大坂ニ赴カシム。

○德川茂承、將ニ京ニ至ラントス、疾ヲ以テ大坂ニ留リ、荏苒日ヲ彌ル、乃チ姑ク藩ニ就テ疾ヲ養ハント請フ、是日、之ヲ許ス。

二十二日、萬機ヲ親裁シ、博ク公議ヲ採リ、舊幕府ノ善政良法ハ、舊ニ仍テ變更セサルヲ告諭シ、直言讜議シテ、忌憚スル所

慶永等、公然朝命ヲ奉シテ、大坂ニ趣キ、先ツ辭官納地ノ事ヲ決シ、後ニ入觀ヲ議セントス、是日、慶永、德川慶勝ト同ク朝名ノ擬案ヲ上ル、廷議、領地返上ノ文字ヲ用ヒント欲ス、慶永等、之ヲ爭ヒ、辨論數回、明ニ至テ決セス。

○伊達宗城、京ニ至ル。伊達宗城、德家記

○舊幕府老中稻葉正邦等、譜第藩士ヲ江戸城ニ召シ、德川慶喜ノ奏狀ヲ示シ、各兵ヲ率キテ西上セシム、是日、江戸城ニノ丸火アリ。

卷十三 慶應三年丁卯十二月二十四日ニ起リ二十六日ニ至ル

二十四日、廷議、遂ニ領地返上ノ文ヲ用フルヲ止メ、辭官納地ノ命ヲ下シ、德川慶勝、松平慶永ヲシテ、之ヲ德川慶喜ニ傳ヘシム。

○人道尊秀親王ニ命シ、日ニ朝堂ニ入テ、機務ヲ習ハシム。

○毛利敬親大膳、ヲ召ス。

○小笠原長守左衛門佐、越前藩山藩主、食封二萬二千七百七十七石、ノ家臣、竹田街道守衛ハ、幕府ノ命ニ係ルヲ以テ、其撤否ヲ稟請ス、是日、命シテ、之ヲ撤シ、後命ヲ待シム。

○山内豊信、書ヲ上リ、政府ノ經費、宜ク之ヲ列藩ニ課スヘキ

ヲ建議ス。

○德川慶勝、上表シテ、職ヲ辭ス、允サス。

○戸田氏共、復々上京延期ヲ請フ。

○鷲尾隆聚、再ヒ書ヲ五條代官中村某ニ與ヘ、其報答遲緩ヲ責ム、某答書シテ、其由ヲ陳謝ス。

二十五日、萬機親裁、公議博探ノ諭旨ヲ、三條橋ニ揭示ス。

○毛利廣封、守、長門毛利元周、在京毛利元純讀成ヲ召ス。

○是ヨリ先、浪士相、野二國ノ間ニ出沒ス、魁首相良武振、時三、島四郎ト稱ス、舊幕府麾下酒井金之丞ノ臣、其黨百五十許人ト江戸薩摩藩邸ニ在リ、是日、舊幕府、莊内、松山羽出、二藩兵ニ令シテ、之ヲ捕ヘ、陸軍及ヒ前橋

西尾、上ノ山等ノ藩兵ヲシテ應援セシム、邸吏拒テ納レズ、遂ニ火ヲ放チテ、之ヲ挾撃シ、支封佐土原藩邸ニ及フ、殺傷捕獲百餘人、武振等遁レテ上國ニ走ル、是夜、諸郭ヲ鎖シ、令シテ餘黨ヲ捕ヘシム。

○舊幕府、若年寄秋月種樹ノ請ヲ許シテ、其職ヲ罷ム。秋月種樹、慶應二年七月七日、藩

二十六日、再ヒ池田慶徳、京極高厚ヲ召ス。

○九條道孝ノ邸ヲ以テ、假ニ太政官代ト爲サントス、三岡公正ヲシテ其事ヲ管セシム。

○井伊直憲ノ請ヲ嘉獎シ、四塚關門ヲ守衛セシム。

壬生基修前修理權大夫、筑前ヨリ至リ入朝恩ヲ謝ス、三條實美等五家家記乃チ實美ヲ以テ議定ト爲シ、通禧ヲ參與ト爲ス。實美、通禧兩家記

○熊野三山社家ニ命シテ、檢校宮聖護院宮ノ管理ニ屬シ、且ツ其遺俗ヲ許ス。

○建部政世、歸藩ノ請ヲ聽ス。建部撥家記、明年正月七日、藩

○松平慶倫、書ヲ上リ、太政更始ノ際、親裁空名ニ屬シ、政令多門ニ出テ、德川慶喜政權奉還ノ本意ヲ失ハサランコトヲ陳ス。

二十八日、伊達宗城ヲ以テ、議定トス。

○池田茂政ニ令シテ、速ニ西宮守兵ヲ出サシム。

○牧野忠訓、大坂ニ赴ク、牧野忠久松定法、内膳正、今治藩主、食封三萬石、時、松平氏ヲ稱ス、疾ヲ以テ、老臣ヲシテ京ニ至ラシム。久松定弘家記

○德川慶勝、松平慶永、大阪ニ赴キ、命ヲ德川慶喜ニ傳フ、二十六日、在是日、慶喜、奉命書ヲ二人ニ致シ、且政府ノ經費ハ、之ヲ全國ニ課スルニ非レハ、以テ部下ノ心ヲ鎮輯スヘカラサルヲ陳ス。

○舊幕府、保科正益、戸田氏良ヲシテ、品川驛關門ヲ守ラシム、保科正益家記又關門ヲ江戸諸口ニ置キ、出入ヲ檢シテ、印票ヲ付シ、各地ノ關守ニ令シテ、印票ナキ者ノ經過ヲ禁ス。

○松平容保ノ子喜徳、若狭上國ノ報ヲ聞キ、書ヲ上杉齊憲ニ致シテ、其協同救援ヲ請フ、其老臣モ亦藩内士民ニ檄シ、太政更

復古記 慶應三年十二月

○本願寺光澤ニ諭シ、門徒ヲ倡率シテ、力ヲ王事ニ致サシム。

○初メ三輪田元綱和州八幡社、伊豫松山、等六人、足利氏ノ木像ヲ梟首セシ罪ヲ以テ、各藩ニ禁錮ス。文久癸亥、是日、之ヲ宥ス。

○長門藩、文武館ヲ借り、以テ屯營ト爲サントヲ請フ、之ヲ許ス。

○堀親義、大坂ニ赴キ、德川慶喜ニ面センコトヲ請フ、許サス。

○伊達廣邦、細川慶順等、十一人ノ老臣、連署書ヲ上リ、復古ノ際、情勢ヲ察シ、緩急ヲ量リ、德川氏ヲ處スル、務メテ其部下ヲ鎮輯センコトヲ請フ。

○毛利元功、平六郎、元藩ノ子及ヒ吉川經幹老臣宮莊某、水、主參朝シ、毛利敬親父子、及ヒ支封主官位復舊ノ恩ヲ謝ス。毛利元功、吉川經幹家記

○舊幕府、榊原政敬ヲシテ前田利同、南部信順、本多忠紀ト共ニ、東叡山ヲ警守セシム。榊原政敬家記

卷十四

慶應三年丁卯十二月二十七日

二十七日、天皇建春門ニ御シ、薩、藝、長、土四藩兵ノ操練ヲ覽ル。

○參與岩倉具視ヲ以テ議定ト爲ス。岩倉具視、前中納言

○三條實美、前中納言三條西季知、前中納言東久世通禧、前少將四條隆謨、前侍從

革ハ奸邪ノ矯勅ニ出ツ、其或ハ兵ヲ我ニ加フルコトアラハ、宜ク一心同力、誓テ奸邪ヲ翦滅スヘキヲ諭ス。

二十九日、市中取締三藩ニ命シ、伏見ヲ兼管セシム、三藩事務繁劇ナルヲ以テ、之ヲ別藩ニ命センコトヲ請フ、聽サス。

○戸田氏共ノ家臣、藩士小原忠寛奉命遲緩ノ故ヲ稟謝ス。

○植村家保、病ヲ謝シ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。植村家保家記

○佛朗西國公使レオンロツシユ、書ヲ舊幕府ニ致シ、西班牙國條約未ノ商舶、橫濱港ニ來ルモノハ、其國船ト同視センコトヲ請フ、是日、幕府、之ヲ許ス。

晦日、天皇服除ス、是日、被服ノ儀ヲ行フ。公卿補任

○百官及ヒ在京諸侯ニ令シ、明年新正ニ參賀セシム。

○本願寺光澤、書ヲ上リ、奉上ノ意ヲ陳シ、且ツ即位ノ資ヲ獻セント請ヒ、東本願寺光勝モ亦奉上他ナキヲ陳シ、興福寺ノ僧侶、米千ヲ獻シ、且ツ王事ニ從ハント請フ、是日、光澤上言ノ意ヲ嘉獎シ、興福寺獻米ノ請ヲ許ス。

○德川慶勝、松平慶永、大阪ヨリ至リ、德川慶喜ニ代テ、奉命書ヲ上ル。

○永井直諒ノ家臣、本日以後消防ノ役ニ服スルヲ稟シ、且其條款ヲ申請ス。

復古記 慶應三年十二月

○藤堂高邦、暫ク藩ニ就カント請フ、是日、之ヲ聽ス、是夜遂ニ上ル片桐貞篤、老臣ヲシテ代テ京ニ抵ラシム。片桐貞篤家記

○都下ノ豪商二井某等四人、金ヲ獻スル差アリ。三井三郎助、島田八野善助、小野善右衛門、二名千両、京都府記

○江戸藩摩、藩邸襲撃ノ事漸ク傳播ス、是夜、舊幕府、及ヒ薩摩藩ニ内諭シテ、爲ニ釁隙ヲ開クコト勿ラシム。

○舊幕府、酒井忠悖ヲ以テ、加判上坐ト爲ス、酒井忠悖、邦家記又岡田忠養、安房守、舊幕府旗下士ヲシテ下總國布佐村陣屋ニ居リ、上總、下總、安房、常陸四國ノ事務ヲ管セシム。

是月、密旨ヲ親子内親王、靜寬院宮、前大將ニ傳ヘテ、其西上ヲ促ス。

○蜂須賀齊裕ニ命シ、老臣稻田邦植、九郎、其家臣三田某、其、内藤某、藩兵、林兼善、之ヲ召ス。

○松平定安、池田政詮、疾ヲ以テ、上京遲緩ヲ稟ス。松平定安、池田政詮家記

卷十五

明治元年正月元日
ニ起リ三日ニ至ル

戊辰明治元年 慶應四年〇九
月八日改元

○正月

元日、四方拜百官朝賀ス、是日、天皇不豫、臨ムヲ果サス、且今年三節會馬踏歌、ヲ停ム。

○德大寺實則、中納言、公純ノ子、久我通久、壬生基修、四條隆謨、及ヒ廣澤眞臣、助、兵、開多、眞臣、兼、長門藩士、小原忠寛ヲ以テ、參與ト爲シ、穗波經度、坊城俊章、侍從、之、俊ヲ參與助役ト爲ス。

○令シテ、江戸薩摩藩邸ノ事ヲ以テ、妄ニ擾動ヲ生スルコト勿ラシム。

○參與職ヲシテ、熊野三山ノ社家ヲ管セシム。

○山内豊信、上書シテ、會、桑二藩歸國ノ前後ヲ問ハス、宜ク速ニ徳川慶喜ヲ召シテ、國是ノ基本ヲ定ムヘキヲ建議ス。

○市中取締三藩、篠山藩兵ヲ伏見ニ派遣スルヲ稟ス。

○四塚關ノ守兵、西大路、講兵、會、桑二藩兵經過ノ許否ヲ稟ス、命シテ之ヲ停メシム。

○阿波藩ノ老臣稻田邦植ニ命シテ、其邑、淡路、洲本ヲ嚴守シ、且兵ヲ出シテ、西ノ宮ノ衛兵ニ應援セシメ、又家臣ノ譴責ヲ受ケシ者ヲ釋サシム。

○織田信親、加藤泰令、出雲守、新谷藩主、食封一萬石ヲシテ、萬里小路博房、五條爲榮ノ衛兵ヲ出サシム。織田信親、加藤泰令家記

○細川喜廷、右京大夫、慶應ノ子、京ニ至ル、細川護國、織田信親、兵ヲ卒キテ塚原ヨリ京ニ入ル。織田信親、親家記

○中根師質、岩倉具視ニ就テ、徳川慶喜入京ノ日、參朝、任職等

○池田政禮ニ命シ、兵ヲ出シテ、伏見ヲ巡撫セシム。

○酒井忠氏、將ニ江戸ヨリ京ニ入ラントス、徳川慶喜大阪ニ在ルヲ以テ、直ニ之ニ赴クヲ稟ス。又本莊宗武、將ニ八幡城、山、守衛ノ任ニ赴カントス、途ニシテ疾ニ罹リ、是日、復々江戸ニ歸ル。本莊宗武家記

○舊幕府、大久保忠禮、水野忠敬、太田資美、本多正訥、伊守、田中萬石、後長、尾二移、ニ令シテ、江戸薩摩藩邸逋逃者ノ駿、相間ニ赴ク者ヲ緝捕セシム。

二日、假ニ議事ヲ九條道孝ノ邸ニ開キ、時ニ宮中神事アリ、總裁、仁親王、喪期未タ終ラサルヲ以テ之ヲ避ケ、リ、徳川慶喜ヲシテ召命ヲ各國公使ニ傳ヘシメ、及ヒ慶喜ニ内諭シ、先ツ松平容保、松平定敬ヲ罷歸シテ、後ニ入覲セシムル等ノ事ヲ議ス。

○戸田氏共、其藩士小原忠寛ヲシテ召命ニ赴カシムルヲ稟ス。

○池田德定、京極高典、京ニ至ル。池田德定、京極高典家記

○是夜、徳川慶喜、兵ヲ發シテ北上セシムルノ報アリ、徳川慶勝、松平慶永、山内豊信、伊達宗城等、竊ニ之ヲ鎖輯センコトヲ謀ル。

三日、天皇將ニ首服ヲ加ヘントス、奉幣使、藤波教忠、河越種弘ヲ伊勢神宮ニ遣シテ之ヲ告ク。

ノ目ヲ稟請ス。

○徳川慶喜、既ニ徳川慶勝、松平慶永ヲシテ、奉命書ヲ上ラシム、適江戸薩摩藩邸襲撃ノ報ヲ得タリ、是ニ於テ、討薩表及ヒ薩人ノ罪狀ヲ艸シ、瀧川具知、播磨守、大目付ヲ遣シテ之ヲ奏シ、又之ヲ諸藩ニ示シテ、大ニ其兵ヲ徵集ス。具知、遠ニ京ニ入ルヲ果サス、退テ從城ニ上ル事、五日、慶喜、又兵士ヲ部署シ、會津、桑名二藩兵ヲ以テ、先鋒ト爲シ、召命ニ赴クト稱シテ、伏見、鳥羽道ニ向フ、大河内正質、豐前守、大田喜壽主、食封二萬石、時ニ松平氏ヲ稱ス、○老中格、鳥羽ノ兵ヲ統ヘ、竹中重固、丹後守、伏見ノ兵ヲ統フ、重固、伏見ニ抵リ、書ヲ薩營ニ贈テ、將ニ京ニ入ラントスルヲ告ク、答書シテ朝命ヲ俟シム、鳥羽ノ守兵モ亦、其朝命ナキヲ以テ之ヲ止ム。

○阪兵、北上ノ事聞ス、午牌、俄ニ百官ヲ朝集シ、姑ク慶喜ノ入京ヲ停メ、參與四條隆謨ヲ伏見ニ遣シ、阪兵ニ命シテ退歸セシメ、遠ニ行ヲ果サス、又徳川慶勝、松平慶永ヲシテ之ヲ措置セシメ、薩、長、土三藩ニ令シテ、伏見ノ守ヲ嚴ニシ、安藝藩兵ヲシテ急ニ伏見ニ赴キ、阿波、彦根、平戸、大洲、大村、佐土原ノ六藩兵ヲシテ大津ニ赴カシメ、平戸、大洲ノ京都巡邏ヲ罷ム。

○日晡、阪兵、益進テ鳥羽、伏見ニ迫ル、薩、長二藩兵、邀テ之ヲ擊ツ、是ニ於テ、京師戒嚴ス、酉牌後、令シテ、神事ヲ解キ、且内

命ヲ宮中ニ傳ヘテ、密ニ乘輿ヲ遷スノ備ヲ爲ス、又徳川慶勝、松平慶永、伊達宗城ニ命シテ、禁闕ヲ守衛シ、水戸藩兵ニ泉涌寺ヲ守リ、宇和島、高鍋、高取三藩ノ兵ニ諸門ヲ守リ、池田政禮ノ兵ニ岡藩兵ト共ニ猿ヶ辻ヲ守リ、井伊直憲ニ兵ヲ率キテ急ニ大津ニ赴キ、因幡藩兵及ヒ其支藩兵ニ伏見ニ赴キ、毛利敬親中ノ鷲尾隆聚ニ大阪ヲ攻撃セシメ、錦旗ヲ隆聚ニ賜ヒ、因幡備前二藩ヲシテ征討兵ヲ備ヘ、且備前藩ニ西宮ヲ嚴守シ、徳川茂承ニ官軍ヲ叫合セシム、又藤堂高猷、稻葉正邦ヲ諭シテ、方
向ヲ誤ルコト勿ラシム。

○夜半、議定嘉彰親王ヲ以テ、軍事總裁ヲ兼ネ、議定伊達宗城、參與東久世通禧、烏丸光徳ニ軍事參謀ヲ兼ネシム、又參與橋本實梁、參與助役柳原前光ヲシテ大津口ノ兵ヲ督シ、參與西園寺公望ヲシテ丹波口ノ兵ヲ督セシム。
○徳川慶勝、松平慶永、調停至ラサルヲ以テ、其職ヲ解カント請フ。
○本願寺光威光澤ノ子、東本願寺光勝、門徒ヲ率キテ參朝シ、光勝、金剛ヲ獻ス、光威ニ命シテ、九門内外巡邏及ヒ猿ヶ辻警守ヲ爲シム、松平頼聰家臣ノ京ニ在ル者モ、亦見兵ヲ以テ事ニ從ハント請フ。

○是日、慶喜、書ヲ大阪在留各國公使ニ致シ、薩摩藩ト交兵ノ由ヲ陳シ、其民人ヲシテ條約ヲ確守セシメ、軍艦兵器ヲ私賣シ及ヒ未開港場ニ至ルヲ禁ス。
○昨夜、舊幕府ノ軍艦、薩艦ヲ神戸海及ヒ土佐洋ニ砲射ス、是夜幕兵、又其大阪藩邸ヲ襲ハントス、藩人、邸ヲ焚テ遁ル。

卷十六

明治元年戊辰正月四日ニ起リ六日ニ至ル

四日、軍事總裁嘉彰親王ヲ拜シテ、征討大將軍ト爲シ、議定、故錦旗節刀ヲ賜ヒ、參與四條隆謨、參與助役五條爲榮ヲ以テ、錦旗奉行ト爲シ、參與及ヒ助役、薩、藝、長三藩兵ヲシテ之ニ從ハシム、參謀伊達宗城、征討ノ事、宜ク列藩ノ公議ヲ盡スヘキヲ論ス、淺野茂助、山内豐信モ亦、其議ヲ助ク、廷議省セス、午後、大將軍出テ東寺ニ次ス、宗城從ハス、大將軍、矢守平好、對馬守仁和中寺宮護大夫沼之舜、了三ノ學高崎正風左京士ヲ以テ、下參謀ト爲ス。
○參與西園寺公望ヲ以テ、山陰道鎮撫總督ト爲シ、參與故ノ如シ○西園寺公望家記薩、長二藩兵ヲ以テ之ニ屬シ、本道ノ諸藩ニ令シテ、其指揮ヲ受ケシム、又丹波、丹後、但馬ノ諸侯ニ諭シテ、王事ヲ勤メシム。
○三職以下、徹夜事ヲ乘ル、是日、命シテ退休セシム。
○藩摩藩兵ニ命シテ、黒谷ノ會津藩邸ヲ伐シム。

○池田政禮ノ伏見巡撫ヲ罷メテ、専ラ猿ヶ辻ヲ守衛シ、因幡、森、柏原三藩ヲシテ正親町三條實愛、徳大寺實則、穂波經度、東久世通禧ノ衛兵ヲ出サシム。久留島通禧續田信親家記
○本田康稷、其邑東國ノ要衝ニ當ルヲ以テ、歸テ守備ヲ修セント請フ、之ヲ聽ス、又平戸、大洲二藩ノ請ヲ允シ、大津警備ヲ罷メ、再ヒ京師ヲ巡邏セシメ、備前藩兵ヲシテ大津ニ赴カシム。
○本願寺光澤金三ノ子ヲ獻ス、書ヲ下シテ之ヲ賞ス。
○篠山藩、伏見兵火ノ狀ヲ上報ス。
○九鬼隆備、疾アリ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。九鬼隆備隆家記
○官軍、伏見、鳥羽ノ賊ヲ撃テ、之ヲ卻ク。擊下日載
○舊幕府老中、江戸傍近ノ諸藩ニ令シテ、薩人ニ備ヘ、又諸關ノ守ヲ嚴ニセシム。
五日、參與橋本實梁ヲ以テ、東海道鎮撫總督ト爲シ、參與助役柳原前光ヲ副總督ト爲ス、二人、參與助役故ノ如シ是日、二人、山陰道鎮撫總督西園寺公望ト皆京師ヲ發ス。慶應實受手記
○徳川慶勝ニ命シテ、二條城ヲ收管シ、城中ノ殘兵ヲ大坂ニ押送セシム。
○四條隆平ヲ山崎ニ遣シ、守關ノ津藩兵ニ命シテ、官軍ニ應セシメ、多度津藩ヲシテ其衛兵ヲ出サシム。京橋壽吉家記

○諸藩ニ令シテ、京阪見兵ノ數ヲ録上セシム。
○九門守衛諸藩ニ命シテ、譏察ヲ嚴ニセシム。因幡藩、九門警守ノ事ヲ上申ス。
○池田慶徳ニ命シ、山陰道鎮撫使ノ令ヲ奉シテ、本道不庭ノ諸藩ヲ討セシメ、安藝、長門二藩兵ノ尾道後備ニアルモノヲ京師ニ召ス。
○肥後藩兵ニ命シテ、大津ニ赴カシメ、池田政禮ノ猿ヶ辻守衛ヲ罷メ、亦兵ヲ大津ニ出サシム、又堀親義ニ伏見取締ヲ命ス、親義、辭スルニ般舟院ノ守衛ヲ以テス、之ヲ許ス。
○秋月種殷ニ命シ、其子種樹ヲシテ速ニ上京セシメ、又、大原重徳ノ衛兵ヲ出サシム。秋月種殷後家記
○酒井忠氏ヲシテ、其京邸ヲ上ラシム。
○興正寺攝信ニ命シ、門徒ヲ率キテ、大津ニ抵リ、東海道鎮撫總督ニ從ハシム。
○薩、長二藩兵ノ戰功ヲ賞ス。
○東本願寺光勝、徳川氏ノ猶子タリ、而シテ其家臣、慶喜ニ投スルモノアリ、其貳アルヲ疑フヤ、是日、晃親王ヲシテ往テ之ヲ糾サシム、光勝及ヒ其子光瑩、誓書ヲ上ル。
○議定伊達宗城、軍事參謀ヲ辭ス、之ヲ大將軍ニ請ハシム。

○小出英尙、其邑園部ニ城カント請フ。
 ○鳥羽、伏見ノ官軍、大ニ賊ヲ敗リ、進テ淀ヲ攻ム、賊兵、大橋ヲ火シ、退テ八幡ニ據ル。翌日
 ○瀧川具知ノ討薩表ヲ齎シテ鳥羽ニ至ルヤ、入ルヲ果サス、具知、退テ淀城ニ留リ、戸田忠至ニ因テ之ヲ上ル、是日、徳川慶喜、書ヲ徳川慶勝、松平慶永等ニ致シ、其禁闕ヲ守衛センコトヲ請フ、又近日ノ事情ヲ諸藩ニ陳辨ス。
 ○舊幕府老中、令シテ、諸船舶ノ品川港ニ入ル者ヲ檢シ、其搭客ヲ譏察ス。
 六日、木梨恒準精一郎ヲ以テ、東海道鎮撫總督參謀ト爲ス。
 ○公卿ノ涅齒點眉、古制ニ非ルヲ以テ、必シモ依違セサルヲ令ス。
 ○申牌後ヨリ翌卯牌後ニ至ルマテ、九門ヲ鎖シ、出入印票ヲ以テセシメ、又越前藩兵ヲシテ、諸家下立實寺町ノ竇門ヲ守ラシム。
 ○櫻井忠興、永井直諒ニ命シテ、城守ヲ嚴ニシ、織田信親ヲシテ、白川越飯味ヲ警守セシム、又長、備ニ藩兵ヲ召スヲ以テ、忠興ニ命シテ、其封内經過、及ヒ糧食運搬等ノ便ヲ與ヘシム。
 ○篠山藩兵ノ伏見取締ヲ罷メ、多度津藩兵ヲ以テ、之ニ代フ。

○東本願寺光勝ニ命シテ、大津ニ至リ、官軍ノ糧食ヲ措辦シ、且ツ東國ノ門徒ヲ勸勵セシム、又興福寺ノ僧侶ニ命シ、伊賀一路東兵ノ狀ヲ諜セシム。
 ○加茂兩社司ニ命シ、日ニ管地ノ壯丁五十八ヲ出シテ、薩摩藩兵ノ使役ニ充シム。
 ○初メ岡崎藩兵、伏見橋後ヲ成ス、戰後、其之ク所ヲ知ラス、是日、藩臣ノ京ニ在ル者、別ニ兵ヲ藩ヨリ徵サント請ヒ、久松定法ノ老臣、兵備ヲ缺キ、王事ニ從フコト能ハサルヲ以テ、之ヲ定法ニ歸報セント請フ、竝ニ命シテ、兵ヲ京師ニ出サシム。
 ○九鬼隆備、病アルヲ以テ、先ツ兵ヲ京師ニ出シ、福岡藩臣ノ京ニ在ル者、見兵ヲ以テ守備ニ服セント請フ。
 ○官軍、進テ八幡ヲ攻ム、津藩ノ山崎衛兵、官軍ニ應シ、橋本津藩兵之ヲ橫撃ス、賊兵大ニ敗ル、官軍、尾撃シテ楠葉ニ至ル、翌日奏センコトヲ請フ、滋野井公壽モ亦出奔ス、會相樂武振等、江戸ヨリ來リ、都下ノ薩邸ニアリ、俊實等ノ舉ヲ聞キ、追テ之ニ

從フ。

○徳川慶喜、書ヲ各國公使ニ遺リ、其兵利アラス、敵軍來襲ノ勢アルヲ以テ、各其國旗ヲ保守センコトヲ陳ス、是日、舊幕府老中、大河内輝照右京亮、高崎藩主、水野忠弘ヲシテ、品川港砲臺ノ守ヲ嚴ニセシム。
 ○是夜、徳川慶喜、汽船ニ駕シテ、大坂城ヲ去ル、松平容保、松平定敬、板倉勝靜、酒井忠悖等、之ニ從フ、慶喜去ルニ臨テ、東歸ノ故ヲ布告シ、翌日、諸藩兵ヲ遣歸ス、老中格大河内正質、大坂城代牧野貞直、越中守、空閑藩主、及ヒ大河内信古、牧野忠訓等、皆江戸ニ走ル、松平忠誠ハ紀伊ニ赴キ、久松定昭、酒井忠氏ハ藩ニ歸ル。

卷十七

明治元年戊辰正月七日ニ起リ九日ニ至ル

七日、百官諸侯ヲ會シテ、徳川慶喜ノ反狀ヲ告示シ、征討ノ令ヲ發シ、諸侯ヲシテ其去就ヲ決セシム。
 ○入道雄仁、豐後尊秀ニ親王ニ命シテ、著髮セシメ、尊秀親王ノ徳川氏猶子ヲ停ム。
 ○因幡藩及ヒ支藩兵ノ伏見守衛ヲ罷テ、八幡、橋本ヲ警守シ、勝山越前藩兵ヲシテ、闇嶺大和河内ヲ警守シ、永井直諒ノ請ヲ許シ

復古記 明治元年正月

テ、洞嶺河内守衛ヲ撤シテ、本城ノ守備ニ充テシム。
 ○薩摩、筑前、因幡、彦根四藩兵ヲシテ寺町門、下立竇門以北諸家ノ竇門ヲ守ラシム、島津忠義又筑前藩ヲシテ四條隆訶ノ衛兵ヲ出サシム。
 ○鷲尾隆聚ニ内諭シ、姑ク阪城攻撃ヲ止メ、先ツ大和ヲ鎮撫セシム。
 ○出雲藩京都警衛兵、將ニ丹波若クハ宇治ヨリ京ニ入ラントス、是日、山陰道鎮撫總督及ヒ久居藩宇治ノ守兵ニ諭シテ、其經過ヲ妨クルコト勿ラシム。
 ○加藤泰令、京ニ至ル。加藤泰令家記
 ○大將軍、進テ淀城ニ入ル。東伏見宮家記
 ○鷲尾隆聚、五條大和代官所ヲ收メ、六日ニアリ高、是日、傍近ノ諸藩ニ檄シテ、王事ニ勤メシム。
 八日、雄仁親王、一品ヲ辭ス、之ヲ聽シ、舊ニ仍テ聖護院宮ト稱シ、其附弟入道信仁親王奉ヲシテ照高院宮ト稱セシム、是日、雄仁親王名ヲ嘉言ニ復ス。
 ○征討ノ令ヲ發スルヲ以テ、錦旗章ニ旒ヲ建禮門ニ樹テ、水口藩兵ヲシテ之ヲ守ラシム、翌日、又之ヲ建春、宜秋二門ニ樹テ、宇和島藩兵ニ宜秋門ヲ守リ、水口藩ニ建春門ヲ守ラシメ、新谷

藩兵ヲ以テ、建禮門ノ守兵ニ代フ。

○高松、小濱、松山、伊大垣、鳥羽、宮津、延岡七藩ノ兵、賊軍ニ從フヲ以テ、其人ノ九門ニ出入スルヲ禁ス。

○筑前藩兵ヲシテ石藥師、清和院二門ノ間ヲ警守シ、長門藩兵ニ蛤、下立賣二門ノ間ヲ警守セシム、長門藩、見兵ナキヲ以テ之ヲ辭ス。黒田長知家記

○岡部長寛ノ老臣、藩兵ヲ京師ニ徵サント請フ、命シテ之ヲ徵サシム。

○松平頼聰ノ家臣京ニ在ル者、書ヲ上リ伏見ノ事、頼聰ノ與リ知ル所ニ非サルヲ辨シ、頼聰ヲシテ上京セシメンコトヲ請フ、乃チ姑ク收邸ノ令ヲ停メ、頼聰ヲシテ自ラ其罪ヲ乞ハシム。

○徳川慶勝、其隣近諸藩ノ方嚮ヲ問ハント請フ、之ヲ可ス。

○參與小原忠寛、大垣ニ赴キ、藩主戸田氏共ニ説テ、自効セシメント請フ、之ヲ聽ス。

○徳川慶喜ノ東走スルヤ、其臣妻木頼矩多喜ヲ留テ、奏狀及坂城ヲ徳川慶勝、松平慶永ニ託ス、是日、二人其奏狀ヲ上ル。

○戸田氏共ノ家臣、氏共伏見ノ變ヲ聞キ、將ニ兵ヲ出シテ京師ノ守衛ニ供セントス、守關兵ニ扼セラレ入ルコト能ハスシテ、藩ニ歸ルヲ稟シ、後命ヲ請フ。

○長門藩、彈藥缺乏スルヲ以テ、小濱藩邸貯フル所ノモノヲ借ラント請フ。

○松浦詮、永井直諒、京ニ至ル、直諒家記松平慶憲、病ヲ以テ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシムルヲ稟ス、松平直出雲藩ノ警衛兵、京ニ至ル。安家記

○大將軍、八幡ニ至リ、東伏見勅旨ヲ薩、藝、長、因、津五藩及池田徳澄、池田徳定ノ兵ニ傳へ、戰勞ヲ犒フ、又伊達宗城ノ請ヲ許シ、其軍事參謀ヲ罷ム。

九日、議定三條實美、岩倉具視ヲ以テ、副總裁ト爲シ、如シ嘉言親王、參與徳大寺實則ヲ議定ト爲シ、征討大將軍嘉彰親王ヲ以テ、外國事務總裁ヲ兼ネ、實美及ヒ參與東久世通禧、岩下方平、後藤元輝ヲ以テ、外國事務取調掛ヲ兼シム、又徳川慶勝、松平慶永、辭官ノ請ヲ聽サス、伊達宗城ト並ニ議定ト爲ス、是日、嘉言親王ノ園城寺長吏ヲ罷メテ、別當ト爲ス。

○大將軍嘉彰親王ニ命シ、坂城ヲ以テ牙營ト爲シ、四方ヲ指揮セシメ、徳川慶勝、松平慶永ヲシテ坂城ヲ點檢シ、大將軍ヲ迎ヘシム、又東海道鎮撫總督橋本實梁ニ命シ、隣近ノ諸藩ヲ糾合シ、進テ桑名ヲ討セシム。

○高倉永祐ヲ以テ、北陸道鎮撫總督ト爲シ、四條隆平之ニ副ス、メテ、急ニ西上ノ備ヲ爲シム。

十八卷

明治元年戊辰正月十日
ニ起リ十一日ニ至ル

十日、聖護院宮ニ令シ、其修驗道ニ關スル者ハ、管領宮ト稱セシム、又知恩院宮ヲ改テ、華頂宮ト稱ス。

○徳川慶喜、松平容保、久松定昭、松平頼聰、松平定敬、板倉勝靜、大河内正質、及ヒ舊幕府屬僚永井尚志以下二十人ノ官位ヲ褫キ、容保以下六人ノ邸地ヲ没シ、酒井忠氏、戸田氏共、本莊宗武、内藤政學、備後守稻垣長行ノ入京ヲ禁ス。

○參與正親町公董ヲ大阪ニ遣シ、大政復古ヲ外國ニ報スルノ國書ヲ東久世通禧ニ付シ、通禧ヲシテ其事ヲ掌ラシム。

○楫取素彦長門ヲ以テ、參與ト爲シ、岩倉具綱ヲ參與助役ト爲ス。

○徳川慶喜征討ノ令、所謂制札、及ヒ舊幕府領地ヲ以テ直管ト爲スノ布告書所謂二條、荒神口一橋ニ掲ケ、士民ノ賊徒ニ通スルヲ禁ス、又之ヲ諸道ニ揭示ス。

○大ニ兵ヲ列藩ニ徵シ、特ニ織田信學ヲ召ス。
○肥後、筑前、因幡、出雲、郡山、淀六藩ニ令シ、徳川慶喜征討、及ヒ慶喜以下官位褫奪、會津以下邸地沒收、酒井忠氏等入京禁

岩倉具定ヲ東山道鎮撫總督ト爲シ、岩倉具經八千丸ノ子ニ副ス。

○松浦詮ニ命シ、守兵ヲ閣嶺ニ出サシメ、其京都巡邏ヲ免ス、又柏原藩東久世通禧ノ衛兵ヲ罷メ、郡山藩兵ヲ以テ之ニ代フ。柳澤保申

○舊京都守護職ニ給セシ所ノ廩米ヲ以テ、薩、長二藩ニ賜ヒ、糧食ニ充ツ、又東本願寺光勝ニ命シ、倉ヲ發シテ、米一千五百石伏見、八幡、橋本ノ兵禍ニ罹リシ者ヲ賑恤セシム。

○徳川茂承、將ニ京師ニ觀セントス、道路紛擾ヲ虞リ、上書シテ、朝命ヲ賜ハント請フ。

○森忠典、疾ヲ以テ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。森忠儀

○官軍ノ前隊長門藩兵、大坂城ヲ收ム、時ニ城中火起リ、焚燒翌日ニ至ル。

○初メ鷲尾隆聚、使ヲ紀伊藩ニ遣ハス、藩兵岩出ヲ成スルモノ、之ヲ拘留ス、是日、隆聚、書ヲ與ヘテ、其無狀ヲ數ム、又橋本成兵、隆聚ニ復書シテ、前日ノ諭告ニ答フ。

○薩摩、長門二藩兵、時ニ備後尾備後福山城阿部正方ヲ徇ヘテ、之ヲ下ス。阿部正恒家記

○舊幕府老中ノ江戸ニ在ルモノ、伏見ノ戰報ヲ聞キ、諸藩ヲ戒

停ノ令ヲ旁近ノ諸藩、及ヒ衆庶ニ傳布セシム。

○徳川慶勝ニ命シ、舊幕府屬吏等ノ京ニ在ルモノヲ草津ニ押送シテ、之ヲ放タシム。

○因幡藩及ヒ其支藩兵ニ令シテ、東海道鎮撫總督ニ層セシメ、其橋本警守ヲ罷メ、肥後藩兵ヲ以テ之ニ代ヘ、柏原藩兵ヲシテ山陰道鎮撫總督ニ屬セシメ、其白川越警守ヲ罷メ、尋テ新發田藩兵ヲ以テ之ニ代フ。

○平戸藩守兵ヲ關嶺ニ出スヲ以テ、郡山藩ノ向背ヲ稟請ス。

○滋野井公壽、綾小路俊實、兵ヲ近江松尾山ニ集ム、是日、書ヲ上リ、命シテ賊ヲ討センコトヲ請フ。

○池田慶徳、疾ヲ謝シ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシメ、池田卿戸田氏良、疾ヲ以テ、上京遲延ヲ謝ス、良家記九鬼隆義、江戸ヨリ京ニ至ラントス、疾ヲ以テ、姑ク藩ニ歸ルヲ稟ス。義家記

○大將軍、大坂ニ抵ル、本願寺支院ヲ以テ牙營ト爲ス。

○備前藩兵、櫻井忠興ノ向背ヲ問フ、忠興ノ老臣、奉上貳ナキノ證書ヲ致ス。岡山藩記

○舊幕府老中ノ江戸ニ在ルモノ、討薩表及ヒ檄文ヲ諸藩ニ示シ、酒井忠、寶家記松平直克ニ命シテ、江戸ヲ警守シ、阿部正靜美作守、榎倉ヲ

リテ内侍所及ヒ建春門ヲ守ラシム、又肥後藩ノ橋本警守ヲ罷メ、加賀藩兵ヲ以テ之ニ代ヘ、高取藩兵ノ京市巡邏ヲ罷メ、十津川郷兵ヲ援ケテ、大和ノ殘賊ヲ勦セシム。

○朽木爲綱、將ニ入覲セントス、其家臣京ニ在ルモノ、印票ヲ賜ヒ、以テ道路ノ障礙ニ備ヘント請フ、命シテ、山陰道鎮撫總督ノ指揮ニ從ハシム。

○池田慶徳、徳川慶喜ノ至親タルヲ以テ、上表シテ罪ヲ待チ、禁門守衛ハ故ノ如クナランコトヲ請フ、池田徳澄モ亦同ク表ヲ上ル。

○酒井忠氏ノ父忠義、右京大夫兵ヲ率キテ召命ニ赴クヲ稟シ、且忠氏ノ爲ニ罪ヲ乞フ、戸田氏共モ亦召ニ應シテ西上スルヲ稟ス。

○牧野誠成、疾ヲ以テ、老臣ヲシテ京ニ至ラシム。

○是ヨリ先、東海道鎮撫總督橋本實梁ニ命シ、舊大津江代官石原某、信樂近代官多羅尾光弼之ヲシテ軍資ヲ供億セシム、橋本實梁是日、實梁、光弼ヲシテ、舊ニ仍リテ、其地ヲ管セシム。

○山陰道鎮撫總督西園寺公望、酒井忠氏ノ大阪ヨリ逃レ歸ルヲ聞キ、之ヲ途ニ要シテ、其情ヲ問フ、是日、忠氏、謝罪書ヲ上ル、乃チ其兵器ヲ收メ、藩ニ還テ謹慎セシム。西園寺公望

○備前藩ノ老臣日置忠尙、帶兵ヲ率キテ西宮ニ赴ク、是日、其

萬、石、薩摩藩ノ支邸ヲ收メシム、又立花種恭出雲守、下ヲ以テ

老中格會計總裁ト爲ス。立花種十一日、尊秀親王ニ命シテ、仍鎮西、西山ノ宗派ヲ管セシム。

○石山基正、萬里小路通房ヲ以テ、參與助役ト爲ス。

○朝集會議ノ命ヲ止メ、諸侯ニ申令シ、兵ヲ率キテ入覲セシム、因テ在京ノ藩臣ヲシテ各其期ヲ上申セシム。

○安藝、備前、土佐三藩ニ命シテ、福山、備後、阿部、松山、備前高松、讃岐、松平、伊豫、久松ヲ討シ、且ツ備中、備後、讚岐、伊豫ノ舊幕府領地ヲ收ム、因テ各菊章旗ヲ賜フ、征討府モ亦薩摩、安藝、長門、因幡、土佐、津六藩ニ命シテ、高松、松山、伊豫、大垣、美濃田共、播磨、酒井姫路、播磨、酒井ヲ討ス、又薩、長二藩兵ヲシテ兵庫ヲ管理セシム。

○滋野井公壽、綾小路俊實、京ヲ去ルノ罪ヲ宥シ、命シテ義兵ヲ召集シ、東海道鎮撫總督ニ屬セシム、又堂上ニ告諭シテ、公壽、俊實ノ學ニ倣フコト勿カラシム。

○加藤明實、其邑賊兵ノ走路ニ當ルヲ以テ、京市巡邏兵ヲ罷歸シテ、賊ヲ追撃セント請フ、乃チ併セテ其内侍所、建春門ノ守衛ヲ罷メ、明實ヲシテ歸藩セシメ、明實、十二日新谷藩兵ヲシテ代

從兵外國人ト神戸驛ニ鬪フ。

○舊幕府老中、榊原政敬ノ東叡山守衛ヲ罷ム、榊原政敬是日、米國公使館書記官エアールセホルトメン、書ヲ舊幕府老中ニ致シ、上國變動措置ノ方ヲ聞キ、以テ自ラ處セント請フ。

卷十九

明治元年戊辰正月十二日
日ニ起リ十四日ニ至ル

十二日、詔シテ、島津茂久、淺野茂長、毛利敬親、池田慶徳、山内豐範ノ復古ノ勳、及ヒ征討ノ功ヲ賞シ、御劍各一口ヲ賜ヒ、又藤堂高猷ノ戰功ヲ賞シ、茂久等五人ト竝ニ金幣ヲ賜ヒ、以テ藩士ノ戰死者ヲ弔シ、徳川慶勝、松平慶永、伊達宗城ノ復古ノ勳、及ヒ細川喜廷、蜂須賀齊裕、井伊直憲、松浦詮、本多康稜、加藤泰秋、龜井茲監、毛利元功、池田徳澄、大村純熙、島津忠寛、小出英尙、加藤明實、池田徳定、織田信親、市橋長義、池田政禮、久留島通靖、京極高典ノ軍勞ヲ賞ス。

○博經親王及ヒ細川喜廷ヲ以テ議定ト爲シ、土倉正彦修理介、備前藩士ヲ參與ト爲シ、議定伊達宗城ヲ以テ外國掛ヲ兼シム。

○滋野井公壽、綾小路俊實ノ使者、相良武振書ヲ上リ、官軍ノ徽章ヲ賜ヒ、且東征先鋒ノ命ヲ奉センコトヲ請ヒ、又舊幕府領地ノ租稅ヲ減センコトヲ建議ス、乃チ公壽、俊實ニ命シテ、東

海道鎮撫使ノ約束ヲ受ケ、又舊幕府領地今年租税ノ半ヲ免セシム。

○徳川茂承、本月三日ノ命ヲ領スルヲ稟シ、且大坂ノ敗兵、和歌山ニ至ルノ狀ヲ陳ス。

○市橋長義、小藩寡兵ヲ以テ、四塚ノ守衛ヲ罷メテ、他役ニ服センコトヲ請フ、朽木爲綱、山陰鎮撫使ノ令ヲ奉シテ、兵ヲ久美濱ニ出スヲ稟ス。

○内藤政學ノ家臣、尾張、肥後二藩ニ因リ、藩兵徳川慶喜ノ爲メニ野田口ヲ守ルハ、政學ノ與リ知ル所ニ非サルヲ陳シ、其入京ヲ許サレンコトヲ請フ。

○本田康積、再ヒ京ニ至ル、本多秋田映季、方之助、三春藩織田長易、疾ヲ謝シ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。三春藩織田長

○征討府、備前、龍野、阿波、丸龜、宇和島五藩及ヒ稻田邦植ニ令シ、高松、姫路、松山伊征討ノ軍ニ應援セシメ、又薩摩、安藝、長門三藩兵ヲシテ大阪街市ヲ巡警セシム。

○東海道鎮撫使橋本實梁、阿波藩兵ヲシテ大津信樂舊代官所轄ノ地ヲ保管シ、且舊幕府及ヒ會津、桑名領地ノ附近ニ在ル者ヲ檢セシム、又膳所藩ニ令シテ、賊兵ノ逃歸スル者ヲ要撃セシム。

等ヲシテ參與局ニ候セシメント請フ。

○毛利敬親、書ヲ上リ、家臣木戸孝允ノ召命ヲ謝シ、其疾ニ罹ルヲ以テ、上京ノ期ヲ緩フセンコトヲ請フ。

○徳川茂承、再ヒ大阪敗兵ノ來投スル者ヲ拒絕スルヲ上申ス。○新發田藩、見兵寡少ヲ以テ、白川越警守ノ命ヲ辭ス、尋テ郡山藩兵ヲ以テ、之ニ代フ。

○大村純熙、木下俊應、京ニ至ル。大村純熙、木下俊應家記○征討府、錦旗奉行四條隆謨ヲ以テ、軍事參謀兼中國四國征討總督ト爲シ、錦旗奉行五條爲榮ヲ監軍ト爲シ、參與王生基修、代テ下參謀大山綱良之ニ屬ス。東伏見宮家記、大山綱良履歷書

○鷺尾隆聚、高野山ヲ發シ、遂ニ進テ大阪ニ入ル、高野山出、野山出、是日、徳川茂承、使ヲ遣シ、岩出守兵ノ無狀ヲ謝ス。

○徳川慶喜、板倉勝殷ヲシテ碓氷關上野碓氷關ノ守ヲ嚴ニセシム。十四日、參與助役長谷信成ヲ以テ、參與ト爲ス。

○内旨ヲ親子内親王ニ下シ、其緩急護衛ノ命ヲ大久保忠寛忠寛中計總裁、二傳諭セシム。

○安藝、長門、備前三藩ニ令シ、山陽道諸藩ノ向背ヲ問ヒ、且舊幕府ノ領地ヲ檢シ、本年租税ノ半ヲ蠲カシム。

○豊岡藩兵ヲシテ桂御所ヲ守衛セシム。

復古記 明治元年正月

○松平定敬ノ老臣、謝罪書ヲ尾張藩ニ致シ、其寛宥ヲ申請センコトヲ求ム。

○徳川慶喜、松平容保、松平定敬、板倉勝靜、酒井忠悳等ヲ率キテ、江戸城ニ還リ、東歸ノ情由及ヒ後日ノ形勢ニ因リ、再ヒ西上スルノ意ヲ列藩ニ告ク、又諸郭門ヲ鎖シ、之ヲ各國書記官ニ報ス。

○各國公使、昨日爭鬪ノ故ヲ以テ、兵ヲ出シテ神戸驛ノ兩口ヲ扼シ、兵士及ヒ佩刀者ノ往來ヲ絶シ、又諸藩船艦ノ港内ニ在ル者ヲ拘留ス。

十三日、宣命使中藏通富、三山階、天智、後月輪、光格、天泉、弘化、仁孝、後月輪、天明、ノ四陵ニ遣シ、天皇將ニ首服ヲ加ヘントスルヲ告ク。

○假ニ九條道孝ノ第ヲ以テ、太政官代ト爲ス、明日、參與局ヲ官中ニ移ス。

○參與助役西四辻公業ヲ以テ、參與ト爲ス。○石川成之ニ命シ、鈴鹿嶺伊及ヒ附近ノ隘口ヲ扼シ、以テ東海道鎮撫使ノ約束ヲ受ケシム。

○酒井忠義ヲ以テ北陸道先鋒ト爲シ、戸用氏共ヲ東山道先鋒ト爲シ、功ヲ立テ自ラ贖ハシム。

○伊達宗城、藩兵ヲ以テ松山伊ヲ討シ、且大阪駐在中、其臣某

○宇和島藩ニ令シ、藩士ノ參與ト爲スヘキ者ヲ薦舉セシム。

○池田茂政、日置忠尚、神戸驛爭鬪ノ事ヲ上申ス。○徳川茂承、老臣水野忠幹伊達宗城、老後新當議ト爲ル、ヲ大阪ニ出スノ情由ヲ陳疏ス。

○谷衛滋大膳亮、山家藩主、ノ老臣、兵ヲ率キテ京ニ至リ、衛滋入觀途ニ上ルヲ稟シ、王事ニ從ハント請フ、豊岡藩兵亦京ニ至ル。

○薩、長二藩、特賜ノ慶米ヲ辭シ、以テ兵備ニ充テント請フ。○備前藩兵、備前中山城板倉勝靜ヲ御ヘテ、之ヲ下ス。板倉勝靜家記

○徳川慶喜、太田資美、水野忠敬、田沼意尊ヲシテ駿府城ヲ警守セシム。

○舊長崎奉行河津祐邦、伊豆、上國ノ報ヲ聞キ、其變アランコトヲ恐レ、援ヲ各國領事ニ請フ、是日、後事ヲ筑、肥二藩士ニ託シ、屬吏ヲ率テ、海路江戸ニ歸ル。

卷二十 明治元年戊辰正月十五日

十五日、天皇、元服ヲ加フ、詔シテ海内ニ大赦ス。

○嘉言親王ヲ二品ニ叙シ、隨身兵仗ヲ賜ヒ、尊秀親王ヲシテ、博經ト復名セシメ、三品ニ叙ス。

○大勢ヲ察シ、世變ニ隨ヒ、新ニ外國ト和親ヲ結フヲ布告ス。

○三道東征ノ師ヲ發スルヲ以テ、奥羽ノ諸藩ニ命シテ、六師ニ會セシム、又宇和島藩ヲシテ、土佐藩、松山藩伊豫討伐ノ兵ニ應援セシム。

○高槻藩ニ命シ、所管ノ倉庫備前府ヲ發シテ、兵禍ニ罹リシ者ヲ賑恤セシム。

○尾張藩士、竊ニ德川慶喜ニ應センコトヲ謀ル者アリ、德川慶勝、其狀ヲ聞シ、藩ニ歸リ之ヲ鎮定セント請フ、乃チ慶勝ニ命シテ、城守ヲ嚴ニシ、奸徒ヲ誅劔シ、且旁近ノ諸藩ヲ糾合セシメ、其子徳成ヲシテ、代リテ上京セシム。

○酒井忠義、京ニ至リ、途中遷延ノ由ヲ稟シ、且忠氏ノ罪ヲ乞フ、明日、令シテ、忠氏ヲ幽シ、忠義ヲシテ立功自贖セシム。

○建部政世ヲシテ、博經親王、醍醐忠順ノ衛兵ヲ出サシム。建部探家

○出雲藩、警衛ノ器仗、未タ備具セサルヲ以テ、姑ク服役ノ期ヲ緩センコトヲ請フ。

○松平武聰ノ老臣、書ヲ上リ、武聰、德川慶喜至親ノ私情ヲ去テ、將ニ大義ニ徇ハントス、因テ糧食ヲ給シ、兵器ヲ借ランコトヲ請フ。

○小原忠寛、大垣ヨリ至リ、暫ク其藩事ヲ料理センコトヲ請

卷二十一

明治元年戊辰正月十六日
日ニ起リ十七日ニ至ル

十六日、親王ヲ三公ノ上ニ班ス。

○宮、堂上及ヒ諸官人ニ諭シ、舊習ヲ洗除シ、志操ヲ磨勵シ、以テ實用ニ適セシム。

○九條道孝、大炊御門家信、近衛忠照、近衛忠房、鷹司輔熙、徳大寺公純、一條實良、廣幡忠禮、日野資宗、柳原光愛、廣橋胤保、飛鳥井雅典、葉室長順、六條有容、野宮定功、久世通照、豊岡隨資、伏原宣諭、裏辻公愛ノ朝參ヲ許ス。

○内旨ヲ佐竹義堯ニ下シ、奥羽諸藩ヲ糾合シ、以テ東征ノ師ニ應援セシメ、其召命ヲ止ム。

○戸田氏共、京ニ至リ罪ヲ乞ヒ、且伏見從役者ノ處分ヲ稟ス、明日、令シテ、從役者ヲ幽シ、氏共ヲシテ立功自贖セシム。

○郡山藩、既ニ守兵ヲ圍嶺ニ置ク、且其封内ニ屬スルヲ以テ、平戸藩兵ト相策應スルノ命ヲ得ント請フ、之ヲ聽ス。

○藤堂高邦、各處守衛ノ命ヲ奉シ、且其封桑名ト相近キヲ以テ兵ヲ京師ニ出スコト能ハサルヲ稟ス。

○九鬼隆備、京ニ至ル、九鬼隆備渡邊章綱、織田信成、疾ヲ以テ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。渡邊章綱織田信成及家記

フ、又豫メ、討伐鎮撫ノ規律ヲ定メ、之ヲ諸道ノ軍ニ頒タンコトヲ建議ス。

○京極朗徹、京ニ至ル、京極高松平慶憲、一柳頼紹、老臣ヲシテ、代リテ京ニ在ラシム。松平直政一柳頼明家記

○參與外國事務取調掛東久世通禧、佛國全權公使レナン、ロッシユ、英國特派全權公使兼總領事スルハ、ルリー、エス、パークス、伊國特派全權公使コントドラ、トウール、米國辦理公使アル、ビー、ファン、ファルケンボルク、李國代理公使エム、フォン、ブランド、蘭國公務代理總領事ドテクラフ、ファンボルス、プロックニ、神戸港ニ會シ、大政復古ヲ報スルノ國書ヲ致シ、且神戸驛爭鬪ノ事ヲ判理ス、參與岩下方平、及ヒ寺島宗則、寺島吉井徳春、薩摩藩士伊藤博文、薩摩藩士片野瑜、薩摩藩士陸奥宗光、薩摩藩士之ニ參ス、是ニ於テ、各國公使、神戸驛ノ守兵ヲ撤シ、拘留ノ船艦ヲ解ク、乃チ薩、長二藩兵ヲシテ、神戸驛ヲ守ラシメ、阿波藩兵ノ兵庫警守ヲ罷ム。

○徳川慶喜、大久保忠禮ノ甲府城代ヲ罷メ、歸リテ函根關ヲ嚴守セシム、又書ヲ英國公使パークスニ送り、其書記官前日ノ問ニ答ヘ、條約履行ノ事ニ至リテハ、固ヨリ變替ナキヲ告ク。

○外國事務總裁嘉彰親王、書ヲ各國公使ニ與ヘ、交際ノ事、悉ク舊幕府締結ノ條約ヲ遵守スルヲ諭シ、且其本官ト爲リ、三條實美、東久世通禧、伊達宗城、之ニ副タルヲ告ク。

○佛、英等六國公使、書ヲ東久世通禧ニ致シ、神戸爭鬪處分ノ目ヲ陳論ス。

○備前藩兵、播磨姫路城ノ治所ヲ徇ヘテ、之ヲ下ス。酒井忠義
○上杉齊憲、徳川慶喜ノ奏狀丁卯十二月十九日ヲ得テ、將ニ西上セントシ、福島奥ニ到ル、是日、慶喜敗歸ノ報ヲ聞キ、直ニ引キ還ル。

十七日、職制ヲ定メ、神祇、内國、外國、海陸軍、會計、刑法、制度ノ七科ヲ置キ、議定之ヲ分督シ、參與之ヲ分掌ス、乃チ議定中山忠能ヲ以テ、神祇事務總督ヲ兼ネ、議定正親町三條實愛、徳大寺實則、松平慶永、山内豐信ニ内國事務總督ヲ兼ネ、參與辻維嶽、大久保利通、田宮篤輝ニ内國事務掛ヲ兼ネ、議定副總裁三條實美、議定晃親王、伊達宗城、參與東久世通禧ニ外國事務總督ヲ兼ネ、參與後藤元輝、岩下方平ニ外國事務掛ヲ兼ネ、議定副總裁岩倉具視、議定嘉彰親王、島津忠義初名茂久ニ海陸軍務總督ヲ兼ネ、參與廣澤眞臣、西郷隆盛ニ海陸軍務掛ヲ兼ネ、議定副總裁岩倉具視、議定中御門經之、淺野茂勳、參與西四辻公業

ニ會計事務總督ヲ兼ネ、參與三岡公正、小原忠寛ニ會計事務掛
 ナ兼ネ、議定長谷信篤、細喜廷ニ刑法事務總督ヲ兼ネ、參與
 十時維惠、津田信弘ニ刑法事務掛ヲ兼ネ、參與萬里小路博房
 ニ制度事務總督ヲ兼ネ、參與二岡公正、福岡孝弟、田中輔ニ制
 度事務掛ヲ兼シム、又幟仁親王、白川資訓^三ヲ以テ、神祇事務
 總督ト爲ス。二人議定ニ非ス、又六人部是愛、樹下茂國、谷森理
 松ヲ事務掛ト爲ス、亦參與ニ非ス、故ニ特選ナリ。
 ○蜂須賀茂詔^路ヲシテ、其父齊裕^{本月六}ノ遺封ヲ襲カシム。録領
 賀茂
 ○鷲尾隆聚、兵ヲ率キテ大阪ヨリ至ル、^{十六日}是日、隆聚召見シ
 テ、之ヲ慰勞シ、高野山出、張概略明日、隆聚、及ヒ十津川郷士ニ金穀ヲ賜
 フ。
 ○市橋長義ニ命シテ、日ニ朝堂ニ參セシム。
 ○伊達慶邦ニ命シ、獨力ヲ以テ會津ヲ討セシム、尋テ錦旗ニ旒
 ナ賜フ。
 ○柳澤保申ニ命シテ、泉涌寺、及ヒ洞嶺ヲ警守シ、且石山基正
 ノ衛兵ヲ出サシム。
 ○小出英尙、築城ノ請ヲ聽ス。
 ○興福寺僧侶ニ命シ、假ニ春日社領、及ヒ舊奈良奉行ノ事務ヲ
 管セシム。

○井伊直憲、疾ヲ以テ、老臣ヲシテ桑名征討ノ役ニ從ハシメ、
 且四塚ノ守衛ヲ罷メント請フ、之ヲ聽ス。
 ○分部光貞、其疾ヲ謝シ、且兵ヲ京師ニ出スヲ稟ス、光貞、又雲
 母坂^{飯山ノ麓}ニ在リ、警守ノ命ヲ得ント請ヒ、平戶藩、長崎茂木口ノ戍兵
 ナ撤セント請フ、皆之ヲ聽ス。
 ○京極高富、^{主膳正}○^{一萬千四百四十四石餘}○^{養正}○^{養正}疾ヲ以テ、老臣ヲシテ代リテ京
 ニ至ラシム、是日、命シテ、速ニ兵ヲ京師ニ出サシム。
 ○櫻井忠興、兵ヲ京師ニ出サントス、本城守備ノ前命アルヲ以
 テ、其進止ヲ請フ、令シテ之ヲ止ム。
 ○池田茂政、兵ヲ發シテ、旁近譜第諸藩ノ向背ヲ問フヲ稟ス。
 ○松平頼聰、興正寺攝信ニ因テ、謝罪書ヲ上ル。
 ○東海道鎮撫總督橋本實梁、大津代官石原某ヲシテ、舊ニ仍テ
 其地ヲ管セシム。
 ○徳川慶喜、戸田光則^{丹波守}○^{松本藩主、食封六}○^{萬石時ニ松平氏ヲ稱ス、}ヲシテ、碓氷關ヲ警守
 セシム、尋テ又、之ヲ大河内輝照ニ命ス。
 卷二十二 明治元年戊辰正月十八日
 十八日、議定正親町三條實愛ヲ大阪ニ遣シ、征討大將軍ノ印ヲ
 嘉彰親王ニ授ケ、且大將軍及ヒ將士ヲ犒フ。

○織田信親ノ請ヲ聽シ、塚原ノ守衛ヲ罷ム。
 ○山内豊信、書ヲ上リ、征討ノ命令一途ニ出テンコトヲ請フ。
 ○海陸軍務總督島津忠義、表ヲ上リ、其職及ヒ家臣西郷隆盛ノ
 參與ヲ辭ス。
 ○是ヨリ先、肥後藩ニ命シテ、延岡藩兵抗敵ノ狀ヲ責問セシム、
 是日、肥後藩其供狀ヲ上ル。
 ○本多忠貫、鷲尾隆聚、其別邑ヲ收メシノ狀ヲ具シ、奉上他ナ
 キノ意ヲ陳ス。
 ○石川成之、森俊滋、^{對馬守}○^{三日}○^{石川成之參罷}○^{岩城隆}
 邦、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム、記森俊滋家記片桐貞篤、兵ヲ京師
 ニ出シ、仙石久利、^{出石藩}○^{主、食封三萬石、}京極高厚、山陰道鎮撫使ノ令ヲ
 以テ、兵ヲ生野^但ニ出スヲ稟ス。
 ○外國事務總督東久世通禧、書ヲ各國公使ニ贈リ、事務掛岩下
 方平及ヒ伊藤博文等ヲシテ、權ニ兵庫奉行ノ事ヲ管理セシム
 ルヲ告ク。
 ○是ヨリ先、舊長崎奉行河津祐邦官守ヲ棄テ去ル、時ニ土佐藩
 士佐々木高行、^{三四}○^{薩摩藩士松方正義}○^{助左}○^{等、本地ニ在リ、變ヲ}
 聞キ、馳セテ奉行邸ニ抵リ、僚吏ヲ諭シ、衆庶ヲ安撫シ、肥、筑
 以下十三藩士ト謀リ、會議所ヲ置キ、權ニ内外ノ事務ヲ管理

シ、急ニ狀ヲ京師ニ奏ス、是日、又之ヲ各國領事ニ告ク。
 ○初メ舊幕府、水戸降人^{田丸稻之右衛門ノ黨}○^{ヲ忍、壬生等十九藩}○^{詳名}
 ス、ニ幽ス、是ニ至リ、其罪ヲ赦シ、諸藩ニ令シテ、之ヲ江戶ニ致
 サシム。
 ○舊幕府麾下士勝義邦、官軍三道東下スルヲ聞キ、書ヲ沿道ノ
 諸侯ニ致シテ、其首鼠兩端ヲ持スルヲ責メ、若シ兵ヲ率キテ東
 下スルコトアラハ、直ニ軍門ニ進テ、是非曲直ヲ問ハントスル
 ナ陳ス。
 卷二十三 明治元年戊辰正月十九
 日ニ起リ二十日ニ至ル
 十九日、是ヨリ先、假ニ學習院ヲ以テ金穀出納所ト爲ス、是日、
 更ニ會計事務裁判所ヲ置ク。
 ○參與廣澤眞臣、中根師質、神山君風ヲ以テ内國事務掛ヲ兼シ
 メ、眞臣ノ海陸軍務掛ヲ罷ム。
 ○池田慶徳引咎ノ請ヲ慰藉シ、命シテ入覲セシム。
 ○徳川慶篤ノ奸邪ヲ任用シ、宗家ヲ匡輔スルコト能ハサルヲ
 責メ、命シテ鈴木重棟、^{石見市川弘美}○^{衛門、等ヲ罰シ、藩屏ノ職ヲ}
 盡サシム、又其泉涌寺守衛ヲ罷ム。
 ○都下ノ居民、賊徒ノ兵仗器具ヲ藏スルモノハ、悉ク之ヲ市中

取締所ニ納メシム。

○備前藩ノ老臣日置忠尙ヲ召ス。

○永井直諒、其所管舊幕府領地ノ措置ヲ稟ス、命シテ、其舊ニ依リ、且昨年負欠ノ數ヲ錄上セシム。

○九鬼隆義ニ命シ、舊ニ仍テ、神崎川^津ヲ警守セシム、又稻田邦植ノ家臣三田某等、書ヲ上リ、邦植ノ西ノ宮守衛ヲ罷メ、專ラ高松ノ應援ニ從ハンコトヲ請フ、^{征討應援ハ四條、陸路ノ令ニ係ル、之ヲ聽ス。}

○毛利敬親、及ヒ廣封、阪城討伐ノ命ヲ拜シ、不日ニシテ軍ヲ發スルヲ稟ス。

○稻葉久通、織田長易、兵ヲ京師ニ出ス、長易又鷲尾隆聚ノ令ヲ以テ、守兵ヲ慈恩寺村^{大和(伊賀)ニ置クヲ稟ス。}

○是ヨリ先、金穀出納所、三井某^{三郎}等三人、^{島田八郎在衛門、小野二善助、並ニ京都商}諭シ、金穀ヲ豫備シテ、不時ノ需ニ供セシム、是日、某等、金壹萬圓ヲ獻ス。

○脇坂安斐、谷衛滋、永井直哉、京ニ至ル。^{脇坂安斐、谷衛滋、永井直哉、家記}

○長門藩兵、松平慶倫ノ向背ヲ問フ、是日、慶倫ノ老臣、連署シテ、大義滅親、奉上貳ナキノ誓書ヲ致ス。^{松平慶倫家記}

○徳川慶喜、諸藩ノ老臣ヲ江戸城ニ召シ、三日以後ノ事體、及ヒ其心情ヲ陳シ、諸藩ニ屬シテ、之ヲ救解セシム、松平容保、松

平定敬、慶喜ヲ勸メテ再舉ヲ謀ラシム、慶喜從ハス。

二十日、伊達宗城、後藤元樺、大坂ヨリ至リ、^{昨日ニ}各國公使神戸ノ事ヲ論セシ書ヲ上ル、廷議遂ニ其言ニ從フ、是日、東久世通禧ニ命シ、之ヲ各國公使ニ報セシム、又之ヲ池田茂政ニ諭ス。

○戸田忠至ヲ以テ、參與、兼會計事務掛ト爲シ、參與榊取素彦ヲ以テ、制度寮事務掛ヲ兼シム。

○參與酒井忠溫ヲ罷メ、北陸道鎮撫使ニ隨ハシム、小原忠寬大垣ニ赴キ、官軍ノ糧食ヲ措辦セント請フ、之ヲ聽ス。

○是ヨリ先、竹澤邦光^{寛三郎}、ヲ美濃ニ遣ハス、是ニ至リ、郡上藩ニ令シ、邦光ト謀リ、附近ノ舊幕府領地、及ヒ士民ノ向背ヲ按檢シ以テ鎮撫使ヲ迎ヘシム。

○加藤明實、封内既ニ定ルヲ以テ、再ヒ京ニ至ル、乃チ復タ内侍所、及ヒ建春門ヲ守ラシメ、新谷藩ノ守衛ヲ罷ム。

○綾部藩ニ令シ、舊ニ仍リテ、塚原口ヲ守衛セシム、平戸藩、征討府ノ令ヲ以テ、闇嶺ノ守兵ヲ奈良ニ移スヲ稟ス。

○熾仁親王、牛車ノ永宣旨ヲ辭ス。

○松平慶倫、書ヲ上リ、備前藩兵來討ノ聞エアルヲ稟訴シ、其奉命ノ狀ヲ得ンコトヲ請フ。

○本多忠鄰、京ニ至ル、^{本多忠鄰、明家記}大河内信古、病ヲ謝シ、遠山友祿、

疾アリ、且喪ニ居ルヲ以テ、並ニ老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム、秋元禮朝ノ家臣、河内ノ別邑ニ在ル者、役夫ヲ發シテ、事ニ從ハント請フ。

○北陸道鎮撫總督高倉永祐、副總督四條隆平、京師ヲ發ス、酒井忠義兵、先鋒タリ、淺野茂長兵、之ニ屬ス。^{北陸道先鋒記}

○中國、四國征討總督四條隆謨、明石城ニ至ル。^{致家記}

○徳川慶勝ノ藩ニ赴クヤ、清洲驛^尾ニ駐リ、成瀬正肥^{真人正}、^{食封尾藩附家老、後尾藩下爲ル、等ト謀リ、誅奸ノ策ヲ定メ、是日、藩城ニ入ル、諸臣皆上謁ス、乃チ黨首渡邊某、^{新左衛門}、^由、^{石川某}、^允ヲ拘シテ、自刃セシム、尋テ其黨塚田某^{登四}、以下十一人、亦自刃ヲ命ス、其餘禁錮退隱、各差アリ、是ニ於テ藩論始テ定ル。}

○松平賴聰、征討ノ令下ルト聞キ、罪臣二人^{小夫兵}、^{軍ノ首級ヲ征討府ニ獻シ、^{使臣四條隆謨ノ營所ニ詣テ、詔城ヲ出テ、佛寺^{淨願}ニ屏居ス、是日、土佐藩兵、高松城ヲ徇ヘテ、之ヲ下ス。^{松平賴聰家記}}}

○初メ花山院家理^{前左中將}、罪アリ、河内ニ屏居ス、客廳、西海道鎮撫ノ内旨ヲ受クルト稱シ、浪徒ヲ率キテ、周防室積港ニ至ル、其黨ノ赤馬關^長、ニ在ル者、肥後天草、豊前四日市ヲ鹵掠シ、遂ニ馬城峯^前、ニ據リ、附近ノ諸藩ニ移檄シテ、家理ノ義兵ヲ舉クルヲ報ス、是日、長門藩、吏ヲ室積ニ遣リ、家理ヲ拘留ス、

長崎會議所モ亦、兵^二、^小ヲ天草ニ遣リ、之ヲ鎮ス。

卷二十四

明治元年戊辰正月二十一日起リ二十四日ニ至ル

二十一日、議事條規、及ヒ朝參放衛時限、休暇日ヲ定ム。

○鎮臺ヲ大和ニ置キ、參與久我通久ヲ以テ之ヲ督ス、十津川兵之ニ屬ス、又東園基敬^中、ヲ參與ト爲ス。

○池田慶徳、支族池田喜通^{正、時ニ松平氏ヲ稱ス}、^{ノ爲ニ上請スル所アリ、喜通ニ命シテ入觀セシム、又小笠原貞孚、疾ヲ以テ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシメ、且兵士入京ノ命ヲ請フ、是日、命シテ、兵ヲ京師ニ出サシム。}

○加藤明實、大河内信古、東海道鎮撫總督橋本實梁ノ令ヲ以テ、兵ヲ桑名ニ出スヲ稟ス、建部政世、征討府ノ令ニ因リ、姫路征討ニ應援スルヲ以テ、在京ノ兵ヲ撤回セント請フ、之ヲ聽ス。

○毛利敬親、及ヒ廣封、上表シテ、復官ノ恩ヲ謝シ、藩内兵禍ノ餘ヲ承クルヲ以テ、入觀遲緩スルヲ稟ス、又其占有スル所ノ、豊前石見ノ地^{事ハ慶應ニテ上ラント請フ。}

○松平武聰、徳川慶喜ノ至親タルヲ以テ、書ヲ上リ、屏居シテ罪ヲ待ツヲ稟シ、且老臣ヲシテ、代リテ京ニ至ラシム。

○東山道鎮撫總督岩倉具定、副總督岩倉具經、京師ヲ發ス、大垣藩兵先鋒タリ、尾張、土佐、二藩兵、及ヒ山科多田郷兵、之ニ屬ス。東山道總督府日記

○外國事務總督東久世通禧、佛、英、伊、宇、蘭、米六國公使ニ移書シ、其國人ノ兵器、船艦ヲ德川慶喜、及ヒ其臣屬ニ、販賣貸與スルヲ禁ス。

二十二日、鎮臺ヲ大阪、及ヒ兵庫ニ置キ、醒醐忠順大納言ヲ以テ、參與、兼内國外國事務掛ト爲シ、外國事務總督伊達宗城ト共ニ、大阪鎮臺ヲ督シ、外國事務總督東久世通禧ノ軍事參謀ヲ罷メ、兵庫鎮臺ヲ督セシム、忠順、外國事務掛ヲ辭ス。

○大宮御所經營課金、二月ヲ限リ之ヲ出サシム。

○松平直克ヲ召ス。

○郡山藩ヲシテ植松雅言、西洞院信愛、愛宕通旭、東園基愛、五辻安仲ノ衛兵各二、ヲ出サシム。柳澤保中家記

○德川茂承、書ヲ上リ、大阪ノ敗兵ヲ討セス、上京遅緩ノ情由ヲ陳謝シ、更ニ入京ノ命ヲ請ヒ、且藩兵ヲ以テ、東征ノ先鋒ト爲サンコトヲ請フ、是日、並ニ之ヲ聽ス。

○松平定安、疾ヲ以テ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシメ、且出雲附近地方、檢査ノ命ヲ得ンコトヲ請フ。

平定安ノ分管ヲ罷ム。

○本願寺光澤、近畿ノ門徒ヲ募化セント請フ、之ヲ聽ス。

○東本願寺光勝時ニ近江ニアリ、書ヲ上リ、滋野井公壽、其門徒兵及ヒ糧食ヲ徵求セシノ狀ヲ稟ス、令シテ、專ラ東海、北陸二道官軍ノ糧食ヲ措辨セシム。

○池田茂政、疾ヲ以テ、其弟政實五ナシテ、松山征討ノ事ヲ督セシメシヲ稟シ、且備中、美作諸藩以下歸順ノ狀、及ヒ松山中藩ノ老臣熊田短芳、自刃ノ事ヲ奏ス。

○織田信成、鷺尾隆聚ノ令ヲ以テ、兵ヲ慈恩寺村ニ出スヲ稟ス。

○伊東長辭、京ニ至ル、伊東長辭、藩家記松平忠和、三浦弘次、備後守、美作藩山守、封二萬三千石、五島盛徳、封一萬二千六百石、疾ヲ以テ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。松平忠和、三浦弘次、五島盛徳、藩家記

○東海道鎮撫總督橋本實梁、四日市伊ニ至ル、昨日ニ松平定教、萬之助、定教ノ義弟、時ニ東海、二年市ヲ十二、及ヒ其老臣松平某、帶等、總督府ニ詣リ、罪ヲ謝シ降ヲ乞フ、實梁、之ヲ納レテ法泉寺ニ幽シ、龜山伊藩兵ヲシテ之ヲ監守セシム。東海道、藩家記

○山陰道鎮撫總督西園寺公望、官津城ニ至ル、二十一日其老臣沼野某宇太等、奉命他無キノ證書ヲ呈ス。時ニ城主本莊宗武、父宗秀、皆江戸ニ在リ、西園寺公望家記

○松平慶倫、再ヒ書ヲ上リ、備前藩兵、朝命ヲ齎シ來リテ、一藩ノ向背ヲ問ヒ、且其東上ヲ止ムルヲ以テ、發途ノ期ヲ愆ルヲ稟シ、入親ノ朝命ヲ得ント請フ。

○竹澤邦光、美濃笠松舊代ヲ收メ、其狀ヲ上ル。

○澤宣嘉、水正長門ヨリ至ル。

○備前藩兵、津山城備ニ至リ、其向背ヲ問フ、城主松平慶倫、及ヒ老臣等、奉命他ナキノ證書ヲ呈ス。松平慶倫、藩家記

○米國公使館書記官アルセ、ホルトメン、書ヲ德川慶喜ニ致シ、討薩表見ユ、三日ヲ得テ、之ヲ本國政府ニ報セント請フ、是日、之ヲ贈ル。

二十三日、議定嘉言親王ヲ以テ、内國事務總督ヲ兼ネ、博經親王ニ會計事務總督ヲ兼ネシメ、寺島宗則、町田久成、兵、五代友厚才助、並ニヲ參與、兼外國事務掛ト爲シ、宗則ヲ兵庫ニ、久成ヲ長崎ニ派遣シ、木村貞通得太郎、肥後藩士ヲ參與、刑法事務掛ト爲ス。

○比年來、人ヲ道路ニ暗殺スル者多キヲ以テ、令シテ之ヲ嚴禁ス。

○參與、會計事務掛三岡公正、紙幣製造ノ議ヲ上ル、是日、之ヲ可シ、公正ヲシテ其事ヲ掌ラシム。

○池田慶徳ノ請ヲ允シ、山陰道公文布達ノ事ヲ專掌セシメ、松

○德川慶喜、大給乘謨ノ請ヲ許シテ、其陸軍總裁ヲ罷ム。老中格、故ノ如シ、大給、藩家記

二十四日、成瀬正肥、尾張大山、三萬五千石、竹腰正舊、龍若、美濃守尾、二萬石、三萬八千八百石、水野忠幹、紀伊新宮、三萬五千石、中山信徵、備中守、常陸松、水戸藩、ヲ藩屏ニ列ス。附家記

○參與土倉正彦ヲ以テ、軍務掛ヲ兼シム。

○特旨ヲ以テ、島津忠義、毛利敬親ニ金各二萬兩、德川徳成、淺野茂長、松平茂昭、山内豊範、伊達宗徳ニ各一萬五千兩ヲ賜フ。

○綾小路俊實ニ命シテ、大原氏ニ復歸シ、重徳ノ嗣タラシム。

○宇和島藩ノ宜秋門、及ヒ御旗守衛ヲ罷メ、阿波藩ヲ以テ之ニ代フ。

○郡山藩ニ令シ、東園基敬ノ衛兵ヲ出サシム。柳澤保中家記

○是ヨリ先、清水谷公考從金ヲ叔山ニ募ル、是日、召シテ之ヲ責メ、其罪ヲ問ハス。

○島津忠義、英國ノ醫生ヲ京ニ召シ、兵士ノ瘡痍ヲ治セント請フ、之ヲ聽ス。

○織田長易、京ニ至ル、織田長易、藩家記

○中國、四國追討總督四條隆謨、姫路城ヲ檢シ、備前藩ニ命シテ之ヲ監守セシム。

○浪徒ノ馬城峯ニ據ルヤ、長門藩兵、小倉ニ在ル者擊テ之ヲ平ク、附近ノ諸藩ニ移檄シテ、其逋逃者ヲ逮捕セシム。

○徳川慶喜、再ヒ榊原政敬ヲシテ、東叡山ヲ警守セシム。榊原政敬家記

卷二十五

明治元年戊辰正月二十五日ニ起リ二十六日ニ至ル

二十五日、澤宣嘉ヲ以テ、參與兼九州鎮撫總督、外國事務總督ト爲シ、澤宣嘉、木戸孝允ヲ總裁局顧問ト爲シ、鷲尾隆聚、及ヒ伊藤博文、林通顯以十郎ヲ參與ト爲シ、博文ヲ以テ、外國事務掛ヲ兼ネ、兵庫ニ駐在シ、通顯ニ海陸軍務掛ヲ兼シム。

○苞直、私調ノ禁ヲ嚴ニス。

○黒田齊博、鍋島茂實ニ命シ、舊ニ依リテ、長崎ヲ警守セシム。

○上杉齊憲、南部利剛、佐竹義堯ニ命シ、伊達慶邦ニ應援シテ、會津ヲ討セシム。

○分部光貞ノ請ヲ聽シ、在京ノ兵ヲ撤シテ、専ラ叡山附近ヲ警守シ、小泉藩兵ニ八幡山ノ間道ヲ警守セシム、又因幡藩ニ長谷信篤ノ衛兵ヲ出サシム。池田輝知家記

○參與大久保利通、遷都ノ議ヲ上ル。

○是ヨリ先、本多忠貫、舊山田奉行伊勢太廟及ヒ三別宮遷宮ノ經費ヲ稟請ス、是ニ至リ、再ヒ其例規ヲ陳シ、且三別宮ノ費ヲ獻セン

○長門藩、征討總督ノ令ヲ以テ、山陽ノ兵ヲ轉シテ、松山征討ノ先鋒タルヲ稟ス。

○北陸道鎮撫總督高倉永祐、小濱ニ抵ル、城主酒井忠氏ノ老臣、奉命他ナキノ證書ヲ呈ス。酒井忠氏家記

○島津久光、使ヲ遣リ、檄ヲ西海道諸藩ニ傳ヘテ、其方向ヲ問フ。

○徳川慶喜、公議所ヲ置キ、其下ニ令シテ各所見ヲ陳シ、家政ヲ匡救セシム。

卷二十六

明治元年戊辰正月二十七日ニ起リ二十九日ニ至ル

二十七日、太政官代ヲ二條城ニ移ス。

○參與大久保利通ヲ以テ、總裁局顧問ト爲ス。

○大坂鎮臺ヲ改テ裁判所ト爲シ、醍醐忠順ヲ以テ、總督ト爲シ、伊達宗城之ニ副ス、忠順參與内閣事務掛、宗城議定外國事務總督故ノ如シ。又宗城ニ命シ、其臣二人ヲ選テ、忠順ニ從ヒ、且其衛兵ヲ出サシム、又岸和田藩ニ命シ、大坂市中ヲ巡警セシム。

○大ニ東征ヲ議スルヲ以テ、大將軍嘉彰親王ヲ召還ス、又滋野井公壽ヲ召ス。

○東海、東山、北陸三道鎮撫使、及ヒ淺野茂長、池田茂政、池田

ト請フ。

○徳川徳成、柳生俊益、京ニ至ル、徳川義直、柳生俊直家記黒田齊博、疾ヲ以テ、其子慶贊下野ヲシテ入觀セシメントスルヲ稟ス。

○徳川慶喜、江戸ノ諸郭門ヲ開キ、之ヲ各國書記官ニ報ス。

○佛、英、伊、寺、蘭、米六國公使、其國人ニ局外中立ヲ布告ス。

二十六日、大村純熙ニ命シ、九州鎮撫總督ト謀リ、長崎ヲ警守セシム。

○是ヨリ先、高松實村、左衛門權佐私ニ京師ヲ去リ、本月十七日ニアリ、兵ヲ

甲、信ノ間ニ募リ、舊幕府ノ領地ヲ收メ、諸藩ノ向背ヲ問フ、父保實、其遁走ヲ稟ス、是日、保實ニ命シテ、之ヲ召還ス、高松保實家記

○木下利恭、京ニ至ル、木下利、妻家記青山忠敏、疾ヲ以テ、老臣ヲシテ代

リテ京ニ至ラシム、青山忠敏家記織田長易、大和鎮臺ヲ置クヲ以テ、其事ニ從ハンコトヲ請フ。

○徳川慶喜ノ江戸ニ歸ルヤ、譜第諸藩及ヒ其臣僚、或ハ防守ノ說ヲ持シ、或ハ恭順ノ事ヲ説キ、議論紛作統歸スル所ナシ、前橋藩、竊ニ同志者ト議シ、慶喜ヲシテ謝罪セシメ、以テ社稷ヲ存センコトヲ謀ル、岩倉具視之ヲ聞キ、意ヲ松平慶永ニ授ケ、松平直克等ヲ勸勵シテ、其實ヲ舉ケシム、慶永及ヒ中根師質、乃チ書ヲ直克ト其老臣某トニ致シ、謝罪ノ事ヲ陳論ス。

慶徳、龜井茲監、山内豊範、伊達宗徳、江守ニ命シ、舊幕府領地ノ東海、東山、北陸、山陽、山陰、南海ニ在ル者ヲ檢シテ、其人ヲ安撫シ、圖藉ヲ上ラシム。

○諸藩ノ九門警衛及ヒ征討兵ヲシテ、菊章ノ旗幕ヲ用ヒシム、又諸侯ノ松平氏ヲ冒稱スル者ハ、其本氏ニ復セシム。

○池田茂政ニ令シ、其沒收セシ所ノ舊幕府貢米ヲ大坂ニ輸送セシム。

○松平慶倫ノ請ヲ聽シ、命シテ、入觀セシメ、又之ヲ池田茂政ニ諭ス。

○是ヨリ先、舊幕府、細川慶順ヲシテ豊後ノ四郡、遠見、大分、國東、ヲ管シ、且日田、天草ヲ守衛セシム、是日、慶順其去就措置ヲ稟ス、令シテ、姑ク其舊ニ仍ラシム。

○毛利敬親、其子廣封ヲシテ兵ヲ率キテ、命ヲ闕下ニ待シムルヲ稟ス、又上書シテ、諸藩ノ方向ヲ一ニシ、復古ノ基本ヲ立テ、而シテ後、徳川氏ヲ處置センコトヲ建議ス。

○徳川慶喜、書ヲ松平慶永、山内豊信等ニ致シ、其素志ヲ陳シテ、解救ヲ請フ、是日、慶永、其書ヲ上ル。

○池田茂政、松平武聰ノ家臣尾關某金八等、大坂ヨリ敗歸シ、其封内金岡港ニ抵ルヲ以テ、之ヲ拘留スルヲ稟ス。

- 出雲藩兵、京ニ至ル、松平定伊東長壽、兵ヲ姫路ニ出スヲ稟ス。
- 東山道鎮撫總督岩倉具定、近江三上濱藤城ヲ收メ、加藤明實ヲシテ其地ヲ保管セシム。東山道總督府達留
- 中國四國征討總督四條隆謨、大坂ニ歸ル。諸道記
- 土佐藩兵、伊豫松山城久松定昭ヲ徇ヘテ、之ヲ下ス。久松定
- 二十八日、百官ヲ會シテ、大ニ東征ヲ議ス、議遂ニ決ス。議案記
- 參與井上馨ヲ以テ、外國事務掛ト爲シ、九州鎮撫使ニ屬セシム。
- 毛利敬親ニ命シ、姑ク豊石占有ノ地ヲ管セシム。
- 大將軍嘉彰親王、大坂ヨリ凱旋シ、錦旗節刀ヲ上リ、其狀ヲ奏ス、四條隆謨、五條爲榮等從フ。
- 松平定安、其管地隱岐國租稅貢納ノ方ヲ稟請ス、是日、令シテ、金ハ會計裁判所ニ納レ、穀ハ大坂ニ輸セシム。
- 池田茂政、米五千石ヲ獻セント請フ、之ヲ聽ス。
- 山名義濟主水助安代安合、後藤屏ノ請ヲ聽シ、命シテ、入觀セシム。三列、村岡藩ト稱ス、稱ス。
- 長門藩、時々兵ヲ二條河東ニ操シ、且新選組ノ兵器、東本願寺ニ在ル者ヲ得ンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。
- 伊達宗城、大坂ノ舊奉行邸、及ヒ桑名邸ヲ假ラント請フ、之ヲ聽ス。

- 松平武聰、再ヒ書ヲ上リ、其臣隸伏見ノ事ニ與ルヲ以テ、屏居シテ罪ヲ待ツヲ稟シ、且其情由ヲ陳疏ス。
- 酒井忠義、疾未タ痊エサルヲ以テ、再ヒ從軍遲延ヲ稟ス。
- 酒井忠悳ノ老臣書ヲ上リ、忠悳ノ父忠績ヲシテ上京セシメ、且藩兵ヲ出シ以テ謝罪ノ實効ヲ表センコトヲ請フ。
- 柳澤保中、再ヒ京ニ至ル。柳澤保中家記
- 東海道鎮撫總督橋本實梁、桑名城ヲ收メ、尾張、津二藩ニ命シテ之ヲ管セシム。東海道先鋒記、德川義宜家記
- 二十九日、吉井德春ヲ以テ參與兼海陸軍務掛ト爲ス。
- 福知山、出石、龍野三藩ニ命シテ、假ニ舊幕府領地ノ其封内旁近ニ在ルモノヲ管セシム、尋テ福知山、出石二藩ヲ罷ム。
- 肥後、筑前、島原三藩ニ令シテ、花山院家理ノ餘黨ヲ追捕セシム。
- 會計事務總督中御門經之、淺野茂勳、京坂ノ豪商ヲ召シ、度支ノ事ニ服セシムルヲ諭シ、且紙幣準備金三萬兩ヲ課ス。
- 東海、東山二道鎮撫使ニ令シ、横濱居留ノ外國人ト覺察ヲ開クコト勿ラシム。
- 池田茂政、再ヒ松山降伏ノ狀及ヒ其藩情ヲ陳シ、且措置ノ目ヲ稟請ス。

- 是ヨリ先、島津忠義、兵ヲ日田、長崎地方ニ出シテ、之ヲ鎮撫ス、是日、其兵ヲ撤スルヲ稟ス、青山忠敏モ亦山陰道鎮撫使所屬ノ兵ヲ罷ムルヲ稟ス。
- 徳川慶喜、再ヒ書ヲ淺野茂勳、松平慶永等ニ致シ、退隱ノ意ヲ陳シテ、救解ヲ請フ、是日、慶永、其書ヲ上ル。
- 松平定安、京ニ至リ、大村純熙、京ヲ辭シテ長崎ニ赴ク、本莊道美、疾ヲ以テ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシメ、三宅康保疾ヲ以テ、上京ノ期ヲ延ヘント請フ。松平定安以下各家記
- 初メ徳川慶勝、使ヲ勢、濃、參、遠、駿、信、野七國ニ遣シ、諸藩以下ノ向背ヲ問ヒ、其老臣ヲシテ名古屋ニ來會セシム、吉田、岡崎二藩、首トシテ之ニ應シ、俱ニ其事ヲ助ク、是日、松平乗秩ノ老臣連署シテ勤王ノ證書ヲ致ス。
- 徳川慶喜、榊原政敬ヲ以テ、甲府城代ト爲ス。
- 是月、酒井忠經、疾ヲ以テ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。酒井忠經家記

卷二十七

明治元年戊辰二月朔日ニ起リ三日ニ至ル

朔日、大和鎮臺ヲ廢シ、久我通久ヲ以テ大和鎮撫總督兼内國事

復古記 明治元年二月

- 務掛ト爲シ、參與故管理撫御ノ方ヲ授ケ、總裁局顧問木戸孝允ヲ以テ外國事務掛ヲ兼シメ、大坂ニ派遣ス。
- 再ヒ松平慶倫ヲ京師ニ召ス。
- 渡邊章綱、和泉海岸警守和泉府ノ命ニ係ルノ撤否ヲ稟ス、是日、令シテ之ヲ撤ス。
- 寶曆年間、舊幕府、天文方ヲ江戸ニ置キ、曆法授時ノ事ヲ管ス、是日、土御門晴雄、陰陽頭上書シテ、之ヲ京師ニ復セント請フ、之ヲ聽ス。
- 佐竹義堯ノ老臣京師ニ在ルモノ、書ヲ上リ、本藩ノ地勢節候等ヲ陳シテ、討會應援ノ事ヲ申稟ス、是日、令シテ再命ヲ俟タシム。
- 日置忠尙、再ヒ神戸爭鬪ノ事ヲ上陳ス。
- 池田慶徳、支族ノ江戸ニ在ルモノヲシテ、カヲ王事ニ効サシメント請フ。
- 關長克、兵ヲ出シテ、備中巡撫ノ備前藩兵ニ屬セシムルヲ稟ス。
- 丹羽氏中、疾ヲ以テ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシムルヲ稟ス。丹羽氏中家記
- 東山道鎮撫總督岩倉具定、大垣實ニ抵ル。東山道總督日記

○是ヨリ先、池田慶徳、使ヲ出雲ニ遣シ、松平定安ノ向背ヲ問フ、定安既ニ入覲ノ途ニ就クニ會ス、留守ノ老臣等、奉命貳ナキノ證書ヲ呈ス、山陰道鎮撫總督西園寺公望、鳥取城ニ抵ルニ及ヒ、慶徳再ヒ使ヲ遣シ、兵ヲ率キテ之ヲ訊問ス、是日、定安ノ子直應（孫）及ヒ老臣等、書ヲ呈シテ他ナキヲ矢フ。（松平定安、池田直家記）

○小笠原長國、（佐渡守）長崎會議所ニ遣リ、其子長行（主食封）罪ヲ犯スヲ以テ、之ヲ廢シ、立功自贖センコトヲ請フ。（幕府老中、備前守）

○徳川慶喜、阿部正靜ヲ陸奥白河ニ移封シ、仍棚倉城ヲ管セシム。

○松平慶永、慶喜口ニ恭順ヲ稱スト雖トモ、曾テ反責ノ意ナキヲ以テ、書ヲ致シテ、其形迹ノ叛逆ニ涉ルモノヲ數ヘ、速ニ謝罪ノ實ヲ表シテ、朝命ヲ待タンコトヲ勸ム。

○太田資美、慶喜ノ令ヲ以テ、駿府城ヲ守リ、疾ヲ稱シテ、朝召ヲ辭ス、慶喜謝罪ノ狀ヲ聞クニ及ヒテ、形迹ノ嫌アラシコトヲ恐レ、是日、從兵ヲ留メテ、其邑ニ歸ル。

二日、近衛忠房ヲ以テ神祇事務總督ト爲シ、鷹司輔照ヲ制度寮事務總督ト爲シ、小松清廉ヲ總裁局顧問ト爲シ、顧問參與大久保利通ノ顧問ヲ罷ム。

○兵庫鎮臺ヲ改メテ、裁判所ト爲シ、東久世通禧ヲ以テ總督ト

爲ス、又長崎裁判所ヲ置キ、九州鎮撫總督澤宣嘉ヲ以テ裁判所總督ヲ兼シム。（二人參與外國事務、總督並ニ故ノ如シ）

○池田茂政及ヒ日置忠尙ニ命シ、外人ト神戸驛ニ爭鬪セシ隊長ヲ兵庫ニ押送シテ自刃ヒシメ、（五日間、且忠尙ニ謹慎ヲ命ス）

○備前藩兵ノ西ノ宮警守ヲ罷メ、久留米藩兵ヲ以テ之ニ代フ、又郡山藩ノ西洞院信愛ノ衛兵ヲ罷メ、愛宕通旭ノ衛兵ト爲ス、（柳澤保尋テ備前藩兵ヲ京師ニ徵ス）

○大村純熙ニ中命シ、長崎警守ノ事ハ、裁判所總督ノ指揮ヲ受ケシム。

○橋本關門警守ノ加賀藩兵、外國人經過措置ノ事ヲ稟請ス。

○三浦弘次、藩兵ヲ發シテ、美作駐在ノ備前藩兵ニ屬スルヲ稟ス。

○鍋島茂實、其父齊正ニ代リテ京ニ至ル。（鍋島直大家記）

○松平喜徳、書ヲ上杉齊憲ニ致シ、其父容保ヲ救解センコトヲ請フ。

三日、天皇、太政官代ニ臨ミ、三職以下群臣ヲ會シテ、親征及ヒ大總督ヲ置クヲ議ス、議既ニ決ス、乃チ列藩ニ詔シテ、軍備ヲ爲サシム、日晡、車駕宮ニ歸ル。

○職制ヲ更定シ、七科ヲ改メテ、總裁局、及ヒ神祇、内國、外國、軍防、會計、刑法、制度ノ七局ト爲シ、總裁局ニ總裁、輔弼、顧

問、辨事、史官、筆生、官掌ヲ置キ、七局ニ督、輔、判事、書記、筆生、局掌ヲ置ク。（局皆可アリ、當時圖ク）

○議定中山忠能、正親町三條實愛ヲ以テ輔弼ヲ兼ネ、參與萬里小路博房ニ制度事務局輔ヲ兼シム。

卷二十八 上 明治元年戊辰二月三日

三日、諸藩ニ令シ、元治甲子以後諸國ノ警守、去年十二月來宿衛徵發ノ兵額、及ヒ在藩ノ見兵等ヲ錄上セシム。

卷二十八 中

卷二十八 下

○阿波藩ニ令シテ、岩屋（淡路津名郡藩所、砲臺ノ警守ヲ嚴ニシム）砲臺ノ警守ヲ嚴ニシム。

○安部信發疾ヲ謝シ、老臣ヲシテ京ニ至ラシム、（内國事務局、堀田正

○徳川慶喜、黒田直養ノ新橋下警守ヲ罷メ、前田利同ニ代リテ、上野山内ヲ守ラシム。（黒田直養家記）

卷二十九 明治元年戊辰二月四日

四日、大原重徳ニ命シテ、内宮ノ事ヲ管シ、戸田忠至ニ宮中度

支ノ事ヲ管セシム。

○臼杵、三月二日藩ニ命シテ、二條城ノ柵門ヲ警守シ、大溝藩ニ二條城三條口ノ消防ヲ掌ラシメ、（明日大溝藩ヲ罷メ、專ラ書付坂ヲ警守セシム）○稻葉久通、森俊澄家記、大溝藩記、林田藩ノ醍醐忠順ノ衛兵ヲ罷ム、（建部探家記）又紀伊藩ニ令シテ、苦カ島（淡路津名郡紀伊海峽ニアリ）砲臺ノ守備ヲ嚴ニセシム。

○本多忠貫ノ請ヲ允シ、伊勢太廟ヲ守衛シ、及ヒ其屬地ヲ管スル、皆故ノ如クナシム。

○加藤明實、遠藤胤城ノ封地ヲ管スルヲ以テ、東海道ノ先鋒ヲ辭スルヲ稟ス。

○久松勝吉、宗家久松定昭ノタメニ哀ヲ乞ヒ、定昭及ヒ其家臣ノ謝罪書ヲ上ル。

○細川喜廷、其支族細川利永（若狭守）若狭守（肥後藩支封、後高瀬藩ト爲ル、食封三萬五千石）ヲ京師ニ召スルヲ稟ス。

○京極高厚京ニ抵ル、三浦弘次、高木正坦、疾ヲ謝シ、老臣ヲシテ京ニ抵ラシム。（京極高厚家記、内國事務局書）

○長崎會議所、徳川慶喜以下ノ罪狀ヲ管下ニ布告シ、其徒ヲ潛匿スルヲ禁ス。

○徳川慶喜、自ら老ヲ告ケ、支族徳川茂承ヲ以テ嗣ト爲サント欲シ、奏狀ヲ松平慶永ニ託ス。慶永、其自反ノ意ナキヲ以テ、之

ヲ却ケ、老臣本多義修等ヲ江戸ニ遣シテ、名義ヲ指陳セシム、又書ヲ大久保忠寛ニ致シテ、其意ヲ申ス。

○慶喜、老中格大給乘談ヲ罷ム。大給恒家記

○酒井忠篤、所管ノ砲兵近士大砲組ヲ録シテ、家臣ト爲サンコトヲ慶喜ニ請フ、之ヲ聽ス。

五日、郡山、高槻、高取、芝村、狭山、丹南、岸和田、伯太、尼崎、三田十藩ニ命シテ、假ニ畿内諸國舊代官ノ支配地ヲ管セシム、又更革ノ際、民心危疑、貨幣流通ノ便ヲ欠クヲ以テ、十藩ヲシテ之ヲ諭安シ、且強盜剽掠ヲ監防セシム、尋テ丹南藩ヲ罷ム。

○毛利敬親、老臣吉川經幹ノ八幡討賊ノ功ヲ賞ス。

○松平慶永、身議定職ニ在リ、且輦下ノ警守ニ服スルヲ以テ、北陸道ノ先鋒兵ヲ用スコト勿ラント請フ、之ヲ聽ス。

○木下俊應、浪徒本藩ノ近疆ニ嘯聚スルヲ以テ、歸邑ヲ乞フ、是日、之ヲ聽ス。明日途ニ上ル。

○土井利教ノ家臣哀請スル所アルヲ以テ、利教召命ニ應セサルノ罪ヲ貸シ、命シテ、速ニ入觀セシム。

○久留島通靖、書ヲ上リ、日田代官窪田某治部右衛門ノ奔竄スルヲ以テ、假ニ兵ヲ出シテ、其地ヲ鎮撫スルヲ稟シ、其區處ヲ請フ。

○加藤泰秋、京ニ至ル、稻葉正邦、松前德廣、並ニ疾ヲ謝シ、老

○池田茂政、明日ヲ以テ、日置忠尚ノ隊長瀧正信善三ヲ兵庫ニ押送スルヲ稟ス、又松山伊豫藩士鹿田某務等ヲ拘留スルノ狀ヲ聞ス。

○久松勝吉ノ家臣、藩兵京ニ至ルヲ稟シ、間部詮道ノ家臣、兵ヲ出シテ王事ニ服センコトヲ請フ。

○龜井茲監、牧野誠成、朽木爲綱、關長克京ニ至ル、龜井茲監以下四名家記大岡忠敬、疾ヲ以テ老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。大岡忠敬家記

○佐竹義堯、老臣ヲ京師ニ遣シ、六師應援ノ命ヲ拜シ、且使者ヲ奥羽ノ諸藩ニ發シテ朝旨ヲ歴説ス。

○太田資美家臣、駿府ノ守兵ヲ撤センコトヲ德川慶喜ニ請フ、是日、之ヲ許ス。

卷三十一 明治元年戊辰二月七日

七日、東山道先鋒總督岩倉具定、北陸道總督高倉永祐、副總督四條隆平、參與助役東海道副總督柳原前光ヲ以テ參與ト爲シ、四人總督故ノ如シ松尾相永、但馬松尾相保伯耆ヲ參與兼辦事ト爲シ、參與土倉正彦ニ刑法局判事ヲ兼シム。

○吉田、河三龜山、伊高須、西大路四藩ニ令シテ、東海、東山二道、官軍ノ餽餉輜重ヲ管セシム、又二道ノ諸藩ヲシテ供張傳遞ノ

臣ヲシテ京ニ至ラシム。加藤泰秋、稻葉正邦家記
○東山道鎮撫總督岩倉具定、加納、高富二藩、區所ノ狀ヲ奏ス。內閣事務局長書
○山陰道鎮撫使西園寺公望、鳥取ニ至ル。池田輝知家記
○德川慶喜、老中格會計總裁立花種恭ヲ罷ム。立花種恭家記
○舊神奈川奉行、各國公使局外中立ヲ布告スルヲ慶喜ニ報シ、又其文中御門陛下ト大君トノ間ニ戰鬪起ルノ語アルヲ以テ、之ヲ改削セシメント請フ。

卷三十 明治元年戊辰二月六日

六日、東海、東山、北陸三道鎮撫使ヲ改テ、先鋒總督兼鎮撫使ト爲シ、薩摩、長門以下二十二藩ノ兵ヲ以テ之ニ屬ス、又薩摩以下七藩ニ令シテ、艦船ヲ出サシム。

○參與神山君風、十時維惠ヲ以テ辦事ヲ兼シメ、參與毛受洪ヲ罷ム。總裁局史官ニ轉ス。

○依肥藩ヲシテ二條城柵門ヲ警守セシメ、伊東新歸家記津藩兵ノ山崎關警守ヲ罷メ、綾部藩兵ヲ以テ之ニ代フ。

○細川慶順ニ命シテ、内藤政學ヲ京師ニ召シ、其家臣ノ野田口ヲ守リシモノヲシテ屏居セシム。

○鍋島茂實、失火緊急ノ際、朝參等ノ事件ヲ稟問ス。

事ヲ掌ラシム。

○薩摩、肥後以下二十七藩ニ令シテ、東海、東山、山陽、山陰、南海、西海諸道、舊代官ノ支配地ヲ管セシメ、安藝、備前以下四藩ノ檢査ヲ罷ム、又大垣、龍野以下十八藩ニ令シテ、舊幕府ノ預地及ヒ松平容保、松平定敬ノ職田等ノ慶弑版圖ヲ檢シテ、之ヲ錄上セシム。

○松平頼升、大塚頭守山藩其老臣ヲシテ京ニ抵ラシメ、討會ノ先鋒タランコトヲ請フ、是日、之ヲ聽ス、尋テ命シテ、仙臺藩ニ應援セシム。

○植村家保、封内既ニ鎮靜ニ就キ、藩兵入京スルヲ以テ、前ニ仍リ、市中巡邏ノ役ニ服センコトヲ稟ス、之ヲ可ス。

○議定島津忠義、細川護久、初名喜廷淺野茂勳、松平慶永、山内豐信及ヒ毛利廣封、連署疏ヲ上リ、宇内ノ大勢ヲ察シ、外交ノ規模ヲ宏ニシ、各國公使ヲシテ入朝セシメントコトヲ建議ス。

○毛利廣封、京ニ至ル。翌日
○大和鎮撫總督久我通久、奈良ニ至ル、興福寺僧侶、假管ノ事務ヲ交付シ、且舊奈良奉行小俣景德、伊勢守等ノ誓書ヲ上ル。

○伊達慶邦ノ召命ヲ受ルヤ、藩老石川邦光、大和等、頗ル薩、土等ノ舉ヲ疑ヒ、慶邦ノ西上ヲ沮ム、慶邦、乃チ老臣三好清房物監ヲ

シテ兵ヲ率キテ京ニ至ラシム、清房、途上鳥羽伏見ノ變ヲ聞キ、書ヲ同僚ニ遺リ、其正義ヲ島メシム、是日清房京ニ至ル。

卷三十二

明治戊辰二月八日
ニ起リ九日ニ至ル

八日、加賀、薩摩以下二十四藩ニ命シテ、諸藩政令傳達ノ事ヲ管セシム。所謂

○戸田氏共、藩兵ノ鬪ニ罪ヲ獲シモノヲ行伍ニ編シ、功ヲ立テ自ラ贖ハシメント請フ、是日、之ヲ聽ス、又氏共ヲシテ高須、西大路ニ藩ト共ニ本道ノ糧餉ヲ掌ラシム。

○因幡藩、兵ヲ東山道ニ出シ、鞏下ノ守兵ニ乏シキヲ以テ、東海道ノ兵ヲ罷歸セント請フ、之ヲ聽ス。

○龜山伊勢藩、東海道先鋒總督ノ令ヲ以テ、鳥羽藩ノ老臣ヲ京師ニ護送スルヲ稟ス。

○吉井信謹、親丸吉井藩主、食封一、疾ヲ謝シ、老臣ヲシテ京ニ至ラシム。吉井信謹家記

○徳川慶喜、酒井忠篤ヲシテ出羽村山郡七萬四ヲ管セシム。

○榊原政敬、書ヲ徳川慶喜ニ致シ、其舉措失宜ヲ論シ、反省恭順、謹テ罪ヲ待タンコトヲ勸ム。

九日、天皇親征、本月下旬ヲ期シ、坊城俊政右大臣ヲ以テ行幸奉

行ト爲シ、參與小原忠寛ヲシテ供張ノ事ヲ經理セシム。

○總裁熾仁親王ヲ拜シテ、東征大總督ト爲シ、總裁故參與正親町公董、西四辻公業、廣澤真臣ヲ以テ參謀ト爲シ、河鑄實文、大總波經度ヲ錦旗奉行ト爲シ、澤爲量ヲ奥羽鎮撫總督ト爲シ、醍醐忠敬少將之ニ副ス、並ニ本月十五日ヲ以テ啓行セシム、又議定嘉言親王ヲ海軍總督ト爲シ、議定故庭田重胤ヲ參謀ト爲ス。

○諸藩禁門警衛兵ノ菊章旗幕ヲ用フルヲ止メ、其出征兵ハ官之ニ章旗ヲ頒賜ス。

○大政變更ノ際、不逞ノ徒、名ヲ勤王ニ託シテ、良民ヲ害虐シ、下情或ハ上達セサランコトヲ慮リ、諸藩ニ令シテ、之ヲ檢察シ且衆庶ノ直ニ之ヲ太政官ニ赴懇スルヲ許ス、又諸道ノ傳遞ハ、必印票ヲ照シテ、後供給セシム。

○土佐藩ノ東海道先鋒兵ヲ改テ、東山道先鋒ト爲ス、松平慶永再ヒ其子茂昭ノ北陸道先鋒ヲ辭ス、是日、之ヲ聽ス。

○九鬼隆備、再ヒ山崎關門守衛ノ命ヲ辭ス、乃チ松平定安ヲ以テ之ニ代フ、又山名義濟ヲシテ生野但馬ヲ警守セシム。

○備前藩ニ令シテ、松山備前藩士及ヒ松平武聰ノ臣、伏見ノ舉ニ與リシモノヲ監守セシム。

○鍋島茂實、北陸道從軍ノ事項ヲ條問ス。

○柳澤保中、藩事ヲ以テ假歸ヲ請フ、之ヲ聽ス。

○備前藩、讚岐諸島備前警守ヲ土佐藩ニ交付スルヲ稟ス。

○片桐貞篤、京ニ至リ、片桐貞篤家記丹羽氏中、疾ヲ以テ老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。辨事

○松平忠誠、紀伊ヨリ海ニ航シテ、吉田河ニ至リ、老臣ヲシテ西上セシメ、征討府ノ召命ヲ奉セシメ、東歸スルノ故ヲ陳ス、其父忠國正、モ亦使ヲ京師ニ遣シ、疾ヲ以テ入覲スル能ハサルヲ申謝ス。

○外國事務總督伊達宗城、書ヲ英米等六國公使ニ贈リ、神戸ノ暴舉ヲ謝シ、日置忠尙、瀧正信ノ處決ヲ報ス、是日、正信兵庫永福寺ニ自盡ス、内外官吏之ニ泣ム。

卷三十三

明治元年戊辰二月十日

十日、奉幣使正親町ヲ畝傍陵ニ遣シ、天皇元服ヲ加ヘシヲ告ケ、且其遲延ヲ謝ス。

○列藩貢士ノ制ヲ定メ、五十日ヲ限り、京師ニ貢セシム、後藩主ノ議定若クハ參與タルモノハ、必シモ貢進セサルヲ令ス。

○京坂ノ富商ニ諭シテ、親征ノ經費十萬ヲ供給セシム。

○徳川慶勝、書ヲ上リ、成瀬正肥久ク藩政ニ任シ、士民之ニ頼

リ、且藩主徳成幼弱ナルヲ以テ、舊ニ依リテ、藩事ヲ兼理セシメント請フ、是日、之ヲ聽ス。

○四國征討ノ役、因幡藩兵調發期ヲ失ス、老臣ノ京ニ在ルモノ、上書シテ罪ヲ乞フ、是日、批シテ其罪ヲ問ハス。

○市橋長義、軍行供張ノ命ヲ奉スルヲ以テ、四塚守兵ノ撤否及ヒ其歸藩ノ可否ヲ稟請ス、乃チ四塚ノ警守ヲ罷ム。

○平戸藩ノ請ヲ可シテ、奈良ノ守兵ヲ撤セシム。

○大岡忠敬ノ家臣、邑中人少キヲ以テ、軍行供張ノ任ニ勝エサランコトヲ陳ス、命シテ之ヲ島メシム、岩村、加納ニ藩、供張分管ノ地ヲ更換セント請フ、之ヲ聽ス。

○遠藤胤城ノ家臣、京師ニ在ルモノ、東山道總督胤城ノ封邑ヲ收ムルヲ聞キ、書ヲ上リ、哀ヲ乞フ、是日、批シテ胤城ノ歸順自效ヲ待テ之ヲ申請セシム。

○秋月種殷、疾ヲ謝シ、其子種樹ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。

○小笠原長國、書ヲ徳川氏ニ致シ、長行ノ疾ヲ稱シ、其職ヲ退カシメ、且ツ將ニ嫡ヲ易ヘントスルノ意ヲ以テス、徳川氏乃チ長行ノ退身ヲ許ス。小笠原長國家記

卷三十四

明治元年戊辰二月十一日
日ニ起リ十三日ニ至ル

十一日、諸藩ヲ分チテ、大中小三等ト爲ス、又凡ソ徵士ハ、舊藩ト關涉ナキヲ諭告ス。

○諸藩ニ令シ、藩士ノ開成所舊藩府ノ津學、教官ニ任スル者ノ姓名ヲ錄上セシム。

○北陸道諸藩ニ令シテ、官軍供億ノ備ヲ爲サシム。

○是ヨリ先、東山道總督若倉具定、書ヲ上リ、諸藩ヲシテ舊幕府ノ領地ヲ管セシムルノ事ヲ論ス、是日、其參謀北島秀朝仙太郎、又尾張藩勤王誘導ノ事ヲ稟議ス。

○本莊宗武ノ老臣、朽木爲綱ニ因リテ、書ヲ上リ、宗武ノ庶弟某ヲシテ先鋒ノ軍ニ從ハシメ、前罪ヲ贖ハシコトヲ請フ。

○毛利高謙、京ニ至ル。毛利高謙家記

十二日、廣澤真臣ノ大總督府參謀ヲ罷メ、尋テ參與西郷隆盛、林通顯ヲ以テ之ニ代フ。

○草津驛近江本郡ノ運貨重量檢査所、舊ニ仍リテ之ヲ存シ、膳所藩ヲシテ其事ヲ管セシム。

○松平慶憲疾ヲ謝シ、嗣子直致次郎ヲ江戸ヨリ召シテ、己ニ代ラシメント請フ。

○加藤泰令、藩事ヲ以テ假歸ヲ請フ、之ヲ聽ス。十四日、途ニ上ル。

○一柳末徳、播磨地方鎮撫ノ狀ヲ上ル。

○東征大總督熾仁親王、軍令及ヒ廟算書ヲ諸道總督ニ頒ツ。

○徳川慶喜、江戸城ヲ徳川慶頼中納言○時ニ松平齊民、津山藩主慶倫、田安ト稱スニ入リ、入道公現親王輪王、寺宮ヲ見テ、罪ヲ京師ニ謝センコトヲ請フ。

十三日、郡山藩ノ洞ヶ嶺、白川越守兵ヲ罷メ、更ニ吏ヲ白川越ニ置キ、行旅ヲ譏察セシム。

○毛利敬親ニ命シ、花山院家理ヲ京師ニ護送セシム。

○制度局、御艦及ヒ軍艦旗ノ徽章ヲ定メンコトヲ請フ。

○淺野茂長、備中以西平定ノ狀ヲ上ル。

○徳川慶喜、松平慶永ニ因リテ、書ヲ上リ、屏居シテ罪ヲ待ツヲ陳シ、又書ヲ慶永ニ致シ、鎮撫使ノ東下ヲ止メンコトヲ請フ、松平直克及ヒ大久保忠寛モ亦慶永ニ復書シ、慶喜謝罪ノ意ヲ陳ス。

○徳川茂承、書ヲ上リ、徳川慶喜ノ嗣タルヲ辭セシコトヲ陳ス。

○松平慶倫、京ニ至ル、徳川慶喜ノ支族タルヲ以テ、上書シテ罪ヲ待ツ。

○蒔田廣孝、松平親貴、但馬守○村繁、主親良ノ子、仙石政固、鏡雄○出石藩主、久利ノ子、京ニ至ル、岩城隆邦、久松勝行、大藏少輔○多古藩主、食封一萬二千石、疾ヲ謝シ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム、蒔田廣孝、松平親貴、久松勝行、織田信成、西上途、中疾ニ罹リ、姑ク封邑ニ歸ルヲ稟ス。

卷三十五

明治元年戊辰二月十四日
日ニ起リ十五日ニ至ル

十四日、松平直己、松平直哉、宗家ニ屬シテ、王事ニ服セント請フ、之ヲ聽ス。

○長門藩、松山討伐ノ際、獲シ所ノ汽船ヲ以テ、運輸ノ用ニ充ント請フ、之ヲ聽ス。

○諏訪忠誠、疾ヲ謝シ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。

○大阪裁判所總督醍醐忠順、副總督伊達宗城、兵庫裁判所總督東久世通禧、各國公使ニ大阪ニ會シ、新ニ外國事務局ヲ置キ、實際ノ事ヲ管スルヲ諭シ、且天皇近日將ニ公使ヲ召見セントスルヲ告ク、外國事務局官吏及ヒ諸藩ノ老臣等、之ニ參ス。

○徳川氏、若年寄京極高富ヲ罷ム、京極高富、大岡忠敬、歸邑ヲ徳川氏ニ請フ、之ヲ聽ス。

十五日、外國公使朝見ノ議ヲ決シ、島津忠義等ノ奏議ヲ公卿諸侯ニ示シ、其議ヲ採納スルヲ諭ス。

○秋月種樹ヲ以テ參與ト爲シ、青山貞小三郎○越前藩士ヲ參與兼内國事務局判事ト爲ス。

○東征大總督熾仁親王陸辭シ、出師表ヲ上ル、詔シテ、關外ノ權ヲ委シ、節刀一口、錦旗二旒ヲ賜フ、是ニ於テ、大師啓行ス。

○松平頼聰ノ入京ヲ許シ、功ヲ立テ自ラ贖ハシム、因テ其封地ヲ復シ、土佐藩ニ令シテ、其守兵ヲ撤ス。

○是ヨリ先、土佐藩兵ノ松山城ニ入ルヤ、藩主松平定昭、佛寺ニ屏居シテ罪ヲ俟ツ、其家臣土佐藩ニ因リ、上書哀請ス、定昭罪重キヲ以テ聽サス、是日、土佐藩ニ命シテ、其城邑ヲ管守セシム。

○六郷政鑑、六師應援ノ命ヲ拜スルヲ以テ、兵ヲ京師ニ出サ、ルヲ稟シ、且菊章旌旗ヲ賜ハシコトヲ請フ、聽サス。

○松平慶永、書ヲ上リ、徳川慶喜既ニ其罪ヲ謝ス、宜ク大總督ノ行ヲ止メ、速ニ諸路ノ師ヲ班スヘキヲ建議ス。

○毛利元周、毛利元蕃、毛利元純、疾ヲ以テ、老臣ヲシテ京ニ至ラシメ、官位復舊ノ恩ヲ謝ス、元周、又老臣ヲシテ兵ヲ率キテ京ニ至ラシメント請ヒ、元純、藩事ヲ以テ入覲ノ期ヲ緩クセン

ト請フ、又増山正修、内藤正誠、疾ヲ謝シ、老臣ヲシテ京ニ至ラシム。内國事務局叢書

○北陸道先鋒總督高倉永祜、福井前、ニ抵ル、先鋒道
 ○佛蘭西測量船、堺和港内ニ至リ、舟人岸ニ上リテ散步ス、土
 佐藩ノ守兵、土佐藩兵警守ノ事、征討府ノ命ニ係ル、日之ト争鬪シ、十餘人
 ナ殺傷ス。
 ○酒井忠篤、江戸ヲ辭シテ藩ニ歸ル。

卷三十六

明治元年戊辰二月十六日ニ起リ十九日ニ至ル

十六日、議定松平慶永、參與後藤元輝等ニ命シテ、各國公使朝
 見ノ事ヲ掌ラシム。
 ○南部利剛ニ命シ、伊達慶邦討會ノ師ニ應援セシメ、丹羽長國
 ニ命シ、其所管白川城奥陸ヲ仙臺藩ニ交付セシム。
 ○延曆寺ノ僧徒、書ヲ上リ、舊ニ仍リ、日吉社ノ社寺ヲ管セン
 コトヲ請フ。
 ○山陰道鎮撫使西園寺公望、宮津藩ノ入京ヲ許ス、是日、其老
 臣謝狀ヲ上ル。
 ○榊原政敬、阿部正恒、大給乘談疾ヲ謝シ、老臣ヲシテ代リテ
 京ニ至ラシム、内閣事務局兼書、榊原政敬、大給信家記立花鑑寛モ亦老臣ヲシテ、兵ヲ率
 申テ京ニ至ラシム。
 ○土井利教、東海道先鋒總督橋本實梁ノ召ニ赴クヲ以テ、入覲

遲延スルヲ陳ス。
 ○東山道先鋒總督岩倉具定、近江宮川堀田正養ノ治所ヲ收ム、尋テ之ヲ
 復ス。東山道總督府諸達、堀田正養家記
 ○長崎裁判所總督澤宣嘉、舊代官高木某伴右等以下諸小吏ヲ
 采録シテ、各職役ニ服セシム。
 ○松平容保、謝狀ヲ松平慶永ニ託シ、答ヲ引キ、自ラ責メ、退隱
 屏居シ、以テ徳川慶喜ノ罪ヲ宥センコトヲ請フ、是日、江戸ヲ
 去リテ會津ニ歸ル。
 十七日、奉幣使武者小ヲ春日社ニ遣ス、且國亂ニ因テ、祭期遷延
 スルヲ告ク。
 ○萬國ノ通誼ニ循ヒ、外國公使ヲ召見スルヲ布告ス、三職モ亦
 副書シテ、天下ノ大勢字内ノ公法ヲ示諭ス。
 ○各國公使ノ客館ヲ定メ、加賀以下六藩兵ニ命シテ、之ヲ警護
 ス。

○山内豐信父子ニ命シ、大阪ニ赴テ、界浦爭鬪ノ事ヲ處分セシ
 ム、翌日、豐信、疾ヲ以テ老臣ヲ差遣スルヲ稟ス。
 ○久留島通靖、封邑旁近民情動搖スルヲ以テ、歸邑ヲ請フ、之
 ナ聽ス。途ニ上ル、途ニ上ル
 ○黒田長知、慶賀、京ニ至ル、久世廣文、大久保教義、有馬氏弘、内

田正學、井上正己、田沼意尊、瀧脇信敏、林忠崇、昌之助、瀧脇信敏疾
 ナ謝シ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシメ、板倉勝弘、疾ヲ以テ
 入覲遲延スルヲ謝ス、内閣事務局兼書、黒田長知以下各家家記津輕承昭中守、私前藩ノ老
 臣、承昭ニ代リテ京ニ在リシモノ、藩ニ還リ、兵制ヲ修シ、征討
 ノ軍ニ從ハント請フ、之ヲ聽ス。
 十八日、是ヨリ先、徳川氏ノ兵艦、紀伊海ニ入ルノ報アリ、乃チ
 紀伊、阿波、津三藩ニ令シテ、之ヲ探偵ス、是日、紀伊藩、大阪裁
 判所總督ニ報スル所ノ書ヲ上ル。
 ○淺野茂勳、書ヲ上リ、河邊川以西ノ地ヲ經理スル姑ク舊ニ仍
 ランコトヲ請フ、之ヲ聽ス。
 ○石川成之、鈴鹿山守衛及ヒ輜重運輸ノ命アルヲ以テ、姑ク藩
 ニ歸リ、諸務ヲ整理センコトヲ請フ、之ヲ聽ス。途ニ上ル、途ニ上ル
 ○池田慶徳、再ヒ上表シテ、辭官退隱ヲ請フ、是日、之ヲ聽ス、
 既ニシテ、又前命ヲ止メテ、復職セシム。
 ○小笠原長國、前日長崎會議所ニ哀請セシノ意ヲ申シテ、允裁
 ナ得ンコトヲ乞フ、聽サス。
 ○蜂須賀茂韶、京ニ至ル内閣事務局兼書、遠山友祿、再ヒ疾ヲ以テ、入覲
 遲延スルヲ稟謝ス。
 ○九州鎮撫總督澤宣嘉、部内諸藩ニ令シテ、其向背ヲ問フ。

十九日、拜任ノ宣旨ニ總裁朱印ヲ鈐スルノ制ヲ定ム、是日、議
 定松平慶永ヲ以テ内閣事務局輔ヲ兼ネ、參與白川資訓ニ神祇
 事務局輔ヲ兼ネ、參與東園基敬ニ辨事ヲ兼シメ、林和靖間詰、
 大原重徳及ヒ正親町實徳、中院通富、三條西季知ヲ以テ參與ト
 爲シ、實徳以下三人ヲ林和靖間詰ト爲ス。
 ○京都裁判所ヲ置キ、參與制度事務局輔萬里小路博房ヲ以テ、
 議定兼裁判所總督ト爲ス。
 ○王師出征、驛遞供億ノ衆キヲ以テ、從征諸軍ニ令シ、往來必
 ス印票ヲ用ヒシム。
 ○堺浦爭鬪ノ事アリシヲ以テ、外國事務局ニ令シテ、外交ノ聖
 旨ヲ各國公使ニ傳諭セシム。
 ○池田茂政、上書シテ、致仕ヲ請フ、是日、之ヲ聽ス。
 ○徳川慶喜、王師ノ來討ヲ聞キ、城ヲ出テ、東叡山ニ屏居シ、復
 松平慶永ニ因テ、書ヲ上リ、答ヲ引キ罪ヲ待チ、六師ノ進伐ヲ
 止メント請フ、是日、慶永、其書ヲ奏シ、且上疏シテ、親征ノ舉
 ナ止メ、討伐ノ軍ヲ班シ、公平ノ法ヲ以テ、之ヲ處センコトヲ
 建議ス、又慶喜及ヒ松平容保ノ臣屬、慶永ニ因テ哀訴ス。其書、慶
 果サスルヲ

○丹羽長國、時ニ江戸書ヲ上リ、六師應援ノ命アルヲ以テ、病ヲ

カメテ藩ニ歸リ、兵備ヲ整ヘテ、命ヲ待ントスルヲ稟シ、且兵ヲ京師ニ出シ、守衛ニ充テント請フ。
○松平定敬、書ヲ入道公現親王ニ呈シ、徳川慶喜ノ爲ニ救解ヲ請フ。

卷三十七

明治元年戊辰二月二十日
ニ起リ二十一日ニ至ル

二十日、議定徳大寺實則ヲ以テ内國事務局督ヲ兼ネ、參與秋月種樹權輔ヲ兼ネ、參與辻維嶽、廣澤眞臣、大久保利通、中根師質判事ヲ兼ネ、議定晃親王外國事務局督ヲ兼ネ、議定伊達宗城、參與東久世通禧輔ヲ兼ネ、參與岩下方平、町田久成、伊藤博文、五代友厚、寺島宗則、井上馨判事ヲ兼ネ、議定嘉彰親王軍防事務局督ヲ兼ネ、參與烏丸光徳權輔ヲ兼ネ、參與津田信弘、吉井徳春判事ヲ兼ネ、參與鷲尾隆聚、壬生基修、四條隆諤親兵掛ヲ兼ネ、議定中御門經之會計事務局督ヲ兼ネ、議定淺野茂勳輔ヲ兼ネ、參與長谷信成權補ヲ兼ネ、參與戸田忠至、三岡公正、小原忠寛判事ヲ兼ネ、議定細川護久刑法事務局輔ヲ兼ネ、參與溝口貞直、土倉正彦、木村貞通判事ヲ兼ネ、參與福岡孝弟制度事務局判事ヲ兼ネ、參與後藤元輝ヲ總裁局顧問ト爲シ、參與故顧問木戸孝允ヲ參與ト爲シ、顧問故元輝、孝允ヲシテ參與顧問小松清廉

ト共ニ外國事務掛ヲ兼シム、又巖仁親王ヲ以テ議定兼神祇事務局督ト爲シ、吉田良義從侍ヲ參與兼輔ト爲シ、龜井茲監ヲ參與兼判事ト爲シ、植松雅言ヲ參與兼權判事ト爲シ、岩倉具綱ヲ參與兼内國事務局權輔ト爲シ、中川元績對馬ヲ參與兼判事ト爲シ、五辻安仲ヲ參與兼權判事ト爲シ、井關盛良右衛門ヲ參與兼外國事務局判事ト爲シ、吉田良榮江、土肥某前藩士ヲ參與兼軍防事務局判事ト爲シ、平松時厚中斐權介、萬里小路通房、愛宕通旭ヲ參與兼親兵掛ト爲シ、鴨脚光長加賀ヲ參與兼會計事務局判事ト爲シ、參與助役石山基正ヲ參與兼權判事ト爲シ、近衛忠房ヲ議定兼刑法事務局督ト爲シ、五條爲榮少納言ヲ參與兼權輔ト爲シ、鷹司輔熙ヲ議定兼制度事務局督ト爲シ、堤哲長右京ヲ參與兼權輔ト爲シ、松室重進豐後ヲ參與兼判事ト爲シ、坊城俊章待從ヲ參與兼辦事加勢ト爲ス。
○島津忠義、淺野茂勳、松平慶永、加藤泰秋、池田徳澄、池田政詮ニ命シテ、親征扈蹕先隊ト爲シ、細川護久、毛利廣封、鍋島茂實、松浦詮、松平信正、龜井茲監、織田信親、市橋長義、森俊滋ヲ後隊ト爲シ、加藤明實、小出英尙ヲシテ内侍所ヲ守衛セシム、又大坂行在所及ヒ太政官代ノ地ヲ定メ、諸藩扈蹕ノ兵員ヲ限定ス。

○墨是可銀ノ價位ヲ定メ、我貨幣ト同ク通行セシム。
○初テ太政官日誌ヲ刊刻ス、刊刻書肆村後之ヲ裁判所鎮撫使及ヒ諸藩ニ頒ツ。

○前田慶寧閣下事アルニ際シ、其形迹疑フヘキヲ以テ、之ヲ責問ス、慶寧ノ老臣、上書シテ其情狀ヲ陳疏ス、是日、書ヲ下シテ前罪ヲ宥シ、將來ヲ戒飭ス。

○是ヨリ先、議定内國事務總督山内豊信、病ヲ謝シテ其職ヲ辭ス、未タ報セス、適其家臣堺港爭鬪ノ事アリ、是日、再ヒ書ヲ上リ、罪ヲ引キ、見職ヲ解カントヲ請フ。

○是ヨリ先、毛利敬親、表ヲ上リ、木戸孝允、廣澤眞臣、楫取素彦ノ職ヲ罷メンコトヲ請フ、是日、素彦ヲ罷ム。

○市橋長義、兵員寡少ヲ以テ、東山道督餉ノ役ヲ免センコトヲ請フ、聽サス。

○毛利元功、英國龍動ニ遊學センコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○吉井信謹ノ家臣、書ヲ上リ、信謹ノ家系ヲ叙シ、藩小力微ナルヲ以テ徵發ノ期ヲ緩クセンコトヲ請フ。

○青木重義、京ニ至ル、辨事酒井忠強、稻葉正善ハ疾ヲ以テシ、山口弘達ハ幼齡ヲ以テ、並ニ老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。
内國事務局證書
山口弘達家記

復古記 明治元年二月

五九

○東海道ノ先鋒兵、名護屋ニ會ス、是日、總督橋本實梁、名護屋ヲ發ス、東海道東山道ノ兵モ亦大垣ニ會ス、總督岩倉具定、明日將ニ大垣ヲ發セントス、因テ書ヲ京師ニ呈シテ、本道ノ事情ヲ告ケ、且戸田氏共幼齡先鋒ノ任ニ勝エサルヲ以テ、獨其兵ヲ徵發シ、氏共ヲ京師ニ召サント請フ。

二十一日、親征ノ期近キヲ以テ、鞏下ノ守備ヲ戒ム、乃チ薩摩以下十四藩ニ令シテ、九門及ヒ大津、山崎ノ守ヲ嚴ニシ、加賀取縮ヲ罷メ、多度津藩ヲ以テ之ニ代ヘ、大洲以下三藩ノ市中巡邏ヲ罷メ、大聖寺、富山二藩ヲ以テ之ニ代フ、又岸和田藩ノ堺港警守ヲ罷メテ、藩備ヲ嚴ニセシメ、府中長藩ヲ以テ之ニ代ヘ、有馬慶頼、松平慶倫、立花鑑寛、阿部正方ヲ召シテ、攝海ヲ守衛セシム、羣テ府中藩ヲ罷ム。

○徳川慶喜ノ謝罪表ヲ卻ケ、松平慶永ニ諭シテ、罪ヲ大總督ニ乞ハシム。

○織田長易、大和國監撫ノ命ヲ受クルヲ以テ、歸藩セント請フ、之ヲ聽ス。二十六日
途ニ上ル。

○徳川茂承、京ニ至ル、小笠原貞孚老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム、土方雄永、病ヲ以テ上京遲延ヲ謝ス。内國事務局證書

○大總督熾仁親王、名護屋ニ抵ル。東征略記
 ○上岐頼知、封内擾動ヲ以テ、歸邑ヲ德川氏ニ乞フ、之ヲ聽ス。二十六日途ニ上ル、土岐頼知家記

卷三十八

明治元年戊辰二月二十二日ニ起リ二十四日ニ至ル

二十二日、鍋島茂實ヲ以テ議定兼外國事務局權輔ト爲シ、平田
 鏞胤大角久、保田藩士ヲ參與兼神祇事務局判事ト爲ス。
 ○戸田忠至ニ命シ、舊ニ仍リテ、山陵修補ノ事ヲ管セシム。
 ○大澤基壽右京大夫、京極高福並二高家衆、朝臣ト爲ス。高家、朝臣ト爲ス、人名ハ三月誓約ノ條下ニ合記ス。
 ○關長克、蒔田廣孝、備中國監撫ノ命ヲ受ケシヲ以テ、歸邑ヲ請フ、之ヲ許ス。長克ハ二十四日、廣孝ハ二十五日途ニ上ル。
 ○龜井茲監、其家臣大國隆正、仲、福羽美靜文三ヲ薦舉ス。
 ○是ヨリ先、佛國公使レヲシ、書ヲ外國事務總督伊達宗城ニ致シ、堺港爭鬪ノ處分ヲ要求ス、英伊以下各國公使モ亦書ヲ致シテ、速ニ其求ニ應センコトヲ陳ス、廷議其言ニ從フ、是日、外國事務局輔東久世通禧、伊達宗城、各國公使ニ復書シ、明日ヲ以テ犯罪者ヲ刑スルヲ告ク。
 ○前田齊泰中納言○加賀藩主慶寧ノ父、齊家記、京ニ至ル。前田慶寧

○德川氏、老中職稻葉正邦ヲ罷ム。稻葉正邦家記
 二十三日、金銀舊貨、姑ク新貨ト並ヒ行ハシム。
 ○池田茂政、其臣神戸爭鬪ノ故ヲ以テ、書ヲ上リ、屏居シテ命ヲ待ツ、旨アリ之ヲ問ハス。

○前田慶寧ノ老臣、書ヲ上リ、親征先鋒タランコトヲ請フ、既ニシテ、廣寧又北陸道先鋒ト爲リ、且親征ノ軍資ヲ獻セント乞フ、皆聽サス、令シテ親兵編制ノ費用ヲ上ラシム。
 ○毛利元周、義弟元懋宗五ヲ以テ嗣ト爲サント請フ、之ヲ聽ス。
 ○松平直己、松平直哉宗五京ニ至ル。松平直己、松平直哉家記
 ○土佐藩士箕浦元章吉之、西村氏同左平以下二十人ノ佛人ヲ妄殺セシ罪ヲ正シ、死ヲ堺港妙國寺ニ賜フ、内外檢吏之ニ莅ム、刳腹十一人ニ至ル。佛國公使、遽ニ書ヲ以テ、九人ノ死ヲ止メント請フ、乃チ之ヲ本藩ニ付シテ、流ニ處ス。
 二十四日、始テ理國ヲ京師ニ置キ、言路ヲ洞開ス。
 ○諸家ニ令シテ、其阜隸ノ祭賽演劇等ノ地ニ至リ、橫暴ノ行ヲ爲スヲ禁ス。
 ○是ヨリ先、松平頼位主税頭○安旨藩主食其萬石ヲ舊幕府ニ獲テ、鯖江藩ニ屏居ス、是日、其罪ヲ釋シ、職位ヲ復ス。
 ○小濱藩保管ノ舊水戸藩士武田蓋金次以下ヲ釋シテ、本藩ニ復

歸セシメ、命シテ先主德川齊昭贈大納言○水戸藩主慶篤ノ父、尊王ノ遺志ヲ繼キ、且藩内ノ奸黨ヲ勦除セシム。

○酒井忠義ノ請ヲ聽シ、大阪ノ藩邸ヲ還付ス。
 ○蜂須賀茂韶、書ヲ上リ、關外ノ事ヲ以テ、専ラ大總督ニ委シ、親征ノ學ヲ止メンコトヲ建議ス、報セス。
 ○朽木爲綱、其家臣山陰道鎮撫使西園寺公望ノ譴責ヲ受ケシヲ以テ屏居シテ命ヲ待ツヲ稟ス。
 ○本莊宗秀伯耆守○宮津藩主、宗武ノ父、京ニ至ル。
 ○是ヨリ先、上杉齊憲將ニ京ニ朝セントス、福島興與ニ抵リ、伏見ノ變ヲ聞ク、乃チ國ニ還リ、老臣ヲシテ兵ヲ率テ京ニ至ラシム。
 ○安部信發、井上正順疾ヲ謝シ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。○辨事局記
 卷三十九
 明治元年戊辰二月二十五日ニ起リ二十七日ニ至ル
 二十五日、是ヨリ先、攝津、播磨二國ノ土民擾亂ス、是日、明石、龍野二藩ニ命シテ、之ヲ鎮輯セシム。二藩兵ヲ出スニ及ヒテ、賊已ニ平ク。
 ○福山藩、其松山伊豫、征討ノ兵ヲ撤セント請フ、之ヲ聽ス。

○片桐貞篤、藩事ヲ以テ歸邑ヲ請フ、之ヲ聽ス。二十九日途ニ上ル。
 ○德川慶勝、德川茂承、松平茂昭書ヲ上リ、德川慶喜既ニ其罪ニ服セシヲ以テ、東征ノ師ヲ止メンコトヲ請フ、批シテ大總督ニ請ハシム。
 ○内國事務局、北陸道先鋒總督高倉永祐、四條隆平ニ移書シテ、其職掌ヲ諭示ス。
 ○土井利教、京ニ至ル。土井利和、牧野康濟、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。○内國事務局

○戸田忠行、是ヨリ先、附近ノ諸藩ニ移書シ、與俱ニ王師ヲ迎へ、德川氏ヲシテ不義ニ陥ラサシメ、以テ朝廷ノ恩赦ヲ請ハシム。時ニ陸軍奉行タリ、封邑ニ歸ル。
 二十六日、再ヒ親征ノ期ヲ布告シ、且衆庶ヲ諭シテ、各其業ニ安シ、危懼ヲ懷クコト勿ラシム。
 ○九條道孝ヲ以テ奥羽鎮撫總督ト爲シ、總督澤爲量ヲ副總督ト爲シ、副督醒醐忠敬ヲ參謀ト爲シ、期ヲ刻シテ、進征セシム。
 ○佛、英、蘭三國公使入京ノ期ヲ布告シ、更ニ加賀、薩摩以下諸藩ニ命シテ、其旅館及ヒ道路ヲ警守セシム。
 ○諸侯ニ令シテ、立烏帽子、裏附狩衣等ヲ服スルヲ許ス。
 ○松平慶永ノ勤勞ヲ賞シ、直衣ヲ服スルヲ許ス。

○丹羽氏中及ヒ其家臣、勤王誓書ヲ上ル。

○織田信學、病ヲ謝シ、其子信敏^{富久}、ヲシテ入觀シ、水野勝知モ亦老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。織田信敏、水野勝知家記

○伊達慶邦、疏ヲシテ、討會ノ不可ヲ陳シ、先ツ其曲直ヲ正サシ、^{孫三}又使ヲ奧羽諸藩ニ發シテ、之ヲ告ク、是日、老臣大條道徳、^{孫三}疏ヲ齎シテ京師ニ抵ル、既ニシテ、上杉齊憲モ亦使臣ヲ遣シ、上書シテ之ヲ論ス、皆上ルヲ果サス。

二十七日、神祇事務局督轅仁親王ヲ罷メ、參與兼神祇事務局輔白川資訓ヲ以テ議定兼神祇事務局督ト爲シ、參與兼神祇事務局判事龜井茲監ヲ議定兼神祇事務局輔ト爲ス。

○軍防事務局判事吉井德春ニ命シ、權判事大村永敏^{益次郎}ト共ニ軍制ヲ議定セシム。

○鷺尾隆聚ノ部兵ヲ以テ親兵ト爲ス。

○長門藩兵ノ兵庫警守ヲ罷ム。

○龜井茲監、服役多端、兵員給セサルヲ以テ、猿カ辻ノ守衛ヲ免セント請ヒ、小笠原貞孚、藩力疲弊スルヲ以テ、在京ノ兵ヲ罷メンコトヲ請フ、是日、皆之ヲ聽ス。

○一柳頼紹、疾ヲ謝シ、其子頼明^{徳次}ヲ以テ嫡嗣ト爲シ、且代リテ入觀セシメント請フ、之ヲ聽ス、明日、頼明京ニ至ル。

○土方雄永、京ニ至ル^{土方雄永家記}、尋テ書ヲ上リ、王事ニ服センコトヲ請フ。大久保忠禮、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。

○大總督府、書ヲ内國、軍防二局ニ致シ、東國ノ諸侯以下入觀シテ請求スル所アラハ、宜ク其本府ヲ經由スルヤ否ヤヲ廉問スヘキヲ報ス。

卷四十

明治元年戊辰二月二十八日ニ起リ二十九日ニ至ル

○二十八日、天皇便殿ニ御シテ、在京ノ諸侯ヲ召見シ、同心協力、益國事ヲ勉メンコトヲ詔諭シ、宴ヲ別殿ニ賜フ、又島津忠義父子、毛利廣封父子ノ勳勞ヲ賞シテ、各物ヲ賜フ。

○凡ソ上申稟請ノ書、之ヲ辨事局ニ進啓セシム。

○外國公使將ニ入京セントスルヲ以テ、神祇事務局督白川資訓、輔吉田良義ニ命シテ、道饗祭ヲ禁門外ニ修ス、又公使朝參ノ期ヲ警護諸藩ニ布告ス。

○松平武聰ノ徳川慶喜ノ連累ヲ問ハス、其入京ヲ許シ、功ヲ立テ、伏見舉動ノ罪ヲ謝セシム、適武聰疾アリ、途ニ上ルコト能ハス、尋テ兵ヲ出シテ軍役ニ供センコトヲ請フ。

○相馬季胤、官軍應援ノ命ヲ奉シテ、江戸ヨリ藩ニ歸ルヲ以テ老臣ヲ京師ニ遣シ、姑ク入觀ノ期ヲ緩センコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○森忠典、疾ヲ謝シ、嗣子忠儀^{徳次}ヲシテ入觀セシメ、前田利堯モ亦老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。森忠典、前田利堯家記

○稻葉正邦、將ニ江戸ヨリ入觀セントス、徳川慶喜、謝罪狀ヲ託シテ之ヲ奏セシム。淺野氏祐^{美作守}、等、之ヲ松平慶永ニ報道ス、是日、慶永、書ヲ正邦ニ遣リ、之ヲ大總督ニ上ラシム、正邦遂ニ上ルヲ果サス。

卷四十一

明治元年戊辰二月晦日

晦日、佛國全權公使レオンロッシュ及ヒ船將二人、蘭國公務代理總領事ト、デ、クラフファンボルスブロック及ヒ書記官、朝參ス、天皇之ヲ紫宸殿ニ延見シ、益交際ヲ厚クシ、之ヲ久遠ニ要スルノ旨ヲ勅諭ス、公使等恩命ヲ奉シテ退ク、是日、英國公使モ亦將ニ朝セントス、途中刺客アリ、其從衛ヲ衝突ス、遂ニ朝スルヲ果サス。

○外國事務局督晃親王以下ヲ英國公使ノ客館ニ遣シテ、之ヲ慰問シ、且書ヲ遺リテ之ヲ謝ス、又諸藩ニ令シテ、犯人ヲ搜索シ、警護ヲ嚴ニス、尋テ護衛ノ隊長ヲ按問シテ、之ヲ譴罰ス。

○大原俊實ヲ以テ海軍先鋒ト爲ス。

○井伊直憲、疾ヲ以テ、大阪行幸ニ扈從スルコト能ハス、因テ

○是ヨリ先、牧野貞利^{徳次}大阪ヨリ江戸ニ歸ル、是日、老臣ヲ遣シテ、書ヲ上リ、藩士ノ不協ヲ慮リテ、東歸セシヲ陳シ、入觀遅延スルヲ謝ス、批シテ、藩論一定ノ後、上京シテ命ヲ俟シム。

○是ヨリ先、姫路ノ老臣、兵隊及ヒ船隻ヲ出シテ、東征ノ用ニ供センコトヲ請フ、是日、批シテ後命ヲ俟タシム。

○有馬道純ノ家臣、書ヲ上リ、道純江戸ヲ發シテ西上シ、途中北陸道總督府ノ召命アルニ會フ、京師已ニ近キヲ以テ、先ツ入觀セントスルヲ稟ス、後二日、道純京ニ至ル。

○有馬慶頼、京ニ至ル、^{辨事局}戶澤正實、立花種恭、津輕承叙、疾ヲ謝シ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。戶澤正實、立花種恭、津輕承叙家記

二十九日、薩、藝、長三藩ニ命シ、外國公使朝參ノ際、建春、日華、月華ノ三門ヲ守衛セシム。

○永井尙服^{肥前守}、^{加納藩主}ノ家臣、尙服ノ別邑、大阪行幸ノ蹕路ニ係ルヲ以テ、奉迎ノ條款ヲ稟請ス。

○本多忠鄰、疾ヲ以テ歸藩ヲ請フ、是日、之ヲ聽ス。明日途ニ上ル。

○岡部長寛、江戸ヨリ西上シ、途中疾ニ罹レルヲ以テ、姑ク封邑ニ就カンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○井伊直憲ノ家臣、柳瀬關門廢置ノ事ヲ稟請ス。

老臣ヲシテ、兵ヲ率キテ沿路ヲ警護セシメント請フ。
 ○有馬氏弘、疾ヲ謝シ、在京ノ老臣ヲシテ代リテ事ニ從ハシメント請フ。

○鍋島齊正、青山忠敏、長岡護美良之助○肥後京ニ至ル、鍋島直大軍記
 黒田直養、疾ヲ謝シ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。辨事局
 是月、參與櫻井元憲ヲ罷ム。櫻井元
 憲軍職

○制度事務局權判事井上長秋、石見議ヲ上リ、衣服ノ制ヲ定
 メント請フ。

○毛利廣封、書ヲ上リ、癸丑以來外交論ノ沿革得失ヲ陳シ、一
 定ノ國是ヲ守リ、萬國ト並立センコトヲ請フ。

○土佐藩士石田忠郷英吉等、書ヲ上リ、鹽飽、小豆二島並ニ鹽飽
 二島ニ屬ス、鎮撫ノ狀ヲ陳シ、朝命ヲ得テ之ヲ管守シ、且伊豆、佐渡ノ諸島ヲ
 安輯センコトヲ請フ。

○本多忠鵬、病ヲ謝シ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシメ、本田忠
 前田利同モ亦老臣ヲシテ兵ヲ率キテ京ニ至ラシム、

卷四十二

明治元年戊辰三月一日ニ起リ三日ニ至ル

○三月 朔日、鍋島齊正ヲ以テ議定ト爲シ、史官毛受洪及ヒ長岡護美ヲ

參與ト爲シ、參與田中輔、坊城俊章及ヒ洪ヲ以テ辨事ヲ兼シ
 メ、參與荒川良知ヲ罷ム、尋テ齊正、護美ニ軍防事務局輔ヲ兼
 シム。

○暗殺ノ禁ヲ申ヌ。

○加藤明實、扈蹕中錦旗ノ守衛ヲ罷メント請フ、是日、伊東長
 辭ヲ以テ之ニ代ヘ、赤穂藩ノ姫路守兵ヲ罷ム、柳澤保中、大阪
 ニ赴キテ安治川口ノ守兵ヲ督セント請ヒ、池田政禮、疾ヲ以テ
 歸藩セント請フ、並ニ之ヲ聽ス。政禮明日
 途ニ上ル

○興福寺學侶、書ヲ行幸奉行坊城俊政ニ上リ、使役ニ供センコ
 トヲ請フ、是日、命シテ御服櫃ヲ護衛セシム。

○軍防事務局督嘉彰親王、昨日ノ變、親兵ニ出テシヲ以テ、書
 ナ上リ罪ヲ乞フ。

○池田茂政、播磨、美作、備中諸藩以下歸順ノ狀ヲ奏ス。

○鍋島直彬京ニ至ル、板倉勝己、疾ヲ以テ老臣ヲシテ代リテ京
 ニ至ラシム。鍋島直彬
 板倉勝己軍職

○東山道先鋒總督岩倉具定、下諏訪驛信ニ抵ル。東山道總
 督府日記
 二日、車駕啓行ノ期ヲ延フルヲ布告ス。

○參與久保田秀雄ヲ罷ム。
 ○英國公使明日參朝スルヲ以テ、薩摩、紀伊以下諸藩ニ命シ

テ禁門及ヒ道路ヲ警守セシム。

○立花種恭、藩兵ヲ以テ宗家ノ隊伍ニ附シ、征役ニ從ハント請
 フ、之ヲ聽ス。

○九鬼隆義、疾ニ罹リ、入觀スルコト能ハサルヲ以テ、米ヲ獻
 シテ、軍資ニ供セント請フ、之ヲ聽ス。

○松平定安、失火ノ際、參朝等ノ事宜ヲ稟請ス。

○奥羽鎮撫總督九條道孝、副總督澤爲量、京師ヲ發ス、仙臺、薩
 摩、筑前、長門四藩兵之ニ屬シ、天童藩之カ前導タリ、紀伊、安
 藝、筑前、出雲四藩ヲシテ汽船ヲ出サシム。

○大久保忠禮、堀田正倫等、四十三人、連署上疏シテ徳川慶喜
 ノ爲ニ哀ヲ請フ、批シテ之ヲ大總督ニ上ラシム、忠禮等遂ニ上
 ルヲ果サス。

○藤堂高潔、京ニ至ル。藤堂高
 潔軍職
 ○北陸道先鋒總督高倉永祐、金澤加ニ抵ル。北陸道
 先鋒記
 ○是ヨリ先、徳川慶喜大師東下スルヲ聞キ、其臣隸ヲ戒飭シテ
 罪戾ヲ犯スコト勿ラシム、是日又之ヲ申諭ス。

三日、上巳、外國公使朝見スルヲ以テ、參賀ヲ停ム。

○英國公使スル、ハルリー、エス、パークス、及ヒ書記官朝參
 ス、勅諭奏對、略前儀ノ如シ、又前日途上ノ變ヲ宣慰ス、是日、
 ヲ警守セシム。

佛、蘭二國公使モ亦禁内ニ參同ス。

○一柳頼明、其父頼紹勤王ノ素志ヲ陳シテ、親征ニ從ハント請
 フ、又水野勝知ノ老臣、勝知ノ召命ヲ罷メ、藩ニ赴キ、時ニ勝知
 江戶ニ在
 リ、王事ニ服セシメント請フ、批シテ其歸藩ヲ許シ、後命ヲ俟シ
 ム。

○佛、英、蘭三國公使、將ニ京師ヲ辭セントス、加賀以下諸藩ニ
 命シテ之ヲ護送セシム。

○板倉勝股、疾ヲ謝シ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。板倉勝
 股軍職

卷四十三

明治元年戊辰三月四日ニ起リ五日ニ至ル

四日、蜂須賀茂韶ヲ以テ議定兼刑法事務局輔ト爲シ、荒尾成章
駿河、因ヲ參與兼刑法事務局判事ト爲シ、神祇事務局判事平田
神祇士、鐵胤ヲ内國事務局判事ト爲シ、參與田宮篤輝ヲ以テ内國事務
 局判事ヲ兼ネ、外國事務局判事寺島宗則ニ制度事務局判事ヲ兼
 シム。

○久留米藩ニ命シテ、神戸ヲ警守セシム、尋テ柳河、大洲二藩
 ナシテ神戸、西宮ヲ守衛セシメ、久留米藩ヲ罷ム。

○是ヨリ先、藤堂高邦ヲ召ス、是日、京ニ至ル、命シテ宇治關門
 ナ警守セシム。

○京極高典ノ請ヲ許シテ、市中取締ヲ罷メ、松平義勇ヲ以テ之ニ代フ。

○池田茂政、淺野茂勳、各書ヲ上リ、舊松山ノ封地及ヒ河邊川以西ノ地ヲ管スルコト、並ニ其舊ニ仍ラント請フ、之ヲ聽ス。

○永井直諒、永井直哉、谷衛滋、公事或ハ疾ヲ以テシ、並ニ歸藩ヲ乞フ、是日、皆之ヲ聽ス。直諒ハ七日途ニ上リ、直哉ハ六日。

○伊達宗徳、松山平定ニ就キシヲ以テ、其兵ヲ班ヘスヲ稟ス。

○土屋寅直、松平頼繩播磨守○常陸府中藩主、食封二萬石、後石岡ト改稱ス、阿部正恒、疾ヲ謝シ、老臣ヲシテ京ニ至ラシム。阿部正恒家記

○英國公使ヲ襲撃セシ兇徒、二枝眞洞和名○大朱雀貞固城人○山ノ梟首ニ處シ、其黨二人ヲ流ス、尋テ外交ノ朝旨ヲ海内ニ告諭シ、横逆ヲ外人ニ加フルコト勿ラシム。

○佛、英、蘭三國公使京師ヲ辭ス、加賀、薩摩以下諸藩之ヲ衛送ス。

○牧野貞利、黒田直養、徳川氏ニ請ヒ、江戸ヨリ其藩ニ歸ル。野貞利、黒田直養家記

五日、是ヨリ先、丸龜、大洲以下十四藩ニ命シテ、吏人ノ民政ニ通セシモノヲ選舉セシム、是ニ至リ、之ヲ諸道ニ分遣シ、所在ノ郡邑新ニ官地ニ屬セシモノヲ巡按シ、府庫ヲ檢シ、民瘼ヲ恤

ス。

○蜂須賀茂韶、親征ノ扈蹕タラシコトヲ請フ、從衛既ニ具ルヲ以テ、姑ク京師ヲ留守セシム。
○毛利元周ノ退老ノ請ヲ聽シ、養子元懋ヲシテ其封ヲ襲カシム。
○脇坂安斐、藩事ヲ以テ歸封ヲ請ヒ、堀直賀、封疆會津ニ隣スルヲ以テ、先ツ歸リテ民心ヲ鎮輯シ、後ニ入觀セント請フ、並ニ之ヲ聽ス。直賀、時ニ江戸ニ在リ、安斐、七日途ニ上ル。
○板倉勝尙、鶴ニ朝會ノ命ヲ奉シ、又奥羽應援ノ令アリシヲ以テ、書ヲ上リ、入觀歸藩ノ決ヲ稟ス。時ニ江戸ニ在リ、是日、批シテ入朝セシム、勝尙途ニ朝スルヲ果サス。
○小笠原長國、大坂ニ抵リ、書ヲ裁判所總督醍醐忠順ニ上リ、屏居シテ罪ヲ待ツ、又之ヲ朝廷ニ稟ス、是日、批シテ京ニ入り後命ヲ俟シム。
○稻垣長行ノ老臣京ニ在ルモノ、龜山藩ニ因リテ書ヲ上リ、其主ノ爲ニ哀ヲ乞フ、是日、批シテ長行ヲシテ歸順ノ實ヲ舉ケ、後命ヲ俟シム。
○松平頼英、本多助成、疾ヲ謝シ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。頼英ハ兵士一小隊ヲ附ス○松平頼英家記、内閣事務局長書

○大總督熾仁親王駿府城ニ入ル。先鋒總督橋本實梁、副總督柳原前光來會ス。東征紀略

卷四十四

明治元年戊辰三月六日ニ起リ八日ニ至ル

○六日、九州鎮撫總督澤宣嘉ニ命シテ、西海道ヲ統轄セシム、因テ薩摩、肥後以下ノ諸藩ニ令シ、舊代官地檢査等ノ事、之ヲ總督ニ申セシム。

○是ヨリ先、高松保實ニ命シテ、其子實村ヲ召還ス、是日、保實ニ付シテ之ヲ幽ス。

○山内豐範、大坂ニ在リ、病ヲ以テ藩ニ歸ラント請フ、之ヲ聽ス。

○大總督熾仁親王、二道ノ先鋒總督ニ令シ、本月十五日ヲ期シテ江戸城ヲ進撃セシム。東征總督記

○東山道先鋒、賊藤原長近ヲ勝沼驛甲斐山梨郡ニ撃チテ、之ヲ破ル。東征總督記

○田安慶頼、中納言、徳川氏三卿ノ一、後藩屏ニ列シテ徳川氏ヲ稱ス書ヲ東海道先鋒總督橋本實梁ニ上リ、勤王ノ素志ヲ陳シ、且徳川慶喜ノ爲ニ哀ヲ乞フ、是日、命シテ慶喜謝罪ノ實ヲ舉ケ、且緩急ノ際、親子内親王ヲ護衛セシム。

○徳川氏ノ家臣、淺野氏祐、川勝廣運備後守、官軍東下ヲ以テ、書

ヲ佛國公使ニ致シ、横須賀製銃所造營ノ工ヲ停ム。
七日、大津裁判所ヲ置キ、議定長谷信篤ヲ以テ總督ト爲ス。議定如シ。
○諸藩ニ令シテ、士庶ノ遁逃ヲ禁シ、言路ヲ洞開シ、民情ヲ疏通セシム。
○堀親義ノ退老ノ請ヲ聽シ、養子親廣三之丞ヲシテ其封ヲ襲カシム、又酒井忠惇ノ入京ヲ止メ、其官位ヲ褫ク。
○鍋島茂實、支族直彬ヲシテ、代リテ長崎鎮衛ヲ按行セシメント請フ、之ヲ聽ス。直彬、九日途ニ上ル。
○議定島津忠義、俸金ヲ辭ス、聽サス。
○山内豐範、別子銅山伊豫字摩那、在リノ事狀ヲ陳シテ、之ヲ管理セント請フ、聽サス。
○柳生俊益、歸藩ヲ請ヒ、京極朗徹、養父高朗長門守ノ疾アルヲ以テ、歸藩ノ次江戶ニ在リ、京師ニ詣ラスシテ、直ニ藩ニ就カシメント請フ、並ニ之ヲ聽ス。俊益、十日途ニ上ル。
○細川興貫、森川俊方、疾ヲ謝シ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム、細川興貫又丹羽長國、支族一柳國敬ヲシテ代親セシメント請フ、遂ニ果サス。
○勝山藩美作、美作警備ノ兵ヲ撤還セシテ稟ス。

○石川總管、德川氏ニ請ヒ、江戸ヨリ其藩ニ歸ル。石川綱
管家記
八日、橋本實麗ヲ以テ參與ト爲ス。
○市中取締三藩、藩所、藤、高須、ヲ以テ京都裁判所ニ屬ス。
○是ヨリ先、典藥少允高階經由安藤等、書ヲ上リ、醫學ヲ興復シ歐洲ノ方技ヲ兼用センコトヲ請フ、是日、令シテ歐方ノ所長ヲ採用ス。
○是ヨリ先、松平頼聰京ニ詣リ、屏居罪ヲ待チ、上書シテ、軍資金ヲ獻セント請フ、是日、之ヲ聽ス。
○生駒親敬大内藏交代寄合、後藤藩、ノ請ヲ聽シ、命シテ奥羽鎮撫使ニ屬セシム。
○東本願寺光勝、募化ノ金穀ヲ獻ス、因テ書ヲ賜ヒテ之ヲ賞ス。
○是ヨリ先、遠藤胤城、加藤明實ニ因リテ哀ヲ乞フ、是日、其家臣書ヲ上リ、胤城、東山道總督ニ就テ罪ヲ謝スルヲ以テ、入觀遅延スルヲ稟ス。
○青山幸宜、京ニ至ル、青山幸
宜家記秋元禮朝、疾ヲ謝シ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。辨事
局記
○松平定敬、德川氏ニ告ケテ、江戸ヲ去リ、其別邑柏崎越後、ニ赴ク。

○親子内親王、將ニ大總督ニ哀請スル所アラントス、因テ田安慶頼ヲシテ其臣隸ヲ撫輯セシム。
九日、天皇、太政官代ニ臨ミ、三職ヲ召シテ、高野保建少將、清水谷公考建議ノ蝦夷開拓ノ可否ヲ諮詢ス、群議其利ヲ陳ス、是日、又宴ヲ百官ニ賜ヒ、其勤勞ヲ賞ス。
○毛利廣封ヲ以テ議定ト爲シ、議定鍋島齊正ノ軍防事務局輔ヲ罷メ、制度事務局輔ヲ兼シム。
○薩摩藩ニ命シテ、鷲尾隆聚ノ邸ヲ守衛セシム、之ヲ辭ス、建部政世モ亦華頂宮ノ警衛ヲ罷メント請フ、之ヲ聽ス。
○是ヨリ先、戸田氏共ヲ召ス、是日、京ニ至ル。
○松平頼升、疾ヲ謝シ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。松平喜
徳家記

卷四十五

明治元年戊辰三月十日
日ニ起リ十一日ニ至ル

十日、浪士ノ私ニ貴紳ニ託シテ、其附屬兵ト稱スラル禁ス。
○是ヨリ先、奥平昌服ヲ召シテ、大阪ヲ守衛セシム、時ニ昌服疾ニ罹ル、而シテ其子昌邁美作大阪ニ在リ、是日、書ヲ上リ、自ラ其父ニ代ラント請フ、之ヲ聽ス。
○秋月藩ニ命シテ、二條城ノ柵門ヲ守衛セシム。黒田長
徳家記
○德川慶喜、其臣梅澤亮ヲ遣シ、東山道總督岩倉具定ニ因リ

テ、哀請書ヲ上ル、具定之ヲ納レ、後命ヲ俟シム、是日、慶喜之ヲ其臣僚ニ告ク。

卷四十六

明治元年戊辰三月十二日
日ニ起リ十三日ニ至ル

十一日、神武天皇祭、使通船、ヲ畝傍陵ニ遣シテ、幣帛ヲ奉ス。
○在京ノ諸侯ニ令シテ、官位任叙ノ年月日ヲ録上セシム。
○藤堂高邦、宇治ニ赴キ、自ラ關門ノ守衛ヲ檢セント請フ、之ヲ聽ス。
○戸澤正實、六師應援ノ命ヲ奉スルヲ以テ、江戸ヨリ藩ニ就キ、兵備ヲ修理セント請フ、是日、之ヲ聽ス。
○榊原政敬、奥平昌邁、並ニ書ヲ上リ、德川慶喜ノ爲ニ哀ヲ乞フ、批シテ、之ヲ大總督ニ上ラシム。
○海軍先鋒大原俊實、京師ヲ發ス、乃チ薩摩、肥前、久留米三藩ニ命シテ、汽船及ヒ兵隊ヲ出サシム、尋テ肥後、阿波二藩兵ヲシテ陸路之ニ屬セシム。
○中川久昭、毛利高謙、京ニ至ル。中川久昭
毛利高謙家記
○松平慶永ノ臣江戸ニ在ルモノ、六師東下物情洶々ノ狀ヲ報ス、慶永其變亂ヲ生センコトヲ恐レ、書ヲ岩倉具視ニ致シテ、姑ク東征ノ師ヲ駐メ、謝狀ヲ採録セント請フ、是日、又中根師質ヲ遣シテ、其意ヲ申ス。

十二日、毛利敬親ノ請ヲ聽シ、其老臣吉川經幹ヲ以テ支封ト爲シ、藩屏ニ列ス。
○松平頼升、再ヒ討會ノ先鋒タラント請フ、之ヲ聽ス。
○議定山内豊信、疾ヲ大阪ニ養ハント請フ、之ヲ聽ス。
○黒田長薄、老臣ヲシテ長崎ヲ按行セシメ、其地異狀ナキヲ稟ス。
○松平忠和ノ老臣、藩兵京ニ至ルヲ稟シ、使役ニ供セント請フ。
○本多忠直平八郎、酒井忠經京ニ至ル、本多忠紀、疾ヲ謝シ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。辨事局記、本多忠
直、酒井忠經家記
○是ヨリ先、德川慶喜、入道公理親王ニ就テ、罪ヲ朝廷ニ謝セシメ、親王乃チ駿府ニ詣リ、大總督熾仁親王ニ謁シ、書ヲ上リ哀ヲ乞フ、是日、大總督、公理親王ニ諭シ、慶喜ヲシテ謝罪ノ實ヲ表セシム。
○德川慶喜、復其臣隸ヲ懇諭シ、輕舉妄動シテ、罪戾ヲ犯スコト勿ラシム。
十三日、副島種臣二郎、肥前ヲ以テ參與兼制度事務局判事ト爲シ、

議定細川護久ノ刑法事務局輔ヲ罷ム。
○薩摩、安藝、長門三藩ノ大阪市街取締ヲ改メテ巡邏ト爲シ、高島藩兵ヲシテ二條城ノ柵門ヲ警守セシム。
○詞官ノ公卿ニ因リテ執奏シ、及ヒ其配下タルヲ停メ、之ヲ神祇官ニ屬ス、又別當社僧ノ類、悉ク蓄髮セシム。
○久留島通靖、其治下要害ヲ闕クテ以テ、保防ヲ築キテ不虞ニ備ヘント請フ、之ヲ聽ス、其家臣、又窮民救恤ノ事ヲ稟ス、批シテ之ヲ長崎裁判所ニ請ハシム。
○備前藩、金岡港拘留ノ松平武聰ノ家臣ノ處分ヲ請フ、是日、批シテ之ヲ武聰ニ還付セシム。
○一柳末徳、京ニ至ル。一柳末徳家記
○小笠原忠忱、年幼ナルヲ以テ、老臣ヲシテ兵ヲ率キテ京ニ至ラシム。
○親子内親王、手書ヲ東海道先鋒總督橋本實梁、東山道總督岩倉具定ニ致シ、暫ク其進軍ヲ止メント請フ、報至ルニ及ヒテ、内親王、再ヒ其臣隸ヲ戒諭ス、是日具定板橋驛ニ抵ル。

卷四十七

明治元年戊辰三月十四日

十四日、天皇紫宸殿ニ御シ、公卿諸侯ヲ率キテ、天神地祇ヲ祭

リ、國是五章ヲ約定ス、曰、廣ク會議ヲ興シ、萬機公論ニ決ス、曰、上下心ヲ一ニシ、盛ニ經綸ヲ行フ、曰、官武一途、億兆其志ヲ遂ケ、人心ヲシテ倦マサラシム、曰、舊染ノ陋習ヲ破リ、天地ノ公道ニ基ク、曰、智識ヲ世界ニ求メ、大ニ皇基ヲ振起ス、又詔シテ、洪業ヲ紹述シ、蒼生ヲ安撫セント欲スルヲ告諭シ、各私見ヲ去テ、公議ニ遵ハシム。

○新發田藩兵ヲシテ華頂宮ヲ護衛セシム。瀨口直正家記
○初メ英國公使兇徒ノ横虐ニ遭ヒシヤ、法律ヲ設ケテ、將來ヲ禁戒セント請フ、因テ禁令ヲ草シテ之ヲ示ス、是ニ至リ、公使其公布ヲ促ス、乃チ明日ヲ以テ之ヲ要地ニ掲示スルヲ報ス。
○阿部正靜、白川ニ復封センコトヲ請フ、報セス。
○細川利永、本莊道美、京ニ至ル。細川利永家記
○是ヨリ先、徳川慶喜ノ臣山岡高歩領太、大總督府ノ參謀西郷隆盛ニ就キテ、其主ノ爲ニ哀ヲ乞フ、勝義邦モ亦書ヲ隆盛ニ致シテ、其意ヲ陳ス、大總督、乃チ實効ノ目ヲ指示シテ、之ヲ遣ル、是日、義邦及ヒ高歩等、隆盛ノ營ニ抵リ、指示ノ目ニ就キテ、其情願ヲ陳請ス、隆盛、乃チ東海、東山二道ノ先鋒總督ニ牒シテ、假ニ明日ノ進軍ヲ止ム。

卷四十八

明治元年戊辰三月十五日
日ニ起リ十八日ニ至ル

十五日、車駕發京ノ期、及ヒ海軍ヲ大阪海ニ闕スルヲ布告シ、且親征ノ旨趣ヲ申諭ス、乃チ加賀、薩摩以下ノ諸藩ニ令シテ、輦下及ヒ沿道ノ守備ヲ嚴ニセシム。
○禁令五條ヲ定メテ、之ヲ海内ニ頒チ、舊幕府ノ掲榜ヲ撤ス。
○内國事務局權判事長谷川景隆仁右衛門肥後藩士ヲ以テ參與兼内國事務局判事ト爲シ、議定伊達宗城ノ大阪裁判所副總督ヲ罷ム。
○池田茂政ノ請ヲ聽シ、支族政詮ヲシテ其後ヲ承ケ、政詮ノ子政保次ニ父ノ封ヲ襲カシム。
○阿波、土佐二藩ノ近江取締ヲ罷メ、其地ヲ巡警セシム、二藩並ニ之ヲ辭ス。
○牧野誠成、書ヲ上リ、其治所田邊京師ノ北門タルヲ以テ、歸藩シテ守備ヲ修メント請フ、之ヲ聽ス。明日途ニ上ル
○青山幸宜、東山道總督ノ譴責ヲ蒙リシヲ以テ、上書哀ヲ乞フ、是日、批シテ京師ニ屏居シ、後命ヲ俟シム。
○舊藩山代官江川英武太田左衛門書ヲ上リ、其家系及ヒ管地私田ノ沿革ヲ陳シテ命ヲ請フ、是日、批シテ舊ニ仍ラシム。
○井上正直、久松勝吉、相良頼基、板倉勝弘、京ニ至ル。井上正直久松勝吉

相良頼基鳥居忠實、小笠原貞正、病ヲ謝シ、並ニ老臣ヲシテ京板倉勝弘家記鳥居忠實之附ス、○鳥居忠實、小笠原貞正家記
○北陸道先鋒總督高倉永祐、高田後ニ抵ル。北陸道先鋒記
十六日、是ヨリ先、東山道總督岩倉具定、永井尙服ノ入謁ヲ止ム、既ニシテ、尙服旨ヲ得テ京ニ至ル、是日、上書シテ、起居ヲ候セント請フ。
○渡邊章綱、高木正坦主水正○丹南藩主食其盛實石京ニ至ル。渡邊章綱家記
○是ヨリ先、田安慶頼、書ヲ堀親義及ヒ上野、信濃ノ諸藩主ニ遣リ、援軍ノ事ヲ東山道總督ニ請ハシム、時ニ親義京師ニ在リ、乃チ岩倉具視ニ哀訴ス、具視、之ヲ大總督ニ上ラシム、是日、親義ノ使者駿府ニ至ル。
○徳川氏ノ臣僚、江戸城ヲ避テ、田安慶頼ノ第二徒ル。
十七日、長崎裁判所參謀大隈重信八太郎肥前藩士ヲ以テ參與兼外國事務局判事ト爲シ、横濱ニ駐在セシム。
○在京諸侯五節參賀等ノ條規ヲ定ム。
○内國事務局、其民政掛ヲ舊西奉行所ニ徙シ、民政役所ト稱ス。
○藤堂高潔ニ命シテ、親征ニ扈從セシム、黒田長知、池田章政、初名、相良頼基、扈從ヲ請フ、頼基ノ請ヲ聽サス、既ニシテ、長知

疾ミテ從フコト能ハス。

○府中藩ニ命シテ、蛤門ヲ守衛セシム。

○植村家保、松平直靜、將ニ江戸ヨリ入觀セントス、途中疾ニ罹レルヲ以テ、姑ク藩ニ歸リテ疾ヲ養ハント請フ、並ニ之ヲ聽ス、家保、其子家壹劍ハナシテ代リテ京ニ至ラシム。

○松平慶倫、書ヲ上リ、徳川慶喜ノ爲ニ哀ヲ乞フ、聽サス。

○大河内信古、稻葉久通、安部信發、京ニ至ル。大河内信古、稻葉久通、家記、内閣事務局長書

○大總督熾仁親王、書ヲ英國公使ニ遣リ、其東征ヲ告ク。

十八日、詔シテ、准后藤原氏ヲ尊ヒテ、皇太后ト曰ヒ、大宮ト稱ス。

○朝貴ノ名稱ヲ冒シテ、金銀ヲ貸與スルヲ禁ス。

○是ヨリ先、徳川徳成ニ命シテ、親征ニ扈從セシム、徳成幼齡ニシテ、騎ニ堪エサルヲ以テ、先ツ大阪ニ赴カント請フ、松平慶永モ亦疾ヲ以テ、扈蹕ヲ辭ス、是日、並ニ之ヲ聽ス。

○毛利元純、入觀ノ次大阪ニ至ル、適行幸ノ期ニ際スルヲ以テ、本地ニ逗留スルヲ稟ス。

○稻垣太清、京ニ至ル。稻垣太清、海軍少將、南都榮信家記南部信順、疾ヲ謝シ、老臣ヲシテ代リテ、京ニ至ラシム。

十九日、中山忠愛ヲ以テ參與ト爲ス。

○横濱裁判所ヲ置キ、兵庫裁判所總督東久世通禧ヲ以テ總督ト爲シ、外國事務局權輔鍋島直大初名、二人參與、ノ如シ、尋テ外國事務局判事井關盛良、寺島宗則等ヲシテ横濱ニ駐在セシム。

○加賀、久留米ニ藩ニ命シテ、今出川門、橋本關門ノ警衛ヲ交換セシメ、三日月藩ノ嵯峨口守衛ヲ罷メ、岡藩ヲ以テ之ニ代フ、又紀伊、久留米以下六藩ニ東征應援ノ兵備ヲ爲サシム。

○東山道先鋒ノ勝沼驛戰捷ヲ賞ス。

○森忠典、織田信學ノ退老ノ請ヲ聽シ、忠典ノ子忠儀、信學ノ子信敏ヲシテ、並ニ封ヲ襲カシム。

○松平定安、疾ヲ謝シ、支族直哉ヲシテ山碓關門ヲ守ラシメント請ヒ、永井直諒、其藩城行在ニ近キヲ以テ、留リテ公事ヲ措置セント請フ、並ニ之ヲ聽ス。

○大田原勝清、藩地傍近賊徒橫行ノ狀ヲ奏シ、朝命ヲ得テ之ヲ鎮靜セント請フ、是日、之ヲ聽ス。

○是ヨリ先、東山道先鋒總督岩倉具定、秋元禮朝、内藤頼直ニ

卷四十九

明治元年戊辰三月十九日ニ起リ二十日ニ至ル

謹慎ヲ命ス、是日、禮朝、頼直ノ老臣京ニ在ルモノ、並ニ書ヲ上リ、其罪ヲ釋シテ入觀セシメンコトヲ請フ、聽サス。
○成瀬正肥、戸田氏良、京ニ至リ、京極高富、疾ヲ謝シ、嗣子高陳右近ヲシテ代リテ入觀セシム、島津忠寬、大阪ニ至ル。成瀬正肥以下各名家記二十日、天皇親ヲ軍神ヲ紫宸殿ニ祭ル。

○再ヒ徳川慶喜ノ罪狀ヲ布告シ、私ニ文書ヲ通スルヲ禁ス。

○大總督熾仁親王、參謀西郷隆盛ヲ遣シテ、徳川慶喜處分ノ目ヲ稟ス、乃チ旨ヲ授ケテ、歸報セシム。

○島津忠義、封土十萬石ヲ獻シテ、軍政ヲ宏張セント請フ、是日、優詔シテ聽サス。

○戸田忠友、西上シテ大津驛ニ至リ、入觀運緩ノ罪ヲ陳謝ス、其支族忠至モ亦爲ニ哀ヲ乞フ、是日、批シテ後命ヲ埃タシメ、且其父忠恕越前守、江戶ニ在リ、召ス、會東山道總督岩倉具定モ亦忠恕ニ命シテ、藩境ヲ鎮輯セシム。

○内藤信民、江戸ヨリ歸藩セシノ狀ヲ陳シ、王事ヲ勤メント請フ。

○松平親良、小笠原長守、京ニ至ル。内閣事務局長書、小笠原長守家記

卷五十

明治元年戊辰三月二十一日ニ起リ二十二日ニ至ル

二十三日、車駕大坂ニ至ル、本願寺ヲ以テ行在ト爲ス。

○成瀬正肥ヲ以テ、參與兼會計事務局權判事ト爲ス。

○申ネテ大赦ノ節目ヲ勅諭シ、且嘉永癸丑以來、邦憲ニ觸レ、刑辟ニ陥リ、其情忠憤ニ出テシモノハ、子孫ヲ收録シ、其幽閉

二十一日、車駕京師ヲ發ス、副總裁三條實美、輔弼中山忠能、議定細川護久、淺野茂勳、及ヒ毛利廣封、池田章政等之ニ從フ、副總裁岩倉具視、輔弼正親町三條實愛、議定島津忠義、蜂須賀茂詔、及ヒ前田齊泰等、京師ヲ留守ス、是日、車駕八幡二次シ、逆徒平定ヲ石清水社ニ祈ル。

○太田資美、松平直致、京ニ至ル。直致ハ父慶喜ニ代ル、内閣事務局書、松平直致家記二十二日、車駕守口驛二次ス。

○是ヨリ先、松平武聰封ヲ失ヒテ、美作ノ別邑ニ在リ、困弊殊ニ甚シ、是日、池田章政、池田慶德ニ命シテ、之ヲ扶持セシム。

○京極高典、歸藩ヲ請フ、之ヲ聽ス。二十六日、途ニ上ル。

○丹羽氏中、大岡忠敬、京ニ至ル。丹羽氏中家記、内閣事務局書○是ヨリ先、兵庫裁判所總督東久世通禧ニ命シテ、姫路ノ事ヲ兼知セシメ、備前藩ノ管守ヲ罷ム、是日、通禧、姫路ヲ巡按シ、薩摩藩ノ軍監中村某吉源ヲシテ牙城ヲ監守セシメ、諸藩ノ守兵ヲ撤ス。

若クハ落魄セルモノハ、恩貸ノ典ヲ舉行セシム。

○西條藩ニ命シテ、二條城ノ柵門ヲ守衛セシメ、高取藩ノ市中巡邏ヲ罷ム、松平賴英、榎村家徳家記又久留米藩ノ堺浦警守、中津藩ノ大坂警守ヲ罷メ、並ニ其兵ヲ京師ニ召シ、筑前藩ヲ以テ久留米藩ニ代フ。

○宗義達ニ命シテ、朝鮮國通交事務ヲ掌リ、且太政復古ヲ報セシム。

○稻葉正邦、大津驛ニ至リ、入京ノ可否ヲ稟請ス、批シテ其ノ入京ヲ許シ、屏居シテ後命ヲ候シム。

○議定幟仁親王、海軍總督嘉言親王、大阪ニ赴ク。

○是ヨリ先、奥羽鎮撫總督九條道孝、松島城陸奥宮城郡ニ抵ル、伊達慶邦迎謁ス、命シテ速ニ兵ヲ會津ニ出サシム、是日、道孝仙臺ニ入ル。

○海軍先鋒大原俊實横濱ニ抵ル。海軍先鋒日記、大原重實事蹟

卷五十一

明治元年戊辰三月二十四日

二十四日、議定、參與及ヒ親王、公卿、諸侯、行在ニ朝ス、天皇、延見シテ之ヲ慰勞ス、是日、海軍親閱ノ日ヲ定ム。

○參與顧問小松清康、後藤元輝ヲ以テ、外國事務局判事ヲ兼ホシム。

卷五十二

明治元年戊辰三月二十五日

○二十五日、東國ノ形勢ニ隨ヒ、大師將ニ東征セントス、因リテ令シテ、諸軍ヲ勅メシム。

○參與烏丸光徳、後藤元輝、木村貞通ヲ以テ軍監ト爲シ、三人參與、島津忠寛、毛利元純ヲ扈蹕ニ加フ。

○伊達慶邦、上杉齊憲ニ申命シテ、速ニ討會ノ功ヲ奏セシム。

○膳所、篠山、高槻、龜山丹波ノ四藩ニ命シテ、京師防火ノ事ヲ掌ラシム。

○副總裁岩倉具視、議定、參與ヲ會シテ、再ヒ蝦夷開拓ノ事宜三條ヲ策問ス。

○是ヨリ先、石川成之、假ヲ乞ヒテ藩ニ歸リ、兵制ヲ釐革ス、未タ其功ヲ畢ヘス、是日、書ヲ上リ、入覲ノ期ヲ延ヘント請フ、眞田幸民、江戸ヨリ西上ノ途次藩ニ歸ル、軍事倥傯ナルニ會シ、入覲遲延スルヲ稟ス、並ニ之ヲ聽ス。

○大給近説、左衛門尉、府内藩主、食封二萬石、二百石京ニ至ル、其舊幕府ノ要路ニ在リシヲ以テ、屏居シテ後命ヲ候シム、近説、又中川久昭ニ因リテ、罪ヲ謝ス。

○是ヨリ先、酒井忠惇ノ老臣、忠惇ノ父忠績ヲ江戸ヨリ召サン

シム。

○銅錢ノ價位ヲ定ム。

○諸藩ニ令シテ、在京ノ兵員ヲ錄上セシム。

○久留米藩ノ桂宮守衛、新發田藩ノ華頂宮守衛ヲ罷メ、今治藩ヲ以テ新發田藩ニ代フ。有馬頼成、藩口直正久松定弘家記

○伊達宗城、支族宗孝ノ江戸ニ在リ、病ヲ謝シテ入覲遲延シ、其心懷疑フヘキヲ以テ、宗徳ヲシテ假ニ其封邑ヲ營セシメント請フ、之ヲ聽ス。

○立花種恭、封内騷擾スルヲ以テ、江戸ヨリ藩ニ就クヲ稟シ、入覲遲延ヲ謝ス、批シテ鎮定ノ後速ニ入覲セシム、奥平昌邁、大坂ニ赴キテ起居ヲ候シ、且援軍ノ事ヲ措辨セント請フ、之ヲ聽ス。二十八日、途ニ上ル。

○大河内信古、京邸失火ヲ申シテ罪ヲ乞フ、命シテ謹慎セシム。○秋月種殷ノ家臣、書ヲ上リ、藩兵ノ東上セシヲ以テ、東征ニ從ハシメント請フ、批シテ後命ヲ俟シム、是日、又繼至ノ兵ヲ錄上ス。

○鳥居忠寶、疾ヲ謝シ、其弟忠文右ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。鳥居忠文家記

ト請フ、之ヲ聽ス、忠績疾アルニ會シ、孫忠邦直之助、後忠惇ヲシテ代リテ西上セシム、忠邦大津驛ニ至リ、小濱藩ニ因リテ、忠績ノ哀請書ヲ上ル、之ヲ却ク、本地警守ノ阿波藩モ亦忠邦留宿ノ狀ヲ申ス、是日、阿波藩ニ令シ、忠邦ヲシテ姫路ニ歸リ、後命ヲ俟タシム。

○長門藩老毛利親信ノ禁闕守衛ノ功ヲ賞シテ、物ヲ賜フ。

○本多康稷、大津裁判所總督長谷信篤ノ命ヲ以テ、巡邏兵ヲ大津驛ニ出セシヲ稟ス。

○土井利恒、稻葉正善、京ニ至ル。土井利恒、稻葉正善家記

○是ヨリ先、水野勝知江戸ニ在リ、紀伊藩士某等ト竊ニ徳川氏ヲ扶持センコトヲ謀ル、老臣等、之ヲ諫メテ歸藩ヲ勸ム、聽カス、又彰義隊ト通ス、是ニ於テ、老臣等相謀リ、將ニ勝知ヲ廢シテ、義叔父勝寛助ヲ立テントス、是日、勝知、彰義隊ヲ率キ、藩城ヲ襲ヒテ之ヲ取ル。

卷五十三

明治元年戊辰三月二十六日ニ起リ二十七日ニ至ル

○松平頼英京ニ至ル。海平頼、英家記

○是ヨリ先、酒井忠惇ノ老臣、忠惇ノ父忠績ヲ江戸ヨリ召サン

ヲ措辨セシム。
○松平頼聰ノ家臣、書ヲ上リ、行在傍近ノ地ヲ守衛セント請フ、警守既ニ備ルヲ以テ、命シテ其兵ヲ還サシム。
○是ヨリ先、徳川慶勝旨ヲ奉シテ、東海、東山二道ノ諸藩ヲ勤諭シ、王事ヲ勤メシム、是日、慶勝、書ヲ上リ、其事大抵緒ニ就キ、且二道總督在ルアルヲ以テ、其局ヲ收メ、爾後勤王ヲ請フモノハ、直ニ之ヲ太政官ニ申セシムルヲ稟ス。
○山陰道鎮撫總督西園寺公望、京師ニ歸ル。

卷五十四

明治元年戊辰三月二十八日

二十八日、神佛ヲ混同シ、佛語ヲ以テ神號ト爲シ、佛像ヲ神體ト爲スノ類、一切之ヲ禁ス。
○諸標記等ニ禁裏ノ字ヲ冒シ、及ヒ菊章ヲ濫用スルヲ禁ス。
○學舍制ノ草案ヲ七局ニ下シ、其意見ヲ問フ。
○在京ノ諸侯ニ令シテ、簡簿ノ數ヲ録上セシム。
○是ヨリ先、大給乘謨、京ニ至リ、二十日起居ヲ候ス、是日、其嘗テ舊幕府ノ要路ニ在リシヲ以テ、更命シテ、屏居罪ヲ待タシム。
○水野忠弘、江戸ニ在リ、幼ニシテ且疾ニ罹リ、未入觀セサル

ヲ以テ、別墅ニ退居シ、病間ヲ俟テ、將ニ藩ニ赴カントス、因テ上書シテ、其意ヲ陳ス、是日、批シテ疾愈ユルノ後、先入觀セシム。

○内田正學、浮浪徒ノ警アルヲ以テ、江戸ヨリ藩ニ赴キ、入觀遲延スルヲ謝ス、批シテ先鋒總督ニ就キ、歸順ノ實ヲ表シ、後上京シテ命ヲ請ハシム。
○牧野康濟、京ニ至ル。民家記
○松平忠和ノ家臣、長崎警守ノ事ヲ裁判所總督ニ稟ス、令シテ、其舊ニ仍ラシム。
○上杉齊憲、伊達慶邦、使ヲ會津ニ遣シ、松平容保ニ勸ルニ降服ノ事ヲ以テス、尋テ仙臺、米澤、二本松三藩ノ使者、會津ニ會シ、前議ヲ申ヌ。

卷五十五

明治元年戊辰三月二十九日
九日ニ起リ晦日ニ至ル

二十九日、坊城俊政ヲ以テ參與ト爲シ、林和靖間詰ヲ兼シメ、大坂裁判所總督醍醐忠順ニ兵庫裁判所ノ事ヲ兼知セシム。
○舊制、宮、堂上等ノ采地ハ助役ヲ課セス、是日、令シテ全國ノ定制ニ從ハシム。
○各局及ヒ諸裁判所ニ令シテ、上廳放衙ノ時限ヲ嚴ニシ、各局

官吏ノ地方ニ祇役セシ者ハ、其路程歸京等ヲ具申セシム。

○松平直克、京ニ至リ書ヲ上リテ、起居ヲ候セント請フ、聽サス、屏居シテ後命ヲ俟タシム、堀田正倫モ亦京ニ至リ、大總督ノ譴ヲ蒙リシヲ以テ、屏居シテ罪ヲ待ツ。

○稻垣長行、龜山藩ニ因リテ、書ヲ上リ哀ヲ乞フ、是日、其入京ヲ許シテ、謝罪ノ實ヲ擧ケシム。
○大關増勤、奉次郎○黒羽藩主増裕ノ養子、時ニ増裕卒シテ、未タ封ヲ襲カス、其封境暴徒横行ノ狀ヲ申シ、朝命ヲ得テ、之ヲ鎮輯セント請フ、批シテ東山道總督ニ具申セシム。

○山内豊範ニ命シテ、佛國償金三分ノ一ヲ納レシム、豊範書ヲ上リ、廢帑ノ窮乏ヲ陳シ、官之カ措置ヲ爲サンコトヲ請フ、聽サス、豊範、乃チ金二千兩ヲ納レ、其期ヲ緩クセント請フ。

○土井利恒、其所管北蝦夷ノ墾闢、成功ヲ期シ難キヲ以テ、其地ヲ還納セント請フ。
○相良頼基、其所轄米良_{肥後}、椎葉山_{日向}ノ措置ヲ稟請ス。

○石川總管、水戸藩紛擾ノ故ヲ以テ、江戸ヨリ藩ニ付キシヲ稟ス。
○安藤信男、京ニ至ル。安藤信守家記

○一橋茂榮_{大納言}、徳川氏三卿ノ一、後藩及ヒ徳川慶喜ノ臣河津祐邦、大納言、徳川氏ヲ稱ス、

若年朝倉某_{御付}等、大總督府ニ詣リ、慶喜ノ爲ニ哀ヲ乞フ、親子内親王モ亦書ヲ先鋒總督橋本實梁ニ致シテ、茂榮哀請ノ事ヲ託ス、是日、大總督、茂榮等ニ諭シ、東歸シテ恩命ヲ俟タシム。晦日、親征中節朔ノ參賀ヲ停ム。

○庶民ノ搢紳家ニ請託シテ、臣隸ト冒稱スルヲ禁ス。
○是ヨリ先、酒井忠篤ヲ召ス、未タ至ラス、是日、再命シテ速ニ入觀セシム。

○鷺尾隆聚ノ高野山ニ在リシヤ、一山ノ僧徒各其力ヲ致シ、興山寺殊ニ功勞アリ、是日、興山寺ヲ以テ寺務總職ト爲シ、又衆徒ヲ褒獎ス。

○京極朗徹、疾ニ罹レルヲ以テ、藩ニ就キ、姪高德_{久之}ヲシテ己ニ代リ、闕下ニ候セシメント請ヒ、本多忠直、藩事ヲ以テ假ヲ請フ、是日、並ニ之ヲ聽ス。朗徹四月四日薨ニ上ル、忠直八五日

○土屋寅直ノ老臣、京ニ在ルモノ、書ヲ上リ、寅直疾未タ愈エス、嗣子學直_七、徳川慶喜ノ弟タルヲ以テ、其代親ヲ憚リ、一藩勤王ノ素志暢達スル所ナキヲ陳シ、暫ク歸藩シテ、其力ヲ効ス所アラシクトヲ請フ、是日、之ヲ聽シ、舉直ヲシテ大總督ノ指揮ヲ受ケシム。

○議定松平慶永、頒曆ノ制ヲ定メ、度量衡ヲ釐定センコトヲ建

議ス。

○是月、假ニ官員ノ月給金ヲ定ム、

○土井利教、藩事ヲ以テ歸封ヲ請フ、之ヲ聽ス。四月四日、途ニ上ル。

○是ヨリ先、舊長崎奉行河津祐邦、書ヲ清國江、南道ノ道臺ニ遣リ、我航客ノ路引照驗ノ事ヲ謀ル、是ニ至リ、道臺應實時ノ復書至ル。

卷五十六

明治元年戊辰四月一日ニ起リ二日ニ至ル

○四月

朔日、宿驛役所ヲ京師ニ置キ、諸道驛遞ノ事ヲ掌ラシム、又傳驛罷弊シテ、供億ニ堪エサルヲ以テ、一周年ヲ限リ、夫馬ノ雇錢ヲ増加ス。

○渡邊章綱、其封邑大阪ニ隣レルヲ以テ、行在所ノ事役ニ服セント請フ、是日、批シテ之ヲ行在所軍防局ニ請ハシム。

○酒井忠義ノ臣、江戸ニ在ルモノ、書ヲ東海道先鋒總督ニ上リ、徳川慶喜ノ爲ニ哀ヲ乞フ、時ニ忠義、讒ヲ獲テ京師ニ屏居ス、因テ奏シテ、其失體ヲ陳謝ス、是日、批シテ將來ヲ戒飭ス。

○日吉神社ノ社司、樹下茂國^{石見守、時ニ神祇事、}生源寺希理^{陸奥守、}等、神佛區別ノ令アリシヲ以テ、肆ニ祠壇ノ佛像梵具ヲ焚毀ス、延曆

寺之ヲ天台座主^{堀井}ニ訴フ、尋テ令シテ、祠官ノ暴舉ヲ爲スヲ禁シ、稟請ノ後其事ニ從ハシム。

○岩城隆邦、京ニ至ル。^{岩城隆、彰家記}

二日、皇太后、女御、及ヒ淑子内親王、^{中院}通富ヲ遣シテ、起居ヲ候シ、議定晃親王、參與堤哲長等モ亦前後大阪ニ赴ク。

○參與松平時厚ヲ以テ辨事ヲ兼シメ、參與大久保利通ニ命シテ、假ニ顧問ノ事ヲ行ハシム、又參與橋本實麗ニ内宮ノ事ヲ管セシメ、大原重徳ヲ罷ム。

○横濱裁判所總督東久世通禧、副總督鍋島直大ヲ以テ、假ニ江戸開市ノ事ヲ兼知セシム、直大之ヲ辭ス、聽サス。

○江戸ノ情勢ニ因リ、太政官代ヲ大阪ニ移ス議アリ、總裁局乃チ使テ大總督府ニ遣シ、成功遲速ノ心算ヲ問フ。

○再ヒ伊達慶邦ヲ諭シ、旁近ノ諸藩ヲ糾合シテ、速ニ討會ノ功ヲ奏セシム、因リテ其子宗敦^{左京}ニ假ヲ賜ヒ、藩ニ就カシム。

○安藤直裕、一柳頼明、歸藩ヲ請フ、並ニ之ヲ聽ス。^{直裕ハ本日途ニ上ル、頼明ハ九日}

○淺野茂勳、藩兵大阪ニ至ルヲ稟シ、東征ニ從ハシメント請フ、命シテ之ヲ京師ニ留メシム。

○本願寺光澤、書ヲ上リ、軍艦ヲ購置シテ之ヲ獻セント請フ、是日、批シテ其資ヲ移シテ、大津、伏見等設關築砦ノ要ニ供セ

シム。

○岡崎藩、隣境ノ民贖造ノ米券ヲ典シテ、金ヲ其管民ニ借リシヲ申シ、其處分ヲ稟請ス。

○議定博經親王、書ヲ上リ、大學校創建ノ事ニ參セント請フ。

○議定兼内國事務局輔松平慶永、書ヲ議定兼内國事務局督徳大寺實則ニ遣リ、其兼職ヲ解カントヲ請フ。

○松平忠禮、西尾忠篤、京ニ至ル。^{松平忠禮、西尾忠篤家記}

卷五十七

明治元年戊辰四月三日ニ起リ六日ニ至ル

三日、江戸城下物價騰貴、庶民其生ヲ聊ンセサルヲ以テ、仙臺藩ニ命シ、米斛ヲ豫備シテ、大總督ノ需用ニ供セシム。

○安部信發、其治所ヲ參河ノ別邑半原^{八名、}ニ移サント請ヒ、細川慶順、支族利永ヲシテ其邑ニ就キ、家事ヲ整理セシメント請フ、是日、並ニ之ヲ聽シ、利永ニ命シテ、事畢リシ後、再ヒ入觀セシム。^{利永七日、途ニ上ル。}

○是ヨリ先、保科正益、西上シテ草津驛ニ至リ、關吏ノ止ル所ト爲ル、因テ書ヲ上リ、入京ヲ請フ、其松平容保ノ支族ニシテ、宗家ヲ匡救セス、且命ヲ大總督ニ請ハサリシヲ以テ、許サス、既ニシテ、在京ノ老臣、分疏シテ衰ヲ乞フ、是日、其入京ヲ許

シ、屏居シテ後命ヲ俟タシム。

○是ヨリ先、大總督熾仁親王、先鋒總督橋本實梁、副總督柳原前光ニ命シテ、江戸ニ赴カシム、是日、實梁、田安慶頼ノ老臣ヲ召シ、明日ヲ以テ江戸城ニ入り、勅旨ヲ使フルヲ告ク。

○薩摩藩、英商ニ託シテ、軍艦^{薩摩}ヲ清國上海ニ修繕セントス、因リテ英國ノ旗章ヲ假用センコトヲ長崎裁判所ニ請フ、之ヲ聽ス。

四日、傳驛ニ令シ、公卿諸侯吏人等ノ陪隸、横暴ヲ爲スモノアレハ、直ニ之ヲ所在ノ官廳ニ訴ヘシム、隱庇シテ告ケサルモノハ、其罪ニ坐ス。

○是ヨリ、先筑前藩士、黨ヲ分チテ相闘ク、是日、藩主黒田長溥ニ命シテ、正邪ヲ判シ、人心ヲ一ニシ、以テ王事ニ勸メシム。

○内藤政學、京ニ至ル、命シテ、屏居セシム。

○瀧脇信敏、京ニ至ル、三浦顯次、^{女藩頭、勝山、伊織、黒川、議主、顯次ノ子、}柳澤光邦、^{議主、光昭ノ子、}並ニ其父ニ代リテ入觀シ、前田利密モ亦老臣ヲシテ京ニ至

ラシム、宗義達、大坂ニ至ル。^{瀧脇信敏以下各家家記}

○東海道先鋒總督橋本實梁、副總督柳原前光、江戸城ニ入り、勅旨ヲ田安慶頼ニ傳ヘ、徳川慶喜ノ死一等ヲ減シ、命スルニ五事ヲ以テシ、七日ヲ期シテ之ヲ舉行セシム、日慶喜水戸城ニ屏

居ス、曰江戶城ヲ獻ス、曰軍艦銃砲ヲ獻ス、曰臣屬ヲ郭外ニ屏ク、曰臣僚ノ與謀者ヲ處分ス、慶頼謹ミテ命ヲ奉シ、之ヲ慶喜ニ傳ヘテ、奉答セント請フ。

○北陸道先鋒總督高倉永祐、江戶ニ抵ル。北陸道先鋒記五日、是ヨリ先、徳川氏ノ臣黒川大華^{嘉兵衛}等、微行シテ京師ニ入り、書ヲ薩摩、尾張等ノ諸藩ニ投シ、又津藩ニ赴キ、其主ノ爲ニ救解ヲ乞フ、津藩、大華ヲ留メテ、其書ヲ上ル、是ニ至リ、旨ヲ請フ、批シテ、之ヲ監護シ、後命ヲ俟タシム、既ニシテ之ヲ釋ス。

○島津久光ノ檄ヲ西海道諸藩ニ傳フルヤ、諸藩皆勤王ヲ弑ナキヲ陳ス、是日、島津忠義、其狀ヲ奏シ、諸藩ノ答書ヲ上ル。
○松平乗秩、間部詮道、増山正修、井伊直安、^{右京亮}○^{與板藩}京ニ至ル。松平乗秩以下各家案記

○長崎裁判所、各國領事ト議定シ、支那人ノ各國人ニ隸スルモノ、我ニ對シテ法ヲ犯サハ、國律ヲ以テ之ヲ處斷ス。
六日、天皇、諸藩兵ノ操練ヲ大坂城ニ覽ル。

○稻葉正善、起居ヲ候セント請フ、其父正巳舊幕府ノ要路ニ在リシヲ以テ、聽サス、後命ヲ俟タシム。
○秋田映季、四隣騷擾スルヲ以テ、其藩兵ノ江戶ニ在ルモノヲ

以テ、屏居シテ罪ヲ待ツヲ稟ス、批シテ其連坐ヲ免シ、入京セシム、是日、忠和京ニ至ル。

○是ヨリ先、小笠原忠忱亂ヲ避ケテ、熊本ニ在リ、是日、本藩ニ歸ルヲ申ス。
○伊東祐相病ヲ謝シ、其子祐歸^松ヲシテ代觀セシム。伊東祐歸家記
○田安慶頼、書ヲ東海道先鋒總督橋本實梁ニ上リ、徳川慶喜勅旨ヲ奉スルヲ稟ス、是日、慶喜、其臣小野廣^{内膳}、瀧川具知以下ヲ罰ス。

卷五十九 明治元年戊辰四月八日 此起り十一日ニ至ル

八日、十津川郷士ノ建春門、宜秋門、清所門等ノ警守ヲ罷メ、人吉、吉田、^伊西尾三藩ヲ以テ之ニ代ヘ、本願寺ノ猿カ辻警守ヲ罷ム、又紀伊、盛岡以下六藩ニ命シ、加賀、薩摩、阿波三藩ト謀リ、嚴ニ京師ヲ守衛セシム。

○牧野康濟、封内鎮輯及ヒ碓氷關警守ノ事ヲ以テ、歸藩ヲ請フ、之ヲ聽ス。^{十一日途ニ上ル}
○大總督熾仁親王、駿府城ヲ發シ、蒲原驛ニ次ス。
九日、參與酒井忠溫ヲ罷ム。
○松平親良ノ退老ノ請ヲ聽シ、其子親貴ヲシテ封ヲ襲カシメ、

還シ、封境ヲ守備セント請フ、之ヲ聽ス。

○土井利與、京ニ至ル。土井利與家記
○伊達慶邦、使ヲ大總督府ニ遣シ、上書シテ討會ノ不可ヲ陳ス、報セス。

卷五十八 第一 明治元年戊辰四月七日

七日、諸侯以下ニ令シ、其封邑及ヒ舊幕府預地ノ地籍租額ヲ錄上セシム。

卷五十八 第二

○諸侯ニ令シテ、其家眷及ヒ臣隸ノ江戶ニ住スルモノヲ封地ニ移ス、因リテ其已移未移等ヲ具申セシム。

卷五十八 第三

卷五十八 第四

○是ヨリ先、西大路藩、假ニ川越藩ノ別邑近江ニ在ルモノヲ管ス、是ニ至リ、邑民窮困ノ狀ヲ申シ、其租ヲ減セント請フ、是日、批シテ之ヲ大津裁判所ニ請ハシム。

○是ヨリ先、松平忠和、大阪ニ至ル、其徳川慶喜ノ昆弟タルヲ假ヲ賜フ。
○青山忠敏、藩事ヲ以テ假ヲ請フ、之ヲ聽ス。^{十三日途ニ上ル}
○是ヨリ先、薩摩藩兵、播磨ヲ巡撫シ、棚倉藩別邑ノ倉廩ヲ封ス、是ニ至リ、藩主阿部正靜ノ家臣、上書シテ其情狀ヲ陳シ、拆封還付センコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○親子内親王、江戶城ヲ出テ、清水第二移ル。
○是ヨリ先、板倉勝靜、其子勝全ト江戶ヲ去リ、日光山ニ入ル、是日、東山道ノ軍ニ降ル、之ヲ宇都宮藩ニ幽ス。
十日、銅會所ヲ大阪ニ置キ、民庶ノ私ニ之ヲ販賣スルヲ禁ス。
○軍防事務局督、加賀、阿波以下十三藩ノ兵ヲ、洛東聖護院村ニ闕ス、又在京諸侯ニ令シ、日ヲ刻シテ、其兵ヲ簡練セシム。

○小笠原貞孚、大坂ニ至ル。小笠原貞の家記
○東海道先鋒總督橋本實梁、東征ノ旨趣ヲ江戶ノ士民ニ諭シ、疑懼ヲ懷クコトナク、各其業ニ安ンセシム。
十一日、天皇東本願寺掛所ニ臨ミ、群臣ヲ召見シ、參與田中輔等ニ命シテ、經子ヲ講セシメ、又親兵ノ武技ヲ演スルヲ覽ル。

○東海道先鋒總督橋本實梁、江戶城ヲ收メ、尾張藩ヲシテ之ヲ守リ、肥後藩ニ歩兵ヲ統管セシム。
○是ヨリ先、徳川氏ノ海陸軍士、書ヲ東海道先鋒總督橋本實梁

ニ上リ、田安家達之ヲシテ假ニ江戸城ヲ管シ、軍艦銃器ハ充用ノ數ヲ存シテ、其餘ヲ獻セント請フ、聽サス、是日、橋本實梁、將ニ軍艦ヲ收メントス、榎本武揚、和泉守○德川、風濤ニ託シテ、之ヲ辭シ、夜ニ及ヒ、船艦ヲ率申テ、館山港安房房ニ走ル、大鳥純彰、兵奉行○歩福田道直、八郎右衛門等モ亦其部兵ヲ率申テニ總ニ走ル。

○徳川慶喜、江戸ヲ去リテ、水戸ニ赴ク。

卷六十

第一

明治元年戊辰四月十二日ニ起リ十三日ニ至ル

十二日、箱館裁判所ヲ置キ、軍防事務局督嘉彰親王ヲ以テ總督ト爲シ、清水谷公考、土井利恒ヲ副總督ト爲シ、蝦夷开拓ノ事ヲ兼知セシム、親王之ヲ辭ス、乃チ原官ニ復ス、又秋田以下五藩ニ命シテ、本地ヲ警守シ、松前藩ニ錢穀及ヒ諸事ヲ措辨セシム。

○列藩ニ令シ、大政更張ノ朝旨ヲ奉シテ、舊習ヲ釐革シ、人材ヲ撰擢セシム、若シ優游不斷ニシテ、其績ヲ奏セサルモノハ、巡察使ヲ遣シテ、之ヲ檢按スルヲ告諭ス。

○郡山藩ノ安治川口警守ヲ罷ム。

○織田信成、病ヲ謝シ、弟信及修理、ヲシテ代觀セシメント請フ、

フ、是日、本藩ニ命シテ、便宜處分セシム。

○織田信敏、藩兵ヲ莊内ニ出スヲ以テ、歸リテ其事ヲ督セント請フ、之ヲ聽ス。

卷六十

第二

○諸侯ニ令シテ、襲封敘任等ノ閣歷ヲ錄上セシム。

卷六十

第三

卷六十

第四

卷六十一

明治元年戊辰四月十四日ニ起リ十六日ニ至ル

十四日、參與兼橫濱裁判所總督東久世通禧ヲ以テ議定ト爲ス、總督故ノ如シ。

○松平容保官軍ニ抗シ、其勢益猖獗ナルノ報アリ、是ニ於テ、薩摩、長門及ヒ加賀、安藝以下ノ十二藩ニ令シ、兵ヲ與羽越後ニ出シテ、應援ヲ爲サシメ、又加賀藩ヲシテ北陸道ノ供億ヲ措辨セシム。

○扈蹕ノ諸侯ニ令シテ、其兵ヲ舊陸軍所ニ練閱セシム、副總裁三條實美以下莅ミテ之ヲ觀ル。

○中川久昭、封内出ス所ノ銅ヲ以テ、錢貨ヲ鑄造センコトヲ請フ。

之ヲ聽ス、是日、信及京ニ至ル。

○是ヨリ先、池田章政入リテ宗家ヲ承ケ、子政保其後ヲ嗣ク、是日、政保書ヲ上リ、父祖ノ喪服ヲ請問ス。

○長門藩、米斛ヲ獻シテ、軍資ニ充テント請フ、又其封スル所ノ難波村攝津西倉廩ノ粟ヲ、大阪裁判所ニ交付セシヲ申ス。

○南部利剛、老臣ヲ京師ニ遣シ、會津討伐應援ノ命ヲ奉スルヲ以テ、兵ヲ京師ニ出スコト能ハサルヲ謝シ、并セテ起居ヲ候ス。

○細川行真、大阪ニ至ル。細川行真家記

○奧羽鎮撫總督九條道孝、副總督澤爲量、仙臺ヲ發シテ、岩沼驛ニ次ス。

十三日、在京ノ諸侯、既ニ誓約ニ就キテ官守ナキモノハ、歸藩シテ、其政治ヲ釐革シ、且兵備ヲ嚴ニシ、以テ後命ヲ俟タシム。

○龍野、赤穂以下六藩ニ命シテ、舊旗下士方向未定者ノ采地ヲ假管セシム、尋テ之ヲ罷ム。

○延曆寺ノ僧徒ニ諭シテ、日吉神社ノ祭事ニ關ルコト勿ラシム。

○是ヨリ先、出雲藩、隱岐島民驕傲狂愚ノ狀ヲ申シ、嚴法ヲ設ケテ、之ヲ制馭セント請フ、既ニシテ島民其置ク所ノ吏ヲ追

○竹腰正舊、京ニ至ル。局記

○是ヨリ先、山陰道鎮撫總督西園寺公望、因幡藩ニ命シ、假ニ大山寺ノ僧徒ヲ管セシム、是日、之ヲ申命ス。

○是ヨリ先、奧羽鎮撫總督九條道孝、副總督澤爲量ニ命シ、往キテ莊内藩ヲ討セシメ、秋田、新莊等ノ諸藩兵ヲ以テ先鋒ト爲ス、是日、爲量岩沼ヲ發ス。奧羽鎮撫使日誌

十五日、扈蹕ノ公卿諸侯ヲ召シ、親征ノ旨ヲ申諭シテ、戒令ヲ頒ツ。

○學習院ヲ改メテ、大學寮代ト爲ス。

○薩摩藩ノ清所門警守及大阪市街巡邏ヲ罷ム。

○大垣藩兵、東山道ノ軍ニ從ヒテ功アリ、乃チ藩主戸田氏共ノ罪ヲ宥シ、其隊長、伏見ノ役ニ與リシモノヲ、永禁錮ニ處ス、松平頼聰モ亦老臣ヲ刑シ、軍資金ヲ獻セシヲ以テ、其謹慎ヲ釋シ、官位ヲ復ス。

○松井康英、堀之美、京ニ至リ起居ヲ候セント請フ、其嘗テ舊幕府ノ要路ニ在リシヲ以テ、屏居シテ後命ヲ俟タシム、既ニシテ、之美此事ナキヲ陳ス、乃チ之ヲ釋ス。

○米澤藩、討會ノ命ヲ奉スルヲ以テ、在京ノ兵ヲ罷歸スルヲ申ス。

○大總督熾仁親王、江戸ニ入り、増上寺ニ次ス。東征紀略
 十六日、日講筵ヲ行在所ニ開ク、又扈蹕ノ諸藩ニ令シ、日ヲ刻シテ、番次ニ其民ヲ練閱セシム。
 ○森川俊方、京ニ至ル。森川俊方家記

卷六十二

明治元年戊辰四月十七日ニ起リ十八日ニ至ル

十七日、車駕座摩神社ニ詣ス、遂ニ東本願寺掛所ニ臨ミ、神祇事務局判事福羽美靜文三郎ニ命シテ、古事記ヲ講セシム。
 ○宮、堂上ノ子弟ヲ度シテ、僧ト爲スヲ禁ス。
 ○政令傳達ノ條規ヲ定ム。
 ○小笠原貞正、藩兵寡少ナルヲ以テ、宗藩ニ隸シテ使役ニ服セント請フ、之ヲ聽ス。
 ○有馬氏弘、藩事ヲ以テ入覲遲延スルヲ申ス。
 ○松前德廣、病ヲ謝シ、弟隆廣敦千ヲシテ代觀セシム。辨事局記
 ○大總督府參謀、書ヲ副總裁及ヒ軍防局ニ遣リ、時宜ヲ條陳ス。
 ○是ヨリ先、朝議將ニ貨幣ヲ更鑄セントス、因リテ大總督府ニ牒シ、江戸ノ金銀座ヲ收メテ、其鑄造ヲ停メ、會計事務局權判事池邊永益藤左衛門ヲ遣シテ、其事ヲ措辨セシム、是日、大總督

府、鑄造場ヲ收ム、尋テ督府、軍費不贖ヲ以テ、奏シテ通貨ヲ増鑄ス。
 ○是ヨリ先、東海道先鋒總督府參謀、書ヲ田安慶頼ノ老臣ニ遣リテ、軍士哀訴ノ二事、大ニ朝旨ニ背クヲ論シ、大久保忠寛、勝義邦等ヲ諭シテ、速ニ軍艦ヲ納レシム、總督橋本實梁、又慶頼ニ命シ、二人ヲシテ逃走ノ船艦ヲ追跡セシム、是日、義邦軍艦ヲ率キテ、品川海ニ還ル。

○是ヨリ先、官軍結城城ヲ復ス、是ニ至リ、賊復タ結城ニ迫ル、官軍之ヲ小山驛下總ニ邀ヘ撃チテ利アラス、結城援絶ユ、水野勝進攝津守、其子勝寛皆遁ル。
 十八日、笠松澗美裁判所ヲ置キ、參與大原重徳ヲ以テ總督ト爲シ、參與故參與林某ヲ内國務務局權判事ト爲シ、笠松ニ駐在セシム、又參與木村貞通ノ軍監ヲ罷ム。
 ○議定兼外國務務局輔東久世通禧ニ命シテ、英吉利、佛蘭西、字漏生、伊太里、魯西亞、荷蘭陀六國ニ使セシム。
 ○水戸藩、奸徒鈴木重棟、朝比奈泰尙、市川弘美等逃走シ、重棟、泰尙入京ノ聞エアルヲ申ス、是日、令シテ嚴ニ之ヲ搜索セシム、既ニシテ藩主德川慶篤、書ヲ上リ、正邪ヲ陟罰シ、藩事略整理ニ就クヲ奏ス。

○高知藩士長岡恂、吉書ヲ上リ、海軍ヲ振興セント請フ。
 ○三宅康保、京ニ至ル、本多忠民、疾ヲ謝シ入京ノ期ヲ緩クセント請フ。辨事局記
 ○東海道先鋒總督橋本實梁、檄ヲ武、總、房、常ノ諸藩ニ傳ヘテ、大鳥純彰、福田道直ヲ討ス。東海傳先鋒記

十九日、賀茂祭、幣使ヲ發セス、祠堂ヲシテ之ヲ修セシム。
 ○新潟、府中但二裁判所ヲ置キ、北陸道先鋒兼鎮撫副總督四條隆平ヲ以テ新潟裁判所總督兼鎮撫副總督ト爲シ、山陰道鎮撫總督西園寺公望ヲ府中裁判所總督ト爲ス、又北陸道先鋒總督高倉永祐ヲ北陸道鎮撫總督兼會津征討總督ト爲ス。
 ○參與福岡孝弟、副島種臣ニ命シテ、顧問局ニ參セシム。
 ○都下市街ノ間ニ銃ヲ發チ、若クハ禽鳥ヲ彈射スルヲ禁ス。
 ○久松勝吉、松下勝央左金吾ノ第四子定純朝ヲ養ヒテ嗣ト爲サント請フ、之ヲ聽ス。
 ○是ヨリ先、古河藩書ヲ上リ、大阪城門ノ衛兵ヲ出セシ事由ヲ陳シテ、朝命ヲ得シコトヲ請フ、是日、薩、長二藩ノ守衛ヲ罷メ、古河藩ヲ以テ之ニ代フ、又府中藩ノ天保山警守ヲ罷ム。

卷六十三

明治元年戊辰四月十九日ニ起リ二十一日ニ至ル

○木莊宗秀及ヒ其子宗武ノ形迹觀望ニ涉ルモノアルヲ以テ、書ヲ下シテ之ヲ責問ス、宗秀上疏シテ罪ヲ謝シ、且宗武ヲ廢シテ、再ヒ家ヲ承カント請フ、聽サス。
 ○是ヨリ先、奥羽鎮撫總督、仙臺藩ヲ促シテ、會津ヲ討セシム、仙臺兵返撓シテ進マズ、是日、參謀醍醐忠敬、出テ戰ヲ督ス、官軍利アラス。仙臺軍記
 ○賊兵、宇都宮ヲ陷ル、藩主戸田忠友ノ父忠恕、館林ニ奔リ、板倉勝靜父子復タ賊ニ陷ル、既ニシテ官軍宇都宮ヲ復ス。
 二十日、車駕住吉神社ニ幸ス。
 ○副總裁岩倉具視、留守ノ諸官ト議シ、德川氏ノ處分粗定ルヲ以テ、辨事神山君風ヲ行在所ニ遣シテ、還幸ヲ奏請ス。
 ○松平定安、藤堂高邦、歸藩ヲ請フ、二人竝ニ警守ノ事ニ服スルヲ以テ、聽サス。
 ○横濱裁判所總督東久世通禧、横濱ニ至ル、是日、奉行所及ヒ横須賀製鐵所ヲ收ム、尋テ横濱裁判所ヲ神奈川裁判所ト改ム。
 二十一日、敕シテ、贈正三位左近衛權中將楠正成ノ祠宇ヲ湊川攝津ニ營シ、其子正行以下ヲ配祀セシム。
 ○前田利惣、京ニ至リ、立花鑑寛、大阪ニ至ル。前田利惣家記
 ○大總督熾仁親王、江戸城ニ入ル。

○高知藩士長岡恂、吉書ヲ上リ、海軍ヲ振興セント請フ。
 ○三宅康保、京ニ至ル、本多忠民、疾ヲ謝シ入京ノ期ヲ緩クセント請フ。辨事局記
 ○東海道先鋒總督橋本實梁、檄ヲ武、總、房、常ノ諸藩ニ傳ヘテ、大鳥純彰、福田道直ヲ討ス。東海傳先鋒記

○大總督府、石川利政^{河内}佐久間信義^{備前}二人、二命シテ、假ニ江戸府下ノ事ヲ管理セシム。

○賊兵、下館、下妻二藩ヲ劫掠ス、藩主石川總管、井上正巳皆遁ル。

卷六十四 明治元年戊辰四月二十二日

二十三日、横井時存^{肥後}ヲ以テ參與ト爲ス、尋テ制度事務局判事ヲ兼シム。

○是ヨリ先、東山道鎮撫總督、堀田正養ニ謹慎ヲ命ス、既ニシテ之ヲ釋ス。是日、正養京ニ至ル。

○伊東祐歸、京ニ至ル。^{伊東祐歸歸家記}

○大總督府、水口藩ノ遠藤胤城ノ舊封ヲ管理スルヲ罷ム。

○是ヨリ先、横濱留在ノ米國人ウエンリット、我國民ヲ備ヒ、之ヲ英船ニ搭シテ、將ニ布哇島ニ送ラントス、文票ヲ裁判所ニ乞フ、布哇ハ條約未濟國ナルヲ以テ、許サス、往復數回、議未タ諧ハス、是日、英船遂ニ横濱ヲ去ル。

卷六十五 上 明治元年戊辰四月二十三日

二十三日、横井時存^{肥後}ヲ以テ參與ト爲ス、尋テ制度事務局判事ヲ兼シム。

○是ヨリ先、東山道鎮撫總督、堀田正養ニ謹慎ヲ命ス、既ニシテ之ヲ釋ス。是日、正養京ニ至ル。

○伊東祐歸、京ニ至ル。^{伊東祐歸歸家記}

卷六十五 下

卷六十六 上 明治元年戊辰四月二十四日ニ起リ二十五日ニ至ル

二十四日、八幡宮ニ菩薩號ヲ冒スルヲ停メ、八幡大神ト稱ス。

○佐渡裁判所ヲ置キ、滋野井公壽ヲ以テ總督ト爲ス、府中藩兵之ニ屬ス。

○大總督府ニ令シテ、舊幕府ノ圖籍ヲ收ム。

○土屋舉直、其父寅直ニ代リテ、京ニ至ル。

○東山道總督岩倉具定、江戸ニ入ル。^{東山道總督府日記}

二十五日、勅シテ徳川慶喜ノ處分、及ヒ其繼嗣、秩祿ノ議ヲ、親王、三職、公卿、諸侯、貢士ニ下ス、議定熾仁親王、蜂須賀茂韶以下、各意見ヲ上陳ス、既ニシテ大總督熾仁親王モ亦使ヲ遣シテ、速ニ徳川氏ノ處分ヲ定メンコトヲ請ヒ、并セテ諸道總督ノ意見書ヲ上ル。

卷六十六 中

卷六十六 下

○内國事務局權判事小河一敏^{福右衛門}ヲ以テ、參與兼内國事務局判事ト爲ス。

○新見、淺尾二藩ノ備中公邑ノ管理ヲ罷メ、安藝、備前二藩ヲ以テ之ニ代ヘ、朽木之綱^{主計助}ノ山中關門^{近江}守衛ヲ罷メ、忍藩ヲ以テ之ニ代フ。

○稻葉正邦、松井康英、大給乘謨、永井尙服、大給近説ノ、舊幕府ノ要路ニ居テ、匡救道ヲ失スルヲ譴メ、其狀ヲ具申セシム、正邦等、各上疏シテ罪ヲ謝ス。

○酒井忠美、書ヲ上リ、蝦夷開拓ノ事ニ服スル、其舊ニ仍ラント請フ、之ヲ聽ス。

卷六十七 明治元年戊辰四月二十六日ニ起リ二十八日ニ至ル

二十六日、辨事坊城俊章ヲ以テ、外國事務局權輔ト爲ス。

○小笠原貞孚、京ニ至ル。^{辨事局記}

○秋田藩ニ命シテ、會津ヲ討セシム。

○是ヨリ先、大關増裕^{肥後}病アリ、養子増勤ヲシテ家ヲ承ケシメント謂フ、之ヲ聽ス、増裕尋テ卒ス、是日、増勤ヲシテ其遺封ヲ襲カシム。

○越後人吉田某^等、會津兵猖獗ノ狀ヲ報ス、因リテ其功ヲ賞シ、金ヲ賜ヒ、且北陸道官軍ノ嚮導タラシム。

○水野勝知ノ老臣京ニ在ルモノ、結城ノ變ヲ聞キ、歸藩シテ事實ヲ檢シ、勝知果シテ大義ヲ誤ラハ、其義叔父勝寛ヲシテ入覲

王事ニ服シ、因リテ家ヲ承ケシメンコトヲ請フ、聽サス。
 ○是ヨリ先、仙臺、盛岡ニ藩ニ令シテ、馬各百頭ヲ貢セシム、是ニ至リ、二藩並ニ書ヲ上リ、貢馬ノ例及ヒ産馬ノ狀ヲ陳シ、年ニ十數頭ヲ貢シ、漸チ以テ其數ヲ完クセント請フ。
 二十八日、會津兵及ヒ舊幕府逋逃ノ徒、越後、信濃ヲ侵掠ス、因リテ徳川慶勝ニ命シ、松代、大垣以下、三十四藩ト與ニ之ヲ討シ、參與成瀬正肥、田宮篤輝ヲ罷メ、往キテ慶勝ヲ輔ケシム、又京畿警衛ノ諸藩ニ令シテ、守備ヲ嚴ニス。
 ○小泉藩ノ八幡警守ヲ罷メ、對馬藩ヲ以テ之ニ代フ。
 ○戸田忠友譴ヲ獲テ大津驛ニ在リ、宇都宮ノ警報至ルニ會フ、乃チ忠友ヲシテ、姑ク歸藩セシメ、其父忠恕ニ命シテ、藩政ニ參シ、賊兵ヲ勦蕩セシム。
 ○是ヨリ先、朝鮮人隱岐島ニ漂到ス、出雲藩、前例ヲ陳シテ、其措置ヲ稟ス、是日、批シテ舊貫ニ仍リ、之ヲ護送セシム。
 ○本願寺光勝、稟准ヲ經テ、北陸道ノ門徒ヲ募化シ、軍糧ヲ助ケントス、加賀藩、藩情ヲ陳シ、其封内ニ入ルヲ停メント請フ、是日、光勝ニ諭シテ、加賀、能登、越中ニ入ルコト勿カラシム。
 ○堀直登、藝之進○須賀藩主直虎ノ子、時直虎卒シテ、未タ封ヲ襲カス、隣境騷擾スルヲ以テ、上京ノ期ヲ延ヘント請フ、之ヲ聽ス。
 〇久松勝行、井上正順、京ニ至リ、黒田長徳甲斐守○秋八月、長徳、主其食其五萬石、大阪ニ至ル。久松勝行、井上正順、黒田長徳家記
 ○是ヨリ先、邦人ノ長崎葡萄牙領事館ニ雇役スル者、罪ヲ犯ス、裁判所、領事ニ告ケテ、本犯ヲ勾喚シ、留ムルコト數日、各國領事、連署シテ之ヲ訴フ、裁判所參謀町田久成等、復書辨斥ス。
 ○大島純彰等、日光山ヲ去リ、東照宮ノ神主ヲ奉シテ、會津ニ入ル。
 是月、凡ソ商賈ノ其業ヲ專占スルモノ、暫ク舊貫ニ仍ラシメ、其姦猾ノ行ヲ爲スヲ禁ス。
 ○姫路藩ノ京邸ヲ收ム。
 ○參與松尾相永、上表シテ職ヲ辭ス。
 〇閏四月
 卷六十九 明治元年戊辰閏四月朔
 日ニ起リ三日ニ至ル
 〇久松定昭ノ臣、土佐藩ニ因リテ書ヲ上リ、其主ノ妻孥及ヒ藩

ニシテ慶徳再ヒ書ヲ上リ、前請ヲ申ヌ、之ヲ聽ス。
 ○本莊宗武、京ニ至リ、屏居シテ命ヲ俟ツ、其父宗秀モ亦其入觀遅緩ノ狀ヲ陳シテ、哀ヲ乞フ、乃チ二人ニ命シテ、誓書ヲ上ラシム。
 ○是ヨリ先、竹腰正美、兵部少輔○今尾藩主正善ノ父、譴ヲ舊幕府ニ獲テ屏居ス、是日、更ニ塾居ヲ命ス。
 ○安部信發、治所ヲ半原ニ移スヲ以テ、歸藩シテ其事ヲ整理セント請フ、是日、之ヲ聽シ、事畢リテ後、再觀シテ誓約ニ就カシム。
 ○春日神社別當大乗院隆芳、一乘院應昭以下復飾ノ請ヲ聽シテ、假ニ新神司ト稱シ、舊ニ仍リテ社務ニ服セシム、尋テ隆芳、應昭等ヲシテ氏ヲ稱セシム。
 ○大阪裁判所、其管下ニ令シ、庶民ニシテ幕府ノ准許ヲ得、氏ヲ稱シ刀ヲ佩フルモノハ、其事由ヲ録上セシム、是日、内國事務局、諸道裁判所及ヒ總督府ニ牒シ、大阪裁判所ニ倣ヒテ、其事ヲ撿覈シ、與奪其宜キニ從ハシム。
 ○議定松平慶永、書ヲ上リ、官制ヲ更革シ、人材ヲ遴選センコトヲ請フ。
 ○久世廣文、西觀セントシテ江戸ニ抵ル、適藩境騷擾ノ報ア

士ヲ、江戸ヨリ迎ヘンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○山内豊範、慶弔窮乏スルヲ以テ、封内ノ物産ヲ抵シ、金ヲ外人ニ借ラント欲ス、因リテ官ノ保券ヲ得ンコトヲ請フ。

○細川興貫、京ニ至ル。

細川興貫家記

二日、西尾藩ノ清所門警守ヲ罷メ、菰野藩ヲ以テ之ニ代ヘ、安藝、白杵、高島、西條四藩ノ二條城柵門ノ警守ヲ罷ム。

松平乘秩以下各家家記

又飯田藩ノ般舟院守衛ヲ罷メ、鯖江藩ヲ以テ之ニ代フ。

○戸田氏共、大河内信古、松平乘秩、松平忠禮、太田資美、戸田氏良、西尾忠篤、三宅康保、大岡忠敬、遠山友祿、瀧脇信敏、信濃出兵ノ命アリシヲ以テ、歸藩ヲ請フ、竝ニ之ヲ聽ス、本多忠鵬、田沼意尊ハ入觀ノ途中、是命ヲ聞キ、歸藩シテ、其事ヲ督スルヲ申ス。

○土岐頼知、酒井忠美、京ニ至ル。

土岐頼知酒井忠美家記

○大總督府、江戸鎮輯ノ事ヲ以テ、田安慶頼、大久保忠寬、勝義邦ニ委シ、又其勤勞ヲ褒慰シ、益其力ヲ効サシム。

○神奈川裁判所、管下ニ令シテ、阿片烟販賣ヲ中禁ス。

三日、平戸藩ニ命シテ、安治川口ヲ警守セシメ、柳河藩ノ神戸警守ヲ罷ム、尋テ阿波藩ヲ以テ柳河藩ニ代ヘ、其兵庫守衛ヲ罷ム。

○第三ノ揭榜ヲ更定ス。

○別當社僧ニ令シ、蓄髮シテ其稱ヲ更メシム、故アリテ命ニ從フコト能ハサルモノハ、其職ヲ解ク、尋テ葬祭並ニ神式ニ從ハシム。

○大河内輝照、京ニ至ル。

大河内輝照家記

○勝義邦、書ヲ大總督府ニ上リ、徳川慶喜ヲシテ江戸ニ歸住セシメ、以テ士民ヲ鎮輯セント請フ、尋テ屢上書シテ其事宜ヲ陳ス。

○莊内兵、天童ヲ陥ル、藩主織田信敏ノ父信學、仙臺ニ奔ル。

五日、車駕大阪城ニ幸シ、諸藩兵ノ操練ヲ覽ル。

○府中裁判所總督西園寺公望ヲ以テ、東山道第二軍總督ト爲シ、軍防事務局輔長岡護美ヲ副總督ト爲シ、阿波、柳河二藩兵ニ命シテ之ニ從ハシム、又池田章政ヲ議定兼江戸鎮臺輔ト爲シ、兵ヲ引テ任ニ赴カシム。

○箱館裁判所副總督清水谷公考ヲ以テ總督ト爲シ、蝦夷全島ヲ管セシメ、内閣事務局權判事井上長秋ヲ參與兼内閣事務局判事ト爲ス、又橋本實陳實陳大夫實陳ノ弟ナリヲ參與ト爲シ、辨事ヲ兼シム。

○稻葉正邦ノ謹慎ヲ釋シ、衆心ヲ一ニシテ、王事ニ服セシム。

復古記 明治元年閏四月

○吉川經幹、疾ヲ謝シ、其子經健功之ヲ遺シテ行在ニ候シ、藩屏ニ列スルノ恩ヲ謝ス、因リテ命シテ扈蹕ニ加フ。

○龜山藩、追放律前例ニ仍ルノ可否ヲ稟ス、批シテ舊ニ仍ラシム。

○是ヨリ先、津藩書ヲ上リ、桑名ノ臣隸、屏居艱苦ノ狀ヲ陳シテ、寛貸ノ命ヲ請フ、是日、尾張、津二藩ニ令シ、其用事者及ヒ伏見ノ學ニ與リシモノヲ除クノ外、悉ク家ニ歸ルヲ許シ、且其窮乏者ヲ賑恤セシム。

○請西藩主林忠崇、下總ノ賊ニ應シ、其治所ヲ去リテ、四隣ヲ脅略ス。

卷七十

明治元年戊辰閏四月四日 起リ五日ニ至ル

四日、扈蹕ノ公卿諸侯ヲ召シ、徳川慶喜其罪ニ服スルヲ以テ、駕ヲ京師ニ回シ、成功ヲ列聖ノ陵ニ告ケ、二條城ニ移御シテ、萬機ヲ親裁シ、且時ニ大阪ニ臨幸シテ、内外ノ事ヲ統理スルヲ勅諭ス、又東北未タ平定セサルヲ以テ、公卿諸侯ヲ戒メテ、益兵備ヲ嚴ニス。

○大木喬任民字〇肥前藩士ヲ以テ參與ト爲シ、外國事務局判事ヲ兼シム。

○酒井忠篤、水野勝知ノ官位ヲ褫キ、家臣ノ入京ヲ禁ス。

○議定刑法事務局輔細川護久、藩ニ就キテ、父詔邦ヲ輔ケ、兵制ヲ更革セント請ヒ、松平直克、封境騷擾スルヲ以テ、亦歸藩ヲ請フ、並ニ之ヲ聽ス、因リテ直克ニ命シテ、二總兩野地方ヲ鎮輯ス、直克書ヲ上リ、叛亂ノ由ル所ヲ陳シ、勸ヲ止メテ撫ヲ用ヒ、速ニ徳川氏ノ封土ヲ定メンコトヲ請フ。

護久、七日途ニ上リ直克、十日。

○小笠原長國、其子長行ノ所在ヲ失スルヲ奏シ、兵ヲ出シテ自ラ効サント請フ、乃チ東山道第二軍ニ屬セシム、尋テ長行ノ官位ヲ褫キ、長國ニ命シテ之ヲ索捕ス。

○神奈川裁判所、書ヲ各國領事ニ遣リ、外商ノ兵仗ヲ私販スルヲ禁ス、既ニシテ、夜ニ乘シ、竊ニ銃器ヲ埠頭ニ搬運スルモノアリ、因リテ再ヒ牒シテ、之ヲ戒飭セシム。

卷七十一

明治元年戊辰閏四月六日 起リ七日ニ至ル

六日、勅シテ、豊國社ノ祀典ヲ復シ、新ニ祠宇ヲ大坂ニ營セシム。

○大阪裁判所ニ令シ、還幸後益勵精シテ衆庶ヲ安撫シ、且病院ヲ創設セシム、又軍防局ニ令シテ、攝海ノ警備ヲ嚴ニス。

○參與木戸孝允ヲ長崎ニ遣シテ、天主教徒ヲ處分ス、尋テ豫メ

加賀薩摩以下ノ三十四藩ニ命シテ、之ヲ保管セシム、孝允、長崎ニ抵リ、裁判所總督澤宣嘉ト謀リ、先其魁首百餘人ヲ逮捕シ、之ヲ長門、福山、津和野三藩ニ分付ス。

○議定兼會計事務局輔淺野茂勳、疾ヲ以テ扈蹕ヲ辭シ、且藩ニ就キテ、政治ヲ釐革セント請フ、之ヲ聽ス。十八日途ニ上ル。

○堀田正倫譴ヲ大總督ニ獲テ、京師ニ在リ、封境騷擾スルヲ聞キ、赦ヲ獲テ藩ニ歸リ、之ヲ鎮輯セント請フ、批シテ、督府ノ處分ヲ俟タシム。

○宗義達上書シテ、朝鮮國交際ノ事例ヲ陳シ、宿弊ヲ更革セント請フ。

○大總督府、金十五萬兩ヲ田安慶頼ニ下付シ、徳川氏ノ家族臣隸ヲ賑救ス。

七日、車駕大阪ヲ發シ、淀城ニ次ス、鹵簿兵衛出征ノ時ノ如シ。○議定兼海軍總督嘉言親王、大阪ヨリ至ル、乃チ其兼職ヲ罷ム。

○制度事務局ニ令シテ、山陵御穢ノ事ヲ議セシム。

○黒田長溥、疾ヲ謝シ、子長知ヲシテ家ヲ承カシメント請フ、是日、優獎シテ允サス。

○岡部長寛、金ヲ獻センコトヲ請フ、嘉獎シテ後命ヲ俟タシム。

十日、副總裁三條實美ヲ以テ關東監察使ヲ兼ネ、東下シテ徳川氏ヲ處分シ、且士民ヲ撫輯セシム、參與萬里小路通房、松尾相保等之ニ從フ。

○郡山藩ヲシテ京師防火ノ事ヲ掌ラシム。

○議定毛利廣封、藩事ヲ以テ假ヲ請フ、是日、勅シテ之ヲ聽シ、其積年勤王ノ勞ヲ褒シ、緩急命ニ趨カシム、又其父敬親ヲ召ス。

○是ヨリ先、東山道總督岩倉具定、永井尙服ノ謹慎ヲ釋ス、尙服使ヲ京師ニ遣シテ、恩ヲ謝シ、起居ヲ候セント請フ、聽サス、是ニ至リ、其罪ヲ釋シ、士心ヲ一ニシテ王事ニ服セシム。

○宗義達、黒田長徳、永井直介、京ニ至ル。宮家記

十一日、議定幟仁親王、大阪ヨリ至ル。有橋川宮家記
○東海道先鋒副總督柳原前光、大多喜城ヲ收メ、城主大河内正質ヲ佐倉藩ニ幽シ、吉田藩ニ命シテ、其城地臣隸ヲ監守セシム。

卷七十三

上 明治元年戊辰閏四月十二日ニ起リ十四日ニ至ル

十二日、參與五辻安仲ヲ以テ、假ニ辨事ヲ兼シム。

○筑前藩ニ令シテ、汽船ヲ北海道ニ差シ、軍需ヲ運輸セシム。

復古記 明治元年閏四月

○東山道ノ官軍、近藤昌宜勇時ニ大久保大和ト稱ス、ヲ捕ヘテ之ヲ斬リ、首ヲ京師ニ傳フ、是日、三條磧ニ梟ス。
○田安慶頼、書ヲ大總督府ニ上リ、關東地方修堤均水等ノ前例ヲ陳シテ、其措置ヲ稟請ス、批シテ舊貫ニ仍ラシム。

卷七十二

明治元年戊辰閏四月八日ニ起リ十一日ニ至ル

八日、車駕京師ニ凱旋ス、是日解嚴。

○是ヨリ先、賊兵越後ニ抵ル、溝口直正ハ之ヲ拒ミ、榊原政敬ハ其行ヲ遏メス、是日、直正ヲ賞シ、政敬ヲ讓メテ、其老臣ヲ京師ニ召ス。

○津山藩ノ大阪警衛ヲ罷メ、神戸港ヲ守ラシム。

九日、天皇、軍神ヲ紫宸殿ニ祭ル、三職、公卿、諸侯以下皆侍ス、儀畢リ宴ヲ群臣ニ賜フ。

○久留米藩ニ令シテ、木津川口ヲ警守セシム。

○内田正學、藩事ヲ以テ上京遲延スルヲ申ス。

○米澤藩貢士遠山某、學、書ヲ上リ、與人頑梗ニシテ化シ難キノ狀ヲ陳シ、姑ク討會ノ師ヲ班シテ、其士民ヲ開諭セント請フ報セス。

○興正寺攝信ノ大津守衛ヲ罷ム。

○岩城隆邦、莊内征討應援ノ命ヲ奉スルヲ以テ、歸リテ兵事ヲ督セント請ヒ、渡邊章綱、歸藩シテ所管ノ公邑ヲ檢シ、且政治ヲ更革セント請フ、並ニ之ヲ聽ス。隆邦十六日途ニ上ル、章綱八十五日。

○徳川慶篤、其支族松平頼位内亂ノ餘ヲ承ケ、藩事忽劇且四隣騷擾スルヲ以テ、爲ニ入覲ノ期ヲ緩クセント請フ、之ヲ聽ス、内藤正誠モ亦藩事ヲ以テ上京遲延スルヲ稟ス。

○水野忠弘及ヒ其父忠精、京ニ至ル。水野忠弘家記

○是ヨリ先、邦家親王伏見使ヲ遣シテ、入道公現親王ニ上京ヲ勸ム、江戸士民等之ヲ聽キ、交上書シテ、其行ヲ止ム、是日、公現親王、入覲遲延ノ狀ヲ大總督府ニ申ス。

十三日、宮、堂上、諸侯從僕ノ制ヲ定ム、又三職、九門内馬ニ騎シ、及ヒ急劇ノ際、略服ヲ服スルヲ許ス、尋テ、令シテ節朔參賀ヲ除クノ外、三職及ヒ公卿諸侯以下、概シテ略服ヲ用フルヲ得シム。

○横須賀藩ノ市中巡邏ヲ罷ム。

○長崎裁判所總督澤宣嘉ニ命シテ、西海道ノ公邑ヲ統轄セシメ、薩摩、肥後以下諸藩ノ管理ヲ罷ム。

○徳川氏ノ臣隸往々亡命嘯聚スル者アリ、大總督府、田安慶頼

ニ申諭シテ、之ヲ鎮輯セシム。

十四日、新舊金銀貨及ヒ銅鐵錢ノ價位ヲ定ム。

○諸侯ノ車駕ニ扈シテ大阪ニ役シ、若クハ在京五旬ヲ踰ユルモノハ、假ヲ賜ヒテ藩ニ就キ、政治ヲ更革シ、兵備ヲ完修セシム。

卷七十三 下

○植村家保ノ致仕ノ請ヲ聽シ、養子家壺ヲシテ其封ヲ襲カシム、家壺尋テ藩ニ就ク。

○榊羅藩、管下ノ僧侶ヲ募リテ隊伍ニ編シ、食肉娶妻、其意ニ隨ハシメント請フ、之ヲ聽ス。

○平戸藩、入港外船接待ノ事項ヲ稟請ス。

○大總督府、諸藩ニ令シテ、江戸ノ第邸及ヒ留住者ノ口數ヲ錄上セシム。

卷七十四

明治元年戊辰閏四月十五日
日ニ起リ十七日ニ至ル

十五日、伏見宮以下親王宣下及ヒ賜姓ノ制ヲ定ム、又入道昌仁昌仁、信仁信仁ニ親王ヲシテ復飾セシム、昌仁名ヲ守脩ニ復シ、信仁ハ智成ニ復ス。

○官人ノ宮、堂上ニ隸屬スルヲ禁ス、緣由アリテ分離スルコトヲ得サルモノハ、其官籍ヲ削ル。

○松平武聰ノ老臣、因幡、備前二藩ニ就キ、武聰久ク疾ニ罹リ、藩事一ニ老臣ニ委シ、往歲藩城守ヲ失ヒ、及ヒ本年伏見ノ事、皆其知ル所ニ非サルヲ陳シ、駢死シテ自ラ贖ハント請フ、二藩其狀ヲ申ス、是日、令シテ班頭尾關當違人、ニ死ヲ賜ヒ、隊長一人ヲ禁錮ニ處シ、其餘ヲ問ハス、尋テ武聰ノ謹慎ヲ釋ス。

○松平定安、藤堂高邦、久松定法、稻垣太清、高木正坦、藩事ヲ以テ歸封セント請フ、並ニ之ヲ聽ス。

○青山忠敏、京ニ至ル、諏訪忠誠、病ヲ謝シ、養子忠禮忠禮ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。諸侯參罷錄 諏訪忠誠家記

○大總督府、田安慶頼ニ命シテ、舊幕府ノ罪囚ヲ檢問セシメ、其輕キモノハ之ヲ放赦ス。

十六日、青山幸宜、藩事ヲ以テ歸封セント請フ、之ヲ聽ス。

十七日、從征ノ親王三職、公卿、諸侯以下ヲ召シ、其勤勞ヲ慰シテ、宴ヲ賜ヒ物ヲ賞ス、尋テ留守ノ親王三職以下ヲ賞賚スル、本日ノ如シ。

○參與内國事務判事小原忠寬ニ命シテ、假皇居及ヒ太政官經營ノ事ヲ管セシム。

○桑名藩ノ老臣、吉田藩ニ就キ、松平定教母子索居ノ情ヲ陳シ、定教ヲ迎歸シテ屏居セシメント請フ、是日、尾張、津二藩ニ命シテ、之ヲ桑名ニ保管セシム、尋テ定教及ヒ老臣ニ旨ヲ諭シ、危懼ヲ懷クコト勿クシテ、後命ヲ俟タシム。

○小笠原長守、伊東長壽、歸藩シテ政治ヲ更革セント請フ、之ヲ聽ス。

○議定龜井茲監、封内衰頹ノ佛寺ヲ廢合シ、釋侶ノ還俗ヲ許シ、及ヒ喪祭ノ儀、神佛ヲ并用セント請フ、之ヲ聽ス。

○細川昭邦、其老臣長岡某某ノ畿内采地ノ緣由ヲ陳シ、更メテ朝命ヲ以テ之ヲ賜ハンコトヲ請フ、是日、批シテ暫ク其舊ニ仍ラシム。

卷七十五 第一

明治元年戊辰閏四月十八日
日ニ起リ十九日ニ至ル

十八日、出雲藩ノ山崎關門警守ヲ罷メ、淀藩ヲ以テ之ニ代ヘ、筑前藩ノ堺港警守、筑後藩ノ木津川口警守ヲ罷メ、出雲、中津二藩ヲ以テ之ニ代フ。

○大河内輝照、久松勝行、封邑警備ノ事ヲ以テ歸藩ヲ請フ、並ニ之ヲ聽ス、稻葉久通、在京ノ期滿ルヲ以テ、藩ニ歸ルヲ稟ス。十九日、大原重朝ヲ以テ參與ト爲シ、辦事ヲ兼シム。

○列藩ニ勅シテ、陸軍ヲ編制シ、定員六分ノ一ヲ徵シテ、禁國及ヒ畿内ノ守衛ニ充ツ、尋テ萬石以下モ亦軍資ヲ課ス。

○新ニ紙幣ヲ製シ、以テ國用ヲ資ケ、且之ヲ列藩以下ニ貸與シテ、産業ヲ興サシムルヲ布告ス。

○宮、堂上、諸侯以下、采地ヲ有スルモノニ命シテ、舊幕府付與スル所ノ判物ヲ上ラシム。

卷七十五 第二 卷七十五 第三

卷七十五 第四 卷七十五 第五

卷七十五 第六 卷七十五 第七

卷七十五 第八 卷七十五 第九

○東北ノ賊徒、浮言ヲ造作シ、人心ヲ誑惑シ、諸侯或ハ觀望ヲ懷クモノアリ、是日、令シテ之ヲ戒諭ス。

○上杉齊憲ニ申命シ、官軍ニ應援シテ、速ニ會津ヲ戡定セシム、又佐竹義堯ヲシテ兵ヲ前メテ會津莊内ヲ擊チ、戸澤正實、水野忠弘、松平信庸ニ封疆ヲ保守セシム。

○長門藩ニ命シテ、舊幕府、米利堅國ニ購買セシ所ノ裝鐵艦ヲ交收セシム。

○是ヨリ先、京極高富、立花種恭、京ニ至ル、並ニ屏居シテ命ヲ俟タシム、是日、書ヲ下シテ、高富、種恭及ヒ稻葉正善ノ父正巳、舊幕府ノ要路ニ居リ、匡救ノ道ヲ失スルヲ譴メ、其狀ヲ具申セシム、高富等、各上疏シテ罪ヲ謝ス。

○織田信成、其弟信及ヲ養ヒテ、嗣ト爲サント請フ、之ヲ聽ス、尋テ、信及ヲシテ信成ノ封ヲ襲カシム。

○議定鍋島直正、歸藩シテ、長崎ノ警備ヲ督シ、且政治ヲ更革セント請フ、之ヲ聽ス、尋テ、暫ク其行ヲ止ム。

○松浦詮、其支族脩左近將監平戸支ノ士臣寡少ニシテ、遽ニ貢士及ヒ京師ノ衛兵ヲ出ス能ハサルヲ陳シ、歸藩ノ後、本支相謀リ、以テ王事ニ服セント請フ、之ヲ聽ス。

○立花鑑寛ヲ大坂ヨリ召ス、是日、京ニ至ル。

○柳澤保申、北條氏恭、京ヲ辭ス。行政官記

○是ヨリ先、北陸道總督高倉永祐、舊佐渡奉行鈴木重嶺重嶺ヲ召ス、是日、重嶺江戸ノ行營ニ詣リ、誓書及ヒ版籍簿冊ヲ上ル。

卷七十五 第十

○是ヨリ先、伊達慶邦、上杉齊憲、鎮撫總督九條道孝ニ謁シ、松平容保伏罪ノ狀ヲ陳シテ、寛宥ヲ請フ、其老臣モ亦盛岡、二本

松以下十一藩ノ老臣ト連署申請ス、道孝、其書ヲ却ケ、速ニ進勸セシム、是日、慶邦、齊憲、再ヒ書ヲ上リ、降ヲ討シ、服ヲ伐ツノ非ヲ陳ヘ、且農時ニ際スルヲ以テ諸藩兵ヲ解キ、將ニ之ヲ朝ニ請ハントスルヲ申ス、道孝其制スヘカラサルヲ知り、假ニ之ヲ聽ス、是夜、仙臺藩士等、參謀世良砥世良砥門士長ヲ福島驛ニ戕シ、翌日、會津兵、白河城ヲ陷ル。

卷七十六

明治元年戊辰閏四月二十日

二十日、副總裁岩倉具視、輔弼中山忠能ヲ罷メ、日ニ御前ニ候セシム。

○近習、内々、外様ノ三番所ニ令シテ、混同輪直セシメ、其齡三十二滿タルモノハ、番直ヲ免シテ學ニ就カシム、又北面士ヲシテ、非藏人ニ伍シテ交直セシム。

○加納久宜、封邑傍近兇徒橫暴ノ狀ヲ申ス、因リテ海内ニ申令シテ、順逆ヲ錯ルコト勿ラシム。

○僧徒繼承ノ條規ヲ定メ、且其宗派寺號等ヲ錄上セシム。

○柳澤光昭ノ致仕ノ請ヲ聽シ、養子光邦ヲシテ、其封ヲ襲カシム。

○織田信親、京ヲ辭ス。織田信親家記

○是ヨリ先、徳川慶勝、兵ヲ率キテ美濃ニ抵リ、參謀成瀬正肥、田宮篤輝等ヲ遣シテ、信濃ヲ鎮輯ス、是日、篤輝、書ヲ上リ事宜ヲ條陳ス。

卷七十七 上

明治元年戊辰閏四月二十一日

二十一日、天皇正寢ニ御シ、日ニ朝堂ニ臨ミテ政ヲ聽キ、且文武ノ業ヲ講スルヲ布告ス、因リテ條規ヲ設ケテ、侍臣ヲ戒飭ス。

○官制ヲ更定ス、乃チ議政、行政、神祇、會計、軍務、外國、刑法ノ七官ヲ置キ、立法、行法、司法ノ三權ヲ分掌ス、議政官上局ニ議定、參與、史官、下局ニ議長、議員ヲ置キ、行政官ニ輔相、辨事、史官、五官ニ正、副知事、正、權判事ヲ置ク、官等一等ヨリ九等ニ至ル、凡テ九階、又地方ヲ分チテ府、藩、縣ト爲シ、府、縣ニ知事、判事ヲ置キ、藩ハ其舊ニ仍ル、是日、神宮上卿、加茂社傳奏、藏人所、林和靖間詰等ノ諸職ヲ廢ス。

○三條實美、岩倉具視、中山忠能、正親町三條實愛、徳大寺實則、中御門經之、松平慶永、蜂須賀茂韶、鍋島直正ヲ以テ議定ト爲シ、實美、具視、輔相ヲ兼ネ、實美監鑒從故ノ如シ、小松清康、大久保利通、木戸孝允、後藤元燁、廣澤眞臣、副島種臣、横井時存、三岡公正、

福岡孝弟ヲ參與ト爲ス、鷹司輔熙ヲ神祇官知事ト爲シ、龜井茲監之ニ副ス、萬里小路博房ヲ會計官知事ト爲シ、嘉彰親王ヲ軍務官知事ト爲シ、長岡護美之ニ副ス、伊達宗城ヲ外國官知事ト爲ス。

○佐渡裁判所總督滋野井公壽ヲ更メテ、佐渡鎮撫使ト爲シ、笠松裁判所總督大原重徳ヲ罷ム。

○皇居ヲ二條城ニ營スルヲ以テ、假ニ太政官代ヲ禁中ニ移ス。

○申令シテ、阿片煙ヲ禁ス。

○稻葉正邦、藩事ヲ以テ歸封ヲ請ヒ、永井直哉、藩治未タ整ハサルヲ以テ、入京延期ヲ請フ、並ニ之ヲ聽ス。

卷七十七 下

○海外渡航ノ符券ヲ改ム、是日、神奈川裁判所總督東久世通禧、之ヲ各國公使ニ牒報ス。

○仙臺、米澤以下諸藩ノ老臣、白石ニ會盟シ、鎮撫總督九條道孝ヲ要シテ、仙臺ニ入り、遂ニ會議所ヲ置キテ、合從ノ事ヲ謀ル、尋テ又莊内征討ノ兵ヲ解キ、書ヲ朝ニ上リ、松平容保、酒井忠篤ノ罪ヲ許サンコトヲ請フ、之ヲ却ク。

卷七十八

明治元年戊辰閏四月二十二日
日ニ起リ二十四日ニ至ル

二十二日、參與戸田忠至ノ山陵修繕内務管掌ノ勞ヲ賞シテ、位一級ヲ進ム。

○徵士ニ位階ヲ授ク。

○板倉勝靜ノ老臣、備前藩ニ就キ、勝靜父子流離困頓ノ狀ヲ陳シテ、寛宥ヲ得ンコトヲ請フ、備前藩、其書ヲ上申ス、是日、批シテ勝靜父子ノ處分、大總督府ニ委スルヲ以テ、後命ヲ俟タシム。

○是ヨリ先、土井利與、軍資ヲ東海道總督府ニ給貸ス、是日、書ヲ朝ニ上リ、之ヲ獻セント請フ。

二十三日、天皇將ニ山階陵、後月輪東陵ニ謁セントス、果サス。

○頃日醜徒京師ニ潜匿スルノ聞エアリ、因リテ刑法官ニ令シテ、督察ノ法ヲ設ケシム。

○津山藩ニ令シテ、舊幕府預地ノ簿籍ヲ上ラシム。

○舊駿府代官田上某、寬、相模地方騷擾ノ狀ヲ申ス。

○高木正坦、京ヲ辭ス。高木正善家記

○肥前藩、米國船ヲ横濱ニ僞ヒ、將ニ兵ヲ陸奥ニ遣ラントス、軍艦指揮官、局外中立ニ背クヲ以テ、肯セス、裁判所總督東久

世通禧、各國公使ニ牒シ、徳川慶喜伏罪ヲ以テ、中立ヲ止メンコトヲ諭ス、公使等、宣達書及ヒ奉命書ヲ得テ商議セント請フ、乃チ之ヲ示ス、彼遂ニ報セス。

二十四日、箱館裁判所ヲ改テ府ト爲ス、總督清水谷公考ヲ以テ知事ト爲シ、副總督土井利恒ヲ罷ム、既ニシテ利恒假ヲ乞ヒテ藩ニ歸ル、是日、四條隆謨ヲ三等陸軍將ニ爲ス。

○宮、大臣ノ喝道及ヒ宮、公卿ノ藩士ヲ雇ヒテ衛兵ト爲スヲ止メ、二等官以上車寄ヨリ昇降シ、九門内馬ニ騎スルヲ許ス。

○阿部正恒、米倉昌言ノ家臣、其主上京遲延ノ狀ヲ申ス。

○輔相兼關東監察使三條實美等、江戸ニ抵ル。

卷七十九

明治元年戊辰閏四月二十五日

二十五日、京都裁判所ヲ改メテ府ト爲シ、大津、笠松ニ裁判所ヲ縣ト爲シ、日田、豊後富岡、肥後富高、日向ノ三縣ヲ置ク、大津裁判所總督長谷信篤ヲ以テ京都府知事ト爲シ、辻維岳ヲ大津縣知事ト爲シ、田内盛徳前津守ヲ笠松縣知事ト爲シ、松方正義ヲ日田縣知事ト爲シ、長崎裁判所判事佐々木高行ヲ富岡縣知事ト爲シ、木村貞通ヲ富高縣知事ト爲ス、盛徳之ヲ辭ス。

○商法司ヲ會計官ニ置ク。職務退

○諸藩ニ令シテ、所有ノ艦船ヲ錄上セシム。

○肥前藩ニ令シ、兵艦ヲ遣シテ、越後、佐渡ヲ鎮輯セシム。

○是ヨリ先、天童藩、莊内兵ノ侵略スル所ト爲ル、是日、其拒戰ノ勞ヲ賞シ、且金ヲ賜ヒテ之ヲ賑ス。

○是ヨリ先、備前藩、土井利與ノ別邑美作ニ在ルモノヲ假管ス、是ニ至リ、利與書ヲ上リ、勤王ノ實蹟ヲ陳シテ、其地ヲ還付センコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○奥羽鎮撫府參謀醍醐忠敬、仙臺ニ歸ル。

卷八十

明治元年戊辰閏四月二十六日
日ニ起リ二十九日ニ至ル

二十六日、是ヨリ先、加納久宜西上シテ大津驛ニ抵リ、入京ヲ乞フ、令シテ、命ヲ大總督ニ請ハシム、久宜乃チ老臣ヲ督府ニ遣シ、其情ヲ陳疏シテ允ヲ得、是日、京ニ入ル。

○各國公使、書ヲ横濱裁判所總督ニ遣リ、我兵士ノ横濱ニ入ルヲ禁シ、且佩刀者ヲ戒メテ、横暴ヲ爲スコト勿ラシメント請フ。

二十七日、政體書ヲ頒布ス。

○申請書上啓ノ時限ヲ定ム。

○宮、公卿ノ諸門ヲ出入スルニ、衛士ノ下座跪拜スルヲ停ム。

○田安慶頼、徳川氏臣隷ノ祿秩ヲ大總督府ニ錄上ス。

○一橋茂榮、書ヲ大總督府ニ上リ、徳川氏ノ臣隷迫切ノ情ヲ陳シ、速ニ徳川氏ヲ處分シ、以テ之ヲ安輯センコトヲ請フ。

二十八日、久美濱縣ヲ置キ、伊王野坦次郎左衛門ヲ以テ知事ト爲ス。

○書籍ヲ私刊スルヲ申禁ス、尋テ犯スモノハ、其刻版製本ヲ沒ス。

○本多康穰、青山忠敏、間部詮道、安藤信男、増山正修、小笠原貞孚、藩事ヲ以テ歸封ヲ請ヒ、前田利同、隣境騷擾スルヲ以テ、入覲ノ期ヲ延ヘント請フ、竝ニ之ヲ聽ス。

二十九日、特旨、田安家達ヲ以テ宗家徳川氏ノ後ヲ承カシム。

○貢士ニ兵制、理財、東征ノ三事ヲ策問ス。

○肥前藩ノ二條城唐門ノ守衛、及ヒ紀伊、盛岡以下九藩ノ市街警守ヲ罷ム。

○小笠原長國ニ令シテ、封内出ス所ノ石炭ヲ兵庫ニ輸送セシム、既ニシテ、長國、別ニ五百萬斤ヲ獻セント請フ、之ヲ聽ス。

○紀伊、龍野ニ藩ニ令シテ、所有ノ汽船ヲ兵庫ニ出サシム。

○森川俊方、封境騷擾スルヲ以テ歸藩ヲ請フ、之ヲ聽ス。

卷八十一

明治元年戊辰五月朔
日ニ起リ三日ニ至ル

○五月

朔日、大總督府、蠶種紙生絲改所ヲ江戸ニ置キ、印稅ヲ收ム。

○大總督府、田安慶頼ノ市街巡警ヲ罷ム。

○大總督府、東海道先鋒副總督柳原前光ヲ遣シテ、甲斐ヲ鎮輯

ス。

○東山道ノ官軍、白川城ヲ復ス。伊地知正治

○莊内征討總督澤爲量、新莊ヲ去リテ、秋田ニ赴ク。

○二日、大阪裁判所ヲ改テ府ト爲シ、總督醍醐忠順ヲ以テ知事ト

爲ス。

○徵士溝口貞直ヲ罷メ、其勤勞ヲ賞シテ物ヲ賜フ。

○肥後藩ノ寺町門、備前藩ノ清和院門警守ヲ罷メ、徵兵ヲ以テ

之ニ代フ。

○延曆寺ノ僧侶、書ヲ大津裁判所ニ上リ、貧病ニ院ヲ建設セン

コトヲ請フ、是日、又之ヲ朝ニ請フ。

○田安慶頼、徳川家達ノ幼沖ナルヲ以テ、松平齊民ヲシテ之ヲ

輔ケシメンコトヲ大總督府ニ請フ、之ヲ聽ス。

○三日、故參與十時維惠、毛受洪、土倉正彦、荒尾成章、土肥某、中

根師質ノ勤勞ヲ賞シテ、物ヲ賜フ。

○小濱藩、放銃操練ヲ京邸ニ行ハント請フ、聽サス。

○土井利與、在京期滿チ、且封境騷擾スルヲ以テ、將ニ藩ニ歸

ラントス、因リテ途次大阪城門ノ守衛、及ヒ河内ノ別邑ヲ檢セ

ント請フ、之ヲ聽ス、是日、假ヲ賜フ、丹羽長國ノ臣、在京ノ兵

ヲ罷歸セント請フ、報セス。

○大總督府參謀正親町公董、京師ニ至ル。

○大總督府、徳川氏ノ臣隸ノ歸順セシモノヲ朝臣ニ列ス、因リ

テ東海道先鋒總督橋本實梁等ニ令シテ、其姓名ヲ錄上セシム。

○大總督府、神奈川裁判所副總督鍋島直大ニ命シテ、下總、下

野ノ間ヲ鎮撫セシム。

○諸藩ニ令シテ、京畿守衛、及ヒ出征ノ兵額ヲ錄上セシム。

卷八十二

明治元年戊辰五月朔
日ニ起リ八日ニ至ル

四日、長崎裁判所ヲ改メテ、長崎府ト爲シ、總督澤宣嘉ヲ以テ

知事ト爲シ、大和鎮撫總督久我通久ヲ罷ム。

○外國官ノ權限ヲ定ム。

○是ヨリ先、島津久光ヲ京師ニ召ス、是日、其命ヲ申ヌ。

○本莊宗秀、其藩城京師ノ北門ニ當リ、樞要ノ地タルヲ陳シ、

歸藩シテカヲ警備ニ竭サンコトヲ請フ、是日、批シテ後命ヲ俟

タシム。

○中川久昭、藩事ヲ以テ假ヲ請フ、之ヲ聽ス。

○大總督熾仁親王ニ命シ、入道公理親王ヲ諭シテ上京セシム、

是日、大總督、親王ヲ召ス。親王疾ヲ以テ辭ス、乃チ參謀西四辻

公業ヲ遣シ、就キテ諭サシム、親王、辭シテ見ス。

○五日、眞田幸民ノ討賊及ヒ出兵ノ勞ヲ賞シ、書ヲ下シテ之ヲ獎

勵ス。

○安藤直裕、京ニ至ル。安藤直裕
行家記

○六日、東山道第二軍總督西園寺公望ヲ以テ三等陸軍將ト爲シ、

越後ニ赴カシム。

○忍藩ノ山中關門警守ヲ罷メ、丸岡藩ヲ以テ之ニ代フ。

○奥平昌服、土屋寅直、三浦弘次ノ退老ノ請ヲ聽シ、昌服ノ養

子昌邁、寅直ノ養子舉直、弘次ノ子顯次ヲシテ、竝ニ封ヲ襲カ

シム。

○堀田正倫、大總督ノ赦命ヲ上申ス、是日、其罪ヲ釋ス。

○議定松平慶永、國用ヲ全國ニ課スルノ議ヲ上ル。

○細川行眞、京ヲ辭ス。細川行
眞家記

○大總督府、徳川家達ニ令シ、江戸市街ノ舊幕府掲榜ヲ撤セシ

ム。

七日、松尾祭ヲ修ス。

○西郷隆盛ヲ以テ參與ト爲ス、大總督府參謀故ノ如シ。

○軍務官ヲ陸軍局舊守備ニ移ス、又諸藩ニ令シ、上申請願ノ軍事

ニ係ルモノハ、之ヲ軍務官ニ出サシム。

○肥後藩ニ令シテ、速ニ東征ノ兵ヲ出サシム。

○高松藩ニ令シテ、猿力辻ヲ守衛セシム。

○神祇官副知事龜井茲監、假ヲ賜ヒテ藩ニ就キ、政務ヲ整理セ

ント請フ、之ヲ聽ス、因リテ命シテ、出雲大社ノ舊典ヲ檢セシ

ム。

○神原政敬、封内騷擾ノ狀ヲ陳シテ、老臣赴召ノ期ヲ緩クセン

ト請フ、之ヲ聽ス、既ニシテ政敬兵ヲ出シテ功アリ、是日、其罪

ヲ釋シテ前命ヲ停ム。

○是ヨリ先、關宿藩主久世廣文、將ニ西觀セントシテ江戸ニ至

ル、適封境騷擾スルヲ聞キ、書ヲ東海道鎮撫總督府ニ上リ、歸

藩シテ之ヲ鎮輯セント請フ、之ヲ聽ス、時ニ藩士正奸一黨ア

リ。廣文年猶幼弱ニシテ、制馭スルコト能ハス、奸黨遂ニ廣文

ヲ要シテ、彰義隊ニ投ス、是日、鎮撫府書ヲ下シテ、廣文ノ其職

ヲ失スルヲ譴メ、藩士ニ令シ、屏居シテ後命ヲ俟タシム。

八日、石清水臨時祭ヲ修ス。
 ○國帑空乏、度支急ヲ告クルヲ以テ、海内ニ諭シ、金穀ヲ出シテ軍資ヲ助ケシム。
 ○長門、岩國二藩ニ令シ、兵ヲ出シテ東山道先鋒ニ應援セシム。
 ○在京ノ高家交代寄合及ヒ寄合ニ令シテ、其名稱ノ起原ヲ上陳セシム。

卷八十三

明治元年戊辰五月九日ニ起リ十日ニ至ル

九日、丁銀、豆板銀ノ通行ヲ停メ、新貨ヲ鑄造シテ之ヲ交換スルヲ布告ス、尋テ令シテ、先之ヲ官ニ納メシメ、其紙幣ニ換ヘント請フ者ハ之ヲ許ス。
 ○府藩縣ノ印章ヲ定ム、又祠官僧侶ヲ地方官ニ屬ス、神宮及ヒ大社、勅祭社ハ、此限ニアラス。
 ○紀伊藩、通賊ヲ藏匿スルノ聞エアリ、乃チ大阪府判事長谷川景隆、軍務官判事櫻井直義櫻井直義門士ヲ以テ監察使ト爲シ、之ヲ按問セシム、景隆等、歸リテ其實ナキヲ奏ス、既ニシテ木藩、戰艦ヲ納レ、若クハ軍資ヲ獻セント請フ、令シテ姑ク戰艦ヲ納レ、且士心ヲ一ニシ、以テ勤王ノ實ヲ表セシム。

○酒井忠氏及ヒ忠義ノ罪ヲ釋シ、士心ヲ一ニシテ王事ニ服セシメ、隊長ノ伏見ノ役ニ與リシモノヲ永禁錮ニ處シ、隊兵ノ器仗ヲ沒ス。
 ○舊幕府與力以下歸順セシ者ノ姓名祿秩ヲ錄上セシム。
 ○松平直致、京ヲ辭ス。松平直致家記
 十日、租稅司ヲ會計官ニ置ク。職務進退錄
 ○辨事烏丸光徳及ヒ壬生基修ヲ以テ三等陸軍將ト爲ス、又參與小松清康及ヒ光徳ヲシテ、江戸ニ赴カシム。
 ○勅シテ、豐國山ノ祠廟ヲ復興ス、又嘉永癸丑以降死事ノ士、及ヒ春來戰死ノ者ヲ京都靈山ニ祀リ、以テ節義ヲ獎勵ス。
 ○膳所、笹山二藩ノ市中取締ヲ罷ム。
 ○松平武聰ニ美作ノ地二萬七千八百餘石ヲ賜フ、尋テ鶴田藩ト稱ス。
 ○内藤政學、稻垣長行ノ罪ヲ釋シ、士心ヲ一ニシテ王事ニ服セシメ、長行ニ軍資金ヲ課シ、其隊長伏見ノ役ニ與リシモノヲ永禁錮ニ處シ、隊兵ノ器仗ヲ沒ス。
 ○宗義達ニ令シ、朝鮮國交際ノ事ハ、大阪駐在ノ外國官ニ稟請セシム。
 ○阿部正方、淺野茂長ノ姪淺野某元次ヲ養ヒテ嗣ト爲サント請

フ、之ヲ聽ス、幾モ無クシテ正方卒ス、乃チ某ヲシテ其封ヲ襲カシム。
 ○櫻井忠興、永井尙服、竹腰正舊、藩事ヲ以テ歸封ヲ請フ、尙服、正舊ハ之ヲ聽シ、忠興ハ之ヲ留ム。
 ○一橋茂榮、書ヲ大總督府ニ上リ、徳川氏ノ臣隸危懼不安ノ情ヲ陳シ、速ニ徳川家達ノ封土ヲ定メ、且慶喜ヲ江戸ニ召還シ、以テ衆心ヲ鎮輯センコトヲ請ヒ、又其弟松平容保、松平定敬ノ爲ニ哀ヲ乞フ。

卷八十四

明治元年戊辰五月十一日ニ起リ十四日ニ至ル

十一日、徳川徳成、歸藩ヲ請フ、聽サス。
 ○英國軍艦、平戸海峡測量ノ功ヲ竣リ、圖ヲ長崎府ニ贈リ、更ニ筑前、豊前ノ沿海ヲ測ラントスルヲ告ク。
 十二日、江戸府ヲ置キ、木村重任三郎等ヲ以テ判事ト爲ス。
 ○議定蜂須賀茂韶、軍務官副知事長岡護美、及ヒ立花鑑寛ヲ江戸ニ遣シ、大總督ト謀リテ、民心ヲ鎮輯セシム、適茂韶、歸藩シテ政治ヲ更革セント請フ、因リテ一タヒ藩ニ歸リテ東下スルヲ許ス。
 ○筑前藩、其兵ヲ陸奥ニ出セシヲ以テ、二階町ノ守衛ヲ罷メン

ト請フ、之ヲ聽ス。
 十三日、三等陸軍將四條隆謨ヲ以テ甲府鎮撫使ト爲シ、彦根、飯肥、大洲ノ三藩ニ令シテ府城ヲ守リ、延岡藩ニ應援兵ヲ出サシム。尋テ隆謨ヲ駿府鎮撫使ニ改ム。
 ○匿名書ヲ理匭ニ投シ、太政官日誌文字ノ謬誤ヲ指摘スルモノアリ、是日令シテ、凡意見ヲ陳スルモノ、忌諱スル所ナク、其氏名ヲ署セシム。
 ○麻田藩ニ命シテ、京都市中ヲ巡警セシム。
 ○松井康英、大給乘謨、大給近説ノ謹慎ヲ釋シ、士心ヲ一ニシテ王事ニ服セシム、又康英、乘謨ノ封境騷擾スルヲ以テ、歸藩ヲ命ス、尋テ故アリ之ヲ留ム。
 ○是ヨリ先、久松定昭ノ父勝成勝成土佐藩ニ因リテ書ヲ上リ、勤王ノ實ヲ効シテ、定昭ノ罪ヲ償ハンコトヲ請フ、是日、定昭ニ蟄居ヲ命シテ、勝成ノ職ヲ復シ、軍資金十五萬兩ヲ獻セシメ、土佐藩ノ守兵ヲ撤ス。
 ○是ヨリ先、東山道總督岩倉具定、水野忠敬ニ命シテ、甲府城ヲ守ラシム、是ニ至リ、藩士賊ニ通スルノ聞エアリ、因リテ其老臣ヲ京師ニ召ス。
 ○土岐頼知、藩事ヲ以テ歸封ヲ請フ、之ヲ聽ス、尋テ故アリ之

ヲ留ム。

十四日、丸岡藩ノ二條城門ノ警守ヲ罷ム。有馬道純家記

○津、郡山、岡、島原、杵筑、人吉六藩ニ命シテ、駿府城ヲ警守セシメ、郡山藩ノ泉涌寺守衛、人吉藩ノ建春門守衛、及ヒ久居藩ノ宇治守衛ヲ罷ム。

○小笠原長國、京極高富、稻葉正巳、及ヒ高富ノ子高陳、正巳ノ子正善ノ罪ヲ釋シ、士心ヲ一ニシテ王事ニ服セシム。

○須坂藩老臣、其主堀直庸諫死ノ狀ヲ陳シ、弟直登ヲシテ其後ヲ承カシメント請フ、是日、直登ニ命シテ遺封ヲ襲カシム。

○蒔田廣孝、藩事ヲ以テ上京ノ期ヲ緩クセント請フ、之ヲ聽ス。

卷八十五 第一 明治元年戊辰五月十五日

十五日、太政官、官司、府藩縣印ノ寸法、及ヒ宣旨鈐印ノ制ヲ定メ、三等官以上ハ勅授、五等官以上ハ奏授、六等官以下ハ判授。

卷八十五 第二

○新製ノ紙幣ヲ發行ス。

○朝貴ノ名稱ヲ冒シテ、金銀ヲ貸與スルヲ禁スルヤ、負債者、

往々口ニ藉キテ舊債ヲ償ハサルモノアリ、是日令シテ、其約ヲ愆ルコト勿ラシム。

○立花種恭ノ罪ヲ釋シ、士心ヲ一ニシテ王事ニ服セシメ、其封疆騷擾スルヲ以テ、歸藩ヲ命ス、適本宗立花鑑寛東下ノ命アリ、種恭乃チ之ニ隨屬セント請フ、之ヲ聽ス。

○新宮藩ノ徵兵ヲ卻ク。

○舊高家交代寄合、及ヒ旗下士歸順者ノ家祿ヲ復ス。

卷八十五 第三 卷八十五 第四

卷八十五 第五 卷八十五 第六

卷八十五 第七

○出雲藩、隱岐島民ノ驕傲ナルヲ以テ、兵力ヲ藉リテ之ヲ鎮壓セントス、事聞ス、是日令シテ、其教化ヲ施サスシテ、威武ヲ用フルヲ責メ、刑法官判事土肥實匡ヲ以テ監察使ト爲シ、往キテ之ヲ按問セシム、既ニシテ本藩其情狀ヲ上陳ス。

卷八十五 第八

○十津川郷士、吉野郡和、ノ銅鑛ヲ開鑿セント請フ。

○彰義隊ノ横暴日ニ益甚ク、官兵ヲ途ニ殺スニ至ル、是ニ於テ大總督府、諸軍ニ令シテ之ヲ討ス、賊徒大ニ敗ル、輪王寺執當覺王院義寛等、入道公現親王ヲ要シテ逃匿セシム、親王遂ニ會津ニ入ル。

○是ヨリ先、米澤藩、使ヲ越後ニ遣シ、諸藩ヲ要シテ連衡ノ事ヲ謀ル、新發田、村上以下五藩ノ老臣、連署シテ北陸道總督高倉永祐ニ上書シ、松平容保ノ罪ヲ釋サンコトヲ請フ、是日、米澤藩ノ老臣越後ニ在ルモノモ、亦書ヲ參謀ニ致シ、討會ノ軍ヲ止メント請フ、既ニシテ總督府、新發田以下諸藩ノ老臣ヲ召ス、至ラス。

○長崎府、書ヲ各國領事ニ遣リ、阿片煙ヲ本港ニ輸送スルヲ禁ス。

卷八十六 明治元年戊辰五月十六日 日ニ起リ十七日ニ至ル

十六日、大垣藩ニ令シ、其兵ノ越後ニ在ルモノヲ以テ、東山道先鋒ニ應援セシム、既ニシテ北陸道總督府、見兵寡少ナルヲ以テ、朝ニ請ヒテ暫ク之ヲ止ム。

○大總督府、徳川家達ニ令シテ、暫ク其隊兵ヲ解カシム。十七日、倉敷縣中、ヲ置キ、内海利貞多次郎ヲ以テ知事ト爲ス、

尋テ安藝、備前、土佐三藩ニ令シ、其假管ノ地ヲ交付セシム。

○軍務官副知事長岡護美ニ命シテ、東行中議定ノ事ヲ攝行セシム。

○國家多事、費用不貲ヲ以テ、令シテ、度支ヲ節減セシム。

○私ニ關門遷所ヲ置クヲ禁ス。

○在京ノ舊高家旗下士ニ令シテ、幕府付與スル所ノ朱印ヲ上ラシム。

○松平忠和、病ヲ以テ歸藩ヲ請フ、之ヲ聽ス。

○甲斐淺間神社社務中村某、市太等、連署シテ書ヲ上リ、鎮臺ヲ甲府ニ置ンコトヲ請フ、大總督府既ニ鎮撫使ヲ差遣スルヲ以テ、之ヲ批下ス、又御嶽山神主内藤某、岐、甲斐ノ風土人情ヲ上陳ス。

卷八十七 明治元年戊辰五月十八日

十八日、阿波藩ノ宜秋門及ヒ神戸ノ警守ヲ罷ム。

○是ヨリ先、板倉勝靜父子、宇都宮ノ亂ニ死スルノ聞エアリ、備前藩、其臣子悲痛激切ノ情ヲ陳シテ、板倉氏ノ後ヲ立テシコトヲ請フ、是日、書ヲ下シテ、其臣隸ヲ慰諭シ、後命ヲ待タシム。

○奥羽鎮撫總督九條道孝ノ仙臺ニ在ルヤ、伊達慶邦、其護衛ヲ嚴ニシ、外人ト相見ルヲ許サス、莊内征討應援參謀前山長定、清一郎仙臺ニ抵リ、慶邦ニ説キ、道孝ヲ奉シテ奥羽ヲ巡撫セントス、聽カス、長定乃チ詭説スルニ京ニ歸ルヲ以テス、慶邦之ヲ諾ス、是日、道孝等、仙臺ヲ發シテ盛岡ニ赴ク。

○神奈川裁判所總督東久世通禧、書ヲ各國公使ニ遣リ、新潟地方未タ鎮定ニ就カサルヲ諭シテ、開港ノ期ヲ延ヘ、且外人ノ密ニ其地ニ赴クヲ禁ス。

卷八十八

明治元年戊辰五月十九日

十九日、鎮臺ヲ江戸ニ置キ、社寺市政民政三裁判所ヲ設ケ、大總督熾仁親王ヲシテ之ヲ管セシメ、東海道總督橋本實梁、海軍先鋒大原俊實ヲ以テ鎮臺補ト爲シ、大總督府參謀西四辻公業ニ鎮臺補ヲ兼シム、又東山道總督岩倉具定ヲ奥羽征討白川口總督ト爲シ、岩倉具經仍之ニ副シ、北陸道總督高倉永祐ヲ越後口總督ト爲シ、東海道副總督柳原前光、錦旗奉行穗波經度ヲ大總督參謀ト爲ス、前光甲府駐在故ノ如シ、是ニ於テ、諸道及ヒ海軍先鋒皆罷ム。

○奈良縣ヲ置キ、春日仲襄讀城守久我建通家士ヲ以テ知事ト爲ス、又長谷

部恕連基平ヲ笠松縣知事ト爲ス。

○江戸鎮臺輔池田章政ヲ以テ刑法官副知事ト爲ス。

○舊高家、旗下士ノ京ニ在ル者ニ命シテ、兵員ヲ錄上セシム。

○松平頼聰、歸藩シテ政治ヲ更革セント請フ、之ヲ聽ス、既ニシテ、江戸ノ警報至ルヲ以テ之ヲ留ム、後再ヒ請フ、聽サス、京ニ在リテ藩事ヲ處理セシム。

○山内豐範、其支封山内豐福ノ疾ニ罹リテ、入覲遲延スルヲ謝ス。

○仙臺藩ニ令シテ、藩士三好清房ヲ京師ニ召ス、老臣等藩情ノ暴露センコトヲ恐レテ、命ヲ傳ヘス、後其罪ヲ羅織シテ之ヲ逮セントス、清房自殺ス。

卷八十九

明治元年戊辰五月二十日

二十日、大阪府判事岩下方平ヲ以テ參與ト爲ス。

○島津忠義及ヒ島津忠寛ニ命シ、兵ヲ引テ江戸ニ赴キ、大總督ト謀リテ、賊氛ヲ掃蕩セシム、因リテ忠義ヲシテ東行中議定ノ事ヲ行ハシム。

○黒田長博、藤堂高猷、有馬慶頼、細川護久ヲ京師ニ召ス、高猷、護久病ヲ以テ辭ス、乃チ高猷ノ子高潔ヲシテ代觀セシム。

○酒井忠悖ノ罪ヲ判シテ、蟄居ヲ命シ、養子忠邦ヲシテ其封ヲ襲キ、軍資金拾五萬兩ヲ獻セシム、即薩摩藩ノ守兵ヲ撤ス。

○丹南藩ニ命シテ、京都市街ヲ巡警セシム。

○外國官知事伊達宗城、上表シテ職ヲ辭ス、聽サス。

○是ヨリ先、北陸道總督高倉永祐、小濱藩ニ命シテ、其支封勝山藩ノ別邑越前ニ在ル者ヲ假管セシム、是ニ至リ之ヲ復ス。

○肥前藩ニ命シ、其老臣鍋島茂昌上總ヲシテ手兵ヲ率キテ東下セシム。

○神奈川裁判所總督東久世通禧、書ヲ各國公使ニ遣リ、江戸ノ賊徒ヲ掃蕩セシヲ報ス。

二十一日、江戸ノ警報至ル、乃チ其事ヲ宣布シ、在京ノ諸侯ニ令シ、兵備ヲ整ヘテ後命ヲ俟チ、警守諸藩ヲシテ譏察ヲ嚴ニセシム、又三等陸軍將烏丸光徳、大總督府參謀正親町公董以下ノ東行ヲ促シ、肥後、阿波ニ一藩ヲシテ速ニ大阪ノ兵ヲ發セシム。

○各國公使、書ヲ神奈川裁判所總督ニ遣リ、遷所ヲ橫濱ニ設ケント請フ。

卷九十

明治元年戊辰五月二十二日

二十二日、諸國大水アリ、是日、刑法官知事大原重徳ニ命シテ、笠松縣ヲ巡視セシム、尋テ會計官ノ吏員ヲ近畿ノ府縣ニ派遣シ、其尤甚シキ者ハ、本年ノ田租ヲ免ス、秋ニ至リ、再ヒ水アリ。

卷九十 中

卷九十 下

○松平茂昭ニ命シ、兵ヲ率キテ越後ニ赴カシム、茂昭病ヲ謝シテ、行期ヲ緩クセント請フ、批シテ其狀ヲ具申セシム。

○彦根藩、徵發數次ニシテ、兵卒給セサルヲ以テ、石藥師門ノ警守ヲ罷メント請フ、是日、之ヲ聽シ、徵兵ヲ以テ之ニ代フ、又高松藩ニ命シテ、四塚關門ヲ守リ、大聖寺藩ニ蹴上ヲ守ラシメ、加賀、大聖寺ニ一藩ノ市中巡警ヲ罷ム。

○堀田正養、在京期滿チテ歸藩ヲ請フ、之ヲ聽ス、適江戸ノ警報至ル、是日、命シテ之ヲ留ム、細川興貫モ亦歸藩ヲ請フ、聽サス。

○神奈川裁判所總督東久世通禧、書ヲ大總督ニ遣リ、精兵ヲ發シテ、橫濱ヲ守ラシメント請フ。

卷九十一

明治元年戊辰五月二十三日
日ニ起リ二十五日ニ至ル

二十三日、兵庫裁判所ヲ廢シテ、兵庫縣ヲ置キ、大阪府判事伊藤博文ヲ以テ知事ト爲ス、又大阪府知事醍醐忠順ヲ罷メ、參與小松清廉、後藤元燁ニ命シテ、府事ヲ管理シ、參與大久保利通ヲシテ江戸ニ駐在セシム。

○舊生野代官所但馬國ノ管地ヲ久美濱縣ニ屬シ、其銀坑ヲ會計官ニ屬ス。

○本莊宗武及ヒ宗秀ノ罪ヲ釋シ、士心ヲ一ニシテ王事ニ服セシメ、伏見ノ役ニ與リシ隊兵ノ器仗ヲ沒ス、又其藩城京師ノ北門ニ當ルヲ以テ、守備ヲ嚴ニセシム。

○丹羽長國、一柳某信次郎ノ弟四郎ヲ養ヒテ嗣ト爲サント請フ、之ヲ聽ス、報未タ達セスシテ、四郎卒ス、

○井上正順、織田信及、在京ノ期滿チテ、歸藩ヲ請フ、江戸ノ警報アルヲ以テ、並ニ聽サス。

○前田利裕、京ニ至ル前田利昭家記

○箱館府判事松浦弘武伊勢人、東海諸州ノ阻程ヲ患ヒ、別路ヲ設ケテ、郵便ニ便センコトヲ請フ。

二十四日、輔相三條實美ノ監察使ヲ罷メテ、關八州鎮將ヲ兼

○會計官判事小原忠寬、病ヲ以テ職ヲ辭ス、是日、之ヲ罷ム、尋テ其勤勞ヲ賞シテ、物ヲ賜フ。

○秋月種樹ニ命シ、兵ヲ率ヰテ江戸ニ赴カシム、種樹疾ヲ以テ辭シ、老臣ヲシテ代リ往カシメント請フ、之ヲ聽ス。

○是ヨリ先、東山道總督岩倉具定、安藤信勇ノ別邑美濃ニ在ルモノヲ收メ、尾張藩ヲシテ之ヲ管セシム、是ニ至リ、信勇勤王ノ實蹟アルヲ以テ、尾張藩ニ命シテ、之ヲ還付ス。

○水野忠弘、細川興貴等、上直ス、命シテ、其騎馬ヲ試ミ、物ヲ賜フ。

○是ヨリ先、土岐頼知、松平頼英歸藩ノ請ヲ聽ス、既ニシテ、江戸ノ警報アリ、是日、命シテ之ヲ留ム。

○舊高家、交代寄合以下ノ歸順セシ者ヲ朝臣ニ列シ、其祿ヲ復ス。

卷九十二

上 明治元年戊辰五月二十七日

二十七日、鎮將三條實美、手詔ヲ親子内親王ニ傳ヘ、徳川氏處分既畢ルヲ告ケ、其去住ヲ問フ、内親王恩命ヲ謝シ、暫ク西上ノ期ヲ緩クセント請フ。

○舊制ノ通貨二種ヲ増鑄ス。

ネ三等陸軍將鳥丸光徳ヲ以テ江戸府知事ト爲シ、鎮臺輔大原俊實、大總督府參謀西辻公業ニ、關八州監察使ヲ兼ネシム、公業之ヲ辭ス、又軍務官判事大木喬任、權辨事坂田莠高橋ニ、議政官下局議長ノ事務ヲ兼攝セシム。

○神奈川裁判所總督東久世通禧ニ命シテ、歐洲六國ノ外、更ニ米利堅國ニ使セシム、又瑞典、那耳回國條約交換ノ事務ヲ委任ス。

○徳川家達ヲ駿河ニ封シ、遠江、陸奥ノ地ヲ併セテ、七十萬石ヲ賜フ、尋テ參河ヲ以テ陸奥ニ代フ、又一橋茂榮、田安慶頼ヲ藩屏ニ列シ、徳川氏臣隸ノ官位ヲ停ム。

○萬石以下ノ采地ヲ府縣ニ隸ス。

○諏訪忠誠ノ退老ノ請ヲ聽シ、養子忠禮ヲシテ封ヲ襲カシム。

○小倉藩英彦山ノ僧徒ト相善カラス、是日、諭シテ其舊ニ復セシム。

○前田齊泰、歸藩シテ政治ヲ更革シ、其子慶寧ヲシテ入覲セシメント請フ、江戸ノ警報アルヲ以テ、聽サス。

○松平慶倫、奥平昌邁、伊東祐歸、三浦顯次、京ヲ辭ス。松平慶倫、奥平昌邁以下各家家記

二十五日、贈正三位楠正成ヲ加茂川東操練場ニ祭ル。

○釀酒ノ條例ヲ申定シ、鑑札稅ヲ課ス。

○加賀藩ノ大宮御所、桂宮、今出川門警守ヲ罷メ、徵兵ヲ以テ之ニ代フ。

○林忠崇ノ封土ヲ沒シ、其臣隸ノ入京ヲ禁ス、是ヨリ先、忠崇ノ家臣京ニ在ルモノ、忠崇ノ賊ニ應スルヲ聞キ、其弟忠弘忠助ヲシテ入京セシメ、王事ニ服セント請フ、是ニ至リ、其書ヲ卻ケ、忠弘以下ヲシテ屏居シテ後命ヲ俟タシム。

○水野忠弘、封邑警虞アルヲ以テ、父忠精ヲシテ歸藩セシメント請フ、聽サス、老臣ヲシテ守備ヲ嚴ニセシム。

○一橋茂榮、田安慶頼等、書ヲ大總督府ニ上リ、舊旗下士ヲ朝臣ニ列シ、其采地ヲ復センコトヲ請フ、是日、令シテ其姓名階級ヲ錄上セシム。

卷九十三

下 明治元年戊辰五月二十八日

二十八日、高家、交代寄合以下ノ舊稱ヲ廢シ、中大夫、下大夫、上士ヲ置ク。

○諸藩ニ公務人ヲ置キ、貢士ヲ以テ之ニ充ツ、又貢士ノ對策ヲ定メテ、一月三次トナス。

○加賀藩ニ紙幣拾萬兩ヲ付シ、金貨ニ交換セシメ、以テ越後ノ軍資ニ充ツ、尋テ前藩主前田齊泰ニ假ヲ賜ヒ、歸リテ其事ヲ措辨セシム、又長門藩ニ令シテ、兵ヲ越後ニ出サシム。

○盛岡藩ニ命シテ、陸奥諸藩政令傳達ノ事ヲ管セシム。

○京極高富ノ退老ノ請ヲ聽シ、養子高陳ヲシテ封ヲ襲カシム。

○伊達慶邦、上杉齊憲、奥羽諸藩ヲ聯合シ、討會ヲ沮ムノ報至ル、乃チ慶邦、齊憲ノ京邸ヲ没シ、其臣隸ノ入京ヲ禁ス、又奥羽、越ノ列藩ニ諭シテ、順逆ヲ誤ルコト勿ラシム、尋テ慶邦ノ封地近江ニ在ルモノヲ收ム。

○櫻井忠興、攝海警備ノ事アルヲ以テ、再ヒ歸藩ヲ請フ、聽サス。

卷九十四

明治元年戊辰五月二十
九日ニ起リ晦日ニ至ル

○二十九日、新潟裁判所ヲ廢シテ、越後府ヲ置キ、安井顯比和介實議、小笠原長清彌右衛門等ヲ以テ權判事ト爲ス。

○遠藤胤城、勤王ノ實蹟アルヲ以テ、其封土ヲ復ス。

○酒井忠氏、病ヲ以テ上京謝恩ノ期遲延スルヲ稟ス、又喜連川繩氏左馬頭喜、老臣ヲ京師ニ遣シテ、王事ニ服センコトヲ請フ、批シテ、後命ヲ待シム。

○毛利元蕃、京ニ至ル。諸侯參罷録

○一橋茂榮、田安慶頼及ヒ東叡山ノ僧侶等、書ヲ大總督府ニ上リ、入道公理親王ノ爲メニ恩宥ヲ請フ。

○毛利敬親、京ニ至ル、是日、使ヲ遣シテ之ヲ賞勞ス。

○議定鍋島直正、病ヲ以テ再ヒ假ヲ請フ、之ヲ聽ス、尋テ病ヲ問ヒ、物ヲ賜フ。

○大給乘謨、藩名ヲ龍岡ト改メント請フ、之ヲ聽ス。

○蜂須賀茂韶、度支窮乏ノ狀ヲ陳シ、貨幣ヲ鑄テ之ヲ封内ニ行ヒ、以テ東下ノ用ヲ補ハント請フ、許サス。

○是ヨリ先、北陸道總督高倉永祐、舊新潟奉行白石千別下總ヲ行營ニ召ス、時ニ千別疾アリ、僚友田中光儀肥前代リ至ル、永祐命シテ、其舊管地ノ簿書ヲ齎シ、入京シテ之ヲ上ラシム、光儀、

徳川慶喜ニ告テ命ヲ奉セント請フ、之ヲ聽ス、既ニシテ、千別職ヲ罷メ、光儀再ヒ新潟ニ至ル、會津以下ノ逋逃者、交來リテ脅迫ス、是日、光儀、本廳ノ事務ヲ米澤藩ニ交付シ、書ヲ官軍ニ遺リテ其狀ヲ報ス。

是月、驛傳ノ制ヲ釐正ス。

○土佐藩ニ命シテ、討會ノ兵ヲ越後ニ出サシム。又軍艦ヲ購シ、仍本藩ヲシテ之ヲ管セシム。

○參河裁判所總督平松時厚、旁近諸藩及ヒ舊旗下士ノ情狀ヲ陳シテ、速ニ之ヲ處分セント請フ。

卷九十五

明治元年戊辰六月朔
日ニ起リ二日ニ至ル

○六月

朔日、松平武聰、其臣江戸ニ在ル者、賊ニ黨スルノ聞エアルヲ申ス、是日、命シテ其事ヲ案檢セシム、既ニシテ武聰其狀ヲ詳陳シ、屏居シテ罪ヲ待ツ。

二日、高山縣ヲ置キ、梅村準連水水、ヲ以テ知事ト爲シ、參河裁判所總督平松時厚ヲ參河、遠江鎮撫使ト爲ス、又坊城俊章ヲ三等陸軍將ト爲ス。

○毛利敬親廷見ス、手詔シテ、多年勤王ノ勳績ヲ賞シ、且軍國ノ大議ニ參セシム。

○徳川慶勝、甲斐、信濃地方鎮定ノ狀ヲ奏シ、諸藩ノ兵ヲ撤シテ、藩城ニ還ル、是日、書ヲ下シテ其勤勞ヲ賞ス。

○刑法官副知事池田章政、暫ク假ヲ賜ヒテ、藩政ヲ更革セント請フ、之ヲ聽ス、黒田長徳、在京ノ期滿ルヲ以テ、歸藩ヲ請フ、聽サス。

○是ヨリ先、岸和田藩ノ老臣岡部正路、罪アリ、藩主岡部長

寛、之ヲ罰ス、其黨相馬駿逸光本、狀ヲ詐リテ之ヲ官ニ訴フ、是日、刑法官權判事間島冬道萬次郎尾、ヲ遣シテ、正路等ヲ拘シ、久留米、出雲二藩ニ命シテ、之ヲ監護セシム、久留米藩、守兵ナキヲ以テ辭ス、乃チ小濱、圓龜二藩ヲ以テ之ニ代フ。

○大總督熾仁親王、諸道ノ戰死者ヲ江戸城中ニ祭ル。

卷九十六

明治元年戊辰六月三
日ニ起リ六日ニ至ル

三日、山内豐信ヲ以テ議定ト爲シ、倉敷縣知事内海利貞ヲ罷ム。

○是ヨリ先、林忠崇箱根ヲ侵ス、小田原藩ノ守兵叛テ之ニ應ス、事聞ス、是日、藩主大久保忠禮ノ官位ヲ褫キ、封土ヲ没シ、其臣隸ノ入京ヲ禁ス。

○秋田映季、奥羽ノ諸藩連衡、本藩孤立ノ狀ヲ陳シテ、救援ヲ乞フ、是日、令シテ之ヲ獎勵シ、官軍ノ至ルヲ待タシム。

○板倉勝弘、其臣江戸ニ在ルモノ、東叡山ノ賊ニ投シ、且兵仗ヲ借スノ狀ヲ申ス、是日、命シテ其事ヲ案檢セシム、既ニシテ、勝弘再ヒ其狀ヲ陳シ、屏居シテ罪ヲ待ツ。

四日、外國官知事伊達宗城ヲシテ假ニ議定ノ事ヲ兼シム、又眞岡縣野、ヲ置キ、鍋島貞幹肥前道、ヲ以テ知事ト爲ス。

○諸藩ニ令シテ、京師駐在ノ兵ヲ解キ、藩内ノ兵備ヲ修メシム。

○堀田正倫、永井直介、酒井忠經、歸藩ヲ請フ、並ニ聽サス。
○是ヨリ先、毛利元敏、假ニ治所ヲ勝山ニ移ス、是ニ至リ、其情
狀ヲ陳シテ、暫ク舊ニ仍ラント請フ、之ヲ聽ス。

○大總督ノ彰義隊ヲ討スルヤ、久世廣文佐倉ニ奔ル、其老臣等
之ヲ本藩ニ迎ヘ、書ヲ總野鎮撫鍋島直大ニ上リテ、其罪ヲ陳謝
ス、是日、直大其狀ヲ大總督府ニ稟ス。

○是ヨリ先、舊幕府金ヲ江戸ノ商賈ニ課ス、是日、鎮臺府、錄シ
テ公債ト爲シ、漸ク以テ之ヲ償還スルヲ令ス。

五日、江戸府知事烏丸光徳ヲ以テ鎮臺輔ト爲シ、鎮臺輔橋本實
梁、大原俊實、西四辻公業ヲ罷ム。

○島津忠義、島津忠寛、及ヒ高鍋藩兵、將ニ東發セントス、二人
ヲ召シ、詔シテ、之ヲ勗メシメ、物ヲ賜ヒ、又建禮門ニ御シテ、
其軍容ヲ觀ル、會大總督府參謀西郷隆盛、西上シテ聞奏スル所
アリ、乃チ其行ヲ止メ、忠義ノ兵ヲ與羽ニ差遣ス。

○尾張、篠山、膳所三藩士ノ市政管理ノ勞ヲ賞シテ、金帛ヲ賜
フ。

○大給近説、歸藩ヲ請フ、聽サス。

六日、是ヨリ先、永平寺、總持寺、長ヲ爭ヒテ相訴フ、是ニ至リ、
永平寺本宗タルヲ以テ、總持寺輪番住持ノ制ヲ廢シ、碩徳ヲ選

ミテ、住持ト爲シ、永平寺ニ昇住セシメ、永平寺ニ命シテ、宗規
ヲ更正セシム。

○酒井忠邦、京ニ至ル。酒井忠邦家記

卷九十七

明治元年戊辰六月七日
日ニ起リ十日ニ至ル

七日、軍務官判事大木喬任ノ議長ヲ罷ム。

○與羽追討白河口總督岩倉具定、副總督岩倉具經ヲ罷メ、鷲尾
隆聚ヲ以テ與羽追討總督ト爲ス、尋テ隆聚ヲ改メテ大總督府
參謀ト爲シ、白河口ニ赴カシメ、參謀正親町公董ヲ與羽追討總
督ト爲ス。參謀故

○北陸道鎮撫副總督四條隆平、其部民ノ兵禍ニ罹リシ者ニ、紙
幣ヲ貸付セント請フ、又本年田租ノ半ヲ免セシヲ申ス。

○大赦ノ令、未タ東國ニ行ハレス、是日、大總督之ヲ申令ス。

○鎮臺府、徳川家達ニ令シテ、舊幕府ノ文書記録ヲ上ラシム。

八日、傳驛ノ條規ヲ更正ス。

○島津忠義ニ命シ、藩ニ還リ兵ヲ調シテ、海路ヨリ江戸ニ赴
キ、大總督熾仁親王、鎮將三條實美ト謀リ、與羽ノ賊ヲ掃蕩セ
シム。

○戸田忠友ノ父忠恕、病篤キヲ以テ入觀遲延スルヲ謝ス、是

日、忠友ノ罪ヲ謹メテ、退老ヲ命シ、忠恕ノ尊王ノ志ヲ賞シ、同
宗戸田光則ノ子ヲ撰ミテ、嗣ト爲サシム、既ニシテ養子ノ命ヲ
停メ、忠友ヲシテ其職ヲ復セシム。

○成瀬正肥、信濃ヨリ藩城ニ還ル。

九日、參河裁判所ヲ廢シ、參河縣ヲ置キ、長岡恂ヲ知事ト爲ス。

○吉川經幹ヲ城主格ト爲ス。

○令シテ、嚴ニ暗殺者ヲ緝捕セシム。

十日、六官及ヒ在京ノ諸侯貢士ニ、衣服ノ制ヲ策問ス。

○凡外船ニ搭駕スルモノハ、其地方廳ノ印票ヲ帶ヒシム。

○吉川經健、父ノ病ヲ以テシ、毛利元純、封内洪水アルヲ以テ
シ、並ニ歸藩ヲ請フ、之ヲ聽ス。

○津輕承昭、在京ノ家臣ヲシテ書ヲ上リ、其藩狀ヲ陳セシム。

卷九十八

明治元年戊辰六月十二日

十二日、參河、遠江鎮撫使平松時厚ヲ罷ム。

○筑前藩ニ命シテ、大阪ヲ警守セシメ、且藩主黒田長薄ノ入觀
ヲ促ス。

○棚倉、二本松、中村、磐城平、三春ノ五藩、官軍ニ抗スルノ聞
アリ、是日、棚倉藩ノ京邸ヲ沒シ、藩士ノ入京ヲ禁シ、二本松以

下四藩士ノ京ニ在ル者ヲシテ邸内ニ屏居セシム、適磐城平藩
主安藤信勇、京師ヨリ還リテ屋張ヲ過ク、參河鎮撫府、尾張藩
ヲシテ之ヲ拘留セシム、信勇尾張藩ニ就キ、勤王ノ素志ヲ陳
シ、美濃ノ別邑ニ屏居シテ、罪ヲ待シテ待シテ請フ、之ヲ聽シ、藩
内抗命ノ徒ヲ處分シ、實效ヲ立シム。

○久松勝成ノ老臣、京ニ在ルモノ、虞帑ノ窮乏ヲ陳シテ、獻金
ノ期ヲ緩クセント請フ、是日、批シテ獻金ヲ止メ、後命ヲ待タ
シム、勝成之ヲ聞キ、其情狀ヲ具申シテ、前命ニ復センコトヲ
請フ、乃チ之ヲ聽シ、老臣ヲ禁錮ニ處ス。

○新製ノ紙幣ヲ彦根藩ニ貸付ス。

○是ヨリ先、對馬藩、朝鮮國貿易ノ狀ヲ陳シテ、官銅ヲ買ヒ、且
貿易資金ヲ借ラント請フ、聽サス、是日、又其通交事宜ヲ上陳
ス。

卷九十九

明治元年戊辰六月十三日

十三日、軍費不貲ヲ以テ、五等官以上ノ俸金ヲ減殺ス。

○諸藩ニ令シテ、京、阪駐在及ヒ近畿關門警守ノ兵員ヲ錄上セ
シム。

○越後ノ賊勢鳴張スルヲ以テ、松平茂昭ノ行ヲ促ス、時ニ茂昭

病未タ愈エス、老臣ヲシテ代リテ兵ヲ督セシム、其父議定慶永、藩ニ歸リテ親ク朝旨ヲ諭サント請フ、聽サス。
 ○伊達宗孝、京ニ至リ、其宗宗城ニ就キ、貳心ナキヲ陳シテ、入親ノ遅延ヲ謝ス、宗城尋テ書ヲ上リ、本藩假管スル所ノ封邑ヲ宗孝ニ還付センコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

卷百

上中 明治元年戊辰六月十四日
 下 日ニ起リ十八日ニ至ル

十四日、軍務官知事嘉彰親王ヲ以テ會津征討越後口總督ト爲シ、知事故ニ等陸軍將西園寺公望、壬生基修ヲ參謀ト爲ス、二人軍將故ノ如又岩國藩ニ令シテ、兵ヲ越後ニ出サシメ、薩摩、越前一藩ニ軍需ヲ運輸セシム。

- 因幡藩ノ中立賣警守ヲ罷メ、白杵藩ヲ以テ之ニ代フ。
- 近畿ノ公邑ヲ府縣ニ隸シ、舊代官ノ假管ヲ罷ム。
- 在藩ノ諸侯ニ令シ、盛夏隆冬、老臣ヲ遣シテ起居ヲ候スルヲ止ム。
- 酒井忠邦ノ祖父忠績、家系ヲ陳シテ、徳川氏ニ隸屬センコトヲ請フ、是日、忠邦ニ命シ、忠績ヲ諭シテ、再ヒ其情實ヲ具申セシム。
- 櫻井忠興、木莊宗秀、歸藩ヲ請フ、之ヲ聽ス。

十五日、八阪臨時祭ヲ修ス。

- 辨事秋月種樹ヲ以テ侍讀ヲ兼シム。
- 開港地ノ府縣ニ令シテ、外國事務ヲ兼管セシム。
- 徳川慶篤、書ヲ上リ、楠社創建ノ令アルヲ以テ、父祖ノ遺志ヲ繼キ、之ヲ營センコトヲ請フ、是日、批シテ其圖樣ヲ具申シ、後命ヲ待タシム。
- 十六日、甲斐鎮撫使柳原前光、管内本年田租ノ三分ヲ減ス、因リテ令シテ、逋租ノ罪ヲ犯スコト勿カラシム。
- 十七日、神奈川裁判所ヲ改メテ、神奈川府ト爲シ、總督東久世通禧ヲ以テ知事ト爲シ、副總督鍋島直大ヲ外國官副知事ト爲シ、府事ヲ兼シム、又岩鼻縣野ヲ置キ、大音厚龍祖太郎ヲシテ縣事ヲ管理セシム。
- 宮、大臣、門跡ノ上申書、往々其體ヲ失スルモノアリ、是日、令シテ舊習ニ仍リ、不遜ニ涉ルコト勿ラシム。
- 大垣藩兵ノ戰勞ヲ賞シ、且其洪水アルヲ以テ、藩主戸田氏共ニ内帑金壹萬五千兩ヲ賜フ。
- 是ヨリ先、秋月藩士、黨ヲ分チテ相闘ク、是日、藩主黒田長徳ニ命シ、歸藩シテ正邪ヲ判シ人心ヲ一ニセシム。
- 柳澤光邦、歸藩ヲ請フ、聽サス。

十八日、土佐藩兵ノ戰勞ヲ賞シテ、藩主山内豐範ニ内帑金五千兩ヲ賜フ、又安藝藩ニ令シテ、兵ヲ越後ニ出サシム。

- 諸藩ニ令シテ、戎服ノ徽章ヲ録上セシム。
- 戸田光則、金ヲ獻シテ、度支ニ供センコトヲ請フ、之ヲ聽ス。
- 岡部長寛、病ヲ謝シ、其子長職彌次ヲシテ代勤セシメント請フ、批シテ後命ヲ待シム。
- 青山幸宜、其臣江戸ニ在ルモノ、逃走セシノ狀ヲ申ス。
- 宗義達、朝鮮國ノ米國人ヲ永宗ニ襲撃セシ狀ヲ奏ス。

卷百一

明治元年戊辰六月十九日
 日ニ起リ二十日ニ至ル

十九日、參與木戸孝允、軍務官判事大木喬任ヲ江戸ニ遣シ、大總督熾仁親王、輔相三條實美ト、車駕東幸等ノ事ヲ議セシム。
 ○越後ノ賊勢鳴張スルヲ以テ、長門、岩國二藩ニ申命シテ、海路ヨリ直ニ赴援セシメ、筑前、加賀二藩ニ汽船ヲ出サシム、因リテ、筑前藩主黒田長溥入親ノ期ヲ緩クス。
 ○佐竹義堯、津輕承昭、南部利剛賊中ニ孤立スルノ間アリ、是日、之ヲ獎勵シ、官軍ノ至ルヲ待チテ、共ニ進剿セシム。
 ○長崎府判事井上馨ニ命シテ、長崎製鐵場ノ事務ヲ管理セシム。

○本邦、朝鮮漂民送致ノ條規ヲ更定ス。

- 天童藩在京ノ老臣、藩主織田信敏進退維谷ノ狀ヲ陳シテ、救濟ヲ請フ、因リテ、軍費金ヲ賜フ、故アリテ寢ム、既ニシテ、老臣又書ヲ上リ、本藩、米澤藩ノ迫ル所ト爲リ、姑ク賊ニ黨スルヲ申ス。
- 保科正益、罪ヲ京師ニ待チ、老臣ヲ遣シテ、勤王ノ志ヲ大總督ニ陳ス、是ニ至リ、其赦命アリシヲ上申ス、乃チ其謹慎ヲ釋ス。
- 諏訪忠禮、歸藩ヲ請フ、聽サス。
- 鎮臺府、山田政則一太夫ヲ以テ知縣事ト爲シ、武藏、下總ノ數郡ヲ管セシム。
- 二十日、嘉彰親王、守修親王、嘉言親王、智成親王、博經親王復飾セシヲ以テ、更ニ仁和寺、梶井、聖護院、照高院、知恩院、五門跡ヲ置キ、寺務ヲ統理セシメ、假ニ寺領ヲ以テ親王ノ家祿ニ充ツ。
- 萬機親裁、公議博探ノ告諭、及ヒ徳川慶喜征討ノ二榜ヲ撤ス。
- 山崎治祇主稅助、山名義濟但馬、池田喜通播磨本ヲ藩屏ニ列ス。
- 辨事局ノ印文ヲ改ム。

- 兵學校ヲ軍務官ニ設ケ、堂上及ヒ非藏人等ノ入學ヲ許ス、尋テ五條爲榮ヲ以テ兵學校奉行助役ト爲ス。
- 私ニ金銀貨幣價位ノ差等ヲ立ルヲ禁ス。
- 火戲ノ大ナル者ヲ禁ス。
- 永井直介、再ヒ歸藩ヲ請フ、之ヲ聽ス。
- 鎮臺府、松村長爲忠四郎ヲ以テ知縣事ト爲シ、武藏ノ數郡ヲ管セシム。
- 鎮臺府令シテ、書籍ヲ私刊スルヲ禁ス。

卷百二 上 下 明治元年戊辰六月二十二日

- 二十二日、堺縣和ヲ置キ、大阪府判事小河一敏ヲ以テ知事ト爲ス、尋テ、岸和田、伯太ニ藩ニ命シテ、其假管ノ地ヲ本縣ニ交付セシム。
- 府縣ニ勅シテ、天災兵害ニ罹リシ者ヲ賑恤セシメ、便宜事ヲ行フヲ許ス。
- 會津征討越後口總督嘉彰親王、陛辭ス、天皇便殿ニ延見シ、錦旗節刀ヲ賜ヒ、且其軍容ヲ觀ル、親兵、徵兵及ヒ小濱、明石以下八藩兵、之ニ從フ、既ニシテ明石藩、藩情ヲ陳シテ、増兵ノ命ヲ辭ス、乃チ軍資金三萬兩ヲ課ス。

○北越ノ賊徒、神佛區別ノ令アルニ乘シ、朝意廢佛ニ在リト宣言シ、以テ愚民ヲ煽惑ス、是日、本願寺光澤等ニ命シ、門徒ヲ諭シテ、之ヲ安撫ス。

- 徳川茂承ニ令シテ、紀伊國ノ版圖ヲ錄上セシム。
- 松平武聰、關門ヲ澁谷ニ設ケ、大津口ノ邏兵ヲ移シテ、之ヲ守ラント請フ、之ヲ聽ス。
- 稻垣長行、堀田正養、井上正順、歸藩ヲ請フ、竝ニ之ヲ聽ス。
- 水野忠弘、本藩士米澤藩ノ遁ル所ト爲リ、兵ヲ越後ニ出スノ聞アルヲ申ス、又秋田藩在京ノ老臣、本藩ノ近狀ヲ陳シ援兵ヲ請フ。

○徳川家達、書ヲ鎮將府ニ上リ、其臣隸ノ存録シ難キモノハ、皆士籍ヲ除キ、農商ニ歸シ、若クハ浪人ト稱シ、以テ生計ヲ爲サシメント請フ、是日、其農商ニ歸スルヲ聽ス、家達、又之ヲ蝦夷ニ移シテ、開拓ノ業ニ服セシメント請フ、聽サス。

卷百三 上中 下 明治元年戊辰六月二十三日 日ニ起リ二十九日ニ至ル

- 西班牙國公使、橫濱ニ至リ、和親貿易ヲ請フ。
- 二十三日、松平直靜、歸藩ヲ請フ、之ヲ聽ス。
- 二十四日、駿府鎮撫使四條隆謨ヲ以テ大總督府參謀ト爲ス。
- 土屋學直、歸藩ヲ請フ、之ヲ聽ス。

○官軍棚倉城ヲ攻メテ、之ヲ拔ク。鷲尾隆聚 奥羽追討日記

- 二十五日、出雲藩ノ堺警守ヲ罷ム、尋テ之ヲ復ス。
- 島原藩ニ令シテ、汽船ヲ兵庫ニ出サシム。
- 酒井忠強退老ノ請ヲ聽シ、弟忠彰知三ヲシテ其封ヲ襲カシム。
- 織田信及、再ヒ歸藩ヲ請フ、之ヲ聽ス。
- 松平定敬ノ老臣、定敬越後ニ在ルヲ聞キ、尾張、津二藩ニ因リテ、書ヲ上リ、朝旨ヲ諭シ、定敬ヲシテ歸順セシメント請フ、聽サス。
- 三浦顯次、臣隸賊ニ黨セシ狀ヲ申シ、屏居シテ罪ヲ待ツ、是日差扣ヲ命ス、本多正訥、亦臣隸黨賊ノ狀ヲ申ス。
- 二十六日、勅使ヲ神宮及ヒ熱田宮ニ遣シ、大政復古ヲ告ケ、且東北平定ヲ祈ル。
- 秋元志朝、刑部大輔 秋元興 朝家記京ニ至ル。
- 鎮臺府、醫學校ヲ江戸ニ置ク。
- 二十七日、平松時厚ヲ遣シテ、東征ノ諸軍ヲ犒ヒ、且令シテ、庶民ヲ虐使スルコト勿ラシム。
- 越後口總督高倉永祐ヲ罷ム。
- 石川成之、松平頼英、大給乘讓、歸藩ヲ請フ、並ニ之ヲ聽ス。
- 鎮臺府、彌川光明小十郎 三上善七ヲ以テ知縣事ト爲シ、下總、常陸ノ

數郡ヲ管セシム。

- 二十八日、笠松縣知事長谷部恕連ヲ罷メ、判事林某左ヲ以テ之ニ代ヘ、三河縣知事長岡恂ヲ罷ム。
- 松平定安、軍資ヲ獻セント請フ、批シテ之ヲ借ル。
- 是ヨリ先、高野山ノ學侶、書ヲ上リ、學侶、行人ニ派ノ資格ヲ陳シテ、興山寺ノ寺務總職ヲ罷メンコトヲ請フ、爾後ニ派相訴ヘテ止マス、是日、令シテ、後命ヲ俟タシム。
- 二十九日、議定伊達宗城、官ヲ解キテ仙臺ニ赴キ、伊達慶邦ヲ諭シテ、歸順セシメント請フ、命シテ、官ヲ帶ヒテ東下セシム。既ニシテ、其子宗徳ヲ以テ之ニ代フ。
- 島原藩、宇佐神宮管理ノ舊例ヲ陳シテ、命ヲ請フ、批シテ、之ヲ長崎府ニ屬ス。
- 酒井忠氏、其父忠祿、初名 忠義及ヒ保科正益、其臣賊ニ黨セシ狀ヲ陳シテ、罪ヲ待ツ、是日、忠氏父子ニ屏居ヲ命ス、正益ハ首謀者ヲ誅セシテ以テ、舍テ問ハス。
- 酒井忠經、封内警備ノ事ヲ以テ、再ヒ歸藩ヲ請フ、批シテ、暫ク之ヲ留ム。
- 鎮臺府、江川尙武ニ命シ、舊ニ仍リテ、葦山縣ヲ管セシム。
- 鎮臺府、昌平學校ヲ興復ス。

○官軍、湯長谷城ヲ復ス。正親町公董
陳中日記
○是月、岩倉具經ノ籍ヲ分チテ、堂上ニ班ス。
○諸藩ニ令シ、公事ヲ除クノ外、馬ニ騎シテ巷街ヲ疾驅スルヲ禁ス。

○本莊宗武、小笠原長國、毛利元蕃、安藤直裕、細川興貫、連署シテ書ヲ上リ、諸侯朝覲ノ制ヲ定メンコトヲ請フ。
○水戸藩ニ令シテ、速ニ奸黨剷除シ民鎮輯ノ功ヲ奏セシム。
○佛國人コニエヲ雇ヒテ、鑛山ノ事ニ服セシム。

卷百四

明治元年戊辰七月初日
ニ起リ二日ニ至ル

○七月

朔日、日蝕、參賀ヲ停ム。
○奥羽鎮撫總督九條道孝、參謀醍醐忠敬、久保田ニ抵ル、副總督澤爲量モ亦野代ヨリ來會ス、適伊達慶邦ノ使者久保田ニ入リ、藩主佐竹義堯ニ迫リテ、二督及ヒ薩、長ノ兵ヲ逐ハシメントス、義堯其使ヲ斬リ、先鋒ヲ請フ、是ニ於テ、道孝、諸軍ニ令シ、進ミテ莊内ヲ討セシム。
二日、穗波經度、橋本實梁、西四辻公業、岩倉具經前後江戸ヨリ至ル、是日、勅シテ其勤勞ヲ賞ス。
○土佐藩、國力ノ疲弊ヲ陳シテ、軍資ヲ借シコトヲ請フ、乃チ

金五千兩ヲ給ス。

○五島盛徳、書ヲ上リ、支族五島盛明銚之丞
中大夫ノ采地ヲ併セ、換ルニ慶米ヲ以テシ、力チ一ニシテ兵備ヲ嚴ニセント請フ、之ヲ聽ス。

○内藤政舉、歸藩ヲ請フ、聽サス。
○建部政世、再ヒ京ニ至ル。建部探家記
○鎮臺府、柴山典文平
後藤士ヲ以テ上總、安房監察兼知縣事ト爲ス。
○入道公現親王、會津ヲ去リテ仙臺ニ赴キ、伊達慶邦、上杉齊憲ニ令シ、諸藩ヲ督シテ、薩摩藩兵ヲ撃タシム、諸藩乃チ相謀リ、親王ヲ推シテ軍事總督ト爲シ、公議府ヲ白石ニ設ク、板倉勝靜、小笠原長行等モ亦來會ス、諸藩又書ヲ各國公使ニ遺リ、聯合ノ事ヲ告ク。

卷百五

上
明治元年戊辰七月三日

三日、軍務官支局ヲ敦賀前ニ置ク。
○諸藩ニ令シテ、諸道出征ノ兵數ヲ錄上セシム。
○大總督府參謀四條隆謨ヲ以テ仙臺追討總督ト爲シ、參謀故
ノ如シ奧羽追討總督正親町公董ヲ罷ム。
○宗義達ニ命シ、歸藩シテ、朝鮮國交際ノ事ヲ措辦セシム。
○堀田正倫、歸藩ヲ請フ、之ヲ聽ス。

○大河内信古、其家臣江戸ニ在ルモノ、東叡山ノ賊ニ黨セシ狀ヲ申ス。

卷百六

明治元年戊辰七月四日
日ニ起リ八日ニ至ル

四日、岩松俊純漢次郎
中大夫ヲ以テ越後府知事ト爲ス。
○諸藩ニ令シテ、其所有ノ艦船ヲ大坂、兵庫ノ二港ニ致サシメ、以テ征討ノ用ニ充ツ。
○松平義勇ノ美濃公邑ノ管理ヲ罷メ、之ヲ笠松縣ニ交付セシム。
○申ネテ公信ノ無賃遞送ヲ禁ス、尋テ賃錢制限ヲ定ム。
○松井康英、細川興貫、歸藩ヲ請フ、茲ニ之ヲ聽ス。
○中川久昭、再ヒ京ニ至ル。中川久成家記
○輔相三條實美、旨ヲ傳ヘテ、大總督熾仁親王ヲ慰問シ、且其屬從者ヲ減セシム。
五日、久松勝成、京ニ至ル。久松定
義家記
六日、度會府伊ヲ置キ、橋本實梁ヲ以テ知事ト爲シ、鳥羽藩ニ命シテ衛兵ヲ出サシム、尋テ本多忠貫ノ山田奉行ヲ罷メ、多羅尾光弼鐵之助
幕府代官所管ノ公邑ヲ本府ニ屬シ、藤堂高邦ヲシテ神宮ヲ警守セシム。

○佐渡鎮撫使滋野井公壽ヲ罷ム。
○養老ノ典ヲ行ヒ、齡百歲以上ノ者ハ、每歲三人口俸ヲ給ヒ、八十八歲以上ハ、二人口俸、因リテ、府縣及ヒ諸藩以下ニ令シテ、之ヲ施行セシム。
○寺院ノ願請申稟ヲ府藩縣ニ屬ス、其官位等事朝廷ニ關スルモノハ、之ヲ執奏若クハ辨事局ニ致サシム。
○薩摩、長門以下十一藩ノ老臣ヲ召シ、其藩主ヲ輔翼シ、士氣ヲ振作セシテ賞シテ、物ヲ賜ヒ、且之ヲ獎勵ス。
○加納久宜、歸藩ヲ請フ、之ヲ聽ス。
○龜山藩、徵發數次藩力疲弊ノ狀ヲ陳シテ、歸休ヲ請フ、之ヲ聽ス。
○中大夫、下大夫、上士ニ假ヲ賜ヒ、各歸邑シテ力ヲ兵備ニ竭シ、年少ノ者ハ、留リテ陸軍局ニ入り、修學セシム。
○五島盛徳、京ニ至ル。五島盛
徳家記
七日、驛遞司令シテ諸道傳舍ノ宿弊ヲ洗除セシム。
八日、大總督府參謀西四辻公業、穗波經度ヲ罷ム。
○京都府ニ捕亡司ヲ置キ、管内逮捕ノ事ヲ掌ラシム。因リテ其條規ヲ定ム。
○水野忠幹ニ命シテ、再ヒ入京セシム、又本莊宗武、土岐賴知、

酒井忠美、京極高陳、歸藩ヲ請フ、頼知、高陳ハ之ヲ聽シ、宗武、忠美ハ之ヲ留ム。

卷百七 上

明治元年戊辰七月九日ニ起リ十日ニ至ル

九日、大總督府參謀鷲尾隆聚ヲ以テ、復々奥羽追討白川口總督ト爲ス。

○土御門晴雄、造曆及ヒ頒布ノ事宜ヲ稟請ス、是日、之ヲ聽シ、費額ヲ錄上セシム。尋テ毎月金三百兩ヲ給シテ、其費ニ充ツ。

○是ヨリ先、岡藩、在京見兵寡少ヲ以テ、駿府城警守ノ期ヲ緩フシ、藩兵ノ至ルヲ俟タンコトヲ請フ、數句ヲ經テ、藩兵僅ニ至ル、是日、軍務官、其運緩ヲ讓メテ、之ヲ罷歸シ、更令シテ、軍資金五萬兩ヲ課ス。

十日、各地戰死者三百七十四人、ヲ加茂川東操練場ニ祭ルコト二日。

○中大夫、下大夫、上士ノ傳遞制限ヲ定ム。

○京都府下ノ高年者ニ金ヲ賜フ。

○是ヨリ先、山内豐福病ヲ謝シ、從弟山内豐誠養ヒテ嗣ト爲サント請フ、之ヲ聽ス、既ニシテ、豐福已ニ死スルノ聞エアリ、撫問シテ、其情ヲ獲タリ、是日、申命シテ、襲封ノ事ヲ奏請セシム。

○井上正直、天龍川江暴漲、堤防崩壞ノ狀ヲ具シ、且治河ノ例規ヲ陳シテ、之ヲ修築センコトヲ請フ、是日、正直ニ命シテ、工事ヲ董セシム。

卷百七 下

○大給近説、池田喜通、疾ヲ以テ歸藩ヲ請フ、之ヲ聽ス。

○鎮臺府、桑山效主助、ヲ以テ知縣事ト爲シ、武藏四郡、下總一郡ヲ管セシム。

○静岡藩士ノ横暴ナル者、朝臣ニ列セシ者ヲ侮慢脅迫シ、歸順ヲ障防スルモノアリ、是日、鎮臺府、徳川家達ニ令シテ、之ヲ戒飭セシム。

○徳川家達、書ヲ鎮臺府ニ上リ、奥羽騷擾水戸警虞アルヲ以テ、慶喜ヲ駿河ニ移置センコトヲ請フ、是日、之ヲ聽ス。

○大總督府、水野勝知及ヒ其臣高橋某剛ノ罪狀ヲ條舉シテ、詰問ス、二人答辨書ヲ上ル。

○甲府鎮撫使柳原前光、舊幕府千人同心武藏八王子藩ノ歸順セシ者五十餘人ヲ以テ、府兵ト爲シ、護境隊ト稱ス、又濱松藩ニ府下ノ取締ヲ命ス。

○越後口總督嘉彰親王、越後ニ入り、高田ニ次ス。東伏見宮家記 北征日誌

卷百八

明治元年戊辰七月十二日ニ起リ十三日ニ至ル

十二日、軍務官判事大木喬任ヲ以テ參與ト爲シ、參與後藤元燁ニ大坂府知事ヲ兼シム。

○兵庫縣下攝津有馬八郡二郡ノ地ヲ大坂府ニ屬シ、朽木爲綱、小出英尙管理スル所ノ丹波公邑ヲ久美濱縣ニ屬ス。

○是ヨリ先、笠間藩ノ別邑陸奥警城郡ニアルモノ、賊ノ攻略スル所ト爲ル、藩主牧野貞利、兵ヲ發シテ進剿スルノ狀ヲ稟ス、是日、令シテ亟ニ其功ヲ奏セシム、明日、貞利ノ兵、賊ヲ逐ヒテ、其邑ヲ復ス。

○郡山藩ニ令シ、吏ヲ其別邑海津近江高島郡ニ置キ、越後軍須ノ傳遞ヲ監督セシム。

十三日、諸藩ニ令シ、郡邑ノ公私所屬ヲ明ニシ、其石高ヲ錄上セシム。

○北越未タ平定セサルヲ以テ、酒井忠祿ノ罪ヲ假貸シ、藩ニ歸リテ、北海ノ警備ヲ嚴ニシ、又其臣隸ノ賊ニ黨セシモノヲ處分セシム。

○沼津藩主水野忠敬、小島藩主瀧脇信敏ヲ上總ニ、田中藩主本多正訥ヲ安房ニ移封ス、尋テ二年間金穀ヲ給スル各差アリ。

○平野長裕、内藏助、本堂親久武部丞ヲ藩屏ニ列ス。

○田安慶頼、新ニ藩屏ニ列セシヲ以テ、其攝、泉、播ノ舊領ヲ復ス。

○酒井忠邦、再ヒ祖父忠績ノ情ヲ陳シ、父忠悖ト共ニ、徳川氏ニ隸屬セシメンコトヲ請フ。

○大總督府、安藤信勇ニ命シ、急ニ其從兵ヲ發シテ、藩地ニ赴カシム、時ニ信勇美濃ノ別邑ニ在リ、是夜、官軍磐城平城ヲ攻メテ、之ヲ拔ク、信勇ノ祖父信正遁レ走ル。

○是ヨリ先、牧野貞利ノ臣、賊ニ黨スル者アリ、貞利、書ヲ東山道總督府ニ上リ、出兵ノ期ヲ緩フシテ、反臣ヲ處分センコトヲ請フ、是ニ至リ、貞利、首謀者ヲ刑シテ、大總督府ニ具狀ス。

卷百九

明治元年戊辰七月十四日ニ起リ十六日ニ至ル

十四日、因幡、小倉、佐土原三藩ニ令シ、兵ヲ出羽ニ出サシム、又低肥藩ノ請ヲ允シ、甲府警守ノ兵ヲ轉シテ、越後ニ赴カシム。

○藤堂高猷ニ命シテ、藩士ノ地方ノ事務ニ通スル者ヲ選舉セシム。

○稻垣長行、弟長敬秋ヲ養ヒテ、嗣ト爲サント請フ、之ヲ聽ス。

○毛利元懋、入京シテ、父元周ノ官位復舊致仕及ヒ襲封ノ恩ヲ謝ス。

○莊内兵、新莊城ヲ陥ル、城主戸澤正實院内ニ走ル。

十五日、大阪ヲ以テ開港場ト爲ス。

○有馬慶頼、再ヒ京ニ至ル。辨事局叢書
有馬頼威家記

○大總督府、宮、堂上ノ臣屬ニ令シ、東西往來ノ際、主威ヲ藉リ、驛傳ヲ凌轢スルコト勿ラシム。

○長崎府知事澤宣嘉、書ヲ各國領事ニ遣リ、其國人ノ我紙幣ヲ有スル者ハ、物品ヲ購買スルニ止リ、金銀貨ニ兌換スルヲ得サラシム。

○越後口總督嘉彰親王、柏崎ニ抵ル。北征
日誌

十六日、奥羽鎮撫總督九條道孝等深ク賊中ニ入り、艱苦日久ヲ以テ、書ヲ下シテ、之ヲ獎勵シ、且援軍ヲ發スルヲ告ク、又佐竹義堯、南部利剛、津輕承昭ヲ督促シテ官軍ニ應援シ、莊内ヲ屠リ、亟ニ裁定ノ功ヲ奏セシム。

○内藤文成、京ニ至ル。辨事局叢書
内藤文成家記

卷百十 明治元年戊辰七月十七日

十七日、詔シテ、江戸ヲ以テ東京ト爲シ、鎮臺及ヒ關八州鎮將

ヲ廢シテ、更ニ鎮將府ヲ置キ、駿河以東十三國ヲ管理ス、輔相三條實美ヲ以テ鎮將ヲ兼ネシメ、大總督ハ專ラ軍務ヲ掌ル、又江戸府ヲ改メテ、東京府ト稱シ、烏丸光徳ヲ知事ト爲ス、尋テ十三國ノ社寺ヲ府藩縣ニ屬シ、社寺裁判所ヲ廢ス。

○是ヨリ先、肥前藩ニ申命シ、其老臣鍋島茂昌ヲシテ越後ニ赴カシム、是日、茂昌手兵ヲ率キテ至ル、召見シテ、物ヲ賜ヒ、更メテ出羽ニ赴キ、鎮撫總督ヲ輔ケシム。

○官吏病苦、五旬ニ滿ル者ハ、職ヲ辭セシム、若シ仍療養ヲ許ス者、又五旬ヲ過レハ、前ニ準ス。

○土佐藩管理スル所ノ讚岐那珂郡ノ地ヲ倉敷縣ニ屬ス。

○井伊直安、治城賊衝ニ當リ、對戰累月ノ狀ヲ陳シ、歸藩シテ軍ヲ督セント請フ、優獎シテ之ヲ遣ル。

○徳川徳成、書ヲ上リ、楠社ヲ輦下ニ營シ、且其功ヲ督セント請フ、批シテ、其建設所及ヒ祠宇大小ヲ陳セシム。

○外國商船密ニ奥羽越地方ニ赴キ、賊ト貿易スルモノアリ、是日、神奈川府知事東久世通禧、書ヲ各國公使ニ致シ、嚴ニ其國人ニ令シテ、不開港地ニ至ルコト勿ラシム。

○伊達宗徳、京ニ至ル。伊達宗
徳家記

○大總督府、外國官副知事鍋島直大ノ下總、上野、下野ノ鎮撫

ヲ罷ム。

卷百十一 明治元年戊辰七月十八日

十八日、小原正東東市ヲ以テ倉敷縣知事ト爲ス。

○亂後飢饉ノ虞アルヲ以テ、地方官ヲ戒メテ、之カ備ヲ爲サシム。

○刑法官ヲ閑院宮ノ第二移ス。

○軍務官副知事長岡護美、書ヲ上リ、菊池氏及ヒ加藤清正ノ勳功ヲ表彰センコトヲ請フ、是日、細川韶邦ニ命シテ、祀典ヲ舉行セシム。

○議定松平慶永、上表シテ、其職ヲ罷メンコトヲ請フ、是日、優獎シテ允サス。

○池田章政、再ヒ京ニ至ル。池田章
政家記

○本多正訥、書ヲ大總督府ニ上リ、軍糧ヲ獻シ、督府ノ衛兵ヲ留メ、身安房ニ赴キ、逋逃ヲ鎮定セント請フ、之ヲ聽シ、其糧ヲ受ケス、以テ移封ノ用ニ充テシム。

○越後口總督嘉彰親王、理闕ヲ軍門ニ置キ、庶民ノ訴狀ヲ受ク。

卷百十二 明治元年戊辰七月十九日

十九日、石清水神社ノ放生會ヲ改メテ、中秋祭ト稱ス。

○大總督府、駿府城旁近警守ノ諸兵ヲ罷メ、徳川家達ニ令シテ、藩兵ヲ配置セシム。

○神奈川府知事東久世通禧、各國公使ニ移牒シテ、外船ノ内地米穀輸送ヲ禁止スルコトアレハ、期ニ先タツ二月、之ヲ令スルヲ約ス。

二十日、水筑龍伯ヲ以テ參河縣知事ト爲ス。

○出兵諸藩ニ令シ、事ヲ以テ戰地ヨリ至ル者アレハ、直ニ軍務官ニ候セシム。

○諏訪忠禮、歸藩ヲ請ヒ、保科正益攝津ノ別邑ニ赴カント請フ、竝ニ之ヲ聽ス。

○安藝藩、書ヲ上リ、英國人「ムラクモール」時ニ神戸
ニ在リヲ雇ヒテ、藩兵ヲ訓練セント請フ、之ヲ聽ス。

○内藤政養ノ老臣京ニ在ル者、書ヲ上リテ、藩兵賊ニ黨スル聞エアルヲ陳シ、屏居シテ罪ヲ待ツ、是日、批シテ後命ヲ俟タシム。

○是ヨリ先、大總督府、病院ヲ横濱ニ設ケ、兵士ノ創痍ヲ療ス、是日、之ヲ東京下谷津ニ移ス。

二十二日、外國官副知事鍋島直大ニ命シテ、伊斯波尼亞國條約交換ノ事ヲ掌ラシム。

○關八州監察使大原俊實ヲ罷ム。

○北越賊勢猖獗ナルヲ以テ、薩摩、佐土原ニ藩ニ更命シテ、兵ヲ越後ニ出サシム。

○新莊直敬、小藩寡兵、且封疆警守忽ニス可ラサルヲ以テ、兵費ヲ納メテ、徵兵ニ代ヘンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○前田利嗣、若多慶其父慶寧ニ代リテ、京ニ至ル。前田慶寧家記

二十三日、護良親王ヲ加茂川東ノ操練場ニ祭ル。

○久我通久ヲ以テ東北遊擊軍將ト爲シ、議定ノ事ヲ兼知シ、奥羽鎮撫總督九條道孝等ト俱ニ、賊徒ヲ戡定セシム、又參與副島種臣ニ命シテ、軍將ヲ輔翼セシム。

○辨事秋月種樹ヲ以テ議政官下局議長ヲ兼シメ、鍋島直紀ヲ甲府城代ト爲ス。

○伊達宗孝、本多助成ノ退老ノ請ヲ聽シ、宗孝ノ養子宗敬助成ノ養子助成ヲシテ、竝ニ其封ヲ襲カシム、又宗敬年少ナルヲ以テ、宗家伊達宗徳ニ謀リテ、藩事ヲ處理セシム。

○酒井忠邦ノ老臣高須慄等三人ヲ召シ、命シテ忠邦ヲ佐ケテ、藩政ヲ釐革シ藩士ノ順逆ヲ誤リシ者ヲ審糺處斷セシム。

ス。

○是ヨリ先、久世廣文ノ父廣周大和守ヲ幕府ニ獲テ、陸奥信夫郡八千石及ヒ和泉泉郡四千石ノ別邑ヲ削ラル、部民哀訴シ、交地ノ事ヲ果サス、是ニ至リ、廣文ノ家臣書ヲ上リ、和泉ノ地ヲ假管シ、兵ヲ置キテ、京師ノ緩急ニ備ヘント請フ、廣文譴中ニ在ルヲ以テ、之ヲ却ク。

○北越官軍、兵ヲ分チ、海路新潟ニ入ル、溝口直正、老臣ヲ遣シテ、官軍ヲ迎フ、乃チ命シテ嚮導ト爲ス、是日、賊兵長岡城ヲ襲フテ、之ヲ陥ル。

○神奈川府知事東久世通禧、書ヲ英佛二公使ニ遺リテ、舊幕府雇フ所ノ海陸軍教師ヲ罷歸ス。

卷百十三

明治元年戊辰七月二十六日ニ起リ二十九日ニ至ル

二十六日、市橋長義、支族市橋長賢傳七郎ノ子長道傳一ヲ養ヒテ、嗣ト爲サント請フ、之ヲ聽ス。

○白川口官軍、進テ三春ニ薄ル、秋田映季城ヲ致シ、罪ヲ謝ス、命シテ、兵ヲ出シテ自効セシム、明日、松平賴升守山亦歸順ス。

○是ヨリ先、舊幕府、横濱及ヒ横須賀ノ製銃所ヲ抵シテ、洋銀五十萬弗ヲ佛國ビケーニ借ル、是ニ至リ、銀ヲ英國オリオンタ

○農商ノ宮堂上ニ黃綠シ、用達若クハ館入ト稱シテ、提燈等ニ標章ヲ付スルヲ嚴禁ス。

○備前藩主池田章政、其支封池田政保ノ治所ヲ鴨方ト稱シ、政禮ハ舊ニ仍リ、備前新田ト稱セント請フ、之ヲ聽ス。

○九鬼隆義、京ニ至ル。九鬼隆義家記

○大總督府、東京府下ニ申令シテ、武家ノ宅地ヲ市人ニ貸與スルヲ禁ス。

二十四日、奈良縣知事春日仲襄ヲ罷ム。

○遠藤胤城ノ家臣、復々書ヲ上リ、胤城東京警守ノ事ニ服シ、入觀遲延スルヲ申ス。

○下大夫岡田善長、支族支族ノ秩祿及ヒ新墾地ヲ合セ、一萬石ニ滿ツルヲ以テ、藩屏ニ列センコトヲ請フ。

二十五日、大坂銅會所ヲ改メテ、鑛山局ト稱ス。

○一橋茂榮新ニ藩屏ニ列セシヲ以テ、其攝、泉、播、及ヒ備中ノ舊領ヲ復ス。

○池田喜通ノ退老ノ請ヲ聽シ、其子喜延ヲシテ封ヲ襲カシム。

○尾張藩、其徵兵入京セシヲ以テ、建禮門ノ守兵ヲ罷メント請フ、之ヲ聽シ、徵兵ヲ以テ之ニ代フ。

○稻垣太清米千苞ヲ獻シ、以テ軍糧ニ充ンコトヲ請フ、之ヲ聽

ル銀舖ニ借リテ、之ヲ償還ス。

二十七日、柏崎縣ヲ置キ、北陸道鎮撫副總督四條隆平ヲ以テ知事ト爲シ、四辻公賀ヲ越後府知事ト爲ス。

○小倉藩ノ大坂市街巡邏ヲ罷ム。

○織田長易、畝傍山陵修補ノ工事ヲ助ケンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○尾張藩、書ヲ上リ、松平定敬ノ臣隸伏見ノ役ニ與リシ者ノ爲ニ寬典ヲ請フ。

二十八日、會計官知事萬里小路博房ヲ以テ、山陵總管ヲ兼シメ、權辦事戶田忠至及ヒ秋元志朝ヲ副官ト爲ス。忠至權辦事故ノ如シ。

○酒井忠美、再ヒ書ヲ上リ、歸藩シテ、封疆警守及ヒ蝦夷開拓ノ事ヲ處理セント請フ、之ヲ聽シ、開拓ハ箱館府知事ト協議セシム。

○莊内兵、矢島ヲ襲フ、生駒親敬久保田ニ走ル。

二十九日、奈良縣ヲ改メテ、奈良府ト爲シ、園池公靜ヲ以テ知事ト爲ス。

○高木正坦、支族高木守庸伊勢守ノ子、正善稻五郎ヲ養ヒテ嗣ト爲サント請フ、之ヲ聽ス。

○永井直介、封邑水患ヲ以テ入京遲延ヲ申シ、小笠原貞正、再

ヒ病ヲ謝シテ、老臣ヲシテ代觀セシム。

○前越後口總督從三位高倉永祐、高田ノ營ニ薨ス、尋テ詔シテ參議正三位ヲ贈リ、祭乘二百石^永ヲ賜フ。

○白川口官軍、二本松城ヲ攻ム、丹羽長國、米澤ニ走ル、老臣丹羽富穀、^學城ヲ火キテ自盡ス、板倉勝尙モ亦福島城ヲ棄テ、米澤ニ逃ル。

○越後ノ官軍、長岡城ヲ復シ、又新潟ヲ定ム、是ヨリ先、荷蘭人スネル、奥越ノ賊ニ通シ、兵器彈藥ヲ資給ス、是ニ至リ、窮困シテ哀ヲ乞フ、之ヲ放ツ。

是月、晃親王、各宗本山ノ寺祿、及ヒ鴻臚館復興ノ事ヲ建議ス。

○土佐藩、書ヲ長崎府ニ上リ、艦船銃砲ヲ外人ニ購買スル舊例ヲ陳シ、急需ノ際、一々稟請セス、且國產ヲ以テ價直ニ抵テシコトヲ請フ、批シテ、必ス官准ヲ經シム。

卷百十四

明治元年戊辰八月朔日ニ起リ四日ニ至ル

○八月

朔日、將ニ議事ノ制ヲ更定セントス、因リテ月次ノ對策ヲ罷ム。

○東北遊擊軍將久我通久、京ヲ發ス、安藝、因幡、小倉、佐土原

四藩兵之ニ屬ス。

○溝口直正、柏崎ニ詣リ、總督嘉彰親王ニ謁シ、藩情ヲ陳シ王事ニ勤メンコトヲ請フ、之ヲ聽ス、直正又請ヒテ營中ニ直ス。

二日、伊那縣^信ヲ置キ、北小路俊昌ヲ以テ知事ト爲ス、尋テ尾張藩ノ本地假管ヲ罷ム。

○大總督、參謀正親町公董ヲ罷メ、兵學校御用掛穗波經度ヲ以テ之ニ代フ、又萬里小路通房ヲ御旗監ト爲シ、錦旗奉行河緒實文ヲ罷ム。

○兵學校ヲ開ク。

○有馬慶頼、其家臣ノ朝命ヲ忘リ、事機ヲ愆リシヲ陳謝シテ、罪ヲ待ツ、是日、令シテ其罪ヲ問ハス、其家臣ヲ罰セシム。

○鎮將府、申ネテ徳川家達ニ令シ、舊旗下士ノ朝臣ニ列セント欲スル者ハ、本人ヲシテ直ニ之ヲ申請セシム、尋テ申請ノ期限ヲ定ム。

三日、伊達慶邦其子宗敦及ヒ上杉齊憲ノ官位ヲ褫キ、之ヲ討ス、是日、又伊達宗徳ノ東下ヲ止ム。

○長門、越前二藩ニ命シテ、彈藥ヲ越後ニ輸送セシム。

○南部利剛ノ老臣、京ニ在ル者、歸藩シテ、朝旨ヲ開諭シ、報効スル所アラント請フ、之ヲ聽ス。

卷百十五

明治元年戊辰八月五日ニ起リ六日ニ至ル

五日、北野臨時祭ヲ修ス。

○將ニ府藩縣ノ政令ヲ一ニセントス、因リテ京都府新設ノ職制及ヒ坊市區畫保伍ノ法ヲ頒示シ、其土地民俗ヲ酌量シテ、意見ヲ上陳セシム。

○諸侯中大夫以下ノ繼嗣襲祿、分チテ勅裁、官裁ト爲ス。

○徳川家達、新封ノ地供需不便ヲ以テ、舊幕府儲藏ノ金穀ヲ下付セントヲ請フ、聽サス、特ニ米三萬石、金二萬兩ヲ賜フ。

○是ヨリ先、松平慶倫ノ家臣植原某、^{六郎左}幕府ノ命ヲ受ケテ、銃砲ヲ鑄造ス、伏見ノ變起ルニ及ヒ、慶倫其工場ヲ鎖シテ、以聞ス、命シテ砲數ヲ錄申セシム、是ニ至リ、之ヲ上ル、乃チ本藩ニ藏置セシム。

○本多忠貫、京ニ至ル。^{本多忠}
六日、牧野忠泰、越後督府ノ軍門ニ降ル、督府、之ニ謹慎ヲ命ス。

○相馬季胤、仙臺追討總督ノ軍門ニ降ル、督府、季胤父子ニ謹慎ヲ命シ、藩兵ヲシテ征討嚮導ヲ爲シ、以テ罪ヲ贖ハシム、又僧慈隆^{靜庵}、勤王ノ志ヲ褒シ、本藩士民ノ教養ニ參セシム。

○大總督府、肥後藩ニ命シテ、下總、常陸ヲ鎮撫セシム。

四日、詔シテ、奥羽ノ士民ニ諭シ、大義ヲ辨シテ自新セシム、是日、東京行幸ノ事ヲ布告ス。

○生母督典侍中山慶子ヲ從三位ニ敘シ、三位局ト稱シ、大典侍ノ上ニ班セシメ、其父從一位中山忠能ヲ以テ大臣ニ准ス。

○徳川慶勝ノ積年翼贊ノ功及ヒ討賊ノ勞ヲ賞シ、其子徳成ニ假ヲ賜ヒ、父子協力、益兵備ヲ整へ、以テ藩屏ノ標準タラシム、又成瀬正肥ノ勞ヲ褒ス。

○府藩縣ニ申令シテ、志士ノ脱籍流寓スル者ヲ復歸セシム。

○伊達宗城父子、宗家征討ノ令出ルヲ以テ、書ヲ上リテ罪ヲ待ツ、批シテ問ハス。

○木下利恭、書ヲ上リ、陸奥ノ別邑ヲ換移セントヲ請フ。

○越後ノ官軍、村松城ヲ攻ム、城主堀直賀先遁ル、^{遠ニ米澤}殘賊城ヲ火キテ、會津ニ走ル、翌日直賀ノ義叔父直弘、^{直次}軍門ニ詣リ、罪ヲ待ツ、督府、乃チ直弘ニ謹慎ヲ命ス。

○鎮將府、令シテ、苞苴私調ヲ申禁ス。

○鎮將府、肥後藩ニ命シテ、下總、武藏ノ數郡ヲ管セシム、尋テ佐々布直武^{貞之丞}、^{肥後藩士}ヲ以テ知縣事ト爲ス。

○莊内兵、本莊及ヒ龜田ニ逼ル、六郷政鑑城ヲ火キテ、秋田ニ走リ、岩城隆邦ハ賊ニ降ル。

卷百十六

明治元年戊辰八月七日
日ニ起リ十日ニ至ル

七日、五官ニ令シテ、凡政令事體重大ナルモノハ、行政官之ヲ宣布ス、尋テ諸官衙ノ公文書式ヲ定ム。

○租法姑ク舊貫ニ仍リ、其改正ヲ要スルモノハ稟請セシメ、其貢納條目ヲ定ム、又府縣ノ吏員各一二人ヲ京師ニ置キ、公務ヲ措辨セシム。

○榊原政敬ノ戰勞ヲ褒ス。

○北越ノ賊未タ平定セサルヲ以テ、長門、因幡、備前、津四藩ニ令シ、藩兵一大隊ヲ豫備シテ、不時ノ徵發ニ應セシム。

○秋田映季ノ謹慎ヲ釋シ、其城邑ヲ復シ、之ヲ東京ニ召ス、又在京家臣ノ屏居ヲ釋ス。

○戸田氏共、藩兵征戰數月、且管内水患ノ餘ヲ受ケ、軍費支ヘサルヲ陳シ、其封地一萬石ヲ納レテ、紙幣十萬兩ヲ借ランコトヲ請フ、之ヲ聽ス、尋テ特ニ五萬兩ヲ賜ヒ、即ニ下付セシ五萬兩ハ、改メテ石高貸與ノ例ニ遵フ。

○奥羽追討白川口總督鷲尾隆聚、平瀨口總督四條隆謨、令ヲ下

シテ、兵變ニ罹ル者ハ、本年ノ田租ヲ免シ、官軍ノ使役ニ供シ、若クハ賊ノ劫掠ニ遇フ者ハ、其半ヲ蠲ク。

八日、秋元禮朝ノ別邑出羽郡村山ニアルモノ、賊ニ襲撃セラレ、郡宰以下二十餘人虜ト爲ル、是日之ヲ申ス。

○鎮將府、武藏ノ知縣事松村長爲ヲ罷メ、古賀定雄前藩士ヲ以テ之ニ代フ、又民政裁判所ヲ改メテ、會計局ト稱ス。

○徳川家達、書ヲ各國公使ニ致シ、新ニ茅土ヲ賜ヒ、諸侯ニ班シ、外國ノ事ハ其關スル所ニ非サルヲ告ク。

九日、天皇賀茂社ニ詣ス。

○杵築藩兵ヲシテ甲府ヲ警守セシム。

○奥羽追討白川口總督鷲尾隆聚ヲ罷メ、大總督府參謀正親町公董ヲ以テ之ニ代ヘ、御旗監萬里小路通房ニ參謀ヲ兼シム。

○是ヨリ先、戸田光則、入覲ヲ請フ、之ヲ聽ス、是日、京至ル、稻垣長行、疾ヲ謝シ、其子長敬ヲシテ代覲セシム。

○徳川家達封ニ就ク。

十日、刑法官副知事池田章政ニ命シテ、議定ノ事ヲ兼攝シ、有馬慶頼ニ軍務官副知事ノ事ヲ攝行セシム、章政之ヲ辭ス、聽サス。

○鎮將三條實美ヲ召ス、又鳥津忠義ニ申命シテ、京師ニ至ラシ

ム。

○神奈川府知事東久世通禧ニ命シテ、西班牙國條約交換ノ事ヲ掌ラシメ、外國官副知事鍋島直大ノ交換管掌ヲ罷ム。

○津藩ノ下立賣門警守ヲ罷メ、徵兵ヲ以テ之ニ代フ。

○前田利鸞、前田利裕、歸藩ヲ請フ、竝ニ之ヲ聽ス。

卷百十七

明治元年戊辰八月十一日
日ニ起リ十五日ニ至ル

十一日、二品嘉言親王薨ス、政務繁劇ヲ以テ朝ヲ輟メス。

○越後口總督嘉彰親王、新潟ニ赴ントス、是日、柏崎ヲ發ス、溝口直正嚮導タリ。

○越後ノ官軍、村上城ヲ攻ム、是ヨリ先、内藤信民病歿シ、七月十日其父信思藩士、外ニ在リ、臣隸分レテ二ト爲ル、是ニ至リ、一黨ハ城ヲ火キテ、莊内ニ走リ、一黨ハ降ル、尋テ信思、書ヲ總督府ニ上リ、罪ヲ待ツ、命シテ、東京ニ至リ、謹慎セシム。

○仙臺、莊内ノ兵、久保田ニ迫ル、盛岡モ亦兵ヲ出シテ東北ヲ攻ム、是ニ於テ、總督九條道孝、其參謀醍醐忠敬、前山長定ヲ弘前ニ遣シ、津輕承昭ヲ督シテ、亟ニ盛岡ヲ討セシム。

十二日、神祇官副知事龜井茲監、判事福羽美靜ニ命シテ、即位ノ新儀ヲ考定セシム、翌日、辨事勘解由小路資生在任中、及ヒ正親

町實德ニ御用掛ヲ命ス。

○大垣藩兵ノ戰功ヲ賞シテ、藩士三人ノ永禁錮ヲ釋シ、其銃砲ヲ還付ス。

○九鬼隆義、金ヲ獻シテ、軍費ニ充ンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○是ヨリ先、水野忠弘、其父忠精ト俱ニ駕ニ先チテ、東京ニ赴キ、公事ニ服センコトヲ請フ、是ニ至リテ、前請ヲ申ヌ、之ヲ聽ス、忠弘、又封地賊中ニ介マリ、供給途絶シ、上下窮困スルノ狀ヲ陳シ、別邑近江附近ノ地一萬石ヲ假管シ、以テ其急ヲ救ハンコトヲ請フ。

○石川總管、藩事ヲ以テ入覲遲延スルヲ申ス。

○秋月種殷、京ニ至ル。秋月種殷

○鎮將府、一橋茂榮、田安慶頼ノ新ニ藩屏ニ列シ、兵備充實セサルヲ以テ、命シテ、宗家ノ舊臣ヲ收養セシム。

十三日、崇徳天皇ノ神靈ヲ京師ニ迎ヘントス、因リテ松平頼聰ニ御用掛ヲ命ス。

○東幸沿道ノ十一藩ニ紙幣ヲ貸與ス。

○米價騰貴ヲ以テ、本年釀酒定額三分ノ二ヲ減セシム。

○山口弘達、再ヒ其老臣ヲ遣シテ、代覲セシム。

○大總督府、仙臺追討總督四條隆謨ヲ改メテ、奥羽追討平瀨口

總督ト爲シ、白川、平瀨兩道ノ諸軍ヲシテ、並進テ會津ヲ討セシム、又奥羽ノ士民ニ申諭シ、方駕ヲ誤ルコト勿ラシム。

○鎮將府、親王、大臣以下ノ東京城門出入及ヒ玄關昇降等ノ規則ヲ定ム。

十四日、英國軍艦水夫ヲ暗殺セシ者、未タ捕ニ就カス、英人頗土佐藩ヲ疑フ、是ニ於テ、外國官判事大隈重信ヲ長崎ニ遣シ、山内豐範ニ命シテ、藩士一人ヲ重信ニ隨行セシム。

○龜井茲監、淺野茂長ノ次子茲命^尊ヲ養ヒテ、嗣ト爲サント請ヒ、稻垣長行、病ヲ以テ致仕セント請フ、並ニ之ヲ聽シ、長行ノ養子長敬ヲシテ其封ヲ襲カシム。

十五日、中秋祭ヲ修ス。

○本莊宗武、内藤政舉、小笠原長國、酒井忠經ニ假ヲ賜ヒ、歸藩シテ、家政ヲ更革シ、兵備ヲ嚴整セシム。

○安藤直裕、成瀬正肥、書ヲ上リ、新ニ藩屏ニ列セシヲ以テ、判物ヲ下付センコトヲ請フ。

○水野忠幹、再ヒ京ニ至ル。^{行政官記}

○鎮將府、種痘所ヲ東京ニ設ク。

卷百十八

明治元年戊辰八月十六日ニ起リ十九日ニ至ル

十六日、朝彦親王異圖アリ、是日、親王及ヒ仁孝天皇ノ養子ヲ停メ、官位ヲ褫キ、之ヲ安藝藩ニ幽ス。

○阿部正桓、京ニ至ル。^{行政官記}

○徳川家達ノ老臣、書ヲ鎮將府ニ上リ、家達幼弱ナルヲ以テ、松平齊民ヲシテ代リテ入朝、恩ヲ謝セシメンコトヲ請フ、之ヲ許ス。

十七日、即位日ヲ定メ、海内ニ布告ス。

○富高、天草二縣ヲ廢シ、富高管地ヲ日田縣ニ、天草管地ヲ長崎府ニ屬ス、是日、筑前、肥前二藩ノ長崎戍衛ヲ罷メ、府兵ヲ以テ之ニ代フ、又長崎府知事澤宣嘉ニ令シ、舊習ヲ除キ、冗官ヲ汰シ、務メテ庶務ヲ簡ニセシム。

○酒井忠邦、柳澤光邦ノ請ニ批シ、歸藩シテ家政ヲ更革シ、兵備ヲ嚴整セシム、光邦、再ヒ封邑路梗スルヲ陳シテ、暫ク東京ニ留ランコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○長門藩ニ令シ、其雇フ所ノ米國醫師ベタルヲ、兵庫ニ致サシム。

○是ヨリ先、徳川慶篤疾アリ、庶子篤敬^{猶幼ナリ}ヲ因リテ弟徳川昭武ヲシテ後ヲ承カシメ、篤敬ヲ其嗣ト爲サント請フ、是日、批シテ昭武ノ佛國ヨリ至ルヲ待タシム。

十九日、勅使中院通富、三條西公允^{少將}ヲ讃岐白峯山陵ニ遣シ

テ、崇徳天皇ノ神靈ヲ迎フ。

○大河内正實ノ罪ヲ釋シ、其城邑ヲ復ス。

○筑前藩ノ伏見警守ヲ罷^メ、津山藩ヲ以テ之ニ代フ。

○松井康英、戸田光則ノ弟康載^之ヲ養ヒテ嗣ト爲サント請フ之ヲ聽ス。

○參與副島種臣、出羽ヨリ還リ、戰狀ヲ奏ス、又佐竹義堯、家臣ヲシテ京ニ詣ラシメ、官軍苦戰ノ狀ヲ陳シテ、援軍ヲ乞フ。

○池田慶徳、京ニ至ル。^{池田知家記}

○是ヨリ先、榎本武揚、徳川氏ノ諸艦ヲ督シテ、品川海ニ在リ、密ニ蝦夷地ニ據リテ、徳川氏ノ業ヲ復センコトヲ圖リ、伊達慶邦、松平容保等ト謀ヲ通ス、是ニ至リ、艦船八隻ヲ奪ヒテ、陸奥海ニ走ル。

卷百十九

明治元年戊辰八月二十日ニ起リ二十二日ニ至ル

二十日、笠松縣知事林某^左ヲ罷メ、長谷部恕連ヲ以テ之ニ代フ。

○諸藩ノ公務人ヲ改メテ、公議人ト稱ス、又公用人ヲ置キ、從前留主居ノ事ヲ掌ラシム、尋テ公議人ノ姓名ヲ錄上セシム。

○辨事五辻安仲、權辨事戸田忠至ヲ遣シテ、東幸ノ驛道ヲ檢セシム、因リテ事宜數條ヲ府藩縣ニ告示ス。

○外國官副知事鍋島直大、東京ヨリ至ル、是日、召見シテ、其勞ヲ慰シ、物ヲ賜フ。

○特旨、二條齊敬ノ朝參ヲ許ス。

○花山院家理ノ京ニ歸ルヤ、復浮浪ノ徒ヲ延キ、行爲頗狂暴ナリ、是日、之ヲ篠山藩ニ幽ス。

○外國醫師ヲ遣シテ、官軍ノ創痍者ヲ療ス。

○備前、高松二藩ニ令シテ、兵ヲ東京ニ出サシメ、高松藩ノ四塚關門及ヒ猿カ辻警守ヲ罷メ、出雲、秋月二藩ヲ以テ之ニ代フ。

○加賀藩ニ命シテ、米穀ヲ箱館ニ輸送セシム、米穀乏キヲ以テ之ヲ辭ス。

○永井尙服、封内厚見郡下奈良村水岡修膳ノ事例ヲ陳シ、公費支辨ヲ請フ、之ヲ聽シ、笠松縣ニ中議セシム。

二十一日、奉幣使ヲ伊勢神宮ニ遣シ、將ニ即位ノ禮ヲ行ハントスルヲ告ク、明日、叡傍、山階、後月輪、弘化、後月輪東ノ五陵ニ差遣ス。

○中村藩兵戰功アルヲ以テ、藩主相馬季胤父子ノ謹慎ヲ釋ス。

○東京府知事烏丸光徳、管民ニ告示シテ、直言ヲ進メ、材能ヲ舉ケシム。

二十二日、議定中御門經之ヲ以テ、會計官知事ヲ兼シム。
○駿河以東十三國諸侯ニ令シ、車駕東幸ヲ以テ東京ニ入觀セシム。

○諸藩ニ申令シテ、私ニ外國人ヲ雇フヲ禁ス。

○松平頼聰ニ命シ、歸藩シテ、家政ヲ更革シ、兵備ヲ嚴整セシム。

○舊旗下歸順者ノ祿制ヲ定ム、又東京郭内外諸侯以下第宅ノ制ヲ設ク。

○岸和田藩ノ大坂市巡邏ヲ罷ム。

○日田縣知事松方正義、中大夫以下采地交渉ノ事項ヲ陳シ、租稅ハ地方廳之ヲ管シ、領主ニ糜米ヲ給センコトヲ稟議ス、批シテ、租稅ノ事ハ舊貫ニ仍リ、地方廳ハ其政令ヲ掌ラシム。

○大總督府、諸藩兵ニ申令シテ、無禮ヲ外人ニ加フルコト勿ラシム。

○越後口總督嘉彰親王新發田ニ抵ル。

○豐岡藩ノ桂宮警守ヲ罷メ、仍其兵ヲ京師ニ駐セシム。
○松平頼聰、書ヲ上リテ、白峯山陵修繕ノ工事ヲ助ケンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。
○加藤泰令、在京藩兵ヲ以テ、常ニ車駕從衛ニ充テンコトヲ請フ、聽サス。
○盛岡藩、歐人ヲ雇ヒテ、封内開鑛ノ事ニ服セシメンコトヲ請フ、批シテ、後命ヲ俟タシム。
○是ヨリ先、板倉勝靜ノ老臣、備前藩ニ就キテ、家臣數人ヲ與羽ニ遣シ、勝靜父子ヲ追跡センコトヲ請フ、是日、之ヲ聽シ、備前藩士ヲシテ之ニ監セシム、命未タ達セス、老臣等、又先主板倉勝職主勝ノ從弟前弼榮弼榮ヲシテ、家ヲ承カシメンコトヲ請フ。
○井伊直憲、京ニ至ル。井伊直憲家記
○越後口總督嘉彰親王、令シテ兵燹若クハ水患ニ罹リシ者ハ、本年ノ田租ヲ蠲ク。

卷百二十一

明治元年戊辰八月二十三日
起リ二十三日ニ至ル

○肥前藩ニ命シテ、長崎府下浦上村ノ天主教徒ヲ監シ、大村藩ニ封内ノ浸染ヲ防カシム、是ヨリ先、本願寺以下七寺、異宗徒ヲ誨諭センコトヲ請フ、是命アルヲ以テ、聽サス。
○田沼意尊、入觀ヲ請フ、之ヲ聽ス。
○總持寺、再ヒ書ヲ上リテ、本寺並立及ヒ輪番住持ノ制ヲ復セシム。
○白川、平潟兩道ノ官軍、連戰賊ヲ破リ、是日、若松城ヲ圍ム、大總督軍監牧野茂敬初メ小笠原唯八ト稱ス、之ニ死ス、尋テ越後官軍モ亦來リ會ス。
○神奈川府、書ヲ荷蘭領事ニ致シテ、其國人スネルノ兵器ヲ賊ニ販賣セシヲ責メ、其罪ヲ糾サシム、公使ボルスブロック、之ヲ訊ス、スネル、分疏シテ服セス、事遂ニ寢ム。
二十四日、三浦顯次ノ差扣ヲ釋ス。

卷百二十

下

○津山藩、書ヲ上リ、美作公邑藩縣ニ分隸シ、政令多岐、民心疑懼ノ狀ヲ陳シ、廷臣ヲ遣シテ、之ヲ總理センコトヲ請フ。
○牧野康濟、封内宗門改ノ例規ヲ稟ス、批シテ暫ク其舊ニ仍ラシム。
○鎮將府、書ヲ徳川家達ノ老臣及ヒ田安慶頼、松平齊民ニ下シテ、逋賊鎮靖ノ方略ヲ責問ス、老臣等、其力及ハサルヲ陳謝ス、又管内諸藩ニ令シ、逋賊ノ陸ニ上ルモノヲ緝捕セシメ、逋逃ノ事ヲ各國公使ニ牒知ス。
○鎮將府、神奈川四方十里ノ地ヲ神奈川府ニ隸ス。
○大總督府、舊幕府ノ海軍所築地ヲ收ム。
○本多正訥、東京ニ至ル。長尾正訥家記
二十六日、議定正親町三條實愛、徳大寺實則ニ勅シテ、東幸中輔相候所ニ入り、庶務ヲ理セシム。
○聖誕日ヲ以テ天長節ト稱シ、誦ヲ群臣ニ賜ヒ、行刑ヲ停ムルヲ布告ス。
○因幡藩兵ノ數次徵發及ヒ戰勞ヲ賞シテ、藩主池田慶徳ニ内帑金二千兩ヲ賜フ、又松平茂昭ニ令シテ、藩兵ヲ越後ニ出サシム。

卷百二十一

明治元年戊辰八月二十五日
起リ二十六日ニ至ル

○八月二十五日、丸岡藩ニ命シテ、鞍馬口ヲ警守セシメ、其山中關門警守ヲ罷メ、朽木之綱ヲ以テ之ニ代フ。
○朽木爲綱、本莊宗武ノ弟綱鑑太ヲ養ヒテ、嗣ト爲サンコト

○紀伊藩ニ令シテ、軍資金十五萬兩ヲ獻セシム、又藩士三浦安
休、井田某政一、川端某文四郎○九月、ヲ京師ニ押送セシム、後禁錮ニ
處ス。

○中院通富、三條西公允、讚岐ニ抵ル、是日、白峰山陵ヲ祭り、
神靈ヲ奉シテ東還ス。

○東北遊撃軍將久我通久、越後柏崎ニ抵ル。東北遊撃軍
將府日誌

○榎本武揚ノ品川海ヲ脱スルヤ、洋中颯ニ遭フ、是日、屬船一
隻美賀、下總銚子浦海上ニ漂到ス、其餘仙臺海ニ入ルモノ、前後七
隻、各地遁逃ノ諸兵モ亦多ク仙臺ニ集ル、武揚乃チ伊達慶邦、
板倉勝靜等ト會シテ、二本松ヲ撃チ、若松城ノ圍ヲ解カンコト
ヲ圖ル。

卷百二十二 明治元年戊辰八月二十七日

二十七日、天皇位ニ紫宸殿ニ即ク、時二年十七。

○越後督府、牧野忠泰ノ謹慎ヲ釋ス。

○板倉勝殷、書ヲ鎮將府ニ上リテ、疾ヲ謝シ、子勝敬助百ヲシテ
京師ニ朝セシメンコトヲ請フ、未タ許サス、會東幸ノ令アリ、
因リテ東京ニ代觀セシメンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

卷百二十三 中

○豊前、豊後、筑後ノ公邑ヲ長崎府日田縣ニ分屬シ、肥後、筑
還セシム。

○豊前、豊後、筑後ノ公邑ヲ長崎府日田縣ニ分屬シ、肥後、筑

後、柳河三藩ノ管理ヲ罷ム、又日田縣ニ命シ、假ニ佐伯、人吉ニ

藩所管、豊後、日向公邑ノ租稅ヲ管セシム。

○筑後藩ノ橋本關門、大坂運上所、安治川新番所及ヒ川口警守
ヲ罷メ、丸龜、郡山ニ藩ヲ以テ之ニ代フ。

○徳川家達ニ令シテ、假ニ支族清水氏ノ采邑十一萬三千
五百石餘ヲ管セシ
ム。

○松平定安、藩兵ヲシテ征討ノ軍ニ從ハシメンコトヲ請フ、批
シテ、後命ヲ俟タシム。

○戸田氏良、藩兵ヲ陸奥ニ轉進セシヲ稟ス。

○太田資美、京ニ至ル。太田資
美家記

○大關増勤、書ヲ鎮將府ニ上リテ、藩兵出征及ヒ封疆有虞ノ狀
ヲ陳シ、入觀ノ期ヲ緩フセンコトヲ請フ、批シテ、老臣ヲシテ
代觀セシム。

二十九日、天皇、山階陵、後月輪東陵ニ謁ス。

○毛利敬親、島津忠義、鍋島直大ニ命シテ、東幸中京師ヲ警守
シ、黒田長溥ニ大坂ヲ警守セシム。

○神祇官副知事龜井茲監ノ即位新儀考定ノ勞ヲ賞シテ、御衣
ヲ賜ヒ、判事福羽美靜等賞賜差アリ。

○贗貨濫行スルヲ以テ、府藩縣ニ令シテ、嚴ニ之ヲ檢索セシ

卷百二十三 上

明治元年戊辰八月二十
八日ニ起リ晦日ニ至ル

二十八日、車駕東幸ノ期ヲ布告ス、又諸條規ヲ沿道府藩縣ニ申
令ス。

○毛利敬親、島津忠義ニ勅シ、東幸中京師ニ在リテ、機務ニ參
預セシム。

○議定山内豊信、刑法官副知事兼議定心得池田章政、參與木戸
孝允、小松清廉ニ東幸扈蹕ヲ命シ、豊信、清廉ハ駕ニ先チテ東
京ニ至リ、孝允ハ事畢リテ西還セシム、又山内豊範、加藤泰秋
ヲ前驅ト爲シ、池田慶徳、池田政禮ヲ後驅ト爲シ、長門以下四
藩兵ヲ從衛ト爲ス、豊範、慶徳、政禮、疾ヲ以テ之ヲ辭ス、乃チ池
田徳澄及ヒ山内豊積兵之助、豊範ノ義叔父ニ命シ、代リテ其事ニ服セシム、
是日、扈蹕ノ公卿諸侯及ヒ各官ニ令シ、其臣隸僚屬ヲ戒飭シ
テ、傳驛ヲ疾苦スルコト勿ラシム。

○參與副島種臣、再ヒ出羽ニ赴ク、命シテ事ヲ畢ヘテ、亟ニ西
還セシム。

ム。

○榎本武揚等逃走ノ報、京師ニ達ス、是日、之ヲ諸道ニ布告ス、
明日三等陸軍將坊城俊章ヲ以テ、攝泉防禦總督ト爲シ、因幡、
松山ニ藩ニ警守ヲ命ス。

卷百二十三 下

○水野忠順ノ謹慎ヲ釋ス。

○松井康英勤王ノ實蹟アルヲ以テ、其別邑ヲ復ス。

○日田縣ニ令シテ、毎歲米二萬石ヲ長崎府ニ輸送セシム。

○安藝藩ノ大坂市街巡邏ヲ罷ム。

○水野忠幹、東幸扈從ヲ請ヒ、仙石政固、近畿守衛ノ任アリ、扈
從ヲ請ヲ得サルヲ以テ、別ニ從事スル所アラント請フ、聽サ
ス、井伊直憲、安藤直裕、土井利教モ亦前後書ヲ上リテ、扈從ヲ
請フ、竝ニ聽サス。

○大總督府、關門ヲ上野三國嶺ニ設ケ、高崎藩ニ命シテ之ヲ守
ラシム。

○鎮將府、戸田忠行ノ請ヲ聽シテ、足利學校復興ノ事ヲ管セシ
ム、是日、忠行、學田及ヒ住僧ノ事歴ヲ申稟ス。

○東北遊撃軍將久我通久、新潟ニ抵ル。遊撃軍將
府日誌

晦日、車駕、加茂川東操練場ニ幸シ、東幸扈從諸隊ノ練兵ヲ覽ル。

○光親王復飾セシヲ以テ、更ニ勸修寺門跡ヲ置キ、假ニ寺領ヲ分チテ、親王ノ家祿ニ充ツ。

○加賀藩徵兵ノ大宮御所、桂御所及ヒ今出川門警守ヲ罷メ、紀伊藩徵兵ヲ以テ之ニ代フ。

○是月、總督以下兵士ニ至ルノ軍功ヲ分チテ、各上中下三等ト爲ス、因リテ總督、列藩參謀、軍監、長官等ニ命シ、其等級ヲ檢覈シテ録上セシム。

○城門某司馬太○宇陀某太郎○上書シテ、淡路廢帝ノ神靈ヲ京師ニ奉還シ、謚號ヲ上ランコトヲ建議ス。

卷百二十四

明治元年戊辰九月初
日ニ起リ二日ニ至ル

○九月

朔日、本莊宗武、金二萬兩ヲ獻シ、東幸ノ費ニ充ツ、其藩力疾弊ヲ以テ、楮幣二萬兩ヲ賜フ。

○小出英尙、攝海警アルヲ聞キ、在京ノ兵ヲ以テ緩急ノ用ニ供センコトヲ請フ。

○道賊下總銚子浦ニ漂到ノ報至ル、是日、大總督府、軍監林友

幸半七○長ヲ遣リテ、處理セシム、斥候隊及ヒ佐倉、志筑二藩兵之ニ屬シ、高崎藩士嚮導タリ、適道賊五十許人、土浦藩ニ効順シ、餘黨各處ニ出沒ス、因リテ房、總、常、野諸藩ニ令シテ、嚴ニ之ヲ緝捕セシム、既ニシテ道賊五十許人、駿河藩ニ就キテ自首ス。

二日、佐渡縣ヲ置キ、長崎府判事兼外國官判事井上馨ヲ以テ知事ト爲ス。

○岸和田藩士岡部正路、相馬驛等ノ罪ヲ判シ、正路、驛ヲ流ニ處ス、其餘黜罰差アリ。

○五島盛徳、松前隆廣、竝ニ歸藩シテ、警備ヲ修メンコトヲ請フ。

○一橋茂榮、將ニ入觀シテ藩屏ノ恩ヲ謝セントス、是日、鎮將府ニ候シテ、假ヲ乞フ、柳澤徳忠ノ弟信恒彌次モ亦兄ニ代リテ、入觀センコトヲ請フ、東幸近ニ在ルヲ以テ、竝ニ批シテ、其行ヲ停ム。

○入道公現親王、白石ヲ去リテ、再ヒ仙臺ニ赴ク。

卷百二十五

明治元年戊辰九月三日
ニ起リ四日ニ至ル

三日、外國官副知事鍋島直大、辨事阿野公誠ヲ以テ參與ト爲

シ、參與小松清廉ニ外國官副知事ヲ兼シム、又甲府城代鍋島直紀ヲ罷ム。

○越後三島、古志、蒲原、岩船ノ四郡ヲ越後府ニ隸ス。

○久松勝成ニ京都、大坂ノ邸ヲ還付ス。

○鳥居忠文ニ命シテ、東京ニ赴カシメ、酒井忠氏ニ敦賀港ノ守備ヲ嚴ニセシム。

○東幸ノ令出ルヲ以テ、太田資美、歸藩シテ、驛道ノ事ヲ督シ、聖駕ヲ奉迎シテ、後扈從センコトヲ請ヒ、田沼意尊、黒田直養、本多忠鵬竝ニ未タ入觀セサルヲ以テ、進止ヲ取ル、是日、批シテ、資美ノ請ヲ聽サス、意尊、忠鵬ハ亟ニ入觀シ、直養ハ東京ニ詣ラシム。

○米國商船ゼンタ、紀伊尾鷲浦津妻ニ毀損ス、船長等、紀伊藩ニ就キテ、横濱ニ送致センコトヲ請フ、本藩、狀ヲ具シテ之ヲ稟ス、是日、批シテ、大坂ノ外務局ニ送ラシム。

○米國商船キング、水夫ハールマスコ、醉醜シテ、兵庫港衛兵青木孟阿波、ヲ傷ツケ、又兵庫縣廢舎ニ闖入ス、知事伊藤博文、之ヲ捕ヘ、米國領事ニ移書シテ、其罪ヲ糾サシム。

○池田政禮、京ニ至ル。

四日、公卿諸侯及ヒ徵士等ノ、家眷ヲ携帶シテ、任所ニ赴クヲ

許ス。

○酒戶釀額、百石ニ滿タサル者ハ、其額ヲ増シ、千石ニ過クル者ハ、戸ヲ分ツヲ許ス。

○加藤泰秋、京ニ至ル。秋家記

○鎮將府、赤松成允孫太郎ヲ以テ府中知縣事ト爲シ、成澤公直勳左衛門ヲ市川知縣事ト爲シ、石田廣和守人ヲ石和知縣事ト爲シ、甲斐諸郡ヲ分管セシム。

○上杉齊憲、罪ヲ謝シ降ヲ乞フ、是日、越後口總督嘉彰親王、命シテ實効ヲ立テシム、尋テ齊憲ノ子茂憲、武督府ニ新發田ニ謁シ、征討先鋒ヲ請フ、之ヲ聽ス。

卷百二十六

明治元年戊辰九月五日

五日、東幸ノ期近キニアルヲ以テ、宮門及ヒ諸關門警衛規則ヲ定メ、徵兵及ヒ長門、越前以下二十藩ニ申令シテ、九門七口等ノ警守ヲ嚴ニセシメ、津和野、園部以下六藩ニ九門内巡邏ヲ命シ、唐津、長島以下六藩ノ市中巡邏ヲ罷メ、仍兵ヲ留メテ緩急ニ備ヘシム、尋テ紀伊、松山伊以下二十三藩兵ヲ以テ七口應援ト爲ス。

○府藩縣ニ申令シテ、管民ノ稱氏、佩刀及ヒ免役、給俸者ヲ録

上セシム。

○岡部長寛ノ家政不肅ヲ譴メ、差扣ヲ命ス。

○松井康英ノ近江別邑ヲ復セシテ以テ、是日、市橋長義ノ假管ヲ罷メ、康英ニ還付セシム、既ニシテ、管民復舊ヲ喜ハス、強訴日ヲ延ク、乃チ長義ニ申命シ、懇諭事ヲ果サシム、尋テ藩士ノ陰ニ民心ヲ煽動セシモノヲ罰シ、強訴首罪ハ、康英ニ付シテ、寛ニ處セシム。

○松平忠敬、書ヲ鎮將府ニ上リテ、疾ヲ謝シ、重臣ヲシテ東京ニ代觀セシメンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○東京府、申令シテ、墮胎藥販賣ヲ嚴禁ス。

卷百二十七

明治元年戊辰九月六日ニ起リ七日ニ至ル

六日、崇徳天皇神靈京ニ至ル、今出川ノ新宮ニ奉祀シ、仍白峯宮ト稱ス。

○逋逃嘯聚ノ風、尙未タ已マス、是日、大總督府令シテ、犯ス者ハ士卒ヲ問ハス、嚴科ニ處セシム。

○攝泉防禦總督坊城俊章、攝津ニ抵リ、一心寺東城ニ陣ス、是日、紀伊、岸和田、尼崎三藩ニ令シテ、守備ヲ嚴ニセシム。

七日、福山、宇和島、大野、吉田四藩ニ命シテ、兵ヲ箱館ニ出サ

シメ、長門、出雲、小倉、蓮池、徳山五藩ハ秋田ニ出サシム、乃チ

奥羽鎮撫總督九條道孝、東北遊擊軍將久我通久ニ命シテ、箱館總督及ヒ參謀軍監ヲ選任セシム、又安藝、阿波、筑後三藩兵ヲ東京ニ發遣ス、尋テ蓮池藩ヲ罷メ、肥前藩ヲ以テ之ニ代ヘ、福山、宇和島、大野、吉田四藩ヲ更メテ、弘前應援ト爲シ、阿波藩ノ出兵ヲ罷ム。

○長門、小倉ニ藩兵徵發數次、藩力疲弊スルヲ以テ、金各一萬兩ヲ賜ヒ、明日又因幡藩ニ二萬兩ヲ賜フ。

○福山藩ノ天保山警守、吉田藩ノ唐御門警守ヲ罷メ、徵兵及ヒ姫路藩ヲ以テ之ニ代フ。

○佐竹義堯祖先ノ遺志ヲ承述シ、勤王大義ヲ唱ヘ、旁近諸藩ヲ鼓舞セシテ賞シテ、御衣一襲御劍一口ヲ賜フ。

○小倉藩、書ヲ上リテ、英彦山ヲ管センコトヲ請ヒ、其舊例ヲ錄上ス。

○對馬藩、再ヒ朝鮮國貿易ノ情狀ヲ陳シ、官銅ヲ買ヒ、且貿易資金ヲ借ランコトヲ請フ。

○鎮將府、諸藩ニ令シ、外國船ヲ雇用シテ、東京ニ遣シ、若クハ未開港場ニ入ル者ハ、之ヲ神奈川府ニ申稟セシム。

卷百二十八

明治元年戊辰九月八日ニ起リ九日ニ至ル

八日、詔シテ明治ト改元シ、一世一元ノ制ヲ定ム、因リテ本日以前ノ罪犯、大逆故殺及ヒ犯情赦シ難キ者ヲ除クノ外、凡テ一

等ヲ減ス。

○神奈川府知事東久世通禧ヲ以テ外國官副知事ト爲シ、仍神奈川府知事ヲ兼シメ、越後府知事四辻公賀ヲ三等陸軍將ト爲シ、柏崎縣知事四條隆平ヲ越後府知事ト爲ス。

○岡部長職、酒井忠氏、酒井忠祿、板倉勝弘ノ差扣ヲ釋シ、三枝真洞、朱雀貞固ノ黨、川上鎮石武藏人等三人ノ流刑ヲ赦シ、岡部正路、相馬肇ヲ永禁錮ニ改ム、其餘赦宥減等各差アリ、又高松實村ノ差扣ヲ釋ス。

○一等官以下ノ提燈章標ヲ定ム。

○藤堂高猷、稻垣長敬ニ命シテ、封内沿海ノ守ヲ嚴ニセシメ、高猷ノ召命ヲ罷ム、高猷、在京藩兵ヲ轉シテ、沿海守備ニ充テシコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○三浦顯次、前日宥罪ノ恩ヲ謝シ、藩兵ヲ出シテ、報効スル所アラシコトヲ請フ、是日、命シテ一小隊ヲ京ニ徵ス。

○丹羽長國ノ老臣、京ニ在ル者、稻葉正邦ニ就キ、本藩ノ情勢

ヲ陳シ、歸邑シテ効順ヲ謀ランコトヲ請フ、正邦爲ニ具狀奏聞ス、批シテ聽サス。

九日、議效官吏官、議ヲ上リテ、奏狀、詔制、審斷ノ三牒ヲ設ケ、及ヒ政記ヲ編輯センコトヲ請フ、之ヲ採納シ、行政官モ亦本議ニ準倣セシム。

○立花鑑寛、京ニ至ル。立花鑑寛家記

卷百二十九

第一

明治元年戊辰九月十日ニ起リ十一日ニ至ル

十日、諸藩ニ令シテ、從軍死傷者ノ姓名ヲ錄上セシム。

卷百二十九

第二

卷百二十九

第四

○桑名東幸ノ驛路ニ當ルヲ以テ、徳川徳成、藤堂高猷ニ申命シテ、其守備ヲ嚴ニセシム、又松平定教ノ臣隸ニ米一萬苞ヲ賑給ス。

○松前隆廣、書ヲ上リテ、亡父崇廣ノ官位ヲ復センコトヲ請フ。

○下局議長秋月種樹、議事曠廢日久シキヲ以テ、議員ノ申議ヲ陳シテ、命ヲ請ヒ、且議事院開設及ヒ議長議員東幸扈從等ノ意

見テ上ル。

○小出英尙、京ニ至ル。小出英尙家記

○舊旗下ノ士、復祿ト稱シテ、舊采邑ノ金穀ヲ詐取スル者アリ、是日、鎮將府、令シテ之ヲ禁ス、因リテ復祿者ノ姓名ヲ地方官ニ頒示ス。

○大總督府、水野勝知ヲ鶴牧藩ニ保管シ、津藩ノ保管ヲ罷ム。

○太田資美ノ臣隸東叡山ノ賊ニ黨シテ、逃匿スルモノアリ、資美、鎮將府ニ就キ、藩ニ付シテ之ヲ處分センコトヲ請フ、尋テ緝捕シテ前請ヲ申ヌ、批シテ、謹慎シテ命ヲ待タシム。

○丹羽長國、白川口總督ノ軍門ニ降ル、明日、督府、長國ニ謹慎ヲ命シ、藩兵ヲシテ歸順ノ實効ヲ立テシム。

十一日、神嘗祭奉幣使ヲ太神宮ニ發遣シ、且奥羽平定ヲ祈ル。

○久我通城維慶○建通ノ第四子ヲ以テ柏崎縣知事ト爲ス。

○島津忠義、書ヲ上リテ、入觀遲延ノ事由ヲ稟謝シ、岡部長寛、其子長職ヲシテ代觀セシメンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○戸田氏共、書ヲ上リ、小原忠寛ノ爲ニ病ヲ謝シ、且病間藩事ニ參セシムルヲ稟ス。

卷百三十

明治元年戊辰九月十二日ニ起リ十三日ニ至ル

十二日、神祇官知事鷹司輔熙ヲ以テ議定ト爲シ、近衛忠房ヲ神祇官知事ト爲ス。

○三等陸軍將坊城俊章ノ攝泉防禦總督ヲ罷ム。

○驛遞規則ヲ定メ、府藩縣ニ申令シテ、宿弊ヲ釐革セシム、又東幸沿道諸藩ニ令シテ、綏撫ノ大旨ヲ體シ、務メテ遞傳艱滯ノ患ナカラシム。

○肥後、筑前、肥前、筑後、柳河、中津六藩ニ命シテ、米六萬ニテ東京ニ輸送セシメ、以テ東幸賑恤ノ用ニ充ツ。

○太宰府社司ヲ神祇官ニ隸ス。

○毛利元蕃ノ請ヲ聽シ、歸藩シテ、家政ヲ更革シ、兵備ヲ嚴整セシム。

○脇坂安斐、書ヲ上リテ、美作ノ別邑ヲ換易センコトヲ請フ、聽サス。

○木下利恭、木下俊應書ヲ上リテ、豐國社造營ノ役ニ任センコトヲ請フ、是日、批シテ其圖ヲ製シ、之ヲ神祇官ニ申稟セシム。

○田沼意尊、京ニ至ル。田沼意尊家記
十三日、外國官副知事兼神奈川府知事東久世通禧ニ命シテ、議定ノ事ヲ攝行セシム、又大總督參謀鷲尾隆聚ヲ罷ム。

○久我通城ヲ堂上ニ班ス。

○因幡藩ニ申令シテ、兵一大隊ヲ大阪ニ出サシム、尋テ之ヲ陸奥及ヒ東京ニ分遣ス、本藩書ヲ上リ、東京ノ出兵ヲ罷メンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○松平慶倫、金五兩ヲ獻シテ、東幸ノ費ニ充テンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○竹腰正舊、其父正美ノ蟄居ヲ釋サレンコトヲ請フ。

○讚岐金刀比羅宮社司琴陵宥常、舊例ヲ陳シテ、社格陞進及ヒ大宮司補任ヲ請フ、是日、勅裁神社ト爲シ、補任ハ後命ヲ待タシム。

○岡部長職、京ニ至ル。岡部長職家記

○村上藩士、書ヲ越後督府ニ上リ、本藩犯順ノ情狀ヲ陳シ、内藤信思ヲシテ再ヒ家ヲ承ケシメンコトヲ請フ。

卷百三十一

明治元年戊辰九月十四日ニ起リ十五日ニ至ル

十四日、毛布ヲ出征兵士ニ賜フ。

○外國官知事伊達宗城ノ勤勞ヲ賞シ、直衣ヲ服スルヲ許ス。

○徵兵ニ申命シテ、皇宮及ヒ大宮御所以下ノ守衛ヲ嚴ニセシム、尋テ前田利嗣、島津忠寛ニ大宮御所、女御御所ヲ警守シ、池田慶徳ニ桂宮ヲ警守シ、幟仁親王ヲシテ緩急ノ際、桂宮ニ候セ

シメ、中川久昭ニ御臺所口向ノ監守ヲ嚴ニセシム、又諸屯兵ヲ戒ム。

○龍野、赤穂二藩ノ播磨郡邑ノ假管ヲ罷メ、之ヲ兵庫縣ニ屬ス。

○男山八幡宮社司ノ八幡警守ヲ罷メ、柏原藩ヲ以テ之ニ代フ。

○内藤正誠、京ニ至ル。
十五日、有馬頼慶初名慶頼ヲ以テ假ニ軍務官副知事ト爲ス。

○關長克、疾ヲ以テ入觀遲緩ヲ謝シ、兵ヲ出シテ報効スル所ヲランコトヲ請フ、聽サス、尋テ其請ヲ申ヌ、優旨シテ聽サス。

○鎮將府、大河内輝照、新莊直敬、及ヒ關宿藩ノ連賊ヲ追捕セサルヲ譴メ、輝照ニ謹慎ヲ命ス。

○越後口總督嘉彰親王、參謀以下ヲ率牛、津川口氣多宮村隴奥河松城ヲ距ルニ至リ、諸軍ヲ勞ス、諸軍大ニ振フ、既ニシテ總督、新發田ニ還ル。

○伊達慶邦、平瀨口總督ノ軍門ニ降ル、督府令シテ、罪ヲ巨館ニ待タシム、尋テ其城邑ヲ收ム、慶邦及ヒ子宗敦退テ寺院ニ屏居ス、徳川連實ノ徒五百餘人、仙臺老臣ニ就テ降ヲ乞フ、是日、板倉勝尙亦白川口總督ノ軍門ニ降ル。

○朝鮮國商船二隻、肥前女島、石見瀨田ニ漂到ス、長門、福江二藩吏ヲ遣シテ之ヲ救恤シ、長崎府ニ送致ス。

卷百三十二

明治元年戊辰九月十六日
日ニ起リ十七日ニ至ル

- 十六日、山内豐福ノ養子豐誠ヲシテ其遺封ヲ襲カシム。
- 英彦山社司ヲ神祇官ニ隸ス。
- 尼崎藩書ヲ上リ、石高貸與ノ紙幣ヲ以テ管内海岸ニ埠頭ヲ築造シ、以テ船舶ノ出入ヲ便ニシ、兼テ警備ノ用ニ充テシテ請フ、是日、之ヲ聽ス。
- 越後口總督府、上杉茂憲ヲ以テ莊内征討先鋒ト爲ス。
- 十七日、東幸ノ期近キニ在ルヲ以テ、警守及ヒ扈蹕ノ公卿諸侯ヲ小御所ニ召見シ、勅シテ、之ヲ戒飭シ、酒饌ヲ賜フ、明日ニ至リテ終ル。
- 神祇官ヲ舊學習院ニ移ス。
- 中山信徴、水戸藩管内ノ警備ニ服シテ、征討ノ軍ニ從フコトヲ得サルヲ以テ、石炭三萬苞ヲ獻シ、以テ軍用ニ充テシテ請フ、之ヲ聽ス。
- 松平頼繩、書ヲ鎮將府ニ上リテ疾ヲ謝シ、其子頼策頼策ヲシテ代觀セシメンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。
- 松平信庸、白川口總督ノ軍門ニ降ル、督府乃チ信庸ニ謹慎ヲ命シ、藩兵ヲ以テ莊内征討先鋒ト爲ス、是日、山形藩留守ノ老

臣水野某三郎右等モ亦降ル。
○徵兵青木孟、島本某嘉吉ヲ譴責シテ、其職ヲ罷メ、阿波藩ニ付ス、孟尋テ創ニ因リテ死ス、兵庫縣知事伊藤博文、復米國公使ニ移書シテ、ハールマスコノ處刑及ヒ報償ヲ促ス。

卷百三十三

明治元年戊辰九月十八日
日ニ起リ十九日ニ至ル

- 十八日、外國官副知事兼神奈川府知事東久世通禧ヲ以テ議定ト爲ス、之ヲ辭ス、乃チ舊官ニ復ス。
- 會計官ノ吏員闕乏ヲ以テ、京都府ニ命シ、本官ト協議シテ、其ノ事務ヲ兼掌セシム、尋テ會計官ヲ府廳ニ移ス。
- 毛利敬親ノ勳勞ヲ賞シテ、左近衛權中將ヲ兼シメ、從三位ニ叙シ、其歸藩ノ請ヲ聽シ、御袴ヲ賜フ、池田慶徳ノ疾ヲ扶ケ入觀セシヲ褒シ、太政ヲ翼贊セシム、是日、敬親ノ子廣封再ヒ京ニ至ル。
- 大澤基壽中大夫○遠江堀江ヲ藩屏ニ列ス。
- 伊地知貞馨薩摩藩士ニ軍艦購買御用掛ヲ命シ、大坂貨幣司ニ參セシム。
- 僧侶、神佛混同ノ禁ニ乘シテ、往々復飾ヲ請フ者アリ、是日、令シテ、妄ニ蓄髮スルヲ禁ス。

卷百三十三下

- 將サニ大學ヲ恢張セントス。先ツ皇學所ヲ九條道孝ノ第二、尋テ二條齊敬ノ第二改ム、漢學所ノ梶井宮ノ第二設ケ、宮、堂上以下諸官人ニ諭シテ入學セシム、是日、漢學所ヲ開ク。
- 伊豆毛倉野野ノ鑛山ヲ開カントス、葦山管理江川英武ニ命シテ、鑛山司ト協議セシム。
- 尾張藩書ヲ上リ、熱田神宮領地ノ租稅、修繕、及ヒ神宮以下黜陟刑罰等、從前管理ノ例ヲ陳シテ命ヲ請フ、批シテ、黜陟刑罰等、重事ハ稟請シ、其餘ハ、大宮司ト協議シテ之ヲ處理セシム。
- 本多忠貫、田沼意齊、藩事及ヒ封邑東幸ノ道路ニ係ルヲ以テ歸藩ヲ請フ、聽サス。
- 渡忠秋新太郎○三條實美家臣、後鳥羽、土御門、順德三帝、南朝諸帝ノ神靈還京、及ヒ南北正閏ノ議ヲ上ル。
- 市橋長道、京ニ至ル。市橋長道義家記
- 榎本武揚奪フ所ノ軍艦二隻、或臨、下田港ニ漂到シ、遂ニ清水港ニ入ル、大總督府、富士、飛龍、武藏三艦ヲ遣シテ之ヲ追捕セシム、是日、三艦擊テ其一隻ヲ獲、其人ヲ捕斬ス、其上陸セシ者ハ、駿河藩ニ禁錮ス、一隻ハ先ツ遁ル。

- 阿部正靜、織田信敏、白川口總督ノ軍門ニ降ル、正靜ノ高祖父正備號ス、トモ亦書ヲ上リ罪ヲ待ツ、督府竝ニ謹慎ヲ命シ、天童藩兵ヲ以テ莊内征討先鋒ト爲ス、是日、堀直賀モ亦平潟口總督ノ軍門ニ降ル。直賀時ニ米澤ニ在リ
- 彦根藩ニ命シ、薩摩、長門、肥前三藩ト俱ニ洛内外ヲ警守セシメ、又之ヲ三藩ニ申命ス。
- 毛利廣封ニ勅シテ、東幸中、議定候所ニ入り、機務ニ參預セシム。
- 高野山ノ學侶、行人、非事吏ノ稱ヲ廢シテ、金剛峯寺ノ舊號ヲ復シ、青巖寺ヲ金剛峯寺ト改メ、一山寺務總職ト爲シ、興山寺ノ寺務總職ヲ罷ム、興山寺總代等上書シテ、其舊ニ復センコトヲ請フ、省セス。
- 本多忠鵬、京ニ至ル。本多忠鵬家記
- 是ヨリ先、鎌倉五山ノ僧徒等、宮、公卿ノ名ヲ冒稱シテ、金ヲ伊豆、相模等ノ民ニ貸シ、督責頗ル嚴急ナリ、本年兵禍水害ノ餘ヲ承ケ、民ノ困弊殊ニ甚キヲ以テ、是日、鎮將府、地方官ニ令シテ、僧徒ヲ戒飭シ、姑ク其督責ヲ禁ス。

卷百三十四 上

明治元年戊辰九月二十日
ニ起リ二十一日ニ至ル

二十日、車駕京師ヲ發シ、東京ニ幸ス、輔相岩倉具視、議定中山忠能、外國官知事伊達宗城、刑法官副知事池田章政、參與木戸孝允、大木喬任及ヒ加藤泰秋、池田德澄、山内豐積等從フ、長門、土佐、備前、大洲ノ兵隊前後ヲ護シ、公卿、諸侯皆騎ス、議定山内豐信、參與小松清廉ハ先チテ發ス、因リテ使ヲ遣シテ、沿道式内社ニ奉幣シ、又養老、旌賞、賑恤ノ典ヲ舉行ス、是日、大津ニ抵ル。

○東幸中、東京ニ於テ、外國事務ヲ處分スルヲ布告ス。

○岡部長寛、疾ヲ以テ致仕センコトヲ請フ。

○是ヨリ先、内藤信思、越後路梗スルヲ以テ岩村田ニ滞在シ、書ヲ鎮將府ニ上リ、從兵ヲ出シテ報効スル所アラシコトヲ請フ、是日、鎮將府、命シテ歸藩セシム、山口弘達モ亦書ヲ上リテ入觀ヲ請フ、之ヲ聽ス。

二十一日、車駕大津驛ヲ發ス、本多廉積郊迎ス、外國官知事兼議定心得伊達宗城、路傍ノ禾莖ヲ摘採シ、和歌ヲ副ヘテ御覽ニ供ス、是日、石部驛ニ抵ル。

○東幸中、毎月十五日、辨官一員ヲ遣シテ起居ヲ候シ、宮、公

○是ヨリ先、關宿藩士ノ賊ニ黨シ逃走セシ者、本藩ニ就キテ自首ス、是日、大總督府、本藩ニ令シテ、罪一等ヲ減シ、其家ニ謹慎セシム。

○土井利教、書ヲ大總督府ニ上リ、別邑ノ陸奥ニアルモノ賊徒ノ占據スル所ト爲ルヲ陳シ、藩兵ヲ出シテ征討ノ軍ニ從ハンコトヲ請フ、聽サス。

卷百三十五

明治元年戊辰九月二十二日

二十二日、車駕石部驛ヲ發シ、土山驛ニ抵ル、使ヲ妙感寺甲賀郡三雲郡ニ遣シテ、正二位權中納言萬里小路藤房ノ墓ヲ祭リ、金幣ヲ賜フ、又府藩縣ニ令シテ、沿道揭榜ヲ撤去スルヲ停ム、是日、天長節ヲ以テ、輔宴ヲ供奉諸臣ニ賜フ。

京師天長節、祝酒ヲ百官ニ賜ヒ、又各國領事ニ賜フ、是日祝砲ノ儀ヲ行フ、諸港碇泊ノ各國軍艦モ亦祝砲ヲ行フ。

○是ヨリ先、入道公現親王、仙臺仙岳院ニ在リ、其執當職龍王院堯忍、覺王院義親ノ事ヲ誤ルヲ以テ、職ヲ免シテ謹慎セシム、是ニ至リ、親王、平瀨口總督四條隆壽ニ因リテ、書ヲ上リ罪ヲ謝ス、督府乃チ津藩ニ命シテ、親王ノ居館ヲ守衛セシム。

○諸路ノ官軍、若松城ヲ圍ムコト三旬、城中力竭ク、松平容保、

卿、諸侯及ヒ五等官以上、毎旬一次表ヲ上リ安ヲ候セシム。

卷百三十四 下

○越後府ヲ改メテ、再ヒ新潟府ト爲シ、神奈川府ヲ改メテ縣ト爲シ、神奈川府知事寺島宗則ヲ以テ神奈川縣知事ト爲ス。

○濱松藩主井上正直、掛川藩主太田資美、横須賀藩主西尾忠篤、相良藩主田沼意尊ヲ上總、安房ニ移封シ、阿部正靜、大河内信古、青山忠敏、松平乘秩、増山正修、内藤文成、大久保教義ノ遠江、伊豆、駿河ノ管地ヲ收メ、他邑ヲ以テ之ニ換フ、尋テ正直、資美、忠篤、意尊ニ、三年間、金穀ヲ給スルコト各差アリ。

○在京公議人每藩一人、東京ニ赴カシム、因テ令シテ、議事ノ流弊ヲ矯メ、藩論ヲ一定シ、公議ヲ振興セシム、既ニシテ公議人在京ノ者、悉ク東下セシム。

○池田章政書ヲ上リテ、和氣清麿、楠正行、兒島高德ヲ其管内ニ合祀センコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○九鬼隆義、疾ヲ以テ歸藩ヲ請フ、之ヲ聽シ、疾愈ユルヲ待チテ再ヒ入觀セシム。

○鎮將府、大河内信古ニ命シ、舊ニ仍リテ今切關門ヲ警守シ、且其傍近公邑ヲ管理セシム。

其臣手代木勝任、衛門、私月胤永郎等ヲ遣シ、米澤藩兵ニ因テ降ヲ乞フ、之ヲ聽ス、是日、容保及ヒ其子喜徳、城ヲ致シテ軍門ニ降ル、乃チ容保父子ヲ城外妙國寺ニ幽シ、臣隸四千四百人及ヒ諸藩逋逃兵四百六十餘人ヲ猪苗代鹽川ニ禁錮ス。

卷百三十六

明治元年戊辰九月二十三日

二十三日、車駕土山驛ヲ發シ、關驛ニ抵ル、石川成之郊迎ス。

○納税ニ紙幣ヲ用ヒシム。

○大久保忠禮ノ罪ヲ數メテ、永蟄居ヲ命シ、更ニ特恩ヲ以テ、其家ヲ存録シ、舊封ノ地七萬五千石ヲ賜ヒ、繼嗣ヲ奏請セシム、尋テ大總督府、首謀臣渡邊某ヲ本藩ニ交付シテ之ヲ處分セシム、本藩乃チ某ヲ列ス。

○吉井某四郎父讐ヲ復センコトヲ請フ、許サス、是日、其讐二人小泉隆義、山田龍兵衛、小田原謙士ヲ斬ニ處シ、某ヲシテ劊手ニ代ラシム。

○足利聰氏、書ヲ鎮將府ニ上リテ疾ヲ謝シ、老臣ヲシテ代觀セシメンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○是ヨリ先、戸澤正實、六郷政鑑及ヒ生駒親敬等、亂ヲ秋田ニ避ク、其邑民賊兵ノ爲ニ焚燒セラル、奥羽鎮撫總督九條道孝之ヲ賑恤ス、是日、賊既ニ平クナリテ、正實等ニ命シ、歸邑シテ人

民ヲ安撫セシム。

○官軍莊内ニ進ム、酒井忠篤、米澤藩兵ニ因リテ降ル、督府乃チ忠篤ヲ城外善龍寺ニ幽ス、忠篤ノ支族酒井忠良、及ヒ舊幕府連賊ノ莊内及ヒ坂田ニ在ル者モ亦降ル、既ニシテ督府、忠篤ヲ新發田ニ召ス。

卷百三十七 明治元年戊辰九月二十四日

二十四日、車駕關驛ヲ發シ、四日市驛ニ抵ル、途次神宮ヲ遙拜ス、初メ車駕過ル所、民皆其業ヲ停ム、是日、沿道府藩縣ニ令シテ、營業常ノ如クナラシム。

○溝口直正書ヲ上リ、藩内窮困ノ狀ヲ陳シテ、金十五萬兩ヲ借シテ、聽サス、再ヒ請フ、井伊直安モ亦金穀ヲ借シテ、尋テ直正二十萬兩、直安ニ二萬兩ヲ賜フ。

○南部利剛、其老臣三戸與忠^武ヲ遣シ、謝罪書ヲ奥羽鎮撫總督府ニ上リテ降テ乞フ、督府、其反正ノ實ナキヲ責メテ之ヲ却ク、明日、與忠、利剛ノ子利恭^彦ヲシテ罪ヲ軍門ニ待タシメ、首謀臣楢山隆吉^彦ヲ監送セント請フ、督府乃チ謝罪書ヲ納メ、隆吉及ヒ江渚通高^{五郎}ヲ本營ニ護送セシム。

○本多忠紀、内藤政養及ヒ安藤信勇ノ祖父信正^鶴、平瀨口總督

ノ軍門ニ降ル、^{時ニ三人、皆}督府、三人ニ謹慎ヲ命ス。

卷百三十八 明治元年戊辰九月二十五日

二十五日、車駕四日市驛ヲ發シ、桑名驛ニ抵ル、徳川徳成、藤堂高猷ニ命シテ、松平定教^臣隸ノ姓名ヲ録上セシム。

○軍務官ノ裁判所御用掛二局ヲ廢ス。

○松平頼聰ノ白峯山陵守衛及ヒ神靈還京ノ事ニ服セシヲ賞シテ、狩衣一領ヲ賜フ。

○長崎府、管内社寺判物、寺院住職、神官、僧侶ノ進退等ヲ稟シテ命ヲ請フ、批シテ、判物ハ之ヲ送進シ、寺院住職ハ、本山ノ申請ヲ待チテ允可シ、神官進退ハ、勅祭大社ヲ除クノ外、府廳之ヲ管セシム。

○堀之美書ヲ上リ、園藩疲弊ノ狀ヲ陳シテ、金二萬兩ヲ借シテ、聽サス。

○長門藩、花山院家理ノ黨兒島長年^{備後}以下七人ノ供狀ヲ具申シ、本藩之カ處分ヲナサンコトヲ請フ、是日、之ヲ聽ス、本藩乃チ其徒ノ本貫ニ交付ス。

二十六日、車駕桑名驛ヲ發シ、熱田驛ニ抵ル、徳川慶勝、徳川徳成奉迎ス。

ガラフ、フアンボルス、ブロック」ト神奈川ニ會シテ、假條約書ヲ交換ス。

卷百三十九 中

二十八日、車駕鳴海驛ヲ發シ、岡崎驛ニ抵ル、松平乗秩ノ子乘承^{左衛門}奉迎ス。

○白川口總督正親町公董、若松ニ入り、越後口總督府參謀西園寺公望ト俱ニ城中ヲ檢ス、既ニシテ二本松ニ還ル。

○外國官副知事東久世通禧等、西班牙國特派全權公使「ガルシヤ、デ、ケウエド」ト神奈川ニ會シテ、假條約書ヲ交換ス。

卷百三十九 下

○東京開市ノ期近キニアルヲ以テ、外國官副知事東久世通禧、輸出入收稅方法ヲ外國公使ニ付シテ討議セシム、通禧又各國公使ニ横濱ニ會シテ、居留規則ノ條款ヲ審議ス。

二十九日、車駕岡崎驛ヲ發シ、吉田驛ニ抵ル。

○伊達宗徳、阿部正桓ノ請ヲ聽シテ、歸藩セシム。

○相馬季胤歸順ノ功効ヲ賞シ、特旨ヲ以テ、其城邑ヲ復ス。

○酒井忠氏、書ヲ上リテ疾ヲ謝シ、重臣ヲシテ代觀セシメンコ

○白峯宮祭典ヲ追行ス。

○水野忠敬、東京ニ至ル。^{參罷}

卷百三十九 上 明治元年戊辰九月二十七日

二十七日、天皇熱田神宮ニ詣シ、蹕ヲ熱田驛傍^{新開}ニ停メテ、農事ヲ覽ル、輔相岩倉具視、穰ヲ取りテ御覽ニ供シ、徳川慶勝、徳川徳成、和歌ヲ上ル、慶勝ニ勅シテ、經國治民ノ要ヲ奏セシメ、又其積勳ヲ賞シテ、御衣ヲ賜フ、是日、鳴海驛ニ抵ル。

○英國工技師ヲ薩摩、紀伊以下六藩ニ派シ、燈明臺築造ノ地ヲ檢定セシム、因リテ其事ヲ六藩ニ令ス。

○神祇官副知事龜井茲監書ヲ上リテ、在藩ノ期ヲ延シテ、請フ、是日、之ヲ聽ス、稻垣長敬、歸藩ヲ請フ、聽サス。

○東國新紙幣通行ニ慣レサルヲ以テ、鎮將府、府藩縣ニ令シテ、部民ニ諭告セシム。

○鳥居忠文東京ニ至リ、大關増勤ノ老臣、代リテ東京ニ至ル。

○岩城隆邦、奥羽鎮撫總督府ノ軍門ニ降ル、^{時ニ藩邦}尋テ東北遊擊軍將府、隆邦ニ命シ、本藩ニ謹慎セシム。

○奥羽鎮撫總督九條道孝、久保田ヲ發シ、横手ニ陣ス。

○外國官副知事東久世通禧等、瑞典那耳回國全權公使「ト、デ、

トテ請フ、聽サス、疾愈ルヲ待チテ亟ニ入觀セシム。

○大總督府、銃獵ヲ申禁ス。

○大總督府、奥羽諸藩主ノ東京護送、藩地謹慎ノ區處ヲ定メテ、白川、平潟兩道ノ總督ニ令ス。

○徳川家達、書ヲ鎮將府ニ上リ、其身幼弱ナルヲ以テ、松平齊民ヲシテ代觀セシメシメテ請フ、之ヲ聽ス。

○水戸藩通賊市川弘美、朝比奈泰尙等、徳川氏通賊及ヒ會津、長岡等ノ殘兵ト俱ニ水戸城ヲ襲フ、藩兵逆ヘ撃ツ、利アラズ、是日、賊遂ニ弘道館ニ入ル。

是月、立花種恭ノ請ヲ聽シ、其舊邑三池ニ移封ス。

○鎮將府、鐵砲洲居留地外ノ土地家屋ヲ外人ニ貸與スルヲ申禁ス。

○長崎府、清商ニ申令シテ、阿片煙販賣ヲ嚴禁シ、犯ス者ハ、官没シテ、罰金ヲ追科ス。

○細川韶邦、軍務官副知事長岡護美ニ就キテ、天下疲弊ノ狀ヲ陳シ、緩撫ヲ急ニシ、奥羽臣民ノ罪ヲ寬宥センコトヲ請フ、護美、書ヲ上リテ其意ヲ申ス、護美又東京府事務ノ要ヲ建言ス。

卷百四十

上 明治元年戊辰十月朔
日ニ起リ四日ニ至ル

之ヲ走ス、賊下總ニ逃レ、高崎藩兵ニ降ルモノ百十人、既ニシテ藩兵追撃シテ、朝比奈泰尙ヲ噎ス、市川弘美等再ヒ逃ル。

卷百四十下

三日、車駕濱松驛ヲ發シ、掛川驛ニ抵ル。

○假傳馬所ヲ京都ニ置キ、其使役ノ制限ヲ定ム。

○刑法官ヲ舊賀陽宮邸ニ移ス。

○東北遊擊軍將久我道久、莊内ニ抵ル。

○板倉勝敬、石川總管、東京ニ至ル。板倉種、石川總管家記

○南部利剛既ニ降ヲ乞、其守境ノ兵猶官軍ニ抗ス、是日、奥羽鎮撫總督府、其老臣ヲ召シテ、之ヲ詰責ス。

○林忠崇、仙臺老臣ニ就キテ、平潟口總督ノ軍門ニ降ル、督府乃チ忠崇ニ謹慎ヲ命シ、仙臺老臣ヲシテ監守セシム。

四日、車駕掛川驛ヲ發シ、藤枝驛ニ抵ル。

○府藩縣ノ紙幣還納條規ヲ定ム。

○吉川經幹、疾ヲ以テ致仕センコトヲ請フ、尋テ之ヲ聽ス。

○大河内輝照ノ謹慎ヲ釋ス。

○水戸擾亂ヲ以テ、土屋學直、松平頼繩、松平頼位、新莊直敬、前後書ヲ鎮將府ニ上リテ、入觀ノ進止ヲ候ス、批シテ鎮靖ヲ俟

○十月

朔日、車駕吉田驛ヲ發シ、荒井驛ニ抵ル、是日、徳川徳成、藤堂高猷ニ命シ、松平定教及ヒ重臣以下伏見ノ事ニ與ラサリシ者ノ家ニ歸ルヲ許シ、其監守ヲ解ク。

○大總督府、薩摩、長門以下五藩兵ニ令シテ、東京ニ凱還セシム。

二日、車駕荒井驛ヲ發シ、濱松驛ニ抵ル、井上正直ノ天龍川堤防修築ノ勞ヲ慰ス。

○大久保忠禮ノ支族忠良岩野山中ニ命シテ、其先祀ヲ承カシム、尋テ大總督府、忠良ニ命シテ、箱根關門ヲ警守セシメ、安永弘行ノ小田原領及ヒ箱根關門監督ヲ罷メ、唐津藩兵ヲ撤ス。

○毛利高謙、瓦ヲ獻シテ豊國社造營ノ用ニ充テシメテ請フ、之ヲ聽ス、高謙又書ヲ上リ假管地ノ舊封ニ屬セシ事情ヲ陳シ、其他ヲ復還センコトヲ請フ、聽サス。

○保科正益別名ニアリノ書ヲ上リ、東京入觀ヲ請フ、之ヲ聽ス。

○土岐頼知東京ニ至ル。土岐頼知家記

○水戸ノ警報至ル、大總督府、安藝、備前二藩兵ヲ以テ應援ト爲シ、土浦、笠間二藩兵ヲ罷歸シテ封疆ヲ嚴守セシメ、又其參謀萬里小路通房ヲ遣シテ賊ヲ討ス、是日水戸、藩兵賊ヲ撃チテ

チテ入觀セシム、是日、土岐頼知モ亦書ヲ上リ、從兵ヲシテ王事ニ服セシメシメテ請フ。

○大久保教義、東京ニ至ル。大久保教義家記

○東京府、部民ニ令シ、稟請ノ事ヲ以テ、他官吏ニ資縁囑託スルヲ嚴禁ス。

○車駕入京ノ日近キニ在ルヲ以テ、外國官副知事東久世通禧、各國公使ニ移書シテ、外國人ノ大磯、東京ノ間ヲ遊歩スルヲ停ム。

卷四十一

明治元年戊辰十月五日
日ニ起リ七日ニ至ル

五日、車駕藤枝驛ヲ發シ、江尻驛ニ抵ル、是日、水戸ノ警報行在ニ至ル、乃チ長門藩兵ノ從衛ヲ罷メテ、亟ニ東京ニ赴カシメ、肥前藩兵ヲ以テ之ニ代フ、又太田資美朝旨ヲ遵奉シ、養老ノ典ヲ管内ニ行ヒ、且東幸供設ノ周到ナルヲ褒ス。

○土佐藩北征兵士ノ軍資ニ乏キヲ以テ、特ニ金五千兩ヲ賜フ。

○松浦脩、書ヲ上リテ疾ヲ謝シ、其子近肥後ヲシテ代觀セシメシメテ請フ、之ヲ聽ス。

○建部政世、書ヲ上リ、歸藩シテ藩政ヲ釐革ヒシコトヲ請フ。

○鎮將府、一橋茂榮、田安慶頼ニ命シテ、假ニ清水氏ノ臣隸各三人

ヲ管セシム。

○柳河藩ニ命シテ、二本松及ヒ棚倉地方ヲ鎮撫セシム、尋テ之ヲ罷ム。

○高崎藩士ノ逃走セシ者、本藩ニ就キテ自首ス、本藩、大總督府ニ具申シテ裁ヲ乞フ、是日、批シテ、藩地ニ謹慎セシム。

○米倉昌言、久松勝行、戸田忠行、山口弘達、東京ニ至ル、中山信徴ノ老臣モ亦主ニ代リテ東京ニ至ル。米倉昌言以下各家記

○田村邦榮、平潟口總督ノ軍門ニ降ル。時ニ邦榮仙督府命シテ、本藩ニ謹慎セシム。

六日、車駕江尻驛ヲ發シ、吉原驛ニ抵ル。

○小川弘淵新助○土佐藩士ヲ以テ參河縣判事ト爲ス。

○間部詮道ノ祖父詮勝前下總守、松葉ト號、時ニ東京ニ在リ、蹤跡疑フヘキヲ以テ、本藩ニ謹慎セシメ、吉田藩ニ令シテ、之ヲ護送ス、既ニシテ會津人山内某助之ヲ詮勝邸内ニ捕ヘ、詮勝ノ近臣二人ニ謹慎ヲ命ス、詮道書ヲ上リ罪ヲ待ツ、批シテ問ハス。

○黒田直養、大岡忠貫、東京ニ至ル。黒田直養大岡忠貫家記

○平潟口總督四條隆謨、仙臺城ニ入ル、明日、仙臺老臣ノ本城守衛ヲ罷ム。

○牧野忠訓、越後口總督ノ軍門ニ降ル。忠訓時ニ米澤ニ在リ

○仙石政固書ヲ上リテ、藩城ヲ毀撤センコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○鎮將府、鳥井忠實ニ命シテ、舊弊ヲ洗除シ、人才ヲ擢用シ、以テ藩屏ノ職ヲ竭サシム、因リテ其弟忠文ニ假ヲ賜ヒ、歸邑シテ忠實ヲ輔翼セシム。

○鎮將府、辨事、判事、史官ニ令シテ、出征諸藩戰功賞格ノ意見ヲ上ラシム。

○松平直克、井上正巳、東京ニ至ル。諸侯參預、松平直克、井上正巳家記

九日、車駕小田原驛ヲ發シ、大磯驛ニ抵ル、是日、供奉隊兵ノ射的及ヒ漁獵ヲ覽ル。

○御諱惠、統、睦三字缺畫ノ制ヲ定ム。

○出征諸藩ニ令シ、小藩ノ其宗藩若クハ大藩ニ隸屬セシ者ハ、其功勞ヲ精覈シ隱没ノ憾ナカラシム。

○小笠原長國書ヲ上リ、肥前上松藩、公邑ノ舊封ニ屬セシ事情ヲ陳シ、其他ヲ復還センコトヲ請フ、聽サス。

○小濱藩、別當、社僧復職延期ノ事ヲ稟シテ命ヲ請フ、批シテ禁令ヲ遵奉セシメ、延期ヲ聽サス。

○増山正修、藩城修築ノ舊例ヲ陳シテ命ヲ請フ、批シテ圖樣ヲ附シテ申稟セシム。

七日、車駕吉原驛ヲ發シ、三島驛ニ抵ル、是日、徳川家達ノ管内供帳警備ノ周到ナルヲ褒シ、江川英武ノ大義ヲ辨シテ速ニ歸順シ、及ヒ松下重光加兵衛○下大夫ノ戰勞ヲ賞シテ、二人ニ物ヲ賜フ、又英武ニ命シテ、其系譜ヲ上ラシム。

○府縣ニ令シテ、紙幣通行ヲ障礙スル者ヲ搜捕セシム、又諸藩ニ令シテ普ク紙幣ヲ管内ニ行ハシム。

○久留島通靖入覲セント欲シ、書ヲ上リテ旨ヲ候シ、且ツ藩兵ヲ出シテ事ニ服セシメンコトヲ請フ、批シテ、藩ニ在リテ勉勵シ、後命ヲ待チテ入覲セシメ、出兵ヲ聽サス。

○特旨ヲ以テ、阿部正恒ノ謹慎ヲ釋シ、其城邑ヲ復ス。

○車駕東幸ノ期迫ルヲ以テ、鎮將府、百官ヲ戒飭ス、明日、官、公卿諸侯ニ令シテ、其臣隸ヲ戒飭セシム。

○森川俊方、東京ニ至ル。森川俊方家記

八日、車駕三島驛ヲ發シ、小田原驛ニ抵ル。

○松前隆廣、再ヒ書ヲ上リテ、歸藩及ヒ伏見口應援ノ兵ヲ罷ンコトヲ請フ、是日、應援ヲ罷メ、緩急ノ際、參朝シテ指揮ヲ俟タシメ、其歸藩ヲ聽サス。

○本多忠貫、再ヒ歸藩ヲ請フ、聽サス。

○細川韶邦、京都ニ至リ、大河内輝照、東京ニ至ル。細川護久、大河内輝照家記

○鎮將府、管下諸侯ヲシテ襲封及ヒ叙任ノ年月日ヲ錄上セシム、又中下大夫、上士ヲシテ東京ニ入覲セシム。

○大總督府、上野、下野諸藩ニ令シ、藩兵ノ若松ニ在ル者ヲ罷歸シテ、其封疆ヲ警守セシメ、以テ殘賊ニ備フ。

○戸澤正實、佐竹義理、書ヲ鎮將府ニ上リ、藩兵出征ノ故ヲ以テ入覲スルコト能ハス、家臣東京ニ在ル者ヲシテ代ラシメンコトヲ請フ、之ヲ聽ス、徳川慶篤モ亦疾病及藩内騷擾ヲ以テ之ヲ請フ。

○越後口總督府、上杉齊憲ニ命シテ、東京ニ至ラシム、尋テ大總督府、齊憲及ヒ其子茂憲ヲ召ス。

○南部利剛ノ子利恭及ヒ其支族南部信民、謝罪書ヲ奥羽鎮撫總督府ニ上リ、首謀臣檜山隆吉ヲ致シ、仙臺征討先鋒ヲ請フ、督府、利剛ノ反覆ヲ責メテ、復タ之ヲ却ケ、且箱館戍兵ノ暴擧ヲ詰ル、明日、利恭再ヒ書ヲ上リ、軍資若干ヲ納レテ先鋒ニ代ヘ、父子城外ニ謹慎シテ朝裁ヲ待タンコトヲ請フ、督府乃チ之ヲ納レ、金七萬兩ヲ上リ、以テ後命ヲ俟タシム、既ニシテ、督府命シテ、利剛父子及ヒ檜山隆吉、江幡通高、佐々木政純、ヲ東

京ニ押送シ、其獻金ヲ止ム。

卷百四十三 明治元年戊辰十月十日

○十日、車駕大磯驛ヲ發シ、藤澤驛ニ抵ル。
 ○神宮供御ノ制ヲ改定セントス、因リテ假ニ米一萬石ヲ度會府ニ付シ、一歲本年九月ヨリ來年九月ニ至ルノ資用ニ充ツ。
 ○府縣ニ令シテ、非常警衛ヲ除クノ外、私ニ諸藩兵ヲ指揮スルヲ禁ス。

○諸侯ノ多ク驕從ヲ率ユルヲ申禁シ、諸兵隊及ヒ衆庶ヲ戒メテ、敬禮ヲ貴者ニ失フコト勿ラシム。

○古金銀ヲ藏スル者ハ、之ヲ金銀兩局及ヒ商法會所ニ納レテ、通貨ニ兌換セシム。

○松平直克、黒田直養、大岡忠貫、保科正益、阿部正恒、水野忠順、達藤胤城、酒井忠美、稻葉正善、井上正順ノ安房、上總、下總、上野ノ別邑ヲ收メ、他邑ヲ以テ之ニ易フ。

○越後口總督府、溝口直正、堀直弘、井伊直安、牧野忠泰、柳澤徳忠、堀之美ニ命シテ、東京ニ至ラシム、又平潟口總督府、安藤信正、本多忠紀、内藤政養ニ命シ、東京ニ至リ謹慎シテ朝裁ヲ待タシム。

○官軍盛岡ニ入り、城中ヲ檢シ兵器ヲ收ム、乃チ令ヲ傳ヘテ、秋田、弘前ニ藩兵ヲ撤シ、秋田藩ヲシテ盛岡ノ兵器ヲ管シ、其士民ヲ鎮セシム、是日、東北遊擊軍將久我通久、舊盛岡藩士目時政明等ヲ南部利恭ニ付シ、命シテ厚ク任用セシム。
 ○是ヨリ先、奥羽鎮撫總督府、其參謀醍醐忠敬等ヲ弘前ヨリ召還ス、是日、忠敬秋田ニ至ル。

卷百四十四

明治元年戊辰十月十一日
日ニ起リ十二日ニ至ル

十一日、車駕藤澤驛ヲ發シ、神奈川驛ニ抵ル、是日、英、佛二國兵隊等、神奈川驛傍芝生ニ拜シ、各國艦船、祝砲ノ儀ヲ行フ。

○太田資美美家臣ノ東京ニ在ル者、書ヲ鎮將府ニ上リ、資美京師ニ在ルヲ以テ、入觀ノ進止ヲ取ル、批シテ東京ニ入觀セシム。
 ○奥羽平定ニ就クヲ以テ、奥羽鎮撫總督府令シテ、征討諸軍ヲ班ス、是日、總督九條道孝、副總督澤爲量等、横手ヲ發ス。

十二日、車駕神奈川驛ヲ發シ、品川驛ニ抵ル。

○織田信及書ヲ上リテ、山邊道上崇神天皇、倭山邊道上景行天皇ノ二陵ヲ修補シ、及ヒ山邊道上陵ハ、爾後其修繕ノ事ヲ專任センコトヲ請フ、批シテ二陵修補ヲ聽シ、其專任ヲ聽サス。
 ○平潟口總督四條隆謨、命ヲ入道公現親王ニ傳ヘテ、東京ニ至

卷百四十五

上 明治元年戊辰十月十三日
日ニ起リ十四日ニ至ル

ラシメ、津藩兵之ヲ護ス、是日、仙臺ヲ發ス、是ヨリ先、賊奪フ所ノ東照宮神主、會津ヨリ仙臺ニ抵ル、親王、總督府ニ請ヒテ、日光山ニ奉還ス、別當大樂院、神主ヲ奉シテ護兵ノ後ニ隨フ。
 ○是ヨリ先、鎮將府、越後口總督府ニ牒シテ、假ニ會津ノ民政及ヒ鎮撫等ノ事ヲ管理セシム、是日、鎮將府、會津降人ノ處分ヲ定メ、士族兵隊官吏ニ謹慎ヲ命シ、其事ニ與カル者ハ朝裁ヲ俟タシメ、其餘ハ悉ク放免ス、竝ニ口俸ヲ給シ、婦女之ヲ准ス、其創者ハ、官軍病院ニ入ルヲ許ス、大總督府モ亦軍務官判事中根貞和、善次郎、高田藩士ヲ遣シテ降人ヲ監シ、備前藩ヲシテ會津ヲ鎮セシム。

○平潟口總督府、相馬季胤ニ命シテ、東京ニ至リ復封ノ恩ヲ謝セシム、尋テ季胤金一萬兩ヲ獻シテ、軍費ニ充テントコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○伊達慶邦ノ降ルヤ、榎本武揚等、仍ホ仙臺海口ニ在リ、平潟口總督府、仙臺老臣ニ命シテ、武揚ヲ招降セシム、從ハス、松平定敬、板倉勝靜、其子勝全、小笠原長行、及ヒ大島純彰以下諸敗兵會津ヨリ來リ、仙臺兵隊歸順ヲ肯セサル者二百五十人ト、武揚等ノ艦ニ投ス、是日、武揚等、書ヲ總督府ニ上リ、船艦九隻ヲ率中テ、蝦夷地ニ走ル。

十三日、車駕東京ニ至ル、大總督熾仁親王、鎮將三條實美、東京府知事烏丸光徳等、品川ニ奉迎シ、三等官以上及ヒ諸侯ハ、坂下門外ニ奉迎ス、是日、江戸城ヲ以テ東幸ノ皇居ト爲シ、改メテ東京城ト稱ス。
 ○勅シテ薩摩、安藝二藩兵ノ征討軍勞ヲ慰シ、酒肴ヲ賜フ、又使ヲ病院ニ遣シテ、兵士ノ創痍者ヲ慰問ス。

○東幸ノ沿道橋梁毀壞セシモノハ、府藩縣ニ令シテ、其修造方法及ヒ費用ヲ錄申セシム。

○凡ソ上申書ハ、其主旨ヲ摘錄シテ、封紙ニ貼付セシム。

○京都諸藩邸中、望火櫓ノ警報ハ、板ヲ擊タシム。

○大關増勤、東京ニ至ル。大關増勤家記

○越後口總督嘉彰親王、戰死者ヲ新發田城ニ祭ル。

○越後口總督府、牧野忠訓ニ命シテ、東京ニ至リ謹慎シテ命ヲ待チ、忠訓ノ父忠恭前備前守、及ヒ臣隸ハ、藩地ニ謹慎シテ朝裁ヲ待タシム、尋テ至ル、忠訓ヲ笠間藩邸ニ幽ス。

○白川口總督府、丹羽長國、阿部正靜及ヒ其高祖父正備ニ命シテ、東京ニ至リ謹慎シテ命ヲ待タシメ、大村、佐土原二藩兵之

ヲ監送ス。

十四日、二等官以上ヲ御前ニ召シ、酒饌ヲ賜ヒ、恩賜差アリ、諸侯及ヒ四等官以下諸兵隊ハ、明日ヨリ十六日ニ至ル、又東京府民ニ酒ヲ賜フ。

○酒井忠篤、新發田ニ至リ、書ヲ總督府ニ上リテ、謝罪ノ効績ヲ奏センコトヲ請フ、是日、督府命シテ、東京ニ至リ謹慎シテ命ヲ待タシメ、其支族酒井忠良モ亦之ノ如シ、尋テ至ル、忠篤ヲ小濱藩邸ニ幽ス。

卷百四十五 下

○平潟口總督府、命ヲ傳ヘテ、林忠崇及ヒ德川舊臣等降伏謝罪者四百餘人ノ死一等ヲ減シ、東京ニ押送シ、步卒七百餘人ハ放免ス、又覺王院義觀、龍王院堯忍ヲ東京ニ押送ス、尋テ皆至ル、忠崇ヲ唐津藩ニ幽シ、其餘ハ各藩ニ付シテ謹慎セシム。

卷百四十六 上

明治元年戊辰十月十五日
日ニ起リ十九日ニ至ル

十五日、奥羽越平定ニ就クヲ以テ、越後口總督府、諸軍ヲ慰勞シ、令シテ其兵ヲ班ス、參謀西園寺公望等ヲ留メテ、警備兵ヲ督セシム、是日、總督嘉彰親王、新發田ヲ發ス。

東十三國ノ社寺ヲ府藩縣ニ分屬ス、又五官出張所ヲ設ク。

○入道公現親王ヲ伏見宮ニ幽ス。

○大總督府、參謀伊地知正治ノ戰勞ヲ慰シ、其參謀ヲ罷ム。日蓮宗ノ三十番神ノ稱ヲ廢ス。

卷百四十六 下

○中山信徵書ヲ上リ、管内石炭採掘及ヒ販賣ノ事ヲ申請ス、之ヲ聽ス。

○白川口總督府、令シテ、征討諸軍ヲ班シ、三春、守山、福島三藩ヲシテ其封内ヲ警守セシム、是日、總督正親町公董、福島ヲ發ス。

十九日、小御所講筵ノ日、毎月ヲ定メ、在京諸侯ノ陪聽ヲ許ス。

○外國官知事兼議定心得伊達宗城ヲ以テ議定ト爲シ、外國官知事ヲ兼シメ、刑法官副知事池田章政、軍務官副知事長岡護定美ノ議定心得ヲ罷メ、章政、護美及ヒ議定蜂須賀茂韶、東久世通禧、參與大久保利通等ヲシテ東京ニ駐在セシム。

○久松勝行、疾病ヲ以テ歸藩療養センコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○白川口總督府、長門、肥前、大垣三藩兵ニ命シテ、松平容保父子及ヒ其老臣内藤某介右、等四人舊幕臣及ヒ諸藩降兵四百六十

十六日、出征諸藩ニ令シ、藩兵撤還ヲ命セシ者、兵隊ハ直ニ歸藩シ、其總括若クハ隊長ヲシテ東京ニ至ラシム、尋テ更令シテ、一ニ諸道總督ノ命令ニ從ハシム。

○東北遊擊軍將府、織田信敏ニ命シテ、東京ニ至リ謹慎シテ命ヲ待タシム。

十七日、天皇始テ朝堂ニ臨ミ、萬機ヲ親裁ス、乃チ百官ニ詔シテ、輔導啓沃、直言シテ忌憚スルコト勿ラシム、又詔シテ、祭政惟一ノ大典ニ基キ、冰川神社武藏大宮ヲ以テ武藏鎮守勅祭社ト爲ス。

○復タ外國官副知事東久世通禧ヲ以テ議定ト爲シ、佐渡縣知事井上馨ヲ罷ム。長崎府判事ニ復ス。

○内藤賴直ノ請ヲ聽シ、歸藩シテ家政ヲ更革シ、兵備ヲ嚴整セシメ、其大原口應援ヲ罷ム。

○水野忠幹書ヲ上リ、石高貸與ノ紙幣ヲ以テ、大和太臺ケ原ヲ墾闢センコトヲ請フ。

○兵庫縣知事伊藤博文、兵制更革及ヒ凱旋兵士統馭ノ議ヲ上ル。

十八日、鎮將府ヲ廢ス、三條實美輔相故ノ如シ、明日、舊鎮將府附屬ノ輩及ヒ各學校ヲ行政官ニ、病院ヲ東京府ニ屬シ、駿河以

人ヲ東京ニ監送セシム、尋テ至ル、乃チ容保ヲ因幡藩ニ、喜徳及ヒ内藤某ヲ筑後藩ニ幽ス、降兵ハ、各藩ニ交付シテ謹慎セシム。

○是ヨリ先、堀直賀ノ義叔父直弘及ヒ其臣隸書ヲ上リ、直賀奸臣ニ誣誤セラレシ情狀ヲ申シテ哀ヲ乞フ、是日、越後口總督府、直賀ヲ直弘ニ付シテ謹慎セシム。

○東北遊擊軍將府、松平信庸ニ命シ、東京ニ至リ謹慎シテ命ヲ待タシム。

○南部利剛、其家臣ヲ遣シ、書ヲ箱館府知事清水谷公考ニ上リテ、前日戌兵暴舉ノ罪ヲ謝ス、利剛支族南部信民モ亦書ヲ上リテ之ヲ謝ス。

卷百四十七

明治元年戊辰十月二十日

二十日、東幸綏撫ノ意ヲ諭告シ、養老旌賞賑恤ノ典ヲ全國ニ舉行セシム。

○安藤信正、本多忠紀、内藤政養、東京ニ至ル、乃チ信正ヲ藩邸ニ、忠紀ヲ岡崎藩邸ニ、政養ヲ延岡藩邸ニ幽ス、安藤信勇書ヲ上リ、信正ノ爲ニ哀ヲ乞フ。

○人吉藩、東征應援ノ爲メ其兵ヲ發ス、大坂ニ至リテ賊徒平定

スト聞キ、書ヲ上リテ旨ヲ候ス、慰諭シテ罷歸ス。
 ○黒田長溥、京都ニ至リ、松平頼策、東京ニ至ル。
 ○内藤信思、書ヲ越後口總督府ニ上リ、功ヲ立テ罪ヲ償ハシコトヲ請フ、信思仍本岩村田ニ在リ是日、督府、信思ニ命シ、東京ニ至リ謹慎シテ命ヲ待タシム、又其老臣脇田某^藏以下十六人ヲ禁錮ス。
 ○榎本武揚等、蝦夷鷲木村^{箱館ノ北十三里許}ニ入ル、箱館府知事清水谷公考^{府廳ハ五藏府兵及ヒ弘前、松前、福山、大野四藩兵ニ令シテ之ヲ撃タシメ、又各藩兵ヲシテ箱館港等ヲ守ラシム、既ニシテ官軍賊ヲ峠下、七重、大野等ニ撃ツ、利アラス、賊進ミテ五陵郭ニ迫ル。}

卷百四十八

上 明治元年戊辰十月二十一日ニ起リ二十五日ニ至ル

二十一日、是ヨリ先、盛岡新ニ降り、榎本武揚ノ徒、未タ捕ニ就カス、奥羽鎮撫總督府、秋田、弘前ニ藩ニ令シ、盛岡警急アレハ亟ニ應援シ、私怨ヲ挟ムコト勿ラシム、是ニ至リ、二藩ニ申令シテ、嚴ニ封内海岸ヲ警守シ、賊艦ニ備ヘシメ、又南部老臣ニ命シ、賊ヲ討チテ謝罪ノ實効ヲ奏セシム。
 二十二日、東海、東山、北陸、三道ノ諸藩ニ令シテ、官軍ニ供億セシ金穀ノ數ヲ錄上セシム、尋テ大夫士以下モ亦之ニ準ス。

二十三日、東征大總督熾仁親王上表シテ、賊徒平定ヲ奏シ、其任ヲ解カンコトヲ請フ。
 ○東北平定ニ就クヲ以テ、親王三職及ヒ在京諸侯ヲ召シテ、酒饌ヲ賜フ。
 ○私ニ錢價ヲ高低スルヲ禁ス。
 ○諸侯ニ申令シテ、襲封叙任及ヒ年齡等ヲ錄上セシム。
 ○入道准后鷹司政通^{輔照ノ父}薨ス、^{十六日}是日、其積勞ヲ追賞シテ金五百兩ヲ賜フ。
 ○大河内正質ノ官位ヲ復ス。
 ○越後ノ府藩縣ニ令シテ、留戍官軍及ヒ病院療養者ニ金穀ヲ供億セシム。
 ○津和野藩、其兵ヲ發シテ奥羽征討ノ軍ニ從ハシメントス、大坂ニ至リ、賊徒定平スト聞キ、書ヲ上リテ其事ヲ申ス、是日、慰諭シテ罷歸ス。
 ○久世廣文ノ老臣、再ヒ書ヲ上リテ、廣文ヲ寬免センコトヲ請ヒ、又廣文ノ弟二人ヲシテ朝覲セシメンコトヲ請フ、之ヲ却ク。
 ○保科正益、東京ニ至ル。^{飯野}
 ○平潟口總督府、伊達慶邦父子ニ命シテ、東京ニ至リ謹慎シテ

朝裁ヲ待タシメ、筑後藩兵之ヲ監送ス、白川口總督府モ亦、板倉勝尙ニ命シテ、東京ニ至リ謹慎シテ命ヲ待タシム。

二十四日、軍務官判事大村永敏ヲ以テ、軍務官副知事ト爲ス。

○軍務官ニ命シテ、海陸軍制ヲ確定セシム、尋テ海軍局ヲ東京^築ニ置ク。
 ○參與副島種臣ニ命シテ、東京ニ赴カシム。
 ○水野忠弘、再ヒ書ヲ上リテ、窮困ノ情狀ヲ陳シ、賑濟ヲ請フ、是日、米二千石ヲ賜フ。

二十五日、講筵ヲ小御所ニ開ク、在京諸侯之ニ陪ス。
 ○勅シテ、薩摩、長門以下十八藩及ヒ十津川兵隊ノ征討軍勞ヲ慰ス。

○切支丹宗徒ノ檢査、姑ク舊制ニ從ハシム。

○大總督府ノ會計事務ヲ會計官ニ屬ス、又病院^{東京府所管}ヲ軍務官ニ屬ス。

○箱館ノ官軍、連戦利アラス、是日、知事清水谷公考、諸藩兵ヲ率中テ青森ニ走ル、賊五稜郭及ヒ箱館ニ分據ス、既ニシテ賊海陸兵ヲ發シテ、福山城ヲ攻ム、時ニ城主松前德廣、館ノ新砦^{江差北五、ニアリ}ヲ留守老臣蠣崎某^郡、城兵ヲ督シテ防戦ス、克タス、城陥ル、賊進ミテ新砦及ヒ江差ニ迫ル、德廣、家臣七十餘人ヲ

率中テ津輕ニ走ル、箱館地方、悉ク賊ニ陥ル。

卷百四十八 下

上 明治元年戊辰十月二十六日ニ起リ二十七日ニ至ル

二十六日、細川韶邦ヲ東京ニ召ス。

○丹羽長國、東京ニ至ル、之ヲ前橋藩邸ニ幽ス。

○長門藩鐵艦交收ノ事、阻格シテ未タ果サス、廷議亟ニ之ヲ得テ以テ脫艦追討ノ用ニ充テントス、是日、外國官知事伊達宗城、書ヲ各國公使ニ致シ、奥羽越平定ヲ報シ、更ニ米國公使ニ說キ、鐵艦ヲ交付セシム、公使肯セス、既ニシテ宗城、各國公使ニ牒シ、局外中立ヲ止メシム、亦報セス、輔相岩倉具視、橫濱ニ抵リ、各國公使ニ面諭シテ之ヲ促シ、又書ヲ致シ、其意ヲ申ス、公使乃チ其國民ニ中立解停ヲ布告シ、以テ之ヲ報ス。^{中立解停ハ十八日、軍艦交收ハ明年正月ニアリ}

卷百四十九 下

○開成所ヲ復興シ、一等譯官箕作麟祥^{真一郎}ニ學校取調御用

掛ヲ命ス、尋テ議定山内豊信ヲ以テ知學事ヲ兼シメ、内田正雄恒次郎ヲ開成所頭取ト爲ス。

○竹腰正舊ヲシテ其領地一萬石ヲ德川徳成ニ還付セシム、成瀬正肥ハ、徳成ノ請ヲ以テ、姑ク其舊ニ仍ル。

○中下大夫、上士ヲシテ東京ニ居住セシム。

○出征諸藩ニ令シテ、征戰顛末ヲ錄上セシム。

○東京府下盜多キヲ以テ、東京府ニ令シ、軍務官ト協議シテ、嚴ニ之ヲ緝捕セシム、又舊旗下士及ヒ浮浪徒ヲ處置セシム。

○徳川徳成、徳川茂承、其老臣ノ官位ヲ辭ス、之ヲ聽ス。

○毛利元敏、歸藩シテ家政ヲ整理シ、邑民ヲ撫育センコトヲ請フ、毛利慶親、副書シテ申請ス、是日、之ヲ聽シ、事ヲ畢ヘテ亟ニ入覲セシム。

○山内豊範、木材ヲ獻シテ、楠社及ヒ豊國社造營ノ用ニ充テシコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○因幡藩、管内發行ノ銀札ヲ改メテ錢札ト爲サンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○箱館ノ警報東京ニ達ス、乃チ津、備前、筑後三藩兵ヲ箱館ニ、長門及ヒ津藩兵ノ仙臺ニ在ルモノヲ青森、秋田ニ發遣シ、秋田、八戸二藩ヲシテ糧餉ヲ辦給セシム、又徳川家達ニ命シテ、

道孝、副總督澤爲量、東北遊擊軍將久我通久、白川口總督正親町公董、平瀨口總督四條隆謨、及ヒ大總督府參謀穂波經度、萬里小路通房、西郷隆盛、軍務官判事大村永敏、越後督府參謀壬生基修、吉井徳春等、賞慰差アリ。

卷百五十 下

○治河使ヲ置キ、會計官權判事岡本義方健三郎ヲ以テ之ヲ兼シメ、議定兼會計官、知事中御門經之、參與兼大坂府知事後藤元燁ニ治河掛ヲ命ス、尋テ經之ニ命シテ、其事務ヲ統管セシム、又水利ノ要ヲ布告ス。

○甲斐府ヲ置キ、滋野井公壽ヲ以テ知事ト爲シ、甲斐鎮撫使柳原前光ヲ罷メ、府中、市川、石和ノ三縣ヲ廢ス、又新潟府知事四條隆平ヲ罷メ、越後總督府參謀西園寺公望ヲ以テ知事ト爲ス。

○徵士三等官以上ハ、位階有無ヲ問ハス、拜任前後ヲ以テ其班ヲ序ス。

○是ヨリ先、開成所ノ理化學講場ヲ大坂ニ移ス、七月ニ是ニ至リ、舍密局ヲ置キ、平田某左衛門ニ御用掛ヲ命ス。

賊ヲ討セシメ、海軍參謀山田顯義市之允ヲ青森口陸軍參謀ト爲シ、青森駐在ノ軍ヲ督セシム、尋テ箱館府知事清水谷公考ヲ以テ青森口總督ト爲ス。知事故ノ如シ、

○中山信徴、東京ニ至ル。諸侯參罷

○去歲七月、筑前藩士金子某、狂シテ英國軍艦水夫二人ヲ長崎ニ殺シテ自盡ス、藩老野村某、匿シテ聞セス、是ニ至リ、村澤某右八以下七人、前藩士長崎府ニ自首ス、既ニシテ藩主黒田長

溥ヲ譴メテ、差扣ヲ命シ、被殺人ノ妻子養育資ヲ出サシメ、藩士池内某清太及ヒ村澤某等七人ヲ禁錮ス、其餘懲罰差アリ。野村某ハ罪ヲ以テ死ニ處ス。

○秋田藩汽船高尾號、將ニ兵庫ニ航セントシ箱館港ニ至ル、賊之ヲ奪ヒ、船長等ヲ幽ス、賊又書ヲ奧羽越列藩ニ遺リテ、救援ヲ乞フ。

卷百五十 上

明治元年戊辰十月二十八日

二十八日、天皇、氷川神社ニ詣ス。明日還京。

○東征大總督熾仁親王ノ請ヲ聽シテ、其任ヲ解ク、親王乃チ錦旗節刀ヲ奉還ス、手詔シテ、其成功ヲ賞ス、會津征討越後口總督嘉彰親王凱旋ス、熾仁親王ノ例ノ如シ、又奧羽鎮撫總督九條

○軍資金貢獻ニ、宗家支族合一シテ、之ヲ納ムルヲ停ム。

附 錄 上

奧羽越諸藩對典

明治元年十二月七日、詔シテ、奧羽越諸藩主ノ罪ヲ斷シ、松平容保、其子喜徳、及ヒ林忠崇ノ死一等ヲ減シ、並ニ永預ニ處シ、伊達慶邦、南部利剛、酒井忠篤、丹羽長國、阿部正靜、牧野忠訓ノ封土ヲ沒シ、竝ニ謹慎ヲ命シ、上杉齊憲ノ封土四萬ヲ削リ、退老ヲ命シ、其子茂憲ヲシテ家ヲ承カシメ、久世廣文ノ封土五千石、松平信庸、田村邦榮各三千石、酒井忠良二千五百石、板倉勝尚、本多忠紀、織田信敏、岩城隆邦各二千石、内藤政養、水野勝知、南部信民各千石ヲ削リ、勝尚ノ封ヲ移シ、竝ニ退老ヲ命シテ、繼嗣ヲ奏請セシメ、安藤信男ノ封ヲ移シテ、謹慎ヲ命シ、其祖父信正ヲ永蟄居ニ處シ、堀直賀ニ退老ヲ命シ、其義叔父直

弘ヲシテ封ヲ襲カシメ、伊達宗敦、内藤信思、水野忠弘、忠弘ノ父忠精ニ謹慎ヲ命シ、信思ヲシテ繼嗣ヲ奏請セシム、更ニ特恩ヲ以テ、慶邦、利剛、忠篤、長國、正靜、忠訓ノ家ヲ存録シ、繼嗣ヲ奏請セシメ、慶邦ノ子宗基龜三、二二十八萬石、利剛ノ子利恭德之、二十三萬石、忠篤ノ弟忠實助、二十二萬石、長國ノ養子長裕丸、二五萬石、正靜ノ叔父正功基之、二六萬石、忠訓ノ弟忠毅橋、二二萬四千石ヲ賜ヒ、竝ニ其先祀ヲ承カシメ、廣文ノ弟廣業順、信庸ノ弟信安熊、邦榮ノ養子崇顯丸、忠良ノ子忠匡信三、勝尙ノ養子勝達助、忠紀ノ養子忠伸兵衛、信敏ノ弟壽重丸、隆邦ノ養子隆彰龜五、政養ノ養子政憲助、勝知ノ養子勝寬、信民ノ養子信方隆、信思ノ養子信美三郎ヲシテ其家ヲ繼カシム、又諸藩首謀臣ノ罪ヲ斷シ、會津老臣萱野長修權兵衛、仙臺老臣但木成行土坂、時秀英、盛岡老臣檜山隆吉佐、山形老臣水野元宣三郎右衛門、村上老臣鳥居某三郎、關宿老臣小島某兵衛、村松老臣堀某三郎、齋藤某七、結城老臣水野某又兵衛、茂野某內ヲ斬ニ處シ、其既ニ死スル者ハ、斬ニ擬シテ其後ヲ絶チ、會津田中士佐、神保内藏助、米澤色部長門、莊内石原、長岡河井繼之助、山本帶子、本直、右衛門、秋月、永預ニ處ス。刀、結城水野某四郎ノ子、其從三人、會津手代、本松丹羽丹波。

附錄下

伏水口戰記

第一

自明治元年正月三日 同日

明治元年、戊辰正月三日、内大臣徳川慶喜、大坂城ニ據リ、表ヲ草シテ、薩摩藩ノ罪ヲ聲シ、兵ヲ發シテ、北上セシメ、將ニ繼キ進ントス、又諸藩ニ移檄シ兵ヲ徵ス、是日、慶喜ノ入京ヲ停メ、徳川慶勝大納言、尾張藩主徳成ノ父、松平慶永大藏大輔、越前藩主茂昭ノ父、ニ命シテ、坂兵ヲ退歸セシム。

○薩、長、土三藩ニ命シテ、伏見ノ守備ヲ嚴ニシ、安藝藩兵ヲシテ之ニ赴カシム。

○竹中重固丹後守、阪兵ヲ率テ伏見ニ至リ、書ヲ薩摩藩營ニ致シ、將ニ京ニ入ラントス、薩藩答書シテ、朝命ヲ俟シム、既ニシテ、鳥羽ノ戰起ル、坂兵之ヲ聞テ齊シク進ム、官軍邀戰ヒ、哺ヨリ曉ニ至ル、遂ニ大ニ之ヲ破ル。

○瀧川具知播磨守、慶喜ノ表ヲ齎シ、別軍ト俱ニ鳥羽ニ至ル、薩摩藩守兵、朝命ナキヲ以テ、入ルヲ許サス、少頃アリテ、大學來迫ル、邀撃テ大ニ之ヲ破リ、其營ヲ焚ク、夜半復來ル、之ヲ擊

卻ク。

○是夜、議定嘉彰親王仁和ヲ以テ、軍事總裁ト爲シ、議定伊達宗城伊豫守、宇和島藩主宗徳ノ父、參與東久世通禧小鳥丸、光徳從ヲ參謀ト爲ス。

○毛利敬親長門藩主、鷲尾隆聚侍從、時ニ高野山ニ屯ス、ニ命シテ、大坂城ヲ伐タシメ、隆聚ニ錦旗ヲ賜ヒ、因幡藩兵及ヒ支藩兵ニ伏水ニ赴カシメ、徳川茂承中納言ヲシテ官軍ヲ糾合セシム、又因幡、備前

二藩ヲシテ征討兵ヲ備ヘ、且備前藩ニ西宮ヲ嚴守シ、稻田邦植九郎兵衛ニ應援ヲ爲サシム。

○參與橋本實梁少將、實與助役柳原前光侍從ヲシテ大津口ノ兵ヲ督シ、參與西園寺公望將、二丹波口ノ兵ヲ督セシム、柳原前望西園寺公、又井伊直憲備前ヲシテ兵ヲ率キテ大津ニ赴カシム。

○是夜、慶喜兵ヲ發シテ、大坂ノ薩摩藩邸ヲ攻ム、薩人邸ヲ焚テ遁ル。

四日、軍事總裁嘉彰親王ヲ拜シテ、征討大將軍ト爲シ、錦旗節刀ヲ賜ヒ、參與四條隆謨從、參與助役五條爲榮少納言ヲ以テ、錦

旗奉行ト爲シ、薩、長、藝三藩兵ヲシテ之ニ從ハシム、是日、大將軍出テ東寺ニ次ス、大將軍、矢守平好、對馬守仁和中沼之舜、三諸軍ヲ警戒ス。

○伏見口官軍、賊ヲ京橋、中書島ニ擊テ、之ヲ走ラス。

○早旦、賊兵鳥羽口ニ來逼ル、官軍、左右翼ヲ縱テ之ヲ破ル、賊退テ砲墩ニ據守ス、官軍薄戰、殺傷相當ル、大將軍牙ヲ東寺ニ建テ、後軍來リ會ス、遂ニ環攻シテ、其數墩ヲ拔ク、夜ニ及テ軍ヲ收ム。

第二 自明治元年正月五日 至同 九日

正月五日、賊兵、淀、鳥羽ノ二路ヲ扼ス、味爽、伏水ノ官軍先發シ淀堤ニ向フ、賊伏ヲ設テ逆戰フ、其勢甚銳シ、官軍力戰遂ニ之ヲ破ル、賊淀城ヲ望テ潰走ス。

○黎明、鳥羽口ノ官軍、亦進ンテ賊巢ヲ衝ントス、賊兵、各所ニ分拒ス、官軍奮擊、悉ク之ヲ敗リ、勢ニ乘シテ鼓行ス、時ニ淀堤ノ賊モ亦走ル、兩軍相合シ、淀ノ北岸ニ臨ミ、巨礮ヲ發シテ、市街ヲ焚ク、賊城ニ據ラント欲ス、城兵拒テ納レス、賊狼狽城南大橋ヲ火キテ、八幡ニ走ル。

○大將軍、牙ヲ淀ノ北岸ニ進ム、賊已ニ退走ス、乃チ東寺ニ回ル。

○是夜、薩、長二藩兵ノ戰功ヲ賞ス、又四條隆平大ヲ山崎ニ遣シ、守關ノ津藩兵ニ命シテ、官軍ニ應セシム。

六日、櫻井忠興、遠江守○永井直諒高橋主ニ命シテ、城守ヲ嚴ニセシム、又長、備二藩兵ヲ召スヲ以テ、忠興ニ命シテ、其封内經過及ヒ運糧等ノ便ヲ與ヘシム。

○早旦、官軍八幡ヲ拔キ、進テ橋本ヲ攻ム、津藩ノ山崎守兵之ニ應シ、河ヲ夾テ、賊ヲ橫擊ス、賊驚潰遠ク遁ル、官軍追テ葛葉ニ至ル、是日、征討府、其下參謀高崎正風ヲ罷メ、大山綱良○格之助ヲ以テ之ニ代フ。東伏見宮家記

○是夜、徳川慶喜、瀛船ニ駕シ、大坂城ヲ去ル、松平容保、肥後守松平定敬、越中守○備板倉勝靜、伊賀守○備酒井忠悳、備前守○備等、之ニ從フ、慶喜去ルニ臨テ、奏狀及ヒ坂城ヲ尾、越二藩ニ托ス、又東歸ノ故ヲ諸藩ニ布告シ、明日、諸藩兵ヲ罷歸ス。

七日、徳川慶喜ノ罪ヲ聲シ、征討ノ號令ヲ頒布シ、諸侯ヲシテ去就ヲ決セシム。

○因幡藩及ヒ支藩兵ノ伏見守衛ヲ罷テ、八幡、橋本ヲ警守シ、勝山越藩兵ヲシテ關嶺大和、河内ノヲ警守シ、永井直諒ノ請ヲ許

シテ、洞嶺内ノ守衛ヲ撤シテ、本城ヲ嚴守セシム。

○鷺尾隆聚ニ内諭シ、姑ク坂城攻撃ヲ止メ、先大和ヲ鎮撫セシム、隆聚、既ニ五條和大代官所ヲ收メ、在リ是日、紀伊、河内、和泉ノ諸藩ニ檄シテ、王事ニ勤メシム。

○大將軍、進テ淀城ニ入ル。八日、高松、小濱、松山、大垣、鳥羽、宮津、延岡七藩ノ兵、賊ニ與スルヲ以テ、其人土ノ九門ニ出入スルヲ禁ス。

○大將軍、八幡ニ至リ、東伏見勅旨ヲ薩、藝、長、因、津五藩及ヒ池田德澄、修理○因幡池田德定ノ兵ニ傳ヘテ、之ヲ犒勞ス、又伊達宗城ノ請ヲ許シ、其軍事參謀ヲ罷ム。

九日、征討大將軍嘉彰親王ヲ以テ外國事務總裁ヲ兼ネ、牙營ヲ坂城ニ置テ、四方ヲ指揮セシメ、徳川慶勝、松平慶永ヲシテ坂城ヲ點檢シ、大將軍ヲ迎ヘシム、是日、大將軍、淀城ヲ發シテ、牧方ニ至ル。

○東本願寺光勝ニ命シ、伏見、八幡、橋本ノ兵禍ニ罹リシ者ニ賑救ス。

○早旦、官軍先鋒、長門大坂城ニ入ル、會マ城中火起リ、焚燒翌日ニ至ル。

○鷺尾隆聚、嚮ニ使ヲ紀伊藩ニ遣ハスヤ、藩兵橋本ヲ守ルモ

ノ、之ヲ拘ス、是ニ於テ、隆聚、書ヲ移シテ、其無禮ヲ責メ、且其向背ヲ問フ、是日、隆聚ノ兵、賊ヲ紀伊見峠ニ擊テ、之ヲ走ラス。

○薩、長二藩兵、出テ尾道後備ニ屯ス、伏水ノ報ヲ聞クニ及テ、海陸並進ミ、福山城阿部正ニ向フ、長藩兵先ツ至リ、書ヲ致シテ、其向背ヲ問ヒ、且之ヲ圍ム、阿部正方ノ老臣、連署貳ナキヲ證ス、乃チ圍ヲ解ク、薩藩兵踵テ鞆港後備ニ至ル、往復長藩ノ如シ、亦軍ヲ收ム。

第三 自明治元年正月十日 至同 二十日

正月十日、因幡藩及ヒ支藩兵ノ橋本警守ヲ罷メ、池田、肥後藩兵ヲ以テ之ニ代フ。

○大將軍、大坂ニ至ル、本願寺支院ヲ以テ牙營ト爲ス。

○征討府、郡山藩兵ニ令シテ、大坂港口ヲ守ラシム、又松平忠誠下總守、本莊宗武備前守ヲ召ス、忠誠遂ニ至ラス。

○備前藩兵、櫻井忠興ノ向背ヲ問フ、忠興ノ老臣、奉命貳ナキノ證書ヲ致ス。

○鷺尾隆聚、兵ヲ率ヒ、五條ニ至ル、郡山藩、使ヲ遣シ、戮力勤王セント乞フ、令シテ、兵ヲ出サシム。

ス、老臣熊田矩芳拾自刃シテ、罪ヲ謝シ、衆ニ代ランコトヲ乞フ。二十二日、遠藤胤城但馬守○近江三上藩主、舊藩府奏番アリノ家臣、書ヲ征討府ニ上リ封内見兵ヲ以テ王事ニ從ハント請フ。

○總督四條隆謨、姫路ニ抵リ、諭告シテ、士民ヲ安撫ス。

二十四日、總督、姫路城ヲ檢シ、更メテ備前藩ヲシテ之ヲ管セシメ、其質ヲ還付ス、又廩ヲ發シテ、市民ヲ賑恤ス。

○酒井忠惇ノ父忠績頭及老臣、書ヲ督府ニ上リ、寛典ヲ請ヒ、又備前藩ニ依リテ、解救ヲ請フ。

二十五日、征討府、大村純熙丹後守○肥前藩主、大村藩主ニ命シテ、長崎ヲ警守シ、松平親良中務大輔○豐後藩主、後村藩主ニ御許山前嘯聚ノ浪徒ヲ討セシム。

○督府、姫路ノ降ヲ受ケ、藩士ノ田野ニ散處スルモノヲシテ家ニ還ラシム、又福山藩ニ令シ、兵ヲ出シテ松山伊豫征討ノ應援ヲ爲シ、龍野藩ニ室津播磨ヲ警守セシム。

○松平頼聰使臣、罪臣ノ首級ヲ齎シ、總督ノ軍門ニ詣リ、謝罪書ヲ上ル、昨日是日、督府其降ヲ容シ、朝命ヲ待シム。

二十六日、大將軍、天保山ノ砲臺ヲ巡視シ、嘯ニ及テ還ル。

○總督、姫路ヲ發シテ室津ニ抵リ、海路軍ヲ班ス、備前、明石ニ藩兵之ニ隨フ。

○淺野茂長、兵ヲ發シテ、備中河邊川以西諸藩ノ向背ヲ問フ、

是日、福山ニ抵ル、阿部正方、老臣ヲ遣リテ、之ヲ城中ニ迎ヘ、書ヲ修テ、承順他ナキヲ陳ス。

二十七日、東征ノ大議アルヲ以テ、大將軍嘉彰親王ヲ召還ス。

○是ヨリ先、備前藩兵、松平武聰右近將監○舊藩田藩主封ヲ失ヒ、美作ノ別邑ニ寓ス、家臣ノ大坂ヨリ敗歸スル者ヲ金岡港備前ニ拘執ス、是日、茂政、狀ヲ征討府ニ上ル。

○總督四條隆謨、大坂ニ凱旋ス。

○土佐藩兵、將ニ松山ヲ討セントス、先使ヲ遣ハシテ朝命ヲ傳フ、松平定昭、其父勝成隱岐守ト城ヲ出テ、寺院ニ屏居シ、恭順ヲナキヲ稟謝ス、二十四日是日、進テ其城ヲ收ム、定昭及家臣、書ヲ致シテ哀ヲ乞フ。

二十八日、大將軍嘉彰親王、大坂ヨリ凱旋シ、錦旗節刀ヲ上リ、其狀ヲ奏ス、四條隆謨、五條爲榮等從フ。

○酒井忠惇老臣、書ヲ上リ、兵ヲ出シテ、征討ノ軍ニ從ハンコトヲ請フ。

是月、征討府、土佐藩兵ニ命シテ、堺港和ヲ警守セシム。山内豐範家記

○加藤泰秋、遠江守○大洲藩主使ヲ督府ニ遣シ、大洲城ヲ以テ、松山征討ノ牙營ト爲ンコトヲ請フ。

二月朔日、是ヨリ先、長門藩兵、督府ノ令ヲ奉シ、松山ヲ討ス、

時ニ松平定昭寺院ニ屏居シ、土佐藩ニ依テ罪ヲ待ツ、是ニ於テ、城中ヲ檢シ、是日定昭等ヲ寺院ニ見ル、定昭乃家臣ト書ヲ致シテ、承順貳ナキヲ申明シ、救解ヲ乞フ。

七日、福山藩兵、三津濱ニ抵ル。

十五日、松平頼聰ノ罪ヲ宥シ、其城邑ヲ復シテ、之ヲ京ニ召シ、松平定昭ノ城邑ヲ收メ、更メテ土佐藩ヲシテ之ヲ管セシメ、定昭及ヒ家臣ニ謹慎ヲ命ス、是ニ於テ、山陽、南海二道全ク定ル。

東海道戰記

第一 自明治元年正月五日 至同 廿六日

明治元年^{戊辰}正月五日、參與橋本實梁^{少將}、實^子ヲ以テ、東海道鎮撫總督ト爲シ、參與助役柳原前光^{侍從}、光^子ヲ副總督ト爲ス、^{二人參與、故ノ如シ、}是日、二人、肥後藩兵ヲ率キテ、京師ヲ發シ、大津驛ニ抵ル。

○是ヨリ先、備前、阿波、彦根、大村、佐土原、五藩ニ命シテ、大津驛ヲ警守セシム、是日、備前新田藩兵ヲ遣シテ、宗藩兵ト共ニ本驛ヲ嚴守セシム、又興正寺攝信ニ命シ、門徒ヲ率キテ大津ニ至リ、總督橋本實梁ニ從ハシム。

六日、木梨恒準^{精一郎、長ヲ以テ、東海道鎮撫總督ノ參謀ト爲ス。}、七日、參謀木梨恒準、大津驛ニ至ル。^{柳原前光ニ令シテ、隣近ノ諸藩ヲ糾合シ、進テ桑名ヲ討セシメ、海江田信義^{武次、藩士}ヲ以テ桑名征討參謀ト爲ス。}

十日、因幡藩及ヒ其支藩兵ヲ大津驛ニ遣シテ、總督橋本實梁ニ屬セシム。

○督府、備前、阿波、彦根、膳所、大村、佐土原、六藩ノ重臣ヲ召シテ、桑名征討ノ命ヲ傳ヘ、其軍略ヲ諮詢ス、又六藩ニ令シテ其兵員ヲ錄申セシム。

○參謀海江田信義、大津驛ニ至ル。^{柳原前光}

十一日、督府、伏見ノ敗賊伊賀越^{伊賀}、地方ヲ過キテ東歸スルノ間アルヲ以テ、膳所、水口ニ令シテ、之ヲ要擊セシム。

○是ヨリ先、總督橋本實梁ニ命シ、舊大津代官石原某、^藩舊信樂^{近江}代官多羅尾光弼^{總之}ヲシテ軍資ヲ供億セシム、是日、督府二人ニ命シ、阿波藩兵ト共ニ、其舊管地ヲ管理セシム、又阿波藩兵ニ命シテ、舊幕府及ヒ會津、桑名領地ノ大津附近ニ在ル者ヲ檢セシム。

十二日、土佐藩兵ヲ大津驛ニ發シ、督府ニ就キテ琵琶湖渡口警守ノ事ニ服センコトヲ請フ、是日、命シテ之ヲ警守セシム、又其請ヲ聽シ、金穀ヲ貸付ス。

○加藤明實^{龍登守、水ノ封邑、賊兵ノ走路ニ當ルヲ以テ、藩兵ノ京師ニ在ル者ヲ罷歸シ、總督橋本實梁ノ節度ヲ奉シテ、之ヲ追討}

セシム、^{昨日ニ在リ、}是日、明實ノ家臣、書ヲ督府ニ上リテ其狀ヲ申ス。

○是ヨリ先、井伊直憲^{掃部頭、藩ニ命シ、兵ヲ率キテ大津驛ニ赴カシメ、是日、直憲督府ニ詣テ起居ヲ候ス。}

○因幡藩及ヒ其支藩兵、大津驛ニ至ル。^{柳原前光}

十三日、石川成之^{宗十郎、龜山藩主。}ニ命シ、鈴鹿嶺^{伊勢}、及ヒ附近ノ隘口ヲ扼シ、以テ總督橋本實梁ノ約束ヲ受シム、明日、督府モ亦成之ニ命シテ、鈴鹿嶺ヲ嚴守セシム。

○桑名征討ノ令下ルヲ以テ、督府、尾張、津、吉田、龜山、岡崎、水口六藩ノ老臣ヲ召ス、又多羅尾光弼ニ命シテ輜重ヲ掌ラシム。

十四日、督府、水口藩ヲ以テ、桑名征討先鋒ト爲ス。

○興正寺攝信、門徒ヲ率キテ大津驛ニ至ル。

十五日、是ヨリ先、滋野井公壽^{侍從、實小路後實^{前侍從}有^實私ニ京師ヲ去リ、兵ヲ近江松尾山ニ集メ、書ヲ上リ、命ヲ奉シテ賊ヲ討センコトヲ請フ、乃チ二人京ヲ去ルノ罪ヲ宥シ、命シテ義兵ヲ招集シ、總督橋本實梁ニ屬セシム、是日、二人書ヲ督府ニ致シテ、永井尙志^{藩士、幕府年寄}、等ノ處分ヲ咨稟ス、督府批シテ之ニ答フ。}

十六日、督府、將サ二十八日ヲ以テ、軍ヲ桑名ニ進メントス、因

テ阿波藩兵ニ命シテ、大津驛ヲ警守セシメ、膳所藩ヲ以テ、討桑先鋒ノ嚮導ト爲ス、是日、二督、因幡、備前以下六藩兵ヲ園城寺ニ閱ス。

十七日、督府、龜山藩ヲ以テ、討桑先鋒ノ嚮導ト爲ス、又軍令ヲ肥後、因幡以下諸藩兵ニ頒ツ、是夜、肥後以下六藩ノ老臣ヲ召集シテ、軍事ヲ議ス。

十八日、督府、備前、彦根、膳所、大村、佐土原、水口六藩兵ヲ以テ先鋒ト爲シ、肥後藩兵ヲ中軍ト爲シ、因幡藩兵ヲ後軍ト爲シ、次ヲ以テ進テ桑名ニ赴カシム、龜山藩兵ノ嚮導タリ、是日、二督大津驛ヲ發シ、草津驛ニ抵ル、興正寺攝信ハ留リテ大津ヲ守ル。

○津藩老臣、召ニ應シテ督府ニ詣ル、乃チ命シテ藩兵ヲ桑名ニ出サシム。

○彦根藩後軍、^{二百五}四日市驛ニ至リ、前軍ニ合ス。^{井伊直憲}

十九日、二督、水口驛ニ抵ル、加藤明實來候ス。

○吉田藩老臣、召ニ應シテ督府ニ詣リ、勤王ノ意ヲ陳シ、公事ニ服センコトヲ請フ、乃チ命シテ藩兵ヲ桑名ニ出シ、且封内沿海ノ地ヲ警備セシム。

二十日、二督、坂下驛ニ抵ル。

二十一日、二督、石藥師驛ニ抵ル、是日、先鋒兵進テ四日市驛ニ至ル。

二十二日、二督、四日市驛ニ抵ル。

○桑名ノ老臣酒井某孫八郎等、龜山藩ニ因リテ、闔藩伏罪ノ狀ヲ陳シ、寛典ニ處センコトヲ請フ、是日、督府、松平定敬感中、舊桑名藩主義弟定教萬之助ニ命シ、老臣等ト共ニ牙營ニ詣リテ、其罪ヲ謝セシム。

二十三日、二督、四日市驛ニ次シ、參謀木梨恒準ヲシテ先鋒兵ヲ督シ、進テ桑名ニ赴カシム、是日、松平定敬及ヒ其老臣松平某等、督府ニ詣テ罪ヲ謝シ、降ヲ乞フ、乃チ命シテ其城地ヲ致シ、寺院ニ屏居シテ後命ヲ俟タシメ、膳所藩兵ニ之ヲ監守セシメ、其臣隸亦寺院ニ屏居セシム、又其臣隸ノ伏見ノ事ニ與カリシ者ヲ捕ヘ、因幡藩兵ニ付シテ之ヲ監セシム。

二十四日、土方雄永野澤千代、舊家臣督府ニ遣シテ、公事ニ服センコトヲ請フ。

二十五日、賊徒征討ノ令下ルヲ以テ、督府、長島、西尾、刈屋、學母、田野口、田原、西大平七藩及ヒ菅沼某、左近、將監松平某與次郎、並ニ舊藩主ノ老臣ヲ召ス。

二十六日、滋野井公壽、其徒百八十許人ト共ニ、四日市驛ニ至

ル、督府其徒ノ軍令ヲ犯ス者數人ヲ捕ヘテ之ヲ誅ス。

○吉田藩兵、四日市驛ニ至ル、督府命シテ濱川ヲ警守セシム、又舊幕府兵、駿河地方ニ屯集スルノ聞アルヲ以テ、本藩ニ命シテ、其狀ヲ偵察セシム。

○阿部正方、山崎頭、藩主書ヲ督府ニ上リテ、勤王貳ナキヲ陳ス、長島藩老臣、亦召ニ應シテ督府ニ詣リ、闔藩奉上他ナキヲ陳シ、又藩兵ヲ發シテ公事ニ服セシメンコトヲ請フ。時二藩主増山正、同江戸ニ在リ。

第二 自明治元年正月二十七日 至同 二月八日

正月二十七日、總督橋本實梁ニ命シ、舊幕府領地ノ東海道ニ在ル者ヲ檢シテ、其人民ヲ安撫シ、圖籍ヲ上ラシム、又大ニ東征ノ事ヲ議スルヲ以テ、滋野井公壽、大原俊實初後小路、氏ヲ目ス、ヲ召還ス。

○督府、將サニ明日ヲ以テ軍ヲ桑名ニ進メントス、因テ菰野藩ニ命シテ、四日市驛ヲ警守シ、膳所藩ニ大津驛ヲ巡警セシム、又濱松、横須賀、掛川、相良四藩ノ老臣ヲ召ス。

二十八日、參謀木梨恒準、先鋒兵ヲ督シテ桑名ニ入り、桑名城ヲ攻ム、津藩兵來會ス、是日、二督、桑名ニ抵リ、城中ヲ檢シ、尾張、津二藩ニ命シテ、本城及ヒ松平定敬ノ臣隸ヲ監守シ、尾張藩ニ本地ノ民政ヲ管セシム。

○督府、岡崎藩ニ命シ、藩兵ヲ豫備シテ不時ノ徵發ニ供セシム。

○刈屋、學母二藩ノ老臣、召ニ應シテ督府ニ詣リ、書ヲ上リテ藩兵ヲ出シ、公事ニ服セシメンコトヲ請フ、竝ニ令シテ後命ヲ俟タシム。

二十九日、總督橋本實梁、副總督柳原前光ニ令シテ、横濱居留ノ外國人ト、覺隙ヲ開クコト勿ラシム。

○大原俊實、四日市驛ニ至ル、尋テ京師ニ歸ル。柳原前光、親誌二月朔日、督府、吉田藩ニ命シテ、荒井關ヲ改築シ、賊兵ノ西上ヲ防遏セシム。

○是ヨリ先、稻垣長行、平右衛門、鳥羽藩主德川、慶喜ニ黨スルヲ以テ、其入京ヲ止ム、是ニ至リ其臣隸龜山藩ニ因リテ、書ヲ督府ニ上リ、恩宥ヲ乞フ、時ニ長行、戸ニ在リ乃チ龜山藩ニ命シテ、長行ノ老臣ヲ京師ニ護送セシム。

○是ヨリ先、東山道鎮撫總督、遠藤胤城、但馬守、三ノ封地ヲ收メ、水口藩ヲシテ之ヲ管セシム、是ニ至リ水口藩、書ヲ督府ニ上リテ其狀ヲ申シ、藩兵ノ桑名ニ在ル者ヲ移シテ、其事ニ服セシメント請フ、督府、乃チ藩兵ヲ罷メテ之ヲ遣ル、又龜山藩兵ヲ罷

歸シテ、其封疆ヲ嚴守セシム。

○西大路藩及ヒ松平某與次郎ノ老臣、召ニ應シテ督府ニ詣リ、上書シテ奉上他ナキヲ陳シ、公事ニ服センコトヲ請フ。

二日、督府、田中藩ノ老臣ヲ召ス。
三日、督府、沼津、小島、二藩及ヒ近藤用虎、兵庫、神原照求ニ交代寄合、ノ老臣ヲ召ス、又舊中泉江、代官大竹某、康三、舊府中府、代官田上某、寬、舊葦山、伊、代官江川英武、太左、舊藩主ニ命シ、管内地圖及ヒ戶籍等ヲ齎シテ牙營ニ詣ラシム。

○田野口、田原二藩ノ老臣、召ニ應シテ督府ニ詣リ、書ヲ上リテ、闔藩奉上他ナキヲ陳ス。

四日、二督、肥後、因幡、以下六藩兵ノ銃技ヲ桑名城ニ觀ル。

○督府、小田原藩ノ老臣ヲ召ス。
五日、濱松、西尾二藩ノ老臣、召ニ應シテ督府ニ詣リ、書ヲ上リテ、闔藩勤王貳ナキヲ陳ス。

六日、車駕將ニ親征セントスルヲ以テ、東海道鎮撫總督橋本實梁ヲ改テ東海道先鋒總督兼鎮撫使ト爲シ、副總督柳原前光ヲ先鋒副總督兼鎮撫使ト爲シ、薩摩、尾張、以下十二藩兵ヲ以テ之ニ屬ス。
○桑名平定ニ就クヲ以テ、書ヲ參謀木梨恒準、海江田信義ニ下

シテ、其成功ヲ賞ス。

○遠江諸社ノ祠官等、軍資金ヲ獻センコトヲ先鋒總督ニ請フ、之ヲ停ム。

七日、吉田、龜山、二藩ニ令シテ、東海道官軍ノ餽餉輜重ヲ管シ水口、長島以下十一藩ニ供帳傳遞ノ事ヲ掌ラシム。

○大澤基壽右京大夫、高家、ノ家臣、書ヲ先鋒總督ニ上リ、金穀ヲ獻シ、公事ニ服センコトヲ請フ、總督其志ヲ嘉ミシ、命シテ今切地方

ヲ警守シ、且舞坂驛旁近傳遞ノ事ヲ掌ラシム、大伴明神河、ノ祠官加藤千秋物監、モ亦奉上ノ意ヲ陳シテ、從軍ヲ請フ、乃チ命シテ關東ノ形狀ヲ偵察セシム。

○掛川、横須賀二藩ノ老臣、召ニ應シテ督府ニ詣リ、勤王證書ヲ上ル。

八日、彦根藩、東山道先鋒ノ命ヲ拜スルヲ以テ、先鋒總督ニ就キテ、藩兵ノ桑名ニ在ル者ヲ罷歸センコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

第三 自明治元年二月九日 至同 十六日

二月九日、總裁熾仁親王有栖川ヲ拜シテ、東征大總督ト爲シ、總裁如シ、參與正親町公董、中將、西四辻公業、大廣澤真臣、兵助、長門、津山、故ノ如シ、故ノ如シ、河鯖實文、大、穗波經度、大、錦旗奉行ト爲シ、津和

藩ニ命シテ、本地農商ノ祖先功德ニ因リ、蠲租及ヒ稱姓佩刀等ノ榮ヲ得ル者ハ、悉ク其舊慣ニ仍ラシム。

○徳川慶喜、江戸城ヲ田安慶頼中納言、家達ノ父、德川氏三卿ノ一、松平齊民ト號ス、津山藩主、慶喜ニ託シテ、東叡山大慈院ニ屏居シ、罪ヲ待ツ、又入道公現親王輪王、寺宮ニ就キテ、罪ヲ京師ニ謝センコトヲ請フ。

十三日、水野忠敬ニ命シテ、島田ヨリ駿府ニ至ル餽餉傳遞ノ事ヲ措辨セシム。

○先鋒總督、桑名ヲ發シ名古屋ニ次ス、是日、膳所藩兵ヲ罷歸ス。

○本堂親久内膳、交代寄合、後志、筑前ト稱ス、書ヲ先鋒總督ニ上リ、勤王ノ意ヲ陳ス、總督、乃チ親久ニ命シテ、東國ノ形勢ヲ視察セシム、是日、田沼意尊文善頭、相良藩主、相家臣又勤王證書ヲ上ル。

十四日、水野忠敬出羽守、沼津藩主、松平乘秩和泉守、西尾藩主、及ヒ榊原照求家臣、各勤王證書ヲ先鋒總督ニ上ル。

十五日、東征大總督有栖川熾仁親王陸辭シ、出師ノ表ヲ上ル、勅シテ、關外ノ權ヲ委シ、節刀一口、錦旗二旒ヲ賜フ、午牌、大總督宜秋門ヨリ出ツ、諸隊次ヲ按シテ啓行シ、大津驛ニ抵ル。

○大總督、軍令及ヒ陣中規則ヲ諸隊ニ頒ツ。○是ヨリ先、先鋒總督、吉田藩兵ヲシテ大總督府及ヒ本軍ニ分

野藩兵ヲシテ錦旗ヲ衛セシム、又議定嘉言親王聖護、ヲ海軍總督ト爲シ、議定放ノ如シ、庭田重胤、大納言、ヲ參謀ト爲ス。

○土佐藩ノ東海道先鋒ヲ改メテ、東山道先鋒ト爲ス。○先鋒總督橋本實梁、近藤用虎ニ命シ、舊ニ仍リテ、氣賀關門ヲ嚴守セシム。

十日、先鋒總督桑名ニ在リ、將ニ二十三日ヲ以テ軍ヲ名古屋ニ進メントス、因リテ備前藩兵ニ令シテ先ツ發セシメ、薩摩、紀伊、肥後、長門、土佐五藩兵ヲシテ之ニ繼カシム。

○是ヨリ先、徳川氏、本多正訥紀伊守、田中藩主ヲ以テ、駿府城代ト爲ス、是日、先鋒總督、正訥ニ命シテ、其舊ニ仍ラシム。

○先鋒總督、尾張、因幡、備前、津、大村、佐土原六藩兵ノ銃技ヲ桑名城ニ觀ル。

十一日、大村、佐土原二藩兵、原討桑ノ命ヲ奉シ、東征ノ軍ニ列セス、先鋒總督、其兵ノ練熟セルヲ以テ、大總督府ニ請フ所アリ、是日、令シテ名古屋ニ赴キ、後命ヲ待タシム。

十二日、廣澤真臣ノ大總督府參謀ヲ罷メ、尋テ參與西郷隆盛、吉之助、薩摩藩主、林通顯、和島藩主ヲ以テ之ニ代フ。

○大總督、軍令及ヒ廟算書ヲ、諸道ノ總督ニ頒ツ。○是ヨリ先、尾張藩、桑名ノ事ヲ管理ス、是日、先鋒總督、尾張

屬シ、餽餉ヲ掌ラシム、是日、本藩、其事準備ニ就クヲ申シ、且措辨ノ條款ヲ稟請ス。

十六日、先鋒總督、大村、佐土原二藩兵ヲ以テ先鋒トナシ、諸藩兵ヲシテ順次官驛ヲ發シ、駿府ニ會セシム、又水野忠敬、本多忠民美濃守、同、崎藩主ニ令シ、本多正訥ヲ助ケテ、駿府城ヲ守ラシム。

○是ヨリ先、勅シテ熱田神社尾州ニ詣ル者、胡服及ヒ兵器ヲ攜ルヲ禁ス、是日、先鋒總督、本社ニ令シテ、之ヲ申禁ス。

○安部信發攝津守、同、實藩主、森川俊方内膳、正生、實藩主、疾ヲ以テ老臣ヲシテ代リテ上京セシム、使臣等、先鋒總督ニ名古屋ニ調シテ、勤王ノ意ヲ陳ス、總督乃チ二藩ニ命シ、管内沿道軍須ノ備ヲ爲サシム、是日、使臣等、奉命書ヲ上ル。

○舊中泉代官大竹某三、寬、名古屋ニ至リ、勤王證書ヲ先鋒總督ニ上ル。

第四 自明治元年二月十七日 至同 廿五日

二月十七日、軍防局、官軍ノ標章及ヒ本局ノ印鑑ヲ、大總督府ニ交付ス、因リテ、督府又其印鑑ヲ送致ス。

○奥羽鎮撫總督、書ヲ大總督府ニ致シ、松平容保、酒井忠篤ノ處分ヲ稟問ス、是日、大總督府、答書シテ、容保ハ罪死ニ當ル、

忠篤ハ宜シク松山、高松ニ准擬スヘキヲ報ス。

○是ヨリ先、土井利教淡路守、刈ノ家臣、倉田某其姓太等、十八重臣多、米某新左衛門、津田某、新十郎、ヲ斬リ、尾張藩ニ就テ自首シ、其壅蔽ノ狀ヲ訴フ、尾張藩、之ヲ先鋒總督ニ稟ス、是日、總督、利教等ヲ推糺シテ、其實ヲ獲、倉田某等ノ罪ヲ免ス、明日、利教、勤王證書ヲ上ル、總督、乃チ利教ニ命シテ、京ニ赴カシム。

十八日、先鋒總督、將ニ廿日ヲ以テ名古屋ヲ發セントス、乃チ津藩ニ令シテ、肥後藩ニ代リ、中軍ヲ護衛セシム、又駿府以東沿道ノ諸藩、及ヒ舊代官等ニ令シテ、驛遞軍糧ノ事ヲ掌ラシム。

○米倉昌言丹後守、金、勤王證書ヲ先鋒總督ニ上ル、石川總範親貞、備前守、澤藩主、等モ亦尾張藩ニ就キテ、王事ニ勤メンコトヲ請フ、是日、尾張藩、其書ヲ上ル。

十九日、先鋒總督、尾張、水口二藩ヲシテ、因幡藩ニ代リテ、桑名罪臣ヲ保管セシメ、其脱走焚死者ノ臟腑ヲ曝ス。

二十一日、令シテ、徳川慶喜ノ謝罪狀、大總督府ヲ經由シテ之ヲ上ラシム。

○大總督府申ネテ軍令ヲ諸軍ニ頒ツ。

○入道公現親王、將ニ西上シテ、慶喜ノ爲メニ罪ヲ謝セント

藩ト俱ニ駿府城ヲ警守セント請フ。

第五

自明治元年二月二十六日 晦 同日

二月二十六日、先鋒總督、本多正訥ニ命シテ、假橋ヲ阿部川ニ架セシム、又黒岩直方治部助、土、甲府ニ差遣シ、其動靜ヲ視察シ、兼テ府庫ノ金穀ヲ查點セシム。

○駿河神官、富士某亦八、等、勤王ノ素志ヲ表シ、名簿ヲ先鋒總督ニ上ル、遠江神官櫻井某河、等、鹽梅五石、ヲ獻シ、軍須ニ充テント請フ。

二十七日、親征ノ期ヲ布告ス。

○大總督府、書ヲ内國、軍防二局ニ致シ、東國諸藩及ヒ舊麾下士等、入京シテ請求スル所アラハ、宜シク其本府ヲ經由スルヤ否ヲ廉問センコトヲ請ヒ、又西郷隆盛行營ニ在ラス、軍務繁劇ナルヲ以テ、參謀一人ヲ選選シテ、其闕ヲ補ハンコトヲ請フ、是日、大總督、荒井驛ニ抵ル。

○是ヨリ先、東山道先鋒總督、安藤信勇理三郎、奥州警備平藩主、ノ封地ノ美濃ニ在ルモノヲ收ム、是日、信勇ノ老臣、大總督府ニ詣リ、勤王誓書ヲ上リ、秋月種事機三郎、舊、モ亦誓書ヲ上ル。

○入道公現親王ノ江戸ヲ發スルヤ、法印亮榮自證、親王哀、ヲシテ書狀及

ス、岡崎以下十四藩ヲシテ衛兵ヲ出サシム、是日、大總督、名古屋ニ抵ル、先鋒總督ニ令シテ、其衛兵ヲ止メシム。

○舊蕪山代官江川英武、藤川驛ニ詣リテ、管内地圖及戸籍ヲ、先鋒總督ニ上リ、且家世ヲ歴陳シ、勤王ノ意ヲ表ス、督府其兵ヲ徵ス、英武辭ス。

廿二日、西尾忠篤、兵ヲ出シテ餽餉傳遞ノ事ニ服スルヲ、先鋒總督ニ稟ス。

二十四日、先鋒總督、舊甲府勤番支配佐藤某、駿河守、舊町奉行若菜、某三郎、ニ令シテ、權ニ甲府城ヲ守リ、以テ城代ノ至ルヲ待タシム。

○松平正孝筑後守、舊、等十三人、近藤力之助、秋元一學、高木義太郎、米津小大夫、服部中、堀三郎、松平弘之助、皆川鑑之丞、阿部美濃守、竹本淡路守、加賀爪甚十郎、近藤隼人、此二藩、旗主、濱松藩ニ就キテ、勤王證書ヲ先鋒總督ニ上ル。

二十五日、大總督、吉田ニ次ス。

○是ヨリ先、先鋒總督、吉田藩ニ令シ、徳川氏、駿、遠間ニ儲蓄スル所ノ錢穀ヲ以テ、驛遞軍糧ノ用ニ充テシム、是日、本藩、其現額ヲ開申ス。

○先鋒總督、太田資美總次郎、掛、ニ命シテ、假橋ヲ大井川ニ架セシム、是日、資美、兵簿ヲ上リテ、進軍ノ命ヲ請ヒ、且沼津、岡崎ニ

慶喜謝ヲ齎ラシ、先ツ發セシム、是日、亮榮、先鋒總督ニ金谷ニ調シ、其情ヲ陳ス、總督之ヲ大總督ニ稟セシム。

○官軍前鋒、大總督ノ旨ヲ傳ヘテ、公現親王ノ西上ヲ停メ、且諸藩ノ從兵ヲ罷メ歸ラシム。

二十八日、大總督府、吉田藩ニ命シテ、荒井關ノ譏察ヲ嚴ニセシム。

○大總督、濱松ニ抵ル、是日、公現親王使僧亮榮、軍門ニ詣リテ書ヲ上ル、參謀正親町公董、亮榮ヲ引見シ、慶喜書辭恭順ノ實ナキヲ責メテ、之ヲ遣ル。

○松平乘秩、江戸ヨリ濱松ニ至ル、適マ病アリ、重臣ヲシテ代リテ大總督ヲ候セシメ、勤王他ナキヲ申疏ス、督府、其歸藩ヲ聽ス。

○是ヨリ先、酒井忠良、總伊守、出羽、老臣ヲシテ代リテ上京シ、慶喜ノ爲ニ乞ハシム、吉田驛ニ至リ、大總督ノ東下スルニ會ス、乃チ齋ラス所ノ書ヲ督府ニ上ル、督府、批シテ奥羽鎮撫總督ニ稟セシム、是日、老臣、復濱松驛ニ詣リ、其書ヲ上ル、督府之ヲ却ク。

○先鋒總督、府中ニ次ス、是日、水野忠敬ヲ以テ、甲府城代ト爲ス。

○是ヨリ先、先鋒總督、大久保忠禮加賀守、小ノ向背ヲ問フ、忠禮、勤王證書ヲ上ル、是日、總督、忠禮ニ命シ、舊ニ仍リテ、箱根關門ヲ嚴守セシム。

○公現親王、使ヲ官軍前鋒ニ遣ハシ、其西上哀訴ノ意ヲ陳シ、進軍ノ期ヲ緩クセンコトヲ請フ。

二十九日、大總督府、濱松藩ニ命シテ、近藤用虎ト俱ニ氣賀關門ヲ守ラシメ、吉田藩ノ管守ヲ罷ム。

晦日、大原俊實ヲ以テ海軍先鋒ト爲ス。

○大總督府、書ヲ軍防局ニ致シテ、親征啓行ノ令ヲ奉シ、兼ネテ其進軍ノ期ヲ報ス。

○是ヨリ先、戸田忠友土佐守、宇都宮藩主、舊幕府ノ職ヲ辭シ、將ニ京師ニ入朝シ、且ツ慶喜ノタメニ哀ヲ乞ハントス、是日、掛川驛ニ至リ、勤王證書ヲ大總督府ニ上ル、督府、其入京ヲ聽ス。

○先鋒總督、太田資美ニ命シテ、兵ヲ甲府ニ遣リ、水野忠敬ヲ助ケシム。

○是月、一色直記丹後守、大河内某、伊勢守、並ニ尾張藩ニ由リテ、勤王證書ヲ大總督府ニ上ル。

第六

自明治元年三月初日 至同 九日

三月朔日、大井川暴漲ス、大總督、軍ヲ掛川ニ駐ム。

○大總督府、太田資美ニ令シテ、入京セシム。

○先鋒總督、薩摩、長門、大村、佐土原ノ四藩兵ニ令シ、軍ヲ大磯、藤澤兩驛間ニ進メシム。

二日、大總督府、驛道疾弊スルヲ以テ、官軍饋餉ノ費額ヲ増加シテ、之ヲ軍防、會計二局、及ヒ東山道先鋒總督ニ報ス、又片桐貞明三原藩ノ誓書ヲ内國、辨事兩局ニ送致ス。

○大總督府、津野某甲、永田某、尾張藩主、四宮某、太田某、敬太

河田某、清之丞、因ヲ以テ使番ト爲ス。

○是ヨリ先、先鋒總督、水野忠敬ノ島田、駿府間、餽養傳遞ノ措辨ヲ改メ、蒲原、三島ノ間ニ服事セシム、是ニ至リ、本多正訥ニ令シテ、島田、駿府間ノ餽養傳遞ヲ掌ラシム。

○會計事務局、書ヲ先鋒總督ニ移シテ、古金銀通用ノ事ヲ沿道諸藩ニ令セシム、是日、總督、之ヲ布告ス。

三日、大總督、島田彈ニ抵ル、是日、前軍、大總督ノ旨ヲ公現親王ニ傳ヘテ、之ヲ駿府ニ召ス。

○近藤某登之助、勤王證書ヲ大總督府ニ上ル。

○是ヨリ先、東山道總督、眞田幸民代藩主、松ヲ以テ甲府城代ト爲ス、是日、先鋒總督、東山道總督ニ移書シテ、水野忠敬ヲ甲府城

代ト爲スヲ報シ、幸民ヲ改テ應援ト爲シ、本地ヲ警守セシメンコトヲ請フ、又佐藤某、若菜某ノ甲府取締ヲ罷ム。

○田安慶頼、書ヲ先鋒總督ニ上リテ、勤王ノ意ヲ陳シ、且朝命ヲ得テ、宗家ヲ匡輔センコトヲ請ヒ、兼テ慶喜ノ爲メニ哀ヲ乞フ。

四日、先鋒總督、將ニ糧ヲ沼津ニ輸セントス、清水港賈人等、其費ヲ仰カスシテ、之ヲ運輸センコトヲ請フ。

五日、大總督、駿府城ニ入ル、先鋒二督來リ候ス。

六日、大總督、本道及ヒ東山道先鋒總督ニ令シ、十五日ヲ期シテ、江戸城ヲ進討セシム。

○是ヨリ先、松井康英周防守、川將ニ京ニ赴カントス、藤枝驛ニ至リ、使ヲ遣シテ、大總督府ヲ候ス、督府、其西上ノ遲緩ヲ責メ、誓書ヲ上ラシム、是日、再令シテ、名古屋ニ至リ、後命ヲ待シム。

○大總督府、書ヲ軍防局ニ致シテ、江戸進軍ノ期ヲ報シ、海軍ノ東下參謀ノ遴選ヲ申請シ、併テ松井康英ノ入京ヲ遏ムルヲ告ク。

○先鋒總督、田安慶頼ニ命シテ、徳川慶喜謝罪ノ實ヲ擧ケ、且緩急、親子内親王ヲ護衛セシム。

○東山道先鋒總督、使ヲ大總督府及先鋒總督ニ遣ハシ、賊ヲ勝沼ニ討スルヲ報ス、先鋒總督、乃チ甲府城代水野忠敬ニ命シテ、急ニ其任ニ就キ、太田資美ニ兵ヲ出サシム、又參謀海江田信義ヲシテ、濱松藩兵ヲ率ヰテ、之ニ赴カシム。

七日、辨事局、書ヲ大總督府ニ致シ、親征ノ延期ヲ報ス。

○入道公現親王、駿府ニ詣リ、大總督ニ謁シ、書ヲ上リテ、慶喜ノ爲ニ罪ヲ謝シ、寬典ヲ乞フ。

八日、公現親王、復僧亮榮等ヲ大總督府ニ遣ハシテ、先鋒總督ノ進軍ヲ緩フセンコトヲ請フ、聽サス、甲府出兵ノ狀ヲ詰責シテ、之ヲ遣ル。

○安部信發、將ニ京ニ赴カントス、是日、駿府ニ至リ、勤王誓書ヲ大總督府ニ上ル。

○大久保教義中務少輔、京極高陳、及ヒ朽木綱美、和泉守、勤王證書ヲ大總督府ニ上ル、尋テ五井忠庸、等、二十餘人

○先鋒總督、紀伊藩ニ令シテ、軍ヲ沼津ニ進メシム。

九日、一橋茂榮言、將ニ大總督府ニ詣リ、慶喜ノ爲メニ罪ヲ謝セントス、督府、先鋒總督ニ令シ、茂榮ヲシテ命ヲ小田原ニ待タシム。

○德川慶喜ノ臣山岡高歩藏太駿府ニ詣リ、參謀西郷隆盛ニ就
キテ、慶喜ノ爲メニ哀ヲ乞フ、勝義邦安房モ亦書ヲ隆盛ニ致シ
テ、其情ヲ陳ス、大總督乃チ謝罪ノ目七條ヲ指示シテ、之ヲ遣
ル。

○安藤信勇、將ニ京ニ赴カントス、是日、駿府ニ詣リ、大總督ヲ
候ス、小出英尙家臣モ亦、其支族小出有常ノ入京ヲ申請ス、督
府之ヲ聽ス。

○先鋒總督、駿府ヲ發ス。

第七

明治元年三月十日
十七日

三月十日、大總督府、軍防局及諸道先鋒總督ニ移牒シテ、慶喜
謝罪ノ狀ヲ報ス。

○大總督府、岡崎藩ニ令シ、傍近ノ地ニ哨兵ヲ置ク。

○先鋒總督、安場保和一平、吉村叙翰長兵衛、ヲ以テ參謀加勢ト
爲ス、是日、總督沼津驛ニ抵ル。

○杉浦正尹越前守、勤王證書ヲ先鋒總督ニ上リ、且軍糧ヲ獻セ
ント請フ、尋テ久世廣崇三内、藤信重勳次郎、並ニモ之ヲ請フ。

十一日、大關増裕肥後守、書ヲ大總督府ニ上リ、疾ヲ以テ入京
ヲ辭シ、其子増勤奉次郎、ヲシテ、代リテ奥羽鎮撫使ニ屬セシメン

ト請フ、之ヲ聽ス。

○是ヨリ先、稻葉正邦美濃守、江戸ニ在リ、召ニ應シテ將ニ京ニ
入ラントシ、三島驛ニ至ル、大總督府、其兵仗ヲ備ヘ、又徳川慶
喜ノ哀請書ヲ齎シ、其形跡疑フヘキヲ以テ、前鋒ニ令シテ之ヲ
停メシム、正邦乃チ從兵ヲ還ヘシ、慶喜ノ書ヲ燒キ、是日、誓書
ヲ督府ニ上ル、督府、乃チ其西上ヲ許ス。

○先鋒總督、參謀木梨恒準ヲ横濱ニ遣シテ、港内警守等ノ事ヲ
外國公使ニ告ケ、又東行シテ江戸進入ノ前隊ヲ督セシム。

○先鋒總督、紀伊藩ニ令シテ、富士川以東三島驛ニ至ルノ間、
哨兵ヲ布置シ、且富士川漕運ノ貨物ヲ檢セシム、是日、松平某、
尾張藩ニ由リテ、勤王證書ヲ總督ニ上ル。

十二日、大總督、再ヒ公現親王ヲ引見シ、諭シテ速ニ東歸シ、慶
喜ヲシテ謝罪ノ實ヲ表セシム。

○舊幕府若年寄大給近説左衛門尉、慶喜ニ請ヒテ其職ヲ辭シ、西
上シテ駿府ニ至リ、大總督府ヲ候ス、是日、勤王誓書ヲ上ル。

○先鋒總督、軍中ニ令シテ、妄リニ發銃スルヲ禁ス。
十三日、曩ニ入道公理親王ノ箱根ヲ過ルヤ、軍人侮慢無禮ノ行
ヲ爲ス者アリ、親王之ヲ大總督府ニ訴フ、是日、親王東歸ス、督
府、諸軍ニ令シテ之ヲ戒飭ス。

○先鋒總督、米倉昌言ニ命シテ、假ニ横濱ノ取締ヲ爲サシム。
○落合道義薩下土、書ヲ大總督府ニ上リ、王事ニ服センコトヲ
請フ、尋テ又軍糧ヲ獻セント請フ、酒井忠篤采女、等及ヒ農某
等亦軍糧ヲ獻センコトヲ先鋒總督ニ請フ、並ニ令シテ後命ヲ
待シム。

○先鋒總督、軍中ニ令シ、關門經過ノ際、嚴ニ制規ヲ遵守セシ
ム、又前隊ヲシテ大磯、程谷ノ間毎驛ニ分屯シ、以テ救應ニ便
シ、小田原藩ニ命シテ、肥後藩ニ代リ、臺場村ヲ守ラシム。

○親子内親王尊賢、手書ヲ東海道先鋒總督ニ贈リ、徳川氏臣隸
恩貸ノ事ヲ請フ。

○水野忠敬、甲府ニ至ル。

十四日、大總督府、江戸進討ノ期ヲ申諭シ、麾下ノ諸軍ヲ戒飭
ス。

○是ヨリ先、徳川慶喜ノ臣山岡高歩、大總督府ノ旨ヲ承ケテ還
ル、是日、勝義邦、參謀西郷隆盛ノ營江戸高輪ニ就キテ、慶喜謝罪
ノ條款ヲ陳シ、且申請スル所アリ、隆盛、乃チ東海、東山二道ノ
先鋒總督ニ牒シ、假ニ明日ノ進軍ヲ止メ、其書ヲ携ヘテ駿府ニ
還ル。

十五日、先鋒參謀木梨恒準、横濱ヨリ本營ニ還ル。

○堀田正倫相模守、稻葉正邦、水野忠寬祖父、等、先鋒總督ヲ沼
津ニ候シ、正倫、勤王證書ヲ上ル、正邦モ亦、前日大總督ニ上ル
所ノ證書ヲ呈ス、
十六日、軍防局、書ヲ大總督府及ヒ先鋒總督ニ致シ、親征啓行
ノ期ヲ報ス。
○參謀西郷隆盛、徳川慶喜ノ謝罪條款ヲ大總督ニ歸報ス。
○津山藩、書ヲ先鋒總督ニ上リ、藩主松平慶倫ノ父齊民、江戸
ヨリ西上セントスルヲ以テ、本道ニ就カンコトヲ請フ、總督之
ヲ聽シ、先鋒諸隊及ヒ關門守兵ニ告知ス。
十七日、大總督府、二道先鋒總督ニ令シテ、江城進撃ノ期ヲ延
ヘ、西郷隆盛ヲ京師ニ遣リ、慶喜處分ノ事ヲ稟セシム。
○大總督、書ヲ英國公使ニ贈リテ、東征ノ旨趣、及ヒ米倉昌言
ヲシテ、假リニ本地ノ裁判警守ヲ掌ラシムルヲ報シ、兼テ之ヲ
各國公使ニ告知セシム。
○是ヨリ先、大總督府、先鋒總督ニ牒シテ、伊豆地方措置ノ事
ヲ問フ、是日、總督、江川英武ヲ以テ其事ニ任セシムルヲ報シ、
且英武歸順及ヒ地圖戶籍簿ヲ京師ニ上ラシムル等ノ事ヲ稟
ス。
○大總督府參謀補助寺島直方秀之助、長京師ヨリ、駿府本營ニ至